明治四十五年六月二十三日印刷納本 毎月一回二十三日印刷發行
明治三十二年二月十五日第三種郵便物認可

七月一日號

女學世界



第十二巻
第十号

博文館

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

暑い夏を涼しく暮す

必要なるものこゝに八種あり

團扇
五本一組五十錢の五色團扇より、絞り團扇、墨流し、漆繪などの特製品かずかずあり。

扇子
何れも京都製、砂子の紳士用は二十五錢以上金銀無地の婦人用は八九十錢以上種々あり。

提灯
岐阜の本場製。繪は淡彩にしてしかも風韻に富むもの多し。岐阜行燈の珍なるものあり。

御簾
涼風徐ろに縁先の御簾を動かせば、肌併に涼しく覺ゆらん。一枚僅かに二圓五十錢以上。

アイスクリーム製造器
家庭用として輸入せる米國製(小形)の最上品、四圓二十五錢以上各種。

莨盆
曰く紫檀製、曰く桑製、曰く漆塗。型は何れも東京式の極めて粹なるもの。一組四圓以上。

籐椅子
三圓五十錢の安樂椅子あり。二脚又は三脚を縁側又は芝生の凉しき處に運び給ふては如何

コート地
珍紗の如き、透紗の如きコート地として適するもの千種萬様、御好み次第なり。

東京駿河町

三越呉服店

女學世界第拾貳巻第拾號七月號目次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

津輕子爵夫人訪問記

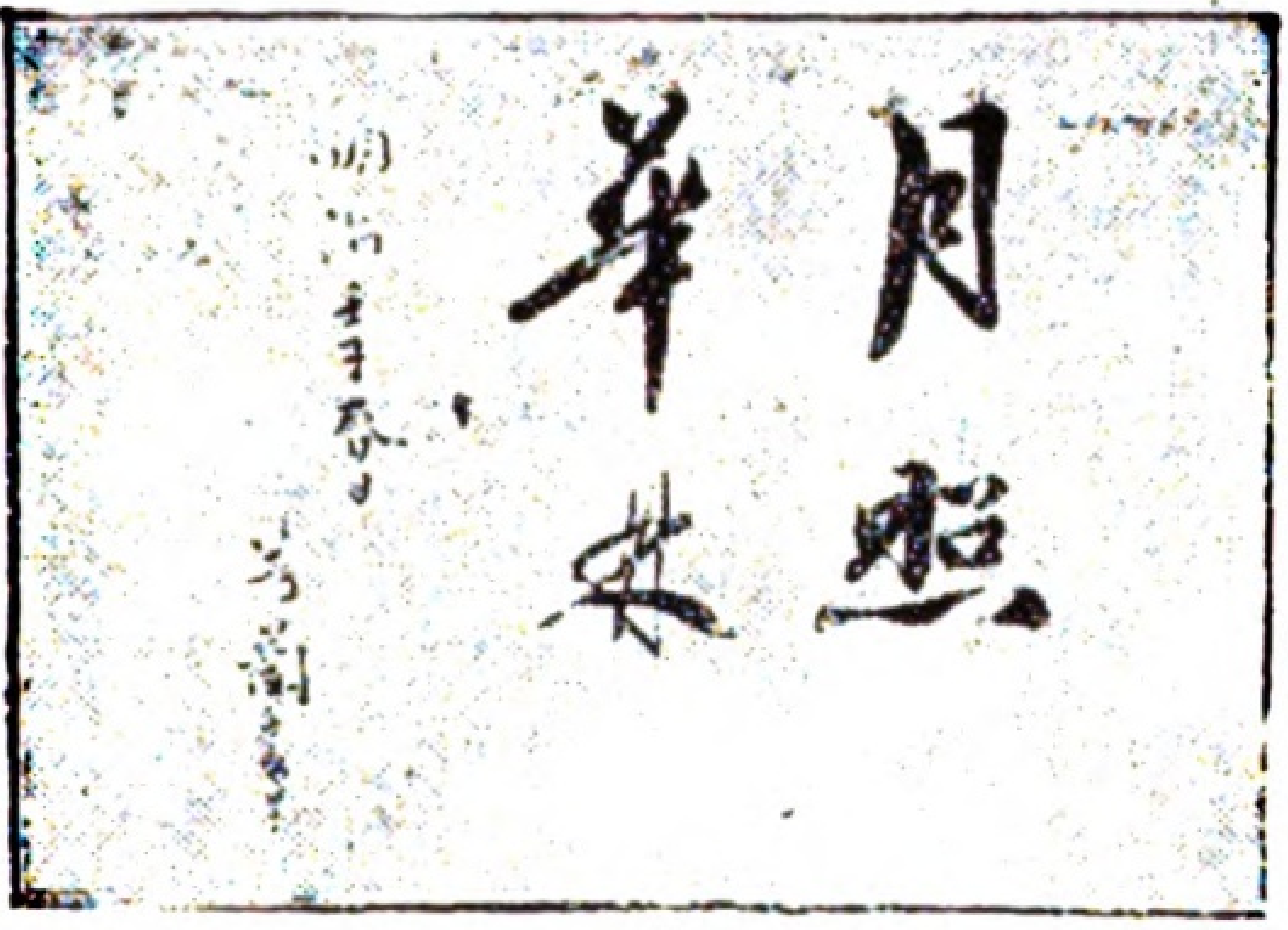
S T 生

大森八景坂上の津輕子爵邸に妻子夫人を訪ふて、お庭に面した客間に青々とした春の海を眺めながら、化粧に關する御高見をと伺へば、夫人は淑に口を開いて次のやうに話された。

『別段化粧と云ふ事に對して纒つた考などはありませんが私の考へる處では化粧は婦人の身嗜みに過ぎないだらうと思ふのです。

よく世間には無暗と白粉を厚く濃く塗りさへすれば好い事のやうに思ひ誤つて居る人がありますが、アレは間違つてをります、嘘だらうと思ひます。如何に巧に粉黛を施しても自然の肉體美には及ばないのです。ですから完全なる肉體の美を發輝させるのが化粧の本意であり、又婦人の身嗜であるかのやうに考られます。純白なる絹の布にホンの僅かでも汚染があつたなら其絹は最早純白なる布と云ふ事は出來ないと同じ事で、例へ顏全體が美しく見えても口と云ふ僅の處から漏れ見ゆる齒が、黑く穢く汚れて居たりしたのでは其人は完全なる容貌美を備へた方とは云はれません。ですからお化粧と云ふ事に意を用ふる方は清新なる肉體美の發輝と、純潔なる皓齒といふ事に是非共注意しなければなりません私は此二つは美の要素だらうかのやうに思ふのです。

又容貌の美醜は其人の品性の高下に依つて分れもするものですから常に精神の修養を怠つてはなりません。お話が飛んだ横道へ外れましたが、要するに化粧と云ふ事は只今申上げました、肉體美の發輝と助長と云ふに他ありませんから、何處迄も其考へで適宜にお化粧をするに限るのです。「エ、私の愛用して居る化粧品の名ですつて、それは申す迄もありませんクラブ洗粉とクラブ齒磨とです。私は確に優秀なる品と信じて朝夕使用して居ります。」



津輕子爵夫人筆蹟

子爵夫人はクラブ洗粉クラブ齒磨の愛用者也

私は更らに夫人に書を求めて玆に掲ぐる「月照華林」の四字と他に「花有清香」の一幅を得て子爵邸を辭しました。サラ〳〵とソヨ風が青葉を渡つて大森の春は既に逝かんとしてゐるのでした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぬりもの

美術蒔繪物

專陳列縱覽御隨意

東京日本橋通室町

木屋漆器店

電話本局 九百九拾七番

長 千七百拾番

四千六百三拾二番

東京美容院長 北原先生歐洲みやげ

のみよけ撒床香水

應用化學上に於て盛名ある東京美容院長北原先生は余が幼時竹馬の友なり這回同先生の渡歐せらるゝに際し乞ふに適當の土産を以てす先生約を守り本品の處方を送り越さる依而幾多試みるに頗る好成績を擧ぐ依而今回擴く發賣することゝせり

本品は人體に絕對無害にして有害なる昆蟲に强毒なる性質を帶ぶる化學的良劑を以て同質を帶べる香料を作成しあるを以て在來の「のみとり粉」の如く不安不便のものに非らず効力倹烈なる一大新劑にして假に在來品との比較を求むれば

△在來のものは効力一時的にして蚤の撒粉に觸て醉ふものなるが故に完全に蚤よけせんと欲すれば頗る多量を要し且宵に撒きたる粉に中毒せし蚤も翌朝になりて回復して逃出す故に翌夜は更に撒かざれば効力なく非常に高價となる

□本品は永久的にして應用化學上の液體なれば少量を撒布すれば蚤は其近邊にも寄りつかず香氣馥郁として効力數日を保ち頗る經濟的なり

△在來のものは南京蟲(床蟲)の如きものには効力薄弱なり

□本品は害蟲驅除の効力顯著にして南京蟲の巢窟に數回吹き込めば盡くも一ヶ年は寄りつかず

△在來のものは消毒の効力なし

□本品は强消毒力あるを以て普通人家は云ふ迄でもなく旅舘の夜具其他寄席等多數人集合し傳染質を帶ぶる處に携帶撒布最も好適なり殊に御婦人方の外出には褥除に少量を吹き置けば浴場其他にて惡蟲に取付かるゝ憂ひなし

△在來のものは有色粉末なるが故に夜具を汚染する等の不快あり

□本品は揮發性なるが故衣類夜具等を汚染する憂なし

△普通香水は往々染色を脫褪する憂ひあり

□本品は染色を脫褪する憂なく又普通香水として兼用するも極めて優秀なるものなり

故に如何なる家庭に於ても必ず本品を常備して夏の憂苦を除かれよ特に旅行家海水浴等には必ず本品の携帶を忘れ給ふな

定價 ●小瓶十三錢●中瓶二十五錢●大瓶四十五錢●別大瓶八十錢●德用瓶一圓五十錢▲送料小中四錢大十錢

發賣元 東京麻布區笄町五十四番地 振替口座東京一九五〇八番 電話芝三六九八番

島商店

市內御注文は小瓶一個にても直に自轉車にて御屆け可申候特約販賣御申込に應ず

女(いの二)

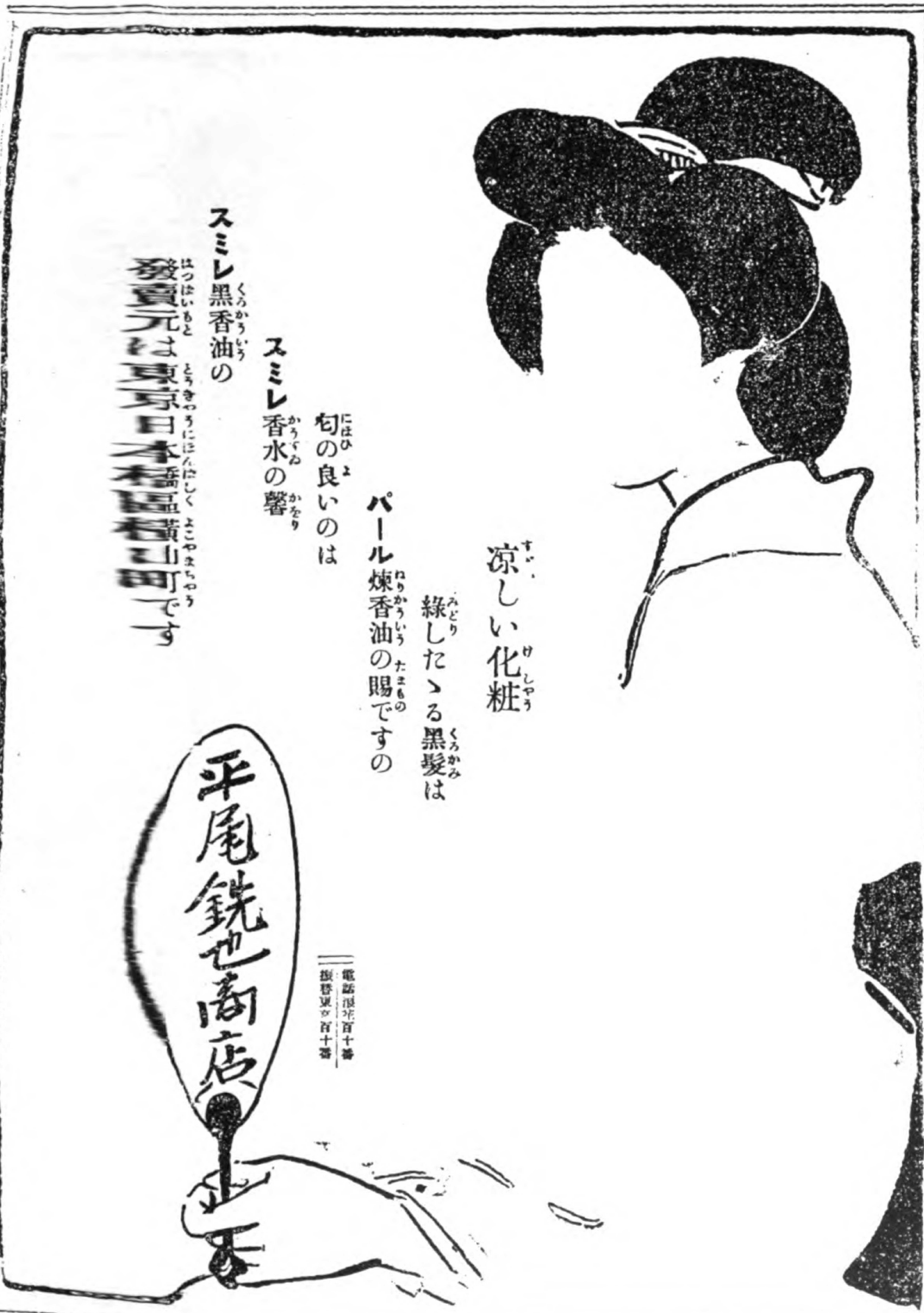
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



東京 大和堂

すきとほりたる
水にて付ると白くなり
流行の薄化粧料にして
目立ぬ故
男子にも用ゐられる

定價
五拾錢
貳拾五錢
拾五錢



女(いの四)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



山本昇雲畫

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



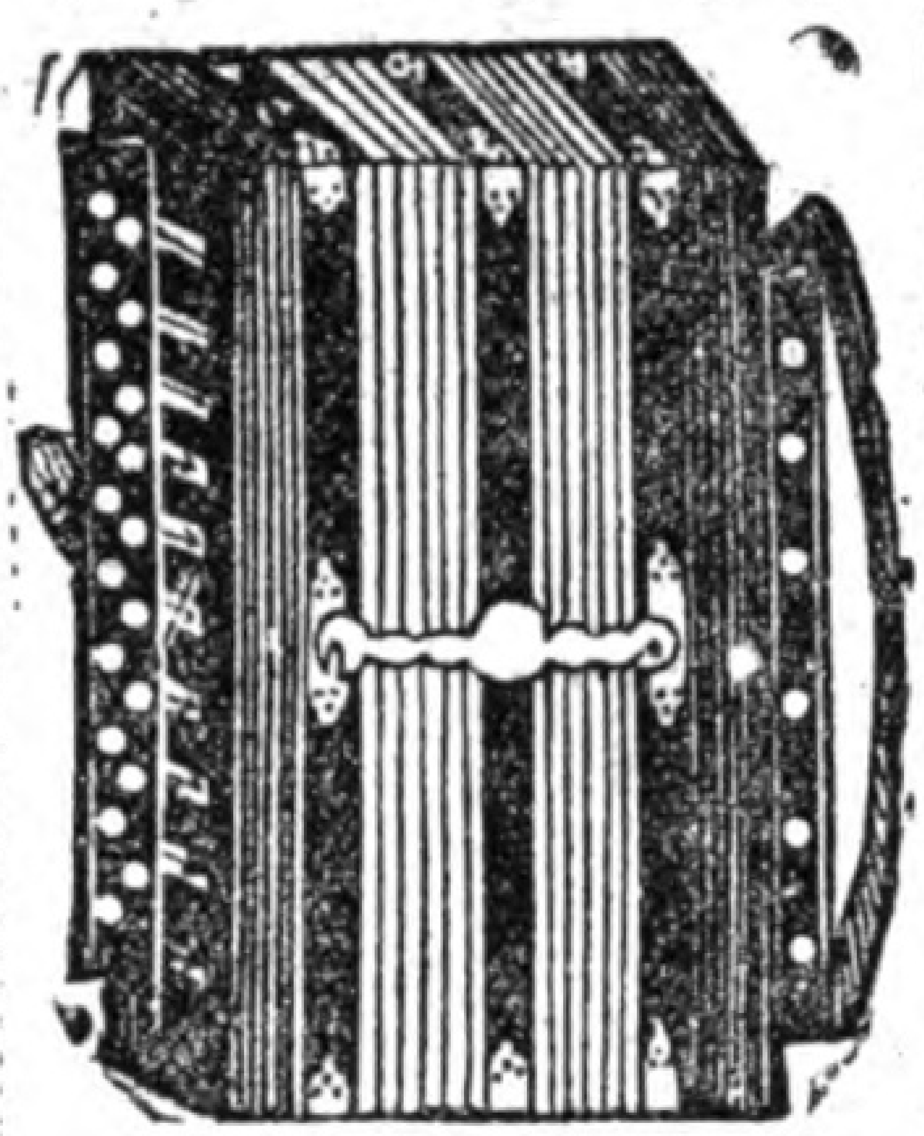
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●見落し勿れ

愉快の親玉は樂器に限る

弊店專賣の左に揭ぐる諸樂器は在來の不完全の品と異なり改良に改良を加へ撰拔せし**音聲強大音律正確の價低廉**なる事他に比類なき完全無缺の最新式なり故に軍歌唱歌長唄端唄清元流行歌等如何なる品なれば少年と雖も簡易獨奏する事を得る殊に**獨習書**壹冊宛皆附屬進呈●

(手風琴)

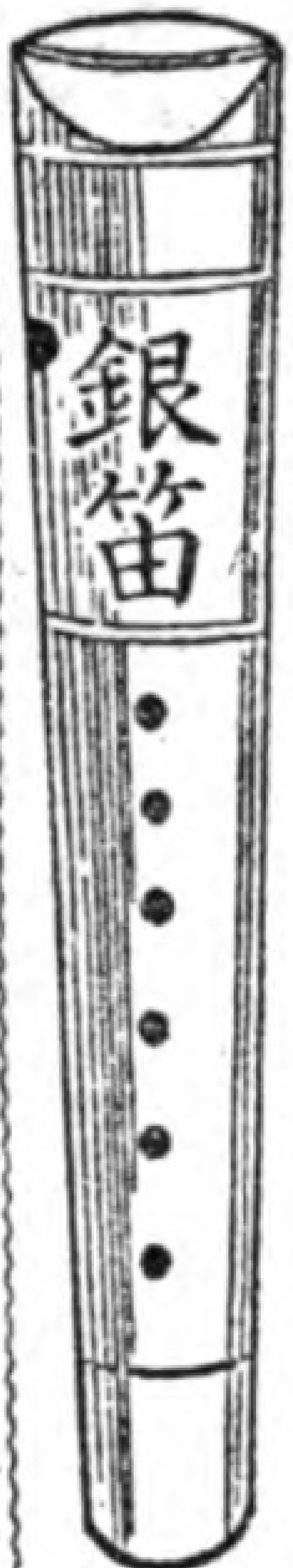


輕便小形
甲價金貳圓
乙壹圓七拾錢
丙壹圓四拾錢
丁壹圓貳拾錢
送料各十五錢

舶來大形
壹號六圓半
二號五圓半
三號(四)圓半
四號參圓半
送料各貳拾錢

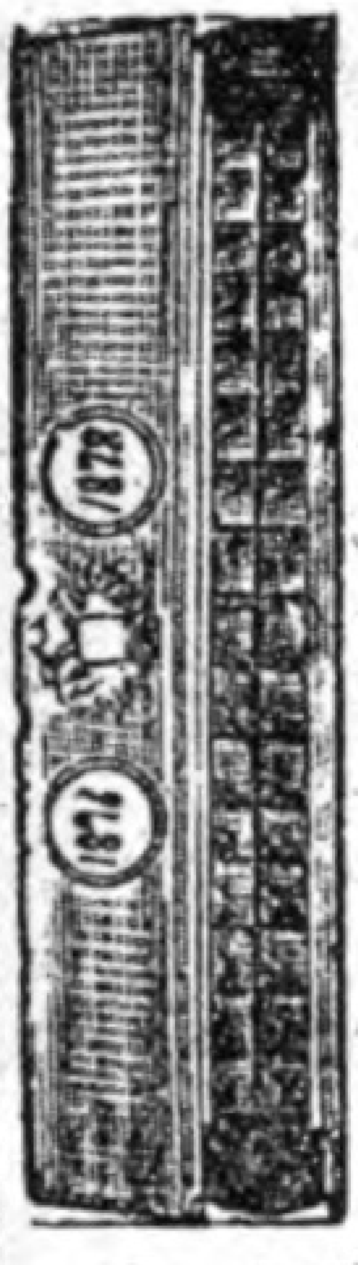


壹號四拾五錢
貳號參拾五錢
參號貳拾五錢
送料各四錢



甲八拾錢
乙五拾錢
丙卅五錢
送料四錢

改良新式**舶來口風琴**(ハモニカ)
一本卅五錢 五十錢、七十錢、九十錢、一圓廿錢、一圓半
送料各四錢



●陽琴
大形壹圓五拾錢—小形八拾錢—送料各
中形壹圓貳拾錢—最小五拾錢—貳拾錢

發賣元
大阪天下茶屋町
振替大阪拾四番
ともゑ號商店

毛のはへる藥

多年實驗の上毛劑にして特効驚くべき奇藥

一圓●一圓半●濃厚二圓●三圓半●送料十錢

(美徽)
やせる藥

●血ぶとり、あぶらぶとり、酒ぶとり、顏赤く、のぼせ症等總て肥胖質の人用ゐて害なく身體美容となる奇效藥なり

●定價(一週)七十錢(三週)二圓(五週)三圓二十錢●送貲十錢



◀にさ物あり乞御注意▶

リウマチス特効劑

驚く可き効驗確實の特効
藥禮狀山の如し

七日分三十五錢
半劑七十錢
一劑一圓三十錢
二劑二圓四十錢
送料八錢

方名**パウル氏丸**は獨逸醫學大博士パウル先生發明の靈藥にして三十有餘年間服用各位の實驗報告に依り益奏効偉大なる特効藥と確信す……證明禮狀寫希望の方申込あれ送呈す

全快禮狀內保存す一覽を乞ふ

新宮藥館

(東京本郷三丁目)
(振替一二五八四)

電話下谷一五四六番

女(ろの二)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎宮内省御買上の光榮ある

男女方に極くよき髪油

みやけ油



東京人形町通リ

本舖 三宅堂

長電話浪花六二〇番
振替東京八七一五一番

◎定價 壹合入四十五錢 貳合入八十五錢 送料拾二錢

第三回新學期開始 入會の最好期は今なり

此際入會者に限り種々の特典を與ふ

通信教授科目

梅の花、忘れな草、八重櫻、つゝぢ、藤の花、桔梗、朝顔、すみれ、南天、庚申ばら、薊、撫子、百合、牡丹、スウヰトピー、チユーリツプ、葡萄二種、其他和洋花簪數種、材料の製法等本會獨特の技術は近來更に歐米の通信教授法を參酌して改良を加へ其上器械、材料見本まで取添へてありますから誰でも容易に出來ます

會員募集

美術造花通信教授

本講義の特色

花瓣の裁ち方、造り方、葉の造り方、花簪の組立方等總て造花に要する染色法並に器械の使用法に至るまで一々圖解を施したる新工夫の説明がしてありますから直接教師から習ふと同一であります全く素人の方でも前記器械を以て形を造り見本と比べて組立つる時は至つて容易に熟達します。

製品見本並に規則書は郵券十錢送れば送呈す

速成二ケ月卒業會費 全學期分 金三圓也

東京神田西小川町一ノ一

電話本局四五四七番
振替東京九一四四八番

美術造花講習會

校外生募集

產婆速成の唯一獨習機關なり

◎講義錄毎月二回發行五ケ月卒業束脩五十錢月謝七十錢全科三圓三十錢詳細規則書二錢

東京本郷區駒込林町百八十三

私立日本產婆學講習會

●講義本科 質疑、受驗科、模型實習、試驗問題答案等知名博士學士諸講師の口授を總ふりがなつきわかり易く印刷し頒つものゆゑ通學と同等の學力が得らる

女（ろの三）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女（ろの四）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

青桐



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

最見易き琴の譜本

井上胡蝶著

生田流 箏曲新譜

四版巻一定價壹圓参拾錢送料六錢 巻貳巻三定價各
金壹圓拾錢宛送料各金六錢 代金引換各金拾六錢増

曲譜目次

巻壹（四季の花 門松 鶴の聲 黒髪 六段 亂八段 金剛石 夕顔 新高砂 越後獅子 千鳥 茶音度 春の曲 小督の曲）

巻貳（春日影 朝外出 六段 前歌 難波獅子 末の契 松竹梅 殘月 秋風 八重衣 冬の曲）

巻三（松盡 萬歳 八千代獅子 雪 九段 巖上の松 新雪 月花 凱旋喇叭の曲 四季の詠め 夏の曲 秋の曲）

生田流 山田流 新譜

箏曲之栞 第一輯

曲譜 定價金壹圓送料六錢 代金引換十六錢増

（門松 こときぶ 春雨 六段 七草 瀧盡し 御製の曲 水は器 千鳥 菊水 那須野 御國の譽 外數曲）

山田流譜本

江の島	卅五錢
住吉	同上
松上鶴	同上
初若菜	同上
四季の艶 今様朝妻船	二曲合本同上
菊水	三十錢
ほとゝぎす	同上
櫻狩	四十錢
那須野	同上
春宮 子の日遊	二曲合本 卅五錢

送料各貳錢

本書の特色と購求者の便利

一 以上各種の譜本は何れも調子の合せ方や音符休止符左手法其他彈琴に必要の事右は悉く平易明瞭に記載しあれば直接師に就きて習ふ通りであります

一 此譜本は西洋樂譜の心得無き人でも直ちに了解せられ且つ言葉記號を附記しあれば音符を知らぬ人も之に依りて彈奏せらる事を得べく自然の間に完全なる樂則を覺え給ふに至るべし

一 本書の購求者は曲中の不詳は返信料添へ質義あれば無料之が説明教授をなすべし

荷も琴を習はんと欲して師を得給ふに難きか或は一度習ひて忘れたりとて歎かせ給ふこと勿れ本書は是等の人々に多大の滿足を與へ得べしと信ずればなり

琴調子笛 特製貳圓並一圓半
送料各八錢代金引換十四錢増

發行所 福岡縣福岡市外馬出 東公園博多座横 箏曲通信教授所

女（はの一）

THE LADY'S GRAPHIC.

婦人畫報

七月一日發行　七月卷　一冊廿五錢

郵二五三八錢六一五三十冊圓十錢
稅錢厘冊十　冊圓十錢二二九四

畫報

◉（附錄）ゆふ月（中川八郎氏筆二頁大三色版）
◉お茶水高女七里濱行　◉福島中將の邸宅
◉愛らしき子供　◉高い〳〵　◉赤十字大會
▼皇后陛下女子高等師範行啓
▼皇太子妃殿下女子大學行啓
▼閑院宮妃殿下台臨
▼東伏見宮妃殿下台臨
◉花房博士の家庭◉少女畫報大會……
◉名家十數令孃◉表千家茶石懷
◉田邊蓮舟氏夫妻金婚式
▼時代の髮形
◉黑須岡崎新代議士夫人
▼海水浴場にて
◉二十年前の女學生……
▼伯爵の一家夕涼
◉第三高女同窓會……
▼聲樂家と愛猫
◉いづれあやめか……
▼德川時代上﨟風俗

讀物

◉避暑地と感化……横井博士
◉なぜ人は衣を着るか……久保學士
◉濁流中の子孫……遠藤博士
◉不完全な日本住宅……佐藤學士
◉樣々な女の氣質……高島平三郎
◉鞠の敎訓……久留島武彥
◉一番美しい女の姿……田邊學士
◉旅行は面白いもの……岸夫人
◉涼しさうな夏の姿……岡田三郎助
◉體に似合ふ着物……長谷川時雨
◉男まさりの女……春鈴
◉山本藏相夫人多惠子の君
◉この頃流行の髮……關口ぶん
◉金婚式の祝ひ……三宅花圃
◉避暑地はどこがよいか……
◉妻に寄せた優しい手紙……春風
◉英雄の子供の庭……倉橋學士
◉小說ある女に與ふる手紙……島崎藤村

東京麴町區飯田町四ノ四　東京社
電話番町二三三九　振替東京一一八一八
（全國書店にて販賣す）

女（はの二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

THE GIRL'S GRAPHIC

少女畫報

第一年第七號定價拾五錢郵稅一錢五厘　六冊稅共九十錢　十二冊一圓七十五錢

編輯顧問
高島平三郎先生　倉橋惣三先生

◎口繪　伊豆の海　中川八郎　よき朝　竹久夢二

畫報

▼朝の窓▼子猫▼歸省▼庭球の姿勢▼海水浴▼白孔雀▼女學校遠足▼勇敢の少女▼讀者會▼御前講演の二少女▼お孃樣の惡戲▼お汁粉
●二十四頁三十有餘の鮮明美麗なる寫眞版は
●悉くこれ少女諸孃が天眞爛熳なる活動振!!

讀物

■ゾットする話……高島平三郎
■末頼母しい女學生……三輪田元道
■(少女小說)養女……尾崎菊子
■土耳古イソップ……佐々木邦
■(小說)店前……國木田治子
■女學生の通學姿……たき子
■(小說)白鳥行……堀內新泉
■新着の白い孔雀……黒川義太郎
■(小說)お土藏の二階……みゆき女
■文子さんの腹痛……手塚かね子
■(小說)京子さんの死……みどり

●●私は蟇口……花うつぎ
●虎の門修學旅行お供……
●●忘れぬ人……夢二
●女學校小學校參觀記
●●果物の菓子……指原乙子
●童謠「かごめ」……
●●通學用紙入……蓮子
●月見草と紫陽花……
●●少女ノート……鈴子
●●懸賞　習字　繪畫　和歌　作文　一口噺　判
●繪頓智其他色々……

◎第一回少女畫報愛讀者會の記

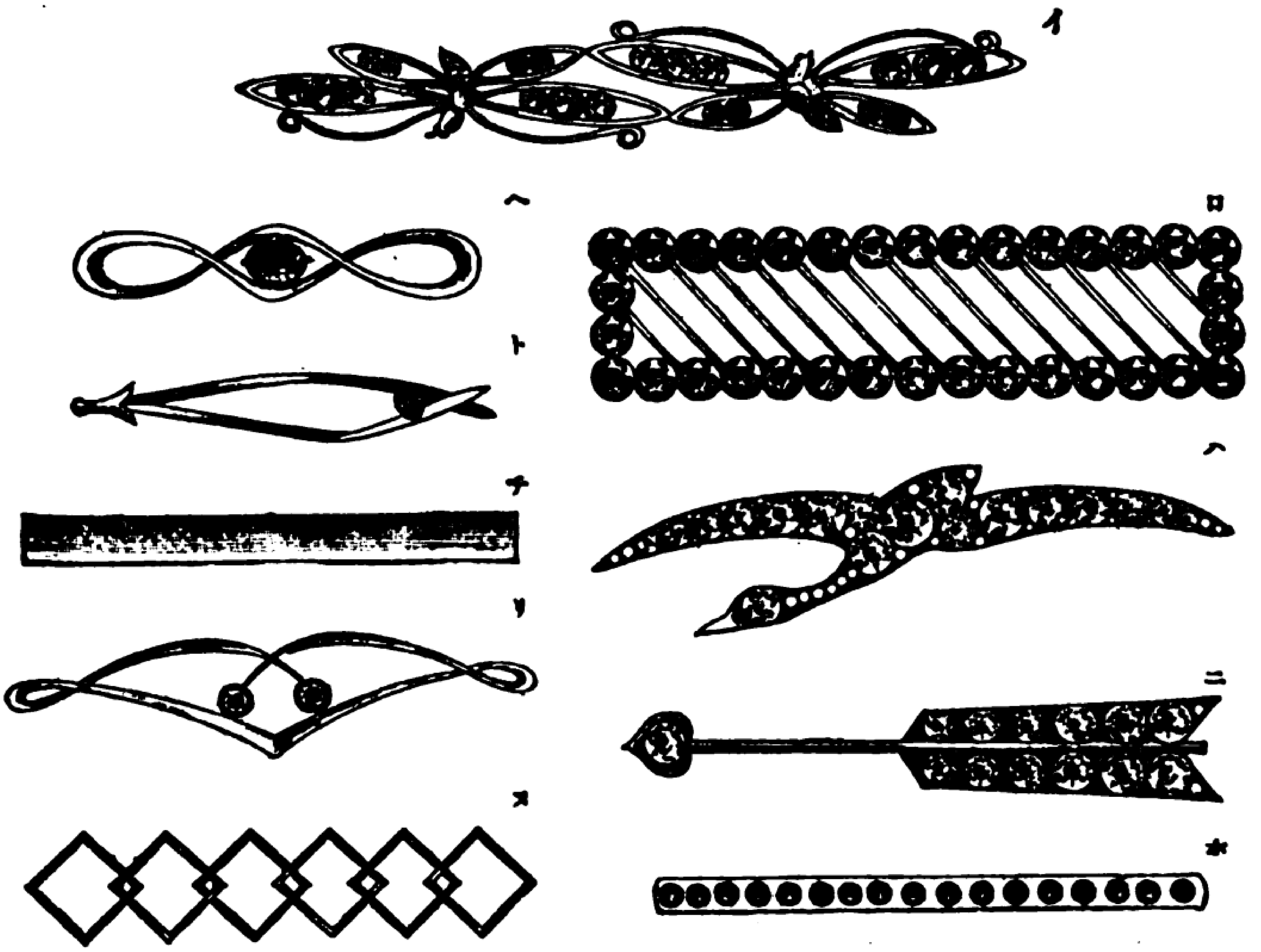
東京麴町區飯田町四丁目四番地　東京社　電話番町二三三九　振替貯金口座東京一一八一八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京南傳馬町

たぼ留各種　大西白牡丹

振替口座東京九二九三番



(イ)	新ダイヤ及色石入蝶形	一圓四十錢
(ロ)	新ダイヤ數入角形	一圓三十錢
(ハ)	新ダイヤ數入鳥形	七十五錢
(ニ)	新ダイヤ數入矢羽根形	六十五錢
(ホ)	新ダイヤ入一文字形	一圓二十五錢
(ヘ)	十八金製オパール入	八圓五十錢
(ト)	十八金製松葉形	三圓
(チ)	十八金角打一文字形	三圓五十錢
(リ)	十八金製ルビー入	九圓
(ヌ)	十八金製角つなぎ	十圓

送料實費內地は十二錢、臺灣朝鮮清國は三十錢申受け候。

營業案內は御申越次第送呈仕候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夕　　　月



佐藤素洲筆

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦女界

七月號

一冊十五錢稅一錢半　六冊前金稅共九十錢

◎人とするまで

『親心』と題して女史が三十年間の育兒實驗苦心談を每號掲載す　鳩山春子

本月は殊に面白き材料に富めるが故必ず數日內に賣切となるべし!!本日購入あれ

▲祝儀不祝儀贈答品の心得
▲ワキがあせもの手當
▲小兒の嘔吐はドウして起るか
▲母として成功したき私の願ひ
▲料理は仕方でうまくなる
▲名婦傳『大臣忠』の姉
▲小說 飛鳥山　ほとり

▲妻の我儘は良人の罪　跡見花蹊
▲逸話に富めるブース大將婦人　山室軍平
▲法律知ぬ爲に起る婦人の悲境　河本判事
▲近代文藝に現はれた女　野上臼川
▲私は女子高等敎育說に贊成す　澁澤男爵
▲名流婦人月旦‖活動の山脇房子女史
▲經濟向な台所の新設備　コーツ夫人

◎家庭講談 細川忠興の妻

◎新形夏向の髮
◎扇言葉とハンカチことば
◎おもしろい手相判斷
◎家庭西洋料理問答
◎收入多い婦人の職業
◎洗濯とシミぬきの法

同文館　東京神田表神保町　振替東京一三五番

女(にの一)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中元の贈物

イツモながら園らヶられる其撰擇

英國製 新輸入 サイホン器械

サイダー、ラムネ、オレンジ、シトロン等夏の飲料水は數多あるが其時や甘加減瓦斯の强弱や々御氣に召さないもので有が其れが自由自在勝手に出來る夏の家庭に不可缺の品，製法説明書を添ふ



五合入 特價二圓八十五錢

右製造用發生瓦斯 一打特價一圓

荷造送料 市内無料 内地廿五錢 臺樺鮮清 五十五錢

發賣元 大橋メールオーダービジネス博文館代理部 電話本局六百十四番 振替口座東京五十番 東京市日本橋區本町一丁目 **博通社**

最新式 アイスクリーム製造器械

大きさは各種あります



僅か十分間で御好により種々のアイスクリームが出來る何れの家庭にも調法がられる器械使用法説明書には調味法も書いて有ます貰つた家庭で大喜びの新器械

十人前製造用 特價二圓四十錢

兩器共今回限り半打以上は特價の一割引

荷造送料 市内無料 内地廿五錢 海外五十五錢

ちゞれ毛直しくせ（複ベント法）

本劑は一度之れを使用すればちゞれ毛くせ毛を直伸し永く使用すれば殆んど治す

定價九十錢 小包料一個に付八錢

毛はへ藥（エフ、ビコール）

本劑は頭髮は勿論眉、口鬚其他凡そ毛の生ずべき所に皮膚病其他故障の爲め生毛せざる者又は毛生せるも極めて微弱なるに塗抹すれば生毛疑なし

定價 特製金三圓 並製金一圓五十錢 小包料一個に付八錢

生毛強壯劑（エフ、トニック）

本劑は最も進歩したる毛髮劑にして毛髮を美化するにありされば身體强健血行良好となり皮膚腺の分泌を盛んにして毛根の營養を能くし從つて禿毛、細毛、毛、白髮等に連用せば奇効あり

定價 卅日分二圓五十錢 小包料十六錢 十日分一圓 小包料八錢

ぶが染（ヘーヤダイ）

本劑は衞生上無害にして毫も毛髮を傷けずよく染まること請合なり

定價 金二圓五十錢 金一圓 小包料一個に付八錢

發賣元 東京市本所區外手町八十七番地 **深澤國華堂** 振替貯金口座東京二〇八二五番

美髮法

右三製劑の内容を知り美髮の目的を達せんとするものは必ずこの「美髮法」を讀め。郵券二錢封入御申越れば直ちに贈呈すべし

女（にの二）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

七月の卷發行

定價　一冊貳拾八錢郵稅貳錢五厘
六冊前金郵稅共壹圓七拾錢

新婦人

夏季特別號

凉氣双袂に充ち清風惰眠を醒す

夏の化粧法　上山浦路
凉しき化粧　遠藤初子
凉しい束髮　伊賀とら
鐵道乘客待遇新施設　木下淑夫
(北村東紅)鎌倉山(水井優子)冷熱夏の女(兒玉花外)たもと硯(本多嘯月)●●●

●伊豆大島(幸田博士)婦人旅行の可否(嘉悦孝子)夏の魚族(岸上博士)才色兼備の瀨戶內海(巖谷小波)長良川の鵜飼(佐々木代議士)茶飲茶碗の水(幣原博士夫人)山紫水明境(尾崎市長夫人)婦人の水上極樂(石井研堂)湯行脚(長谷川時雨)婦人の富士登山(小島烏水)澁の地獄谷(尾崎眞子)寄居の娘子軍(藤間房子)夏に榮種の花(泉斜汀)芦の湖畔

附錄　鐵道沿線名勝案內
附錄　電報賴信紙添

武藏鐙　河村清雄筆　油繪極彩色
水天髣髴　伊藤靜雨筆　石版極彩色
展望車上の阿嬌　コロタイプ實寫眞
其他本誌獨特の濃艶にして清楚なる口繪は名家の淑女名流婦人如雲

卷末附錄　**家庭日誌**
七月分　溫度表晴雨表獻立表來客控●九星舊曆添

新婦人見本　郵券卅錢
賣捌所は全國著名の書林雜誌店

發行所　東京市本郷區龍岡町　振替東京三〇五八　聚精堂　電話下谷一六七二番　電話下谷四〇七九番

女(にの三)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洗濯ノ出來ル洋傘

此ノ洋傘ハどなたニテモ御自由ニ切地ヲ取リ放シテ御洗濯シ元ノ通リニ御取リ附ガ出來マス夫故汚レガ附キマシテモ決シテ御差支アリマセン誠ニ御便利ノモノデアリマス

此ノ洋傘ハ白麻地及縞麻地ニ刺繍ヲシタルモノニテ代價ハ金貳圓五拾錢デアリマス

此ノ洋傘ノ御張替ヲ要セラルヽ御仁ハ態々骨迄モ御送リニナリマセンデモ御端書ニテ御注文ニナレバ代リノ切地ヲ郵便ニテ御送リスル事ガ出來マス

亦どの樣ナル切地ニテモ御注文ナレバ出來致シマス故ニ壹本ノ御傘デ種々ノ切地ト御自由ニ取替テ御使用ガ出來マス

發賣所

東京市新橋南金六町 關口洋品店 振替口座東京八〇五三

横濱市太田町三丁目 伊勢勘洋傘店 振替口座東京一三三二五

名古屋市榮町 伊藤呉服店 振替口座東京二〇八二 振替口座大阪七一〇五三

京都市四條通御旅町 山本洋傘店

大阪市高麗橋筋二丁目 小泉洋品店 振替口座大阪三九二七

大阪市心齋橋筋清水町 門坂屋洋傘店 振替口座大阪一〇三八五

神戸市元町通三丁目 彌太中尾洋品店

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

翡翠



河崎蘭香筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

荷花



加藤南山筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

字が下手なために



生涯どれだけ恥を掻き、損をなさるか分りますまい。立派な御婦人でも釘の折れたやうな字をお書きなされるのを見ると何だか急に御身分や御品格が疑はれるやうな氣が致します。併し如何に字の拙い方でも近頃評判になつて居ります、專賣特許の習字速成法で練習なされば僅かの間に驚くほどの能筆家となられますことは既に四拾萬の實行者が證明されて居ります。殊に手本の書者は有名な小野鵞堂先生であります、この珍らしき方法を御存じない方は東京本郷區大學正門前帝國習字速成學會（電話下谷三三一〇番）へ「ハガキ」で御申込みになれば見本附き會則を無代で直ぐ送つて來ます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京產婆看護講習會編纂

總振假名附

產婆試驗及第秘訣

八月一日發行

ポケット形總クロース金文字入正價金七十錢

豫約減價郵稅共金五拾五錢

本書は最近數年間東京府を始め各府縣及本會に於て施行せし產婆試驗問題を悉く蒐集し願書書式其他掲載し產婆受驗者無二の參考書なり

豫約申込は七月三十日迄にて其後は正價に復す

申込所　東京市四谷區內藤町一番地　東京產婆看護講習會

第十四回新學期會員募集

產婆看護講義錄

產婆科六ヶ月卒業
看護科四ヶ月卒業

本會は產婆及看護婦たらんとする女子を本會發行の講義錄及本會通信敎授法に依りて完全に養成するを本會の目的とす

●規則書入用者は郵劵三錢封入申込むべし

東京市四谷區內藤町一番地
東京產婆看護講習會

見よ◎月經なき女子◎病める婦人



婦人病の多くは月經不順月やく止り發する者少なからず故に一日も早く女月丸を服用して健康と成れよ本劑は學理上有効なる藥種を蒐集し製劑したる良藥なれば

血塊

婦人血の道月經不順月やく滯り又はなど稱へ永き間經水なき爲め腹痛する人或は女子十七八歳に至り月經なき人等に用ゐて特効あり必ず服用試られよ

藥價　一劑六十錢　二劑一圓十錢
特製　一圓二十錢　二圓三十錢
送料各四錢

●艶美白色美容劑

肥滿病藥



子供の折は美愛と賞せられし人も年頃になりて脂肪多くぶとく太り血太りニキビ吹出物ソバカス等の爲めに醜婦となる人少なしとせず故に美容白色ならんと思へば是非本劑を御試用あれ全くキレーに艶美白色と成る事を信じます

本劑は肥滿病服藥と皮膚外用藥との二種有れば御注文の時は必ず患部御容體を書き添へ御申込有れば其容體に適合の方を送付致します

藥價　一劑一圓五十錢　二劑二圓九十錢　三劑四圓三十錢　四劑五圓半　送料各八錢

惡性肉疾の方は三四劑分の多き方が御利益になります

必ず御試用下さい

一手販賣　東京京橋中橋和泉町一
振替東京一〇六七七番

小宮愛生堂

女(ほの二)

七月の卷の偉觀

淑女かゞみ

◎婦人覺醒の第一歩……貞操の力……黑岩涙香

▲瑞西の女……ポイグリー孃
△高山植物……小村山の人
▲海藻の世界……ケー、オー生
△扇と團扇……關保之助
▲金魚の飼方……奥田鎗太郎

△妊娠する理……佐久間醫學士
▲死ぬる子の多い時……寺木ドクトル
△肺病全快談……横田生
▲浴衣と夏帶……流行記者
△日本の家屋……一英婦人
▲蔬菜料理……手塚かね子

○衣服の魔力……斯波貞吉

若き婦人に
▲三輪田元道
▲相馬御風
▲鳩山春子
▲井上秀子
▲田邊尚雄

○婦人墮落の經路……原胤紹

▲お召縮緬の保存法……中上善之進
△手輕な家計法……森田熊太郎
▲亞弗利加探檢の婦人……一記者
△牛乳と下痢……新町醫士
▲北國の女の印象……小川未明

[小說]姉娘……神崎恒子
[對話]ふるさと……月草
[新釋]かくや姫……中内蝶二
[紀行]青葉の旅……鈴木夕村
[觀劇]文藝協會の試演……黑顏子

◎藝術と道德と婦人……島村抱月

定價 一部二十錢 送料一錢五厘 半年一圓二十錢
東京京橋弓町 朝報社内 入念舍
電話京橋四〇二二番 振替東京二萬二百番

女(ほの三)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いつ見ても懐しいは故郷の山
春去り夏来りて
野も山も美しうなれる
我も大學白粉にて化粧し
ツバメ香水の薫りをとめて
戀しき故郷の山野に見えん



Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

晴れの装ひ



甲府市若尾鐵ノ助氏夫人百合子

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

沖つ風



沖つ風吹きにけらしな住吉の　経信
松のしづ枝をあらふしら波

（京都黒川翠山子撮影）

天賞印實用懷中時計

本堂歐米特派員特別監製新品

保存請合年限貳拾ヶ年間



機關堅牢

時報正確

十八金側十二サイズ斜子無双中蓋付器械優美ダマスキン銀仕上爪石入卷上髯其他上圖參照（梨地側ハ本價ニ金貳圓增額）

甲種 **價九拾五圓**（惣押石切天府）

乙種 **價八拾圓**（惣押石切天府）

丙種 **價七拾五圓**（中石入切天府）

同銀側無双片硝子共總斜子本價ニ壹圓梨地ハ五十錢增

甲種 **價拾八圓**（惣押石）

乙種 **價拾五圓**（中石入）

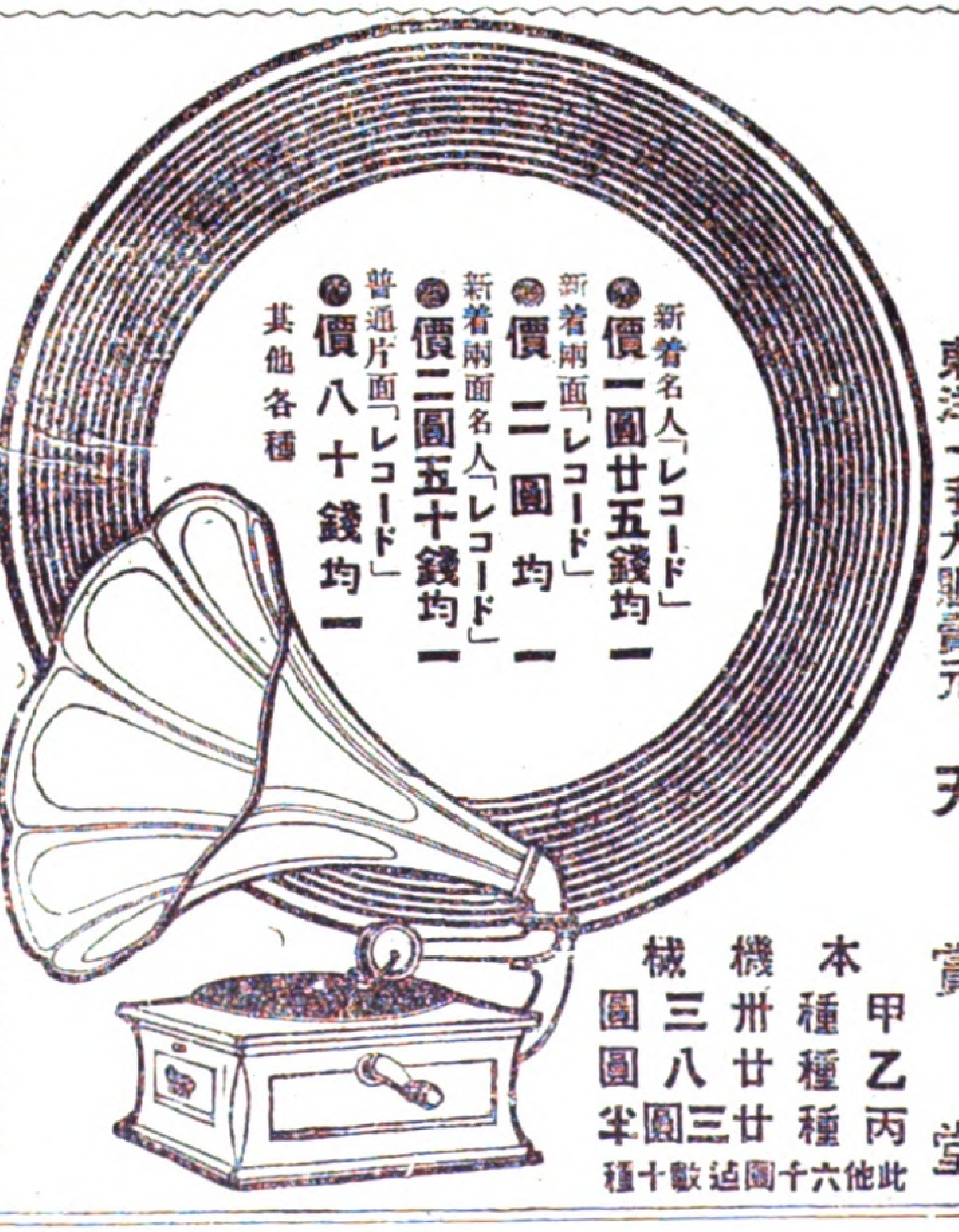
丙種 **價拾參圓半**（十一石）（片硝子ハ本價ヨリ壹圓減價）

○各種共市外送料金十二錢

以上六種は歐米最近の流行と我邦時流の好嗜とを參酌し瑞西國著名の**インバー**時計會社に於て特別監製せる物にして外形の優美高雅なる、機關の精巧堅確なる共に其比を見ず眞に理想的新形たり其指針面には商號**TENSHODO**（天賞堂）又器械にはINVAR（インバー）の銘標あり以て無數の類似品と甄別し易からしむ殊に本品は本堂の一手販賣に屬し今回第一回着荷せしを以て各種共貳拾ヶ年間の保存請合證書を添附し試賣の爲め個數を限り如上の特價を以て汎く頒賣するものとす冀くは愛顧諸君此機を逸せず速に高需の榮を賜へ

米國製最新式寫聲機着荷

東洋一手大販賣元 天賞堂



新着名人「レコード」**價一圓廿五錢均一**

新着兩面「レコード」**價二圓均一**

新着兩面名人「レコード」**價二圓五十錢均一**

普通片面「レコード」**價八十錢均一**

其他各種

本機械

甲種 卅三圓

乙種 廿八圓

丙種 廿三圓半

此他六十圓迄數十種

東京市京橋尾張町二丁目（電話新橋特長三三、三四、三五）

時計寶玉貴金屬美術品内外雜貨商 **天賞堂本店**

大阪市心齋橋北詰北へ入る南側 天賞堂大阪支店 電話番號南七三三

東京神田表神保町 電話本局二六〇 天賞堂出張所

横濱尾上町五丁目 電話八七六 天賞堂出張所

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高評

自然の美想を俄に現す

佛國ノルド會社
美顔術師の發明にかゝる

白味美顔料

白粉に優る

ホーカー液





本品特効

▼色を白くすること
▼きめを細かくすること
▼日にやけぬこと
▼ニキビ、ソバカス、アセボ等に特効
▼白味液にして紳士にも婦人にも向く必要品

御買上の際は必ず上記の商標と堀越二八堂の名義に御留意願度候

定價
特瓶八十錢
小瓶廿五錢
送料四錢

有名なる和洋小間物店に販賣す品切の時は直接御注文を乞ふ

東京日本橋區馬喰町四丁目

堀越二八堂

女學愛讀者特に 一割引 …………切取…………

ミーロン

は歐米各國にて造化の妙工を奪ふの奇効ありとの賞賛好評を博したる奇藥を專門的に多年苦心研究の後其有効成分を檢明し生毛に關する諸説を參考し有力藥を配合したる妙藥なれば世間に有觸れたる技術と學理に暗き賣が山師的に無責任の廣告を爲して販賣する僞着品の比に非らず左れば普通に醫師の處方する完管丁幾、レゾルチン、サリシール酸昇汞等の在來の生毛劑や粗悪の賣藥にて効なきとて落膽せず是非本劑を試みよ頭髮、はへぎは、まゆげ、ひげ其他の薄きを濃くしあるべき所に毛なきを生じ禿頭病其他の病氣にて脱毛するを防止し拔毛の再生を早むる事請合藥價送料共一劑八十錢二劑一圓三十錢郵券代用二割増の事

●●●●●●取次所ハ前月ノ廣告ニアリ●●●●

取次所ナキ地方ハ直接本舗ヘ註文アレ

らい病

此らい病藥は有名なる癩病治療藥を化學的の方法にて分析し當館主が醫科大學奉職中研究したる成績に考へ配劑したる有力藥なれば一度其効驗の確實なることを實驗せらるべし古來癩病は不治の病と稱し今日と雖も之を根治せしむるは難事なれども其病勢の甚しからざる中に本劑を繼續服用すれば病原菌を脱力死滅せしめ漸次輕快に赴かしむる妙藥なり本劑は安價に不幸なる病者を救護せんとする主趣に基き發賣する者にして無効なる藥品に非常なる高價を貪り大言を吐て其効能の著大なるらしく見せかけ不幸なる病者を陷れんとする瞞着主義の賣藥に非ず

チノサール 一ヶ月分 貳圓

複方チノサール 一ヶ月分 參圓

本舗

醫科大學卒業藥劑士 從七位勲六等

三河國碧海郡刈谷町

振替口座東京貳參壹壹

電話 刈谷參拾貳番

中島龜之丞鑑製

女(への 二)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人世界

七月一日發行　七卷八號　一冊拾五錢　郵稅一錢五厘

◎皇太子殿下の行啓を忝うしたる我が社主催全國小學校成績品展覧會

△淺ましい海水浴場の婦人の風俗……下田歌子

△草鞋を作つて働く百九歳のお婆さん……福原有信

△婦人の心得べき姙娠中の注意……岩崎直子

△馬鹿息子……高木敏雄

△育兒の心得……加藤博士

△衞生と迷信……くれたけ

△床しき謝恩會……婦人記者

△中元の贈物……國分操子

△時節柄の衞生……鈴木主計

△殘飯の始末……婦人記者

◎歷史講談　春日の局……細川風谷

◎滑稽百話……

小說『子寶』……村井弦齋

◎手紙の形式……渡邊白水

◎夏の野菜料理……櫻井ちか子

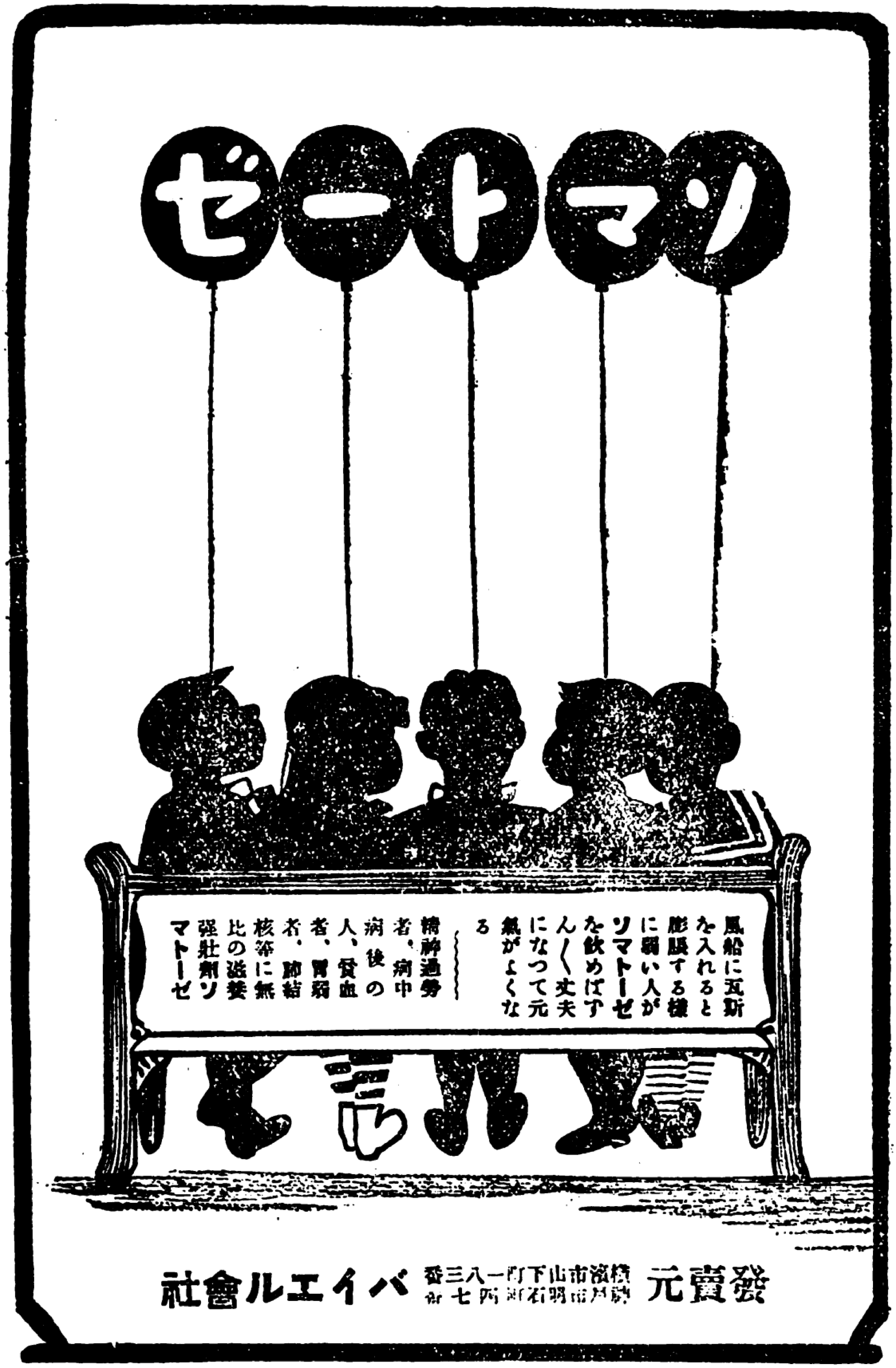
◎婦人と芝居見物

高木鎌子
宮田脩
磯野吉雄
海老名みや子

女(への三)

發行所　東京京橋南紺屋町　實業之日本社　郵便振替貯金口座東京貳參六番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女(への四)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

入神の技



この技誰が爲めにまなぶ、この器、誰が家を飾る、あはれ美しき指に成る美しき器を。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

はらから



左兒玉病院長ドクトル兒玉林平氏の令孃節子、同鈴子
右依田學海氏令孫澤阿耶女子　同篠枝子

ニキビ

吹出物を治療して色白く美する内服藥



ニキビ吹出物油顔其他皮膚ドス黒く色澤惡しく薄穢き等は概ね體内胃腸の變化より生ずる一種の毒素に原因す故に之を治するには必ず内服藥を以て體内より治療するを要す然る時は奏効確實にして外用藥の如く内攻の恐れなし是現今皮膚病學上の定論なり本劑は此理由に依り製出せる内服藥にして既に醫藥の成書に於て確實に効能を記載せられたるに係はらず先般報知新聞大阪毎日其他八大地方新聞に於て社會的試驗の計畫を發表し多數の患者に試驗し驚くべき好成績を報告せらる最早學理に於ても又實際に於ても疑ふの餘地なき有効藥たる事を確信するに至り茲に發賣す患者は只十錢郵券三枚封入申込あれば直らに送藥すべし

藥價 四日分三十錢●一週間分五十錢●十五日分一圓
市内は電話かハガキにて御通知次第無料配達
地方は成るべく爲替又は振替の事

本舖 東京市下谷區上根岸町百十一番地
藥學得業士 **金澤巖**
振替東京四六七番 電話下谷二二五九番

大日本發賣元祖

明治四拾五年新品發賣

安眠
のみとり
人体には害なし
東京銀座 松澤商店



●定價
金五拾錢
同貳拾錢
同拾錢
同五錢
▲遠國送料
金貳錢
▲郵券代用にてよし

金張懷中時計…景品付き…大廉價發賣

時間正確ならざれば時計の効なく金張にして瞬時變色すれば眞の金張にあらず本品は夙に響れ高き米國時計會社美人商標刻印付特製品にして兩蓋・密斜子刻み中蓋付三枚蓋龍頭より引出し針廻し機械は新アンクル式寶石入四拾時間持紳士用15 16 17 18形貴婦人用金張製地片硝子13形均一特價

五圓五拾錢



本品は製造會社が多年の實驗と嶄新なる化學を應用して十八金張に製造したるものにして普通瑞西製メッキ側等の粗製品と異り眞の金張故に金色燦爛として十八金側を凌駕し尚ほ機械に優れて要所には寶石を鏤めたるものなれば完全無缺にして進運振止の憂なく故に弊舗は責任を重じ卅ケ年の保險を附す景品には舶來鎖美術時計メタル天眼鏡入及鹿皮の三品を進呈御望の方は女學世界廣告に依り御注文の旨御申越次第代金引換小包郵便にて送る送料貳拾錢爲替生玉局宛

注意 弊舗は信用を重んじ遠隔の購客にして現品御覽なく御購求後万一貴意に適せざる時は無割引他品交換又は代金返戻す

▲大阪市東區上本町五丁目 振替大阪一四一八五番

貴金屬時計商 夏目時計商舖

夏季御婦人方の大厄を救ふ物は此『安全帶』です！

ナゼなれば日々暑さを増し來りて、御召し物が薄らぎ行く「けふ此頃」皆様が尤も苦に遊ばす月經時に此「安全帶」を御使用相成れば極めて重寶便利で、且つ衛生上申分なく、又如何程經水の多い方も粗相失策等なさる御心配なく、殊に彼の恐るべき子宮病やヒステリー等に罹る憂もありませぬ、乞ふ續々御注文あれ（一御購入者よりの禮狀山の如くあります）



本舖 東京下谷區池の端七軒町四二 安全堂 振替東京壹六九貳〇番

關西代理店大阪阿波座上一電車道角 洋々堂分店 振替大阪壹壹四六壹番

定價 一安全帶●甲壹圓廿錢●乙八拾錢●並五拾錢各壹本で四五年使へ升●安全衣一打金四拾錢●內地送料一組（帶衣共）金八錢。餘は一組毎に二錢増し代金引替廿錢外國臺灣樺渋鮮金三十錢

LUNGE

肺病 最新奇藥 ルンゲ

壹週間分金一圓十五日分二圓
一箇月分三圓五十錢送料本舗支辨

ルンゲは肺病專門の特効藥にして近來歐米諸大醫の最も賞用する處の嶄新高貴なる良藥を集めたるものにして其効驗の顯著なる幾多の經驗に因て弊堂の敢て揚言する處なり

速治湯本舗　靜岡市東草深町一ノ一　養壽堂

◎◎産婦人科　小兒科　宅診 午前　往診 午後

病室並ニ産室ノ設備アリ隨時入院ノ需メニ應ズ

院長 女醫　鷲山改姓　吉岡彌生

東京市麴町區飯田町四丁目卅一番地

東京至誠病院　電話番町(二二五七)

◎造花材料營業目錄御入用の方は左下方の切取に郵券二錢を添へ東京九段坂吉住商店宛申込まるべし

造花材料 書籍

科目

造花器具及材料。造花及半製品。摘細工材料。袋物材料。瓶細工材料。刺繡材料。造果材料。

實用造花自在　正價一圓廿錢　郵税八錢

實用造花圖譜　正價一圓　郵税六錢

◎造花自在は造花の秘術を説き盡す造花術秘密の鍵にして◎造花圖譜は七十一花種の瓣、葉、蕚等の切形に一一鮮麗なる石版數度刷の着色を施したる者なるを以て斯技に就事する者必携の好著なり

◎書籍内容見本御入用の方は左下方の切取に郵券二錢を添へ東京九段坂吉住商店宛申込まるべし

東京九段坂　吉住商店

特長電話番町二〇五六番
振替東京六六七九番

切取り線

女學世界七月號

女(その三)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



チエリー香水
高等煉香油 チエリー
高等香油 チエリーオイル
フエス白粉



チエリー香水 價 大八十錢 並二十五錢
高等香油チエリーオイル 價 大八十五錢 中四十五錢 小二十五錢
高等煉香油チエリー 價三十錢
フエス白粉 價 三十五錢 二十五錢

發賣本舖 東京日本橋本町 高橋初次郎 特電話本局四一一三

宮内省御用達

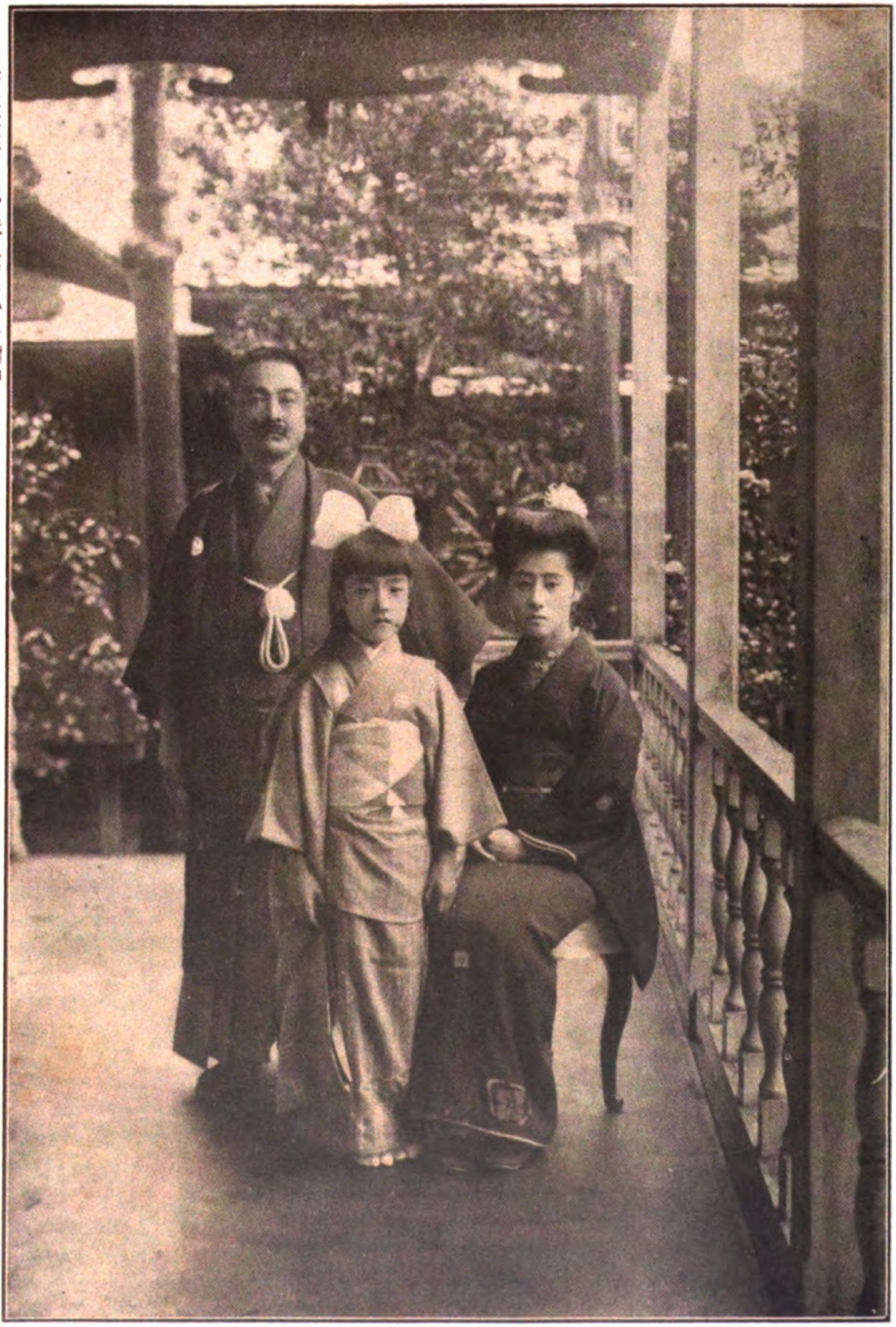
ヒゲタ醬油

千葉縣銚子港 田中玄蕃釀造

女(との四)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大木伯の家庭



伯爵大木遠吉氏、夫人幸子、令孃伸子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新婚





右、紳商樋口繁太郎氏と新夫人八重子(高輪淑女學校出身)

左、商學士高柳勝治氏と新夫人靜子

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮内省御用達

天下一品

釀造元

千葉縣野田町

茂木佐平治

最上醬油

賣捌所は各地とも有名なる酒醬油店に有之候



ランラン香油は毛髪の艶が見違ひる程に美しくなり升一度御ためし下さい

定價 廿錢 三十錢

大阪新町三

福田源次郎

東京馬喰町三

女(ちの一)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

エメラ

ライラック化粧水



到る處にあり品切れの時は小賣部新橋竹川町理容館へ……

美顔術 實驗有効

鞄の中に。鏡の前に。

ライラック水が

ありますが

コレさへあれば

海水浴や山遊び

日焦けの心配

更になく

花の顔、玉の肌

いつも苦勞なこの夏も

樂しく綺麗に

暮せます

近時偽物ありレッテルに御注意御買上げ下さい……

輸入元 東京新橋南金六町 合資會社 理容商會 電新二三〇二

女(ちの二)

ホワイトハ皮膚ヲ

色白

ニスル尤効アリ

牛オンス卅五錢
一オンス六十五錢
郵券代用一割増
送料當分無料

發賣元 京都市上京區南禪寺町一七 安田保三郎

催眠術

通信教授

全學期教授料二圓八十錢
三回分納隨意圖貸書貸費
等の大特典あり圖卒業後
帝神得業士の稱號認許す
詳細入會案内書無代送呈

大阪市東區生玉町
帝國神秘會通信部

●色白く

美顔となる

色黒き方青き方赤き方日に燒け易き顏のお方で色々の化粧品など用ゐ効なき御方は郵券三錢封入御照會下さい色白くなるよい藥を委しく御知らせ致します皆樣に實驗を願ひました處澤山禮狀を頂きました

東京市神田區鍛冶町五番地
大塚とよ子

男女ちゞれ毛くせ毛赤毛

は何程の難毛も自然に矯正黒化良き艶の出る最新發見專賣特許奇液を郵券封入申込の方に教授し誓て美髮に治して差上升

東京千駄ケ谷五九五
岩阪澄子

●診察時間毎日午前八時より午後九時迄院長診察

梅毒症 りん病 生殖器諸病 神經衰弱症 婦人病 わきが ぢ

東京淺草瓦町
廿八淺草橋通
瓦町停留場横

中央醫院

ぢ 諸病 梅毒 横根 下疳 全身梅毒等 りん病 消渇

子宮病 血の道 月やく とまりたる病 子なき婦人

生殖器諸病 神經衰弱症

記憶力思考力減衰症等 生殖器病萎縮遺精早漏夢精發育不充分症等

わきが 色の黒き人 にきび ふきでもの そばかす あれ性 皮膚諸疾患 いんきんた蟲等症

▲病狀記し郵券四錢送れば其病を速治する專門醫中央醫院々長處方の特効新藥說明書を送る

東京市淺草區
瓦町廿八番地
淺草橋通瓦町
電車停留場横

中央藥院

女(ちの三)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

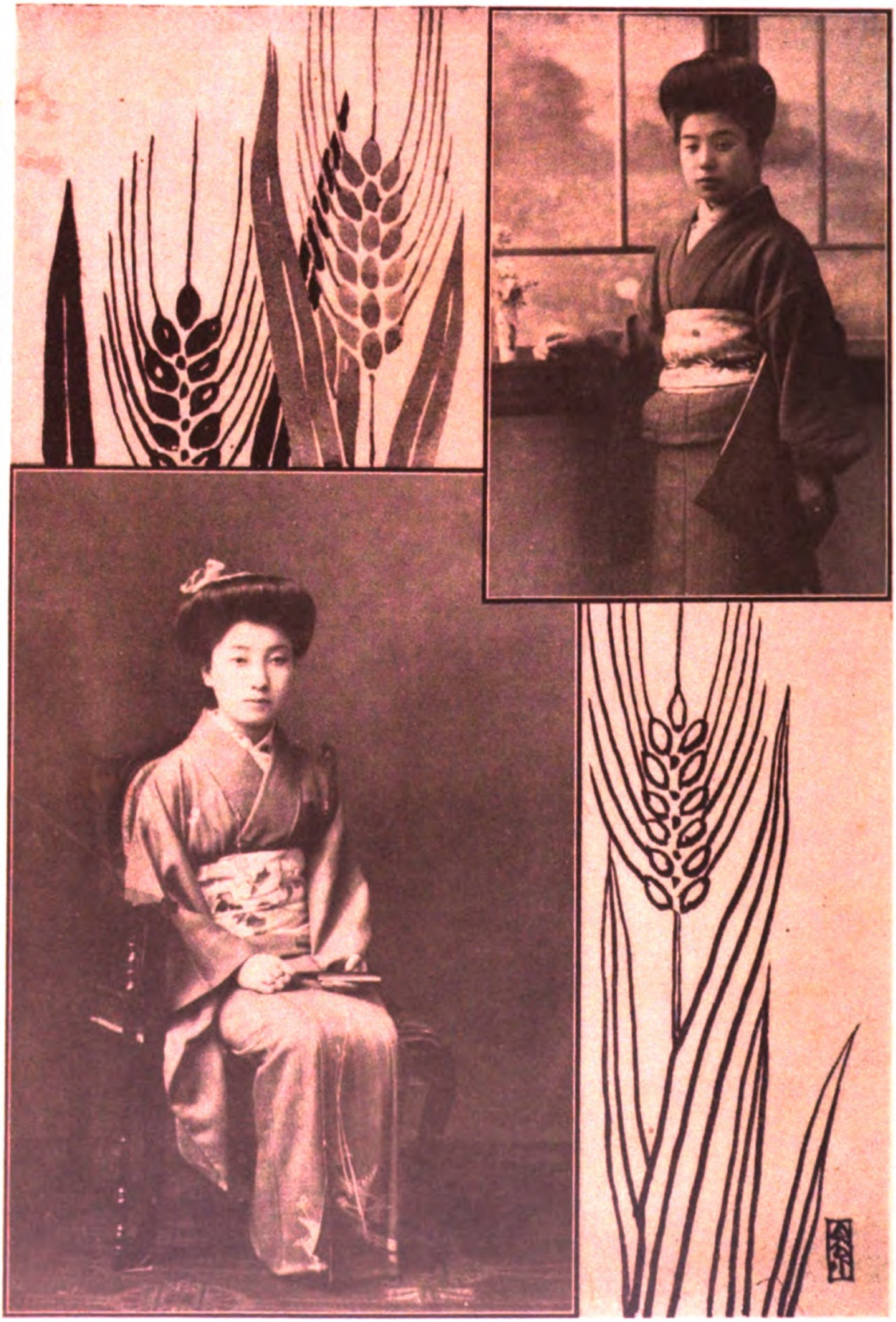
美顔術（最新 白色法）及
脫毛術を行ふ
神田駿河臺袋町（電本一七七一）
東京美容院
院長 北原十三男 美容術視察の爲
渡歐 不在中の處 今般 歸朝 從前通業務に從事

藥品部發賣品
完全なる脫毛材料 漂白化粧料に
きびそばかす藥 隆鼻器隆鼻劑有力
なる毛生劑等美顏毛髮に關する新式
發賣藥品一切說明書郵券三錢を要す

女(ちの四)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

令孃かゞみ



右實業家近藤修孝氏令孃雪枝子、左實業家吉田保氏令孃葉子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

三宅花圃女史と門生



先頃花圃女史のお宅で和歌の會のあつたときお庭で寫したもの、左より二番目に居れるのが先生です

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



女(りの一)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

○ふ

肺病は不治症か 否！否！

一般世人が不治症と斷定しつゝある肺病は決して不治症ではありません本病に襲はれ悲觀しつゝある人は郵券貳錢を添へ照會せられよ療養法及治癒の方法を懇切に御敎へ致し升

府下荏原郡大森海岸八幡電車停留場上

川名助次郎

ポンペーア香水

三越呉服店を始め著名の洋品店婦人小間物店に販賣す

ポンペーア

香水	二圓二十錢
ローション	一圓四十錢
石鹸	一個二十錢
香油	九十五錢
粉白粉	一圓六十錢



實用新案 羽車印氷枕

定價 五十五錢 八十錢

本品は構裁高尚にして耐久力に富み病院を初め紳士の家庭用品なり

發賣元 東京日本橋區藥研堀町 播金商店

女子文壇化粧問答顧問 藤波芙蓉先生實驗發明

クセ毛直し 美髪劑

美顔姉妹料 コールドクリーム

美顔姉妹料 艶肌劑

●美髪劑定價 小三拾錢中五拾錢 大瓶壹圓▲同特製 香油壹圓五拾錢各 小包八錢市內四錢

●クリーム定價 壹瓶金壹圓 小包八錢市內四錢

●艶肌劑定價 壹瓶金六拾錢 小包八錢市內四錢

清韓臺樺卅錢

●本品は世界有觸の品と異なりワザと粧飾を施さず實効第一なり、速に試みて見よ論より證據

專賣元 東京市京橋區大鋸町 振替口座壹七貳九 女子文壇社代理部

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

美術 造花材料

東京市淺草區駒形町十四番地

三國屋

關口商店

電話下谷四〇五一番
振替口座東京一一六四二番

定價表御入用ノ節ハ郵券貳錢御送ノ事

●圖書目錄

御入用の方は往復ハガキにて御申越次第即時送呈仕候

東京本町 博文館

東京市九段下 神田今川小路二丁目十一番地

隆鼻術（はなたかくするほう）

和田耳鼻咽喉醫院

午後

電話本局一七三〇番



東京神田裏猿樂町

東洋音樂學校

電話本局三八五四番

本科、特別科、本校及東京音樂學校入學豫科

來八月一日より 夏期講習會開設

生徒募集

ピアノ。オルガン。バイオリン。唱歌其他管絃樂器及理論等

音樂家となり又樂みに之を學びたき人は本校へ申込みあれ

衛生改良酢發賣

貳合入壜詰一本 金二十五錢

送料 金八錢

[redacted]



本品二合は普通品の二升六合に當る

在來の食酢は腐敗し易く貯藏法に至難なるも本品は防腐性を有する醋酸を資料とせし者なるを以て有害なる黴菌を生ずる憂なく永久不變なり而かも之れを菜肉に使用して風味云ふべからず是れ本品の特點にして殊に衛生酢と命名せる所以なり家庭に於て御試用の上御高評を希上候

藥種貿易商

東京日本橋區本町三丁目

合資會社 博愛堂

電話本局長二八六番●振替東京八八一三番

女(りの三)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



七月一日より

中元大賣出し

●餘興「江の島」引續開演

呉服、太物、浴衣地、洋服、袋物、化粧品、食料品、美術品等都て御進物に適申樣美麗なる箱入又は紙包入ご致し調進仕候間何卒御來店の上御用命の程奉願上候

●「中元御贈答品一覽」

金五拾錢以上價格に依り區別したる「御贈答品一覽」七月一日より店内に於て差上申候

白木屋呉服店

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界

第拾貳卷

第拾號



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

常識教育

新鶉衣

曙内侍

探涼の賦

いかに三界の火宅に住むべき身なりとは云へ、軒の風鈴そよとの風にも搖がず、あぶら蟬の膩汗を絞るがごとき聲を聞きては、誰れか三伏の夏の暑さに恐れ入らざらむ。この折よ、涼しく冷たきもの〻品さだめせむは、此上なき樂しみの一つならでやはある。まづ昔の人の言葉を借りていふに、氷、冷むぎ、雪、あられ　それに何やらと猫の鼻と云へれど、冷むぎの他は、いづれも夏座敷に相應しきものとも思はれず。されば、當世風のものを手近きわたりより求めむに、風通しよき大廣間に籐の寢椅子を設けて、仰臥しながら肩の凝らぬ書を繰りひらくばかり、心すが〳〵しきものはなからむ。更に慾を云はゞ、一間ばかり隔りたるところに煽風器などあらば大に可からむ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なほアイスクリーム、サイダーなど來らば如何に好からむ。更に規模を大にしては、旅行の裝ひいみじく整へて、遠く風光明媚の地に遊ばゞ、俗腸さへ自づから洗ひきよめられて、仙骨秀でたる人とならましを。さあれ、この旅行と云へるもの、古へは世の態ゆるやかなりければ、何の用意なくとも恥を掻くことあらざりしが、今は汽車とやらむ、ホテルとやらむ、便利にして不便利なるもの數多く出で來ぬれば、富める人にあらぬ限り、ひと度避暑旅行にゆきなば、秋立ちて幾日にもあらぬにこのぬぬる朝明の風に懷中さむき思ひをや見む。されば探涼は夕納涼の緣にまかせて、團扇片手の一家團欒に、四方山のかたり草を蚊遣火の烟に焚くこそよけれ。これぞ一文の費えも立たぬ經濟的の探涼と知るべし。

走馬燈の箴

空に銀河はれたる夜ごろ、軒に釣るせし走馬



風鈴や窓一ぱいに嵐山（魚鱗）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

燈こそいとをかしけれ。一穂の秉燭をたよりにさまざまの浮世はめぐりて、日傘させる女のゆくかと見れば、ハイカラ男の洋杖持ちたるが其跡を追ひかけ、犬も走れば、座頭の杖に當らんとはすなる。郵便脚夫、人力車、自動車さへ駛れるは、二十世紀の御代を寫して餘蘊もなし。我れ嘗て僧侶に聽きけるに、因果應報は走馬燈の廻れるが如しとなん我れ嘗て歴史家に聽きけるに、歴史は走馬燈の如く繰返すものなりとぞ。我れ嘗て政治家に聽きけるに、内閣も亦た走馬燈のそれの如ければ、一旦政權を失ふとも決して落膽するに及ばずとぞ。されば、唯

竹むらの
すきまに見ゆる
近隣灯かけ涼しき
夏の宿かな　（久胤）



一つの此物にも、さま〳〵の敎へは含まれたらむか。さりながら走馬燈をたゞ廻るものにのみ譬ふるは、透し紙の如く、その意味いと薄かり。われ今一歩を進めて、この物に依りて宇宙萬般の眞理を解かむに一穂の燈火細しと雖ども、これ正しく活動力の根源にあらずや。地球も火熱なくんば直ちに月球の死體に變じ、人間も精神一つによりて始めて活く。動くは影なり。これを動かすは動かざる燈火の力なり。成功の着々として現はるゝも一志動かざる不撓不屈の精神より出づる力ぞかし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一穗の燈火千年のいのちかな

扇の辭

團扇のまろきは家内圓滿の相をあらはせども、たゞ滿月の缺くることを知らず只管に幅を利かすのみなれば縱しや夏の日盛りこそ望月の歌とも等しけれ、やがて秋風立たむ日には、やぶれ團扇のある甲斐もなく、物置の隅に叩き込まるゝ憂目をば見るぞかし。これに比ぶれば、たとひ秋の扇の諺はありとも、來ん夏の日まで身を桐の箱に納めらるゝ扇こそいみじう目出度けれ。抑やその譯いかにと云ふに、團扇は單に風をおこすのみにとゞまれど、扇は爭で然ばかりの狹き道をや歩まん。

まづ其本は小さけれど末廣まれるに因みて、末廣の目出度き名を得たるは、翕然として天下の人心を收攬すること、宛ら骨を唯だ一つの要に集むるに異なるなし。されば正月の進物夏の贈物は言はずもがな、いかなる時にても、末廣を貰ひて喜ばぬものこそなけれ宮中の出仕、冠婚の調度などには無くてはならぬ物の一つに數へられてけり。殊にその形の胡蝶の翅に似たればや、舞ひの手振にも之れなくしては爭で勤まり得べきぞ。遮莫奢る平家の扇には却つて目出度からぬ熱病をあふぎ出しゝ例もなきにしもあらず。



山百合や草分け衣袖濡ろゝ　（浮塘）

行水の說

夏の日のやう〳〵西に傾けども、未だ明々と垣根に輝ける頃の行水はいとむくつけし　宵闇に夕がほの花のほの白けれど、それと姿すら見えわかず、唯だ湯あみの音のみ聞ゆる頃のも亦たまさなきものなり。夕映の雲わづかに殘りて軒に蚊柱のわめきかふ頃葡萄棚、夕がほ棚、さては紫陽花の蔭などに盥据ゑ、色白き女の、片膝立てたるが斜めに背平を向けて湯あみすることそたとしへなく、艶に美しけれ。さりながら之に引換へて毛深き男子の胸毛したゝかに生やしたるが、熊の如き手にてざぶ〳〵手拭を使ふは、たとへ同胞なりとても嬉しからず。まして老いさらばひたる老人の、いと危げに庭下駄引きずりながら、辛くも盥の縁に取りつくを見れば、無下に淺ましくも胸の塞がる心地ぞせらるゝ。

蚊柱やなまめく湯氣もおぼろにて



薫風や人見て鳥の泳ぎよる　（萩女）

晝寢の辨

夏は晝寢ばかり嬉しきはなし。六疊の座敷晴れやかに開けはなち、花茣蓙に寢て籠枕すれば、吹きとほしの風浴衣の綾にも止まらず、軒の風鈴りん〳〵と鳴らしゆくに、團扇うごかす手さへ自づから罷みて、夢路を辿る蟬の聲も心憎からず、況して巫山の神女に逢ひ、戀しき人の面影見なば、いかばかり嬉しからまし。縱しやこの副産物は無しとするも、一睡目覺めて欠伸しながら起きあがれる時、夕陽西に傾きて空には彩雲の色を飾り

蜩の聲宛ら白雨のやうに降りそゝぐを聞かば、實に夏の暑さも一時に消し去られつべくぞ思はるゝ。さるを古へ孔夫子とやらむ、一寸の起居にも難かしきことをのみ言ひける人のありて、其弟子の晝寢したるを見、朽ちたる木は彫るべからず、糞土の牆はぬるべからずなどゝ、姑のやうなる皮肉を並べしこと實に片腹いたけれ。加之も、夫れも然ることながら、斯人の學問を受け續ける者たちは、みな一樣に晝寢を嫌ひて、中には、我れは夏日の長きを好むなどと、額に湯氣たてながら途方もなき負惜しみを言ひける人さへありしとかや。笑止ならでやはある　我れ今杓子定規の人に誨へむ。卿等唯だ机に凭りて、學び〱、學び學ぶとも、蚯蚓は焉んぞ天に昇るを得んや。まづ机上の空論を斥けて、心意を太極無極に置き、而して後に世態人情の微妙を考へ、徐ろに機に臨み、變に應ぜむには如かず。是れ處世の六韜三略にあらずや　されば、神を安んじ、體を休ましむるに於て、晝寢をなすこと、何の害か是れあらむ。要は之くところに之き、止まるところに止り、流水の溶々として凝滯せざるにあり。是れ寢言にあらず、醒めたる人の聲にこそあるなれ。



夏の夜は火に入る蟲もあるものを雨にも燃えてとぶ螢るかな（千浪）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



教育を受けた婦人と受けない婦人

女子師校長　中川謙二郎

教育を受けた婦人と、教育を受けない婦人とは、家を持つてから其の區別が著しく現はれる。別に容貌の上に現はれるのでないから、以前にはあまり明らないが、それが一旦家を持つとなると、一家の經濟、交際等すべての點に於て其の眞價が明らかになる。

第一、教育を受けた婦人の經營する家庭は、一般に規律的である。これは教育の効果として特に重く見る事が出來ると思ふ。一家の規律など丶云ふ事は、さまで重大な事ではない樣に思ふかも知らぬが、決して左樣でない。この規律的であると否とは國力に大關係を持つて居る。これから教育を受ける子供も、將來活動をする人々も、家庭に於て規律的の習慣が養はれて居ると、事に當つて困難が少く、そして仕事の量は多く出來る。即ち國家を富强にするの一大原動力となるのである。

第二には身體の狀況で、教育を受けた婦人は受けない婦人よりは餘程健康が勝れて居る。これは最も重大なことである。婦人の身體は母の身體であり、將來の國民を生む身體である。この點に於て婦人の身體は頗る大切なものである。たゞ一國家のみでなく世界全體にも人類一般の幸福にも大關係がある。普通教育に於て身體の發育を主とするのは其の爲である。

第三に高等女學校は男子の中學校に相當する者であるが、中學はなほ高等專門の教育に進む豫備教育を意

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

味するが、高等女學校は良妻賢母を目的とする故に一方に於て母としての健康を作ると共に、智識を研き、同時に德操を進める。なほ多くの部分は一家の整理上にこの智識を應用する樣に導くのである。家庭に入つてその蓄積した智識を應用するのと、應用す可き材料を持たないとが、また敎育を受けた婦人と受けぬ婦人との區別される點で、これは決して二三の書物を俄かに讀んだとて、又如何に小言を云はれたからとて、急に出來るものではない。全く智識の活用にあるので、今日この點に於て敎育の結果を現はして居る人は澤山にある學んだ智識を應用するには、庖厨は下女に一任し、外の交際向は母に全權を委ねると云ふのでは出來ない。一家の經濟に關した事は、頭の中だけで考へて居るのみでは行はれない。交際もその衝に當つて見るし、庖厨の事も手を下して見ねばならぬ。これを西洋人と比べて見るに、物質を巧みに使用して一家の經濟を豐かにすると云ふ事は、我邦の婦人が一般に劣つて居る。即ち敎育の結果はこの點に於てはあまり現はれて居らぬ併し軈ては其美しい結果が現れる事と信じて居る。こゝに智識と云ふたのは、勿論道德上の智識をも含んで居るので、一家の人々に對する態度も當を得、物質に關する智識をも充分に活用して、一家の經濟を整て行くと云ふ意味である


嬉しくも螢のかげのみえしかなさし忘れたる窓の簾より　（直好）

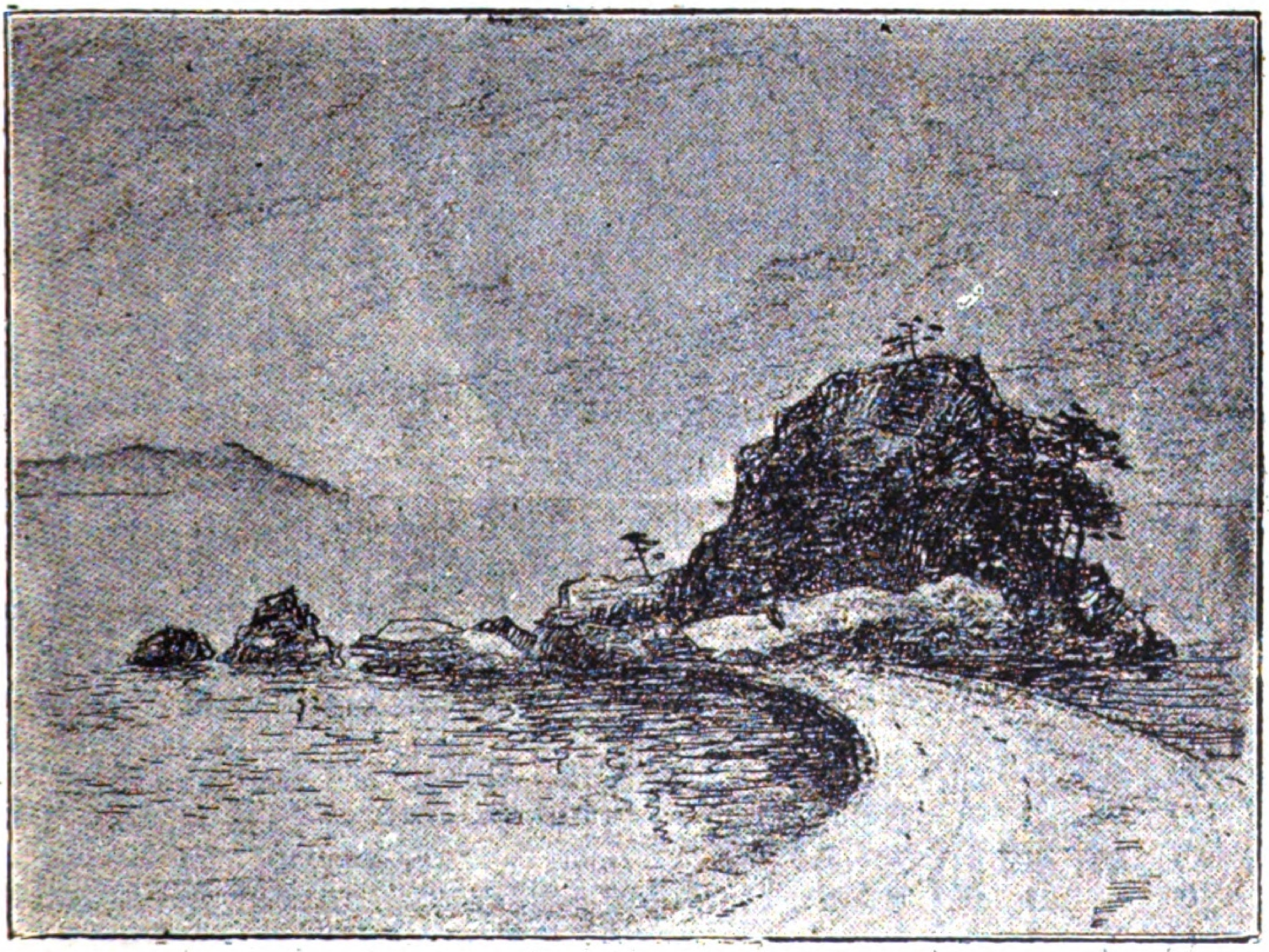
以上の三ケ條は敎育を受けたる婦人に於て當然現はる可き事實で、又餘程現はれて居る。健康の如きまだ十分と云へないものもあるが、それ等の點に就いても缺くる處のない樣に敎育の結果を完全に現はすのは、敎育を受けたる婦人の義務である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人は親切が第一

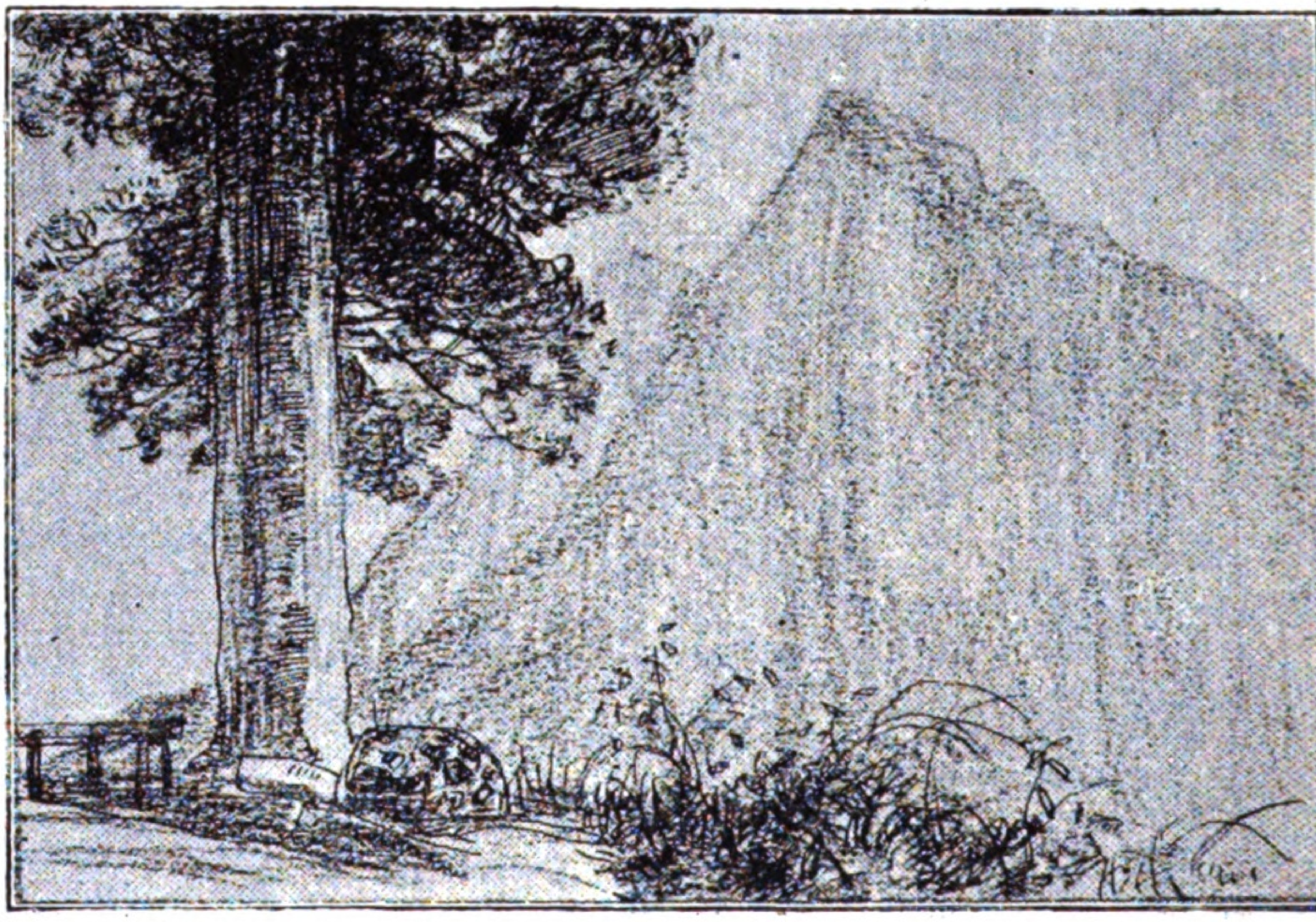
小川直子

凡人たる者は親切を旨として、萬づ慈善の心を押弘め、人に施す事こそあらまほしけれ。されど世のひとに、慈善の事業を勸めむとすれど、中にもさる慈善の行をせむにも、先づ我家のうちだに萬たらぬ事のみ多くして行屆かぬに、いかで世のため、人のために慈善の行ひを及ぼすべきといふ人のなきにしもあらねどさるものにあらず。假令おのれの金錢はなくとも、親切なる心を本として、萬に慈善の趣意をとらば、身のほど〳〵につけての慈善も、なし得らるゝものならんかし。例へばけはしき坂路をのぼらんとするに、老いたる人の重荷を負ひて行きなやむを見ば、徒に見過さで、おのれこれにかはり助むと思ひ、それ渡し給へ、運びてまゐらすべしと、眞心もていひ出なば、老人もいか許喜ぶらん。あるは盲目が杖つきて、たど〳〵と



淡路繪島が崎の晴嵐

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



妙義名所金鶏山の夏草

溝などある方に向ひて、危ふげに見えなば、それこちへとて手をとり、廣き道に導きたらむには盲目の心になどか嬉しとおもはざらん。又はおのれいとまありて靜けく月日を送る身にしあらば、他所人の多勢暮して幼き兒などあまたあるが、事繁くて、困じ居る家などあらむには、其家の衣服の裁縫何くれとなく心をつけて、親切に手傳ふべし。これのみならず、すべてさる心だにあらば、萬に慈善はなし得らるべし。若此心なき輩は、鳥獸にも劣れりといふべからん。獸すら親切なる慈善の行をせし物がたり有り。彼の三越は素より雪の名所なれば、年々冬に至れば、雪深き事たとへむ方なし。まして山々はおしなべて雪にうもるゝ習ひなるが、中にも越のしら山は、夏さへ雪の消やらぬを、ひととせの事ぞとよ。冬の末つ方、ある杣人が此白山に奥深うのぼりゆき　宮木引かんと分け入て、斧の音絶間なくいそしむ程に　ゆくりなくみ雪降り來て、見るがまに〳〵積りゆき、時の間に高々と積りたりとかや。此時此杣人如何せましと歎きつゝ　ためらふ程に

いづちより來りけむ、荒熊の大なるがしづ〳〵とあゆみ來て、此方に向ひたるが、いとおだやかに物いはまほしげなるおもゝちにて、打向ひたれば、杣人も心を鎭めて、眞心をあらはし、神佛を念じてありけるが、此熊やがておのれを導き顔に、雪ふみ分てあゆみ行けば、杣人あやしみながら、跡につきて行程に、熊の住める大なる洞あり。そこに至りて此熊の入りけるを見れば、奥の方に女熊にやあらん。うづくまりたるもあり、これをのぞきたれど、此女熊もかまむとする氣色もなければ、心おちゐて此あなに入りて休らひけるに熊また手をさし延て、掌を嘗めよといはむ許の風情なれば、杣人思ふ樣熊は食物を掌にすりつけ置て、冬の用意にすなりときゝにし事あり。試みに嘗めて見むとさし寄りて、嘗めけるに、たぐひなき味ひのしければ、しきりに嘗めたる程に、飢を助かりけりと。これより日毎〳〵に斯くしつゝ日を經る程に、年も暮果てやゝ春めき渡り、漸く峯のみ雪も融け初めゆき、かつ〳〵道もふみ分けてむと見えければ、いと嬉しうて、此熊に禮を述べ暇を告げて立出ければ、此熊先きだちしつゝ麓近見送りける事ありとなむ。實に信と信と感じ合ふ事は、かゝる獸すら人にかはる事なきにや、といぶかしがりて物がたれりとかや。さるからに人としてなどか獸には劣るべき。されば常々心の曇りを磨きつゝ、眞心もて萬に親切慈善の心こそあらまほしきはさなりけれと、思ふは靜けき窓の中にはや今年も暮なむするに、おのれの故里は、加賀國此白山の麓なれば今日此頃はさこそみ雪の積りゆき野も山も埋れ果たる冬ごもり、いかに心ぼそからめと思ひやりける折しもふと此事の思ひ出けるまゝに、例の教子達にかたり傳へむといさゝかものせしけり。

自分の申出候通りにならずとて、不快の顔つき又はブリ〳〵致し候事共甚しく夫の氣色に障り候ものに付きすべての事に此心付肝要と心得申べき事に候。且つ夫に對し一旦逆らひ候共、終には致し方なく候者故、寧ろ最初より順従致し候方、女の道にも適ひ、苦にも由なきうらみの念慮を起さず、兩全の道と心得申すべき事
（江川坦庵、新婦に與ふる書）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

藤娘



文藝協會試演『歌麿と北斎』坪内くに子扮裝

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭を樂しくする秘訣

鳩山春子

△主婦の修養を要する所以

家庭を樂しい場所とするにはたゞ朝から晩迄笑つて遊んで居れば可いかと云ふと決してそんな譯ではありません。一軒の家と云ふものはさう毎日遊んでなど居られるものではありません。家族は各自自分のなす可き業を勸めてその責任を盡し、義務を全うして行く其の中に立つて、主婦の細密なる注意が屆くか否かと云ふ事が、一家が樂しくもなり、不愉快な所ともなるので、そこが即ち主婦の修養を要する所であります。私は目下共立女子職業學校の家庭科を主宰して居りますが、生徒と親密になる爲めに、修身と家庭教育は私が直接受け持つて居りますがその時間に生徒に話します



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のは、娘時代に於て眞に修養をしなければならないと申す事で、固より私自身の樣になれとは申しません。私の若い時代には唯學問ばかりを詰め込む主義でありましたため、修養の方面はさつぱり出來ませんでした。それ故に誠に我儘で御座いまして、自分もその缺點を充分自覺して居ります程で、家庭の經驗はいろいろと經て參りましたが、それが完全だ、などとは決して思つて居りませんので、家庭科ではこんな缺點のない婦人を作つて見たいと考へて居ります。

△學科を勉强すべき時代

何と申しても若い時代は情の燃え易い時でありますから、戀愛などと云ふ事もあり勝ちですが、過度の戀愛は病的で、決して永續きのするものではありません。又無謀の婦人解放などの結果、家庭を組織せずして母となるなどは殊に恐る可き事で、健全な家庭からでなければ決して健全な國民は出來ません。されば修養のある主婦が健全な家庭を組織するのでなければ、



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

迚も立派な第二の國民などは得られません。

親子の情愛ほど神聖なものはないので、親が自分の子に對する愛情には、利慾の觀念などは一片も含まれて居りません。たゞ理窟なしに可愛いゝのです。我が子の行く末幸福なれかしと念じて、我が身を忘れて盡すのですから、元より惡からう筈はないのです、それ故に娘時代、親の世話になつて居る間はこの上もない氣樂な時で、學校へ行つて居るならば、學科を精出して勉強し、親の云ふなりに行つて居れば、それで宜しいので、學科がよく出來れば父母も喜び、教師からも賞められて一層可愛がられるのであります。この時代には努力した結果は、直ちに目の前に現はれて來るのですが、社會に出て新たに家庭に入つてからは、さう云ふ譯には行きません。時にはいくら骨を折つても、少しもそれが人から認められもしないし、賞めて與れるものもないし、時としては却つて反對に惡く云はれる事もないとは限りません。

△苦しい經驗を嘗める覺悟

併し自分の努力を人が認めない、賞めないと云ふて不平を起したり、努力してもつまらないと云ふ料簡を起したりするのは、餘りに大人氣ない事で、賞められるのをあてに、何かするのは子供の事で御座います。一家の主婦が家事を整頓させ、經濟を巧みに切り廻して行くと云ふのは人から賞められる爲ではないのでありますから、不平が起つたら靜かに人間の生れて來た意義を考へて御覽なさい。それが人間の生きて居る間の義務であると云ふ事を悟つたら、人が賞めやうが、嘲らうが、何でもない事ではありませんか。

娘時代には結婚と云ふ事、新家庭を作ると云ふ事はどんなにか樂しいやうに考へ、たゞ空想に憧がれて居りますが、實際はそんなものではありません。苦しい經驗を嘗める覺悟でなければ失望致します。骨の折れるのを覺悟し、どんな境遇にも滿足すると云ふ心で居りさへすれば、姑が如何に喧ましからうと、夫が我儘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

であらうと、辛抱のならない事はありません。向ふでいくら辛く當つても此方さへ眞心を以て親切を盡しましたならば、自然姑も夫も、自分の眞心が判かる樣になります。

すべて人間は不平を持たぬと云ふ事が何よりも幸福なので、殊に主婦として家庭を樂しくして行く上には是非共かうなければなりません。

△運は自ら開拓せよ



空高くのぼれば人のあふぐかな光りはおなじ螢なれども　（正風）

妻の幸福と云ふものは夫の地位や財産の多少によつて得られるとか得られないとか云ふのではありません。自分さへ滿足が出來れば、どんな地位でも境遇でも幸福なのであります。夫の地位が低く、財產が少ないからと云ふて不滿足な人はどんな境遇になつても到底不平の絕えない不幸な人間なのであります。主婦がその境遇に滿足せずしていつも不平な顏をして居りましたらば、それは主婦獨りの不幸ではなく、家族全體の不幸なので、從つて舅姑も機嫌が惡るし、夫も自然面白くないので、家庭は不調和不愉快の場處となります。隨て子供も完

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



蒸す夜さや蚊帳に幽靈風も來ず　（禾水）

全な教育が出來なくなります。

よく人が運不運と云ふ事を申しますが、運惡く自分よりも智識も人格も低い人を夫に持つたやうな場合にも、夫を輕蔑するやうな事なく、夫の足りないところを補つて、自分ある爲めに少しでも向上し、進歩させる事が出來たらば、自分の力が現はれたのであると思つて感謝し、又自分より智識も人格も優れた夫であつたなら、自身も益〻修養して、其妻たるに恥ない樣に心掛けねばなりません。

何れにしてもその境遇に滿足し、その境遇を善用すると云ふ事が肝要で、かうすれば運は自分で開拓する事が出來ます。かりにも夫の不足を云ひ、家內の者の缺點を云ひ立てるのは、家庭の圓滿を破る基であります。

△間違つた不平

それから又家を樂しくし、夫を慰めるのであると云ふて、自分が音樂が出來れば夫の趣味も考へずに、ピヤノを彈いて聞かせるとか、舞を舞つて見せるとか、又は種々の御馳走を作らへて食べさすとか、それも決して惡い事ではありますまいが人により又時と場合に依り、音樂は面白くないかも知れず、踊りにも興味がないかも知れません。又御馳走ばかり食べさせられても嬉しくないかも明りません。學者などなら餘り澤山に御馳走を食べさせられた爲に、身體を惡くして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

研究の妨げになると云ふ事もあるでせう。

處がそんな事には一向無頓着で、自分がこんなに上手に踊つて見せても、旦那樣は少しも喜ばれないとかこんなに美い聲で唄つても嬉しさうにもなさらないとか、又は折角骨を折つてお料理をして上げても、賞めもなさらないとか、或は私がこんなに丁寧に雜巾がけをして廊下をピカ〳〵させて座敷も整頓させて置くのに見ても下さらないとか云つて、不平をならべ、愚痴をこぼすのは間違つて居ります。若しも本當に好意を以て夫を慰めると云ふのならば、夫の趣味は勿論時と場合を考へて適宜に處置しなければなりません。



思ひだるき日を桐の花こぼれけり　（紅霞）

△境遇に滿足せよ

もう一つは、舅姑や夫の前で無暗によその家のよい處ばかりを話しするのも面白くありません。姑や夫はさも自分の處に不滿足で人の事ばかり羨んで居ると考へるでせう。或る家では嫁が絶えず自分の近所へ嫁いだ友達が仕合せだと云ふ事ばかり噂するので、姑や夫の機嫌を損じて定めて自分の家に不滿足なのであらう。そんな嫁は置いても駄目だと云つてとうとう離緣にしたと云ふ事もあります。又時として夫が不行跡な事でもあればそれは一つは夫の境遇にも依り一つは自分の不行き屆きから來た事と思つて、他をうらむやうな事はなく、まだしも自分がついて居るからこの位ですむ。自分あるが爲め子供も不幸に陷らない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自分の存在がどれ程か人によい響を與へて居ると云ふ風に考へて、困つたと云ふ樣は少しも見せないのが大切です。たとへ一家にどんな不意な事が出來しても、子息達になどは落膽した顏を見せないで、ます〳〵勇氣を與へてやると云ふ位にせねばなりません。

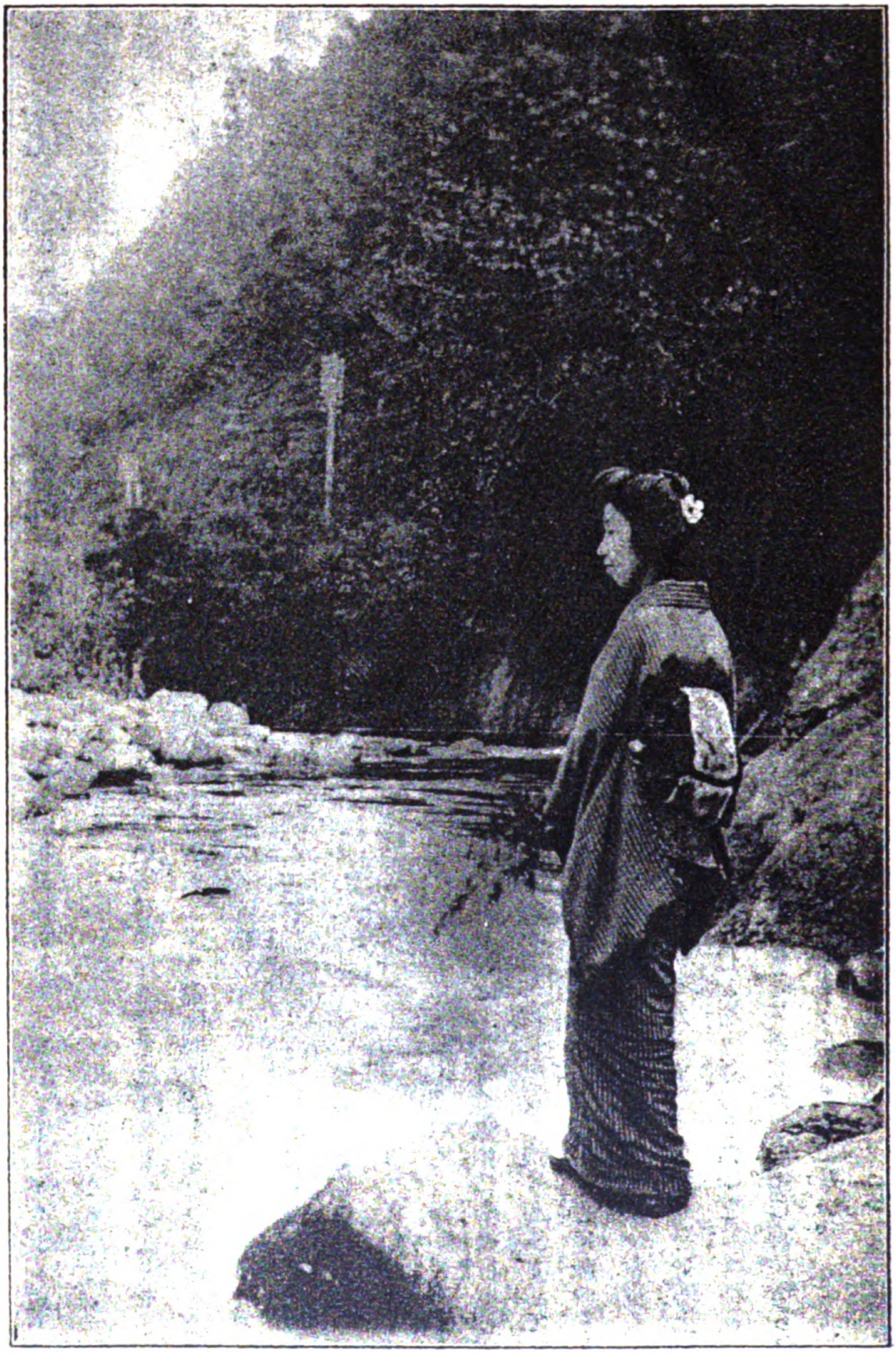
つまり如何なる場合にでも自分の境遇に滿足して奮鬪する事は、自分は幸福であると思つて居れば、いつも愉快な顏色で、接する人々にも愉快な感じを與へるものであります。けれどもたゞ愉快にして居るのが宜しいからと申して、夫の身の上に心配な事があり、又事業上に就いて苦心して居ると云ふのに同情もなく、唯自分ばかり面白さうに笑つて居るのでも困ります。そんな時には矢張り共々苦勞を分かつ覺悟でなければなりません。

家を樂しくして行く祕訣は、主婦が如何なる場合にも失望せず、その境遇に滿足して居ると云ふ事、即ち喜んで奮鬪する事で、かりそめにも家族の者の缺點を見ないと云ふ點にあると思ひます。但し滿足すると申しても、自分はもう偉い者だと云ふて安んじて、向上心迄もなくなして仕舞つては困ります。自分を修養し自分を研くと云ふ事は、生きて居る限り怠つてはならないのであります。

△眼の中へはいつた塵埃はどうする

塵埃がはいると痛いから、ついこするのでせうが、これは大きくいへば石ころを眼の中へいれておいて轉がすやうなものですから、眼瞼ははれて、痛みはいよいよまし、つひには眼を病ふやうなことにもなります。それゆゑ眼の中へ塵埃がはいつたら、成るべくこすらぬやうにして之をとりさり、後を水で冷やしておくにかぎります。もし往來で塵埃が眼にはいつたといふやうな場合には、やはりなるべくこすらぬやうにして、持合せの手拭かハンケチで眼をかくして醫者の所へゆく方が安全です。その中でも下眼瞼の中へはいつたのは、そこを引つくりかへせば誰れにでも容易にとりさることができるが、上眼瞼の中へはいつたのは、素人には一寸とりにくいから、尚更注意を要します。

藍染めて尚江の澄めり風薫る



長谷川時雨女史

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

花のまとゐ

雅子

空は霞に地は花に、風かぐはしい彌生の春の廿八日は一年に一度の校友會日。

お懐しい先生のみ面や戀しい友のおもかげを胸一ぱいにゑがきながら晝から出かける。

うらゝかな春の日ざしを青磁色のパラソルにうけて足もと輕いぬり下駄に氣も心もうきたつやう。學校の門を入つて左手の方へ曲るとそこにはもう上り口一ぱいの下駄、厚板や繻珍やビロードや、洗朱お納戸うす鼠はた緖の色のとり／＼入りみだれて目もあやに、その向ふ側には花のやうな洋傘持ち主のしのばるゝクリームや水色などが澤山並べられて、

たまり席をのぞくと今丁度午の休時間と見えてこゝかしこに三々伍々むれ集つて面白さうに談笑してゐらつしやるのが見える。

ふと自分の後でカラコロとやさしい下駄の音。ふり見返るとまア！！　花山さんだ今は久米中尉夫人、ニツコリ美しい歯なみを見せてほゝ笑み『しばらくでしたわね！』と久しぶりの御挨拶。『まアいつお歸りなすツて？』

『え、つい二三日前、もう年中行つたり來たりですわ。』

全くこの方よく度々御歸省あそばすこと、廣島にお住居だときくのに一年に何度も／＼ちよい／＼お歸りなさる。やつぱりお實家戀しさだらうか、でももう母樣になつた方だけれど……よく氣輕に御旅行あそばすとと感心する。學校時代にやよく浪さん浪さんて私達がからかつた君、すき通る樣な色白の面にかつきりと涼しい黒目がちの瞳、もゆる色の唇も黒いお髮も當年の俤をそのまゝながらたゞずつと奥樣らしい態度が備はつてそして少しはお肥り遊ばしたかと思はれる。昔蘭くんする運動場の片すみに夢見る樣に物案せられた昔の浪さんの面影はもうみるよしもない。

『上つてゆきませうよ。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二人してたまり席へ通る。ガラス越しにかげろふもゆる運動場をぢつと眺めていろんな感想にふけつてゐると幹事の若槻さんが、

『ようこそ』と丁重な御挨拶。

ア、私まだ會費をあげませんでしたよ、今さし上げませうか』

『えゝどうぞ』

會費だけさし出すと

『まア會費だけ？そりやアあんまりよ寄附をなさらないの。』

早速寄附の御請求。ぢやいくら寄附するの？』

『いくらでも』と笑ひ〳〵おつしやる。いくらか出すと手にとつて『たつたこれだけ』だつて、まア恐れ入つてしまふ。いくらでもと仰やつたその口で……『でもそりやア寄附する方が大がい察して下さるものよ』ですつてホヽヽ。

『まア、とにかく早く會場にいらつしやい今晝のお休ですからもうぢき始まるのよ○○さんも△△さんもお二階よ』

いはるゝまゝ長い廊下を通つて南の二階の階段を上る。

會場の入り口には委員の方數名お菓子を賣つてゐる。花山さんと二人で一袋づつ買ふ。

受けとる時どうしたはずみか袋の中からお饅頭が一



涼しさや松籟雨となる夕（鶴聲）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つコロ/\と床へころげ出したので大笑ひ。

會場は目のさめるやう、いつでもこゝの校友會は花のやうだ。ズラリと並んだ會員の方々いづれあやめとひきぞわづらふ美しい事ってこれはお話にならない位マダムとなられた方は多くは色さま/\の御紋付のお羽織藤鼠や黒ちりの間を令孃方の花やかな紋お召や小紋やが相映じて……思ひきつた大模樣の帯がどれも/\恰好よく。

一絲亂れぬ大丸髷に銀簪キラリと眞紅のてがら燃えたつ樣なわか奥樣もあれば、ローマやルイザに三吋幅のリボンもある。雜誌の口繪式の頭高の束髪も丸たぼも　中には蕉園さんの繪がぬけ出した樣な前髪の、思ひきり出た桃われもある。千紫萬紅とり/\に、美しいみんなの面には、晴れやかな笑がのぼつて樂しさうな物語つきぬ有樣。



白金もこ金もなにかおよぶべき夏は風こそ寶なりけれ

ずつと向ふの正面には、學校の紋うつたまん幕がひき渡され、その側にはまぶしいやうなピアノが一臺ピアノに隣つて大きいからかねの花瓶に、桃と櫻がさきこぼれてゐる。

右側は來賓席、左側は先生がた、ズラリと一列に……。何だかキマリが悪いので、入口でためらふ。と見る廊下の隅に、古ボケた毛布のかゝつた机がおかれてその上にいろ/\のものが乗つてる。足のとれた絃のくちたみすぼらしいお琴が一面「小督の琴」と札がついてる。そのすぐ側に『仲國の笛』とあるのを何だと思

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へばまア厭だ火吹竹よホヽヽヽ。

委員の南さんがいらして「仲國の笛が振つてませう」と仰しやる。蟬丸の琵琶もあつたみんなあやしい破けたものばかり。

「どこかへ行きませうだん／＼場がなくなりますよ」花山さんに促されて北側に腰かける。續々と皆さん被入る。私達の同級生はほんとに少ない。十人に足りない位だもの意外に思つたのは磯部さんの被入らないこと。

「ほんとにどうなすつたんでせうね、あの方なんか此地にいらしてそれにお樂なお身分だのに、なせいらつしやらないでせう？私なぞ子供まで置いて來てるのにホントニずゐぶん冷淡だわ」なんてソロ／＼怨み言が交はされる。

「まア南さんこゝに居て？今までいくら探したか知れないことよ。」

と委員二名南さんをなじる。



夏の風や秋にしつゝまらば戀しき人のつとにしてまし

「ホヽヽ、だつてね私餘興の處へ行つてさつきから見惚れてたのよ。でも面白いんですもの。」

「まアひどいわ、ちつとも用事しないで遊んで許り。」

南さん大分きめられて居る。

つゆ樣が坊ちやんつれて被入る　私を見るや「けふは貴女を怒りに來たのよ、人が手紙出しても返事もくれないで……許さない／＼つて恐ろしい御權幕だ。さうかと思へばモウ母樣ぶつて坊ちやんあやして被入る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

この方卒業當時は校友會で、私にお豆をぶつつけたり、狂歌をなげこんだり、ずゐぶん騒いだ方だつたけれど、流石に母樣となられた今、もうそんな他愛のない事は遊ばさなくなつた。

來賓席が滿員になる。いよ〳〵開會、校長さんが例の圓滿なお顔で開會の辭、急に靜まつて皆眞面目に拜聽する。終ると『校長さん此頃大分平民的になつたのね。』つて誰やらの惡口。

次はプログラムに四季の月（春）會員一同とある。もう私なんかあんな歌頭に殘ッてないわといふ方もあるピアノにつれて一同起立。

『何の事だ樣　も無いのにこの眞ッ晝間、四季の月でもあるまい。』と誰だかさゝやく。

さーきーにほふ
やーまのさくらのはーなのー上に
かーすーみていでし
はーるーのーよのーつーき

唱つてすむと來賓先生方のお話。昔の先生今の縣視學北村先生相變らず面白い事ばかり仰しやる。小學讀本の中の「笑」に贊成せられてのお話。

『この僅三尺に足りない腹を立てた處が、何ほどの効がある、もつと大きいものであつて立つた時には人を驚かすほどの腹であれば立てゝもよかろ』

なんて例の滑稽口調で仰しやるものだから、誰一人怒てる人もなく、皆ニコ〳〵笑つてばかり。滑稽の中にも眞理一貫してゐるのが嬉しい。

次は大山先生の落語、東京辯と京都辯の使ひわけ宛然たる講談師、いくら京都人が氣長いたつて、まさか喧嘩最中に相手のお辨當のお菜を問ふなんて人を馬鹿にしてるわ。

そろ〳〵お茶がくまれるお菓子が開かれる。『袋の中に札がはいつてましやう、すてない樣に』

と委員の方の御注意、なる程〳〵『橘』『おぼろ月』と書いた二枚の札が出る、おしまひの園遊會に入用ださうな。橘が蜜柑で朧月がお汁粉だつてセウちやんと云つて下さる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『埴生の宿』本科卒業生一同の三部合唱、

『はにふの宿もわが宿、玉のよそひ羨まじ……』

波やよせくる風やふきくる高きより低きに、消えんとしてまたおこる妙な歌の譜、さはやかなソプラノの間をぬふてアルトが重々しい響

『オーわが宿よたのしともたのもしや』

何といふいゝ曲、何といふ尊い歌の心ぞ!!　私大好き、かつさいの中に終る。



風かよう竹の林の夕すゝみ先ふしかならか物語りせえ（永好）

『母の思』

正面のまん幕がしぼられると浮き出たやうな活人畫で緋の衣きて美しい紫の袴つけた十五ばかりの元服姿弓を満月の如くひきしぼりつがへた矢を今や放たんと身がまへたその弓に片手をそへて片手に向ふを指して我子をはげます裲襠姿の母優にいさましい武家の昔がしのばれる。

『母の思は空にみち、ゆくへも知らず果もなしと暮の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中から靜にうたふ。何だか胸がせまつて涙がこぼれさうになる。

『十人十色』

委員の方十八人ばかりみな白い面をかぶつて並ぶ。手に〳〵墨ふくませた筆を持つて自分で自分の顏をゑがく。とんでもない所に目がついたり鼻ができたり口が鼻の横についたり片つ方の目が遙上にとび上つたりホヽヽそれはをかしい。滿足なのは一つもありはしない。

『羽衣』今崎先生と若槻さんの謠曲、土佐女學校先生の仕舞。たいお上品なものと拜見した。

『感謝』（複音 補習科卒業生一同。

『雨の日も風の日も安らかに守られつゝ……をさまるみ代の光をうけて



蹊のせに月や庭涼み　う山灌子

嬉しくもこゝを去らん……』

身にしむやうな歌、あゝうたふ人の感想は如何、かつて私達も味はつたおぼえのある卒業の心……嬉しさよりは名殘をしさが多かつた。

『六段合奏（お琴と一絃琴）

オヽきくさへ懷しいこの曲。指をればもう五年の昔となる。山中先生がヴアイオリンで　さんがオルガン私がお琴で樂しかつたあの合奏……先生は今樂紫の空でどんな朝夕おくらるる事か？

「今度の校友會には八千代獅子を合しませうと仰しやつた優しいお聲もまだきく樣だ。

同じ心の南さん『なつかしいわねえあの曲』つて私の手をとりながら。

他にいろ〳〵滑稽な催があつておしまひが園遊會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一同運動場へ下りたつ。

昔ながらの薔薇海棠うつる人の世をよそに春ごとに美しい其の色其の香ア、今は大阪にゐらつしやるかず樣と理想語つたはあの花蔭……思ひ出多いグラウンドそこにはもう間にあはせの机をテーブルとすゑてお腰かけもチャンと並べられてある。先生方はまん中に陣どつておいで遊ばす。私達はおそく來たのでもうどこも占領されてたゞ先生の向ふ側だけ空いてる。委員の方がどうぞおかけ下さいといふ。でも無いんですものつていへばあちらがすいてますよつて例の先生の向ふ側を指す。

『厭よ誰もゆきてのない所私達だつて厭にきまつてるわ』剛情ばると

『おや持つてきてあげませう』

氣の毒だけれどさうして頂く。

緋の襷かけて縮緬の裾さばき淑かなお給仕が忙しさう。蜜柑とお汁粉は例の札とひき替『アヽお腹がすいて仕方がないまだ何もたべないで働くばかしと南さんこぼし／＼お給仕してる。だから委員なんかになるものじやないのよ』また一しきりお話に花がさく。

同じクラスの某海軍士官夫人は今逗子で肺を病んでるとやらそれこそほんとの浪さんだなんて冗談どころじやないわお可哀さうに。

『あの朝子さんねもう赤ちやんができましたつて』西内さんが例の冷かな笑をみせ乍ら

『でも旦那樣がね閉口してゐらつしやるさうよ何故つて朝子さんがあまりせい澤でねいつかも三百圓の黄金鎖がほしいつてどうしても放さないので困つたつて旦那樣がこぼしてゐらしつたんですとホヽヽヽ』

積る談に興つきぬうち遂に閉會の時刻。

艶な盤花の姿夕暮の校門一時賑ふて『左樣なら』『さやうなら。

閨中の蚤千里の外に逸し去る　秋双

蓮咲くと覺ほし音聞く闇の中　禾水

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

七月

暑しとて呟やくは夏の涼しきを解せぬ人なり。打水の清々しき、行水のあとの浴衣の著心地よきは、晝の暑さのあとなればなり。團扇片手に晩涼を近郊に趁へば、夕月のほのかなる、露やどる草を渡る風、何れか涼しからぬものぞ。

夕涼み夕顔一ツ見付たり　麥林

日	月	火	水	木	金	土
7. 14. 21. 28.	1. 8. 15. 22. 29.	2. 9. 16. 23. 30.	3. 10. 17. 24. 31.	4. 11. 18. 25.	5. 12. 19. 26	6. 13. 20. 27.



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大隈伯爵家を始め其他の諸名家より多數御注文の榮を辱ふす以て本器が如何に優秀なるかを知られよ

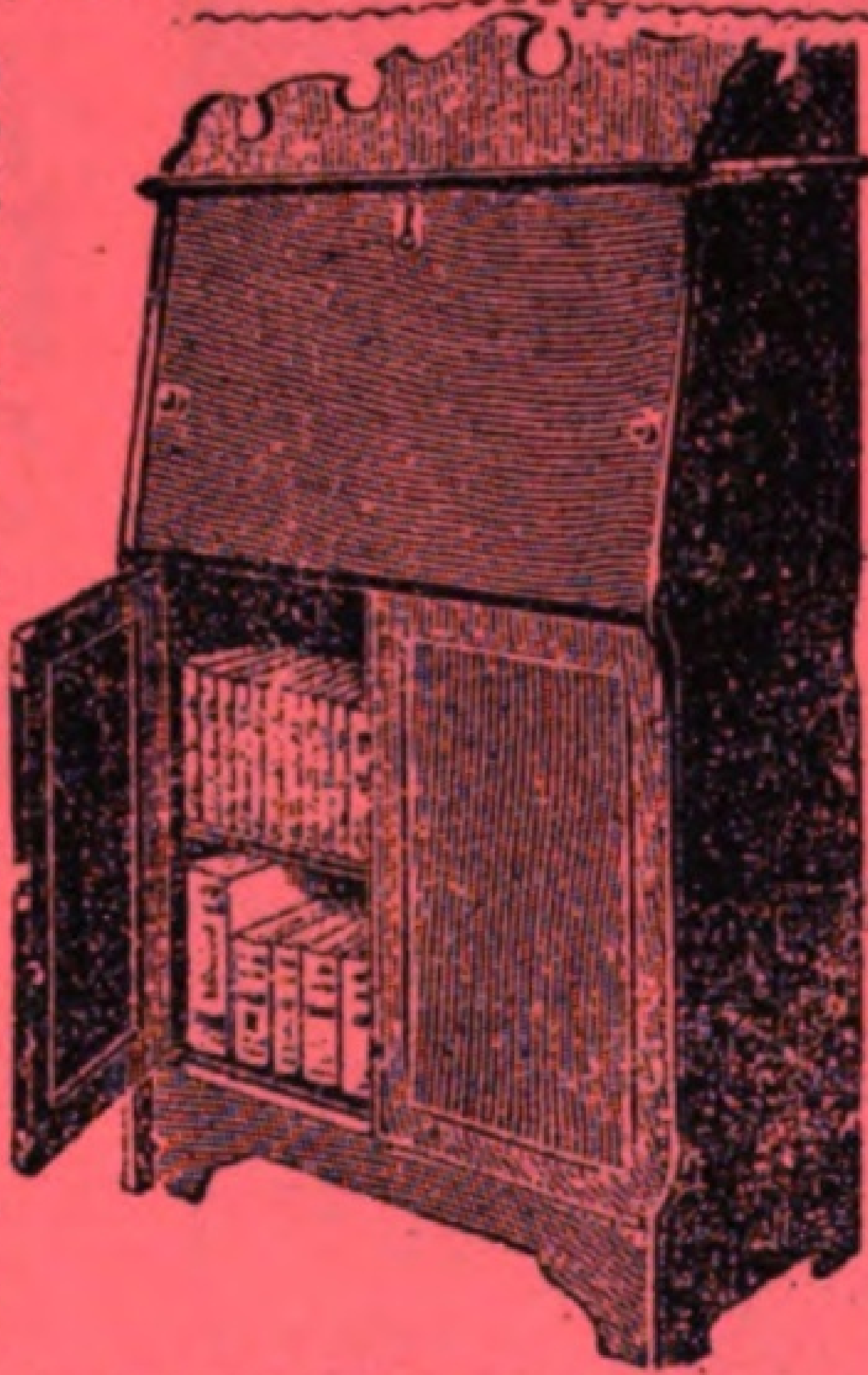


新橋堂式 **組合せ本箱**

●最新式最新形の本箱にして目下歐米諸國に大流行を極め居れり
●多數の優れたる特徵を有す其重なるもの即ち左の如し

△藏書の増減に從ひ自由に其大さを伸縮し得べし
△室内の構造に應じて適宜に配置し得べし
△書物を分類するに最も適當なる構造を有す
△形狀優雅色彩美麗しかも堅牢此上なし

金二十六圓 檜製
金二十八圓 欅製
金三十圓 櫻製
運賃荷造費御自辨



理想のデスク

●構造を示せる目錄は郵券二錢封入御申越次第進呈

事務用定價金廿五圓
書見用定價金廿二圓
荷造費各一圓八十錢 運賃は御自辨

●デスクの上部は事務用又は書見用に用ひられ下部は帳簿棚又は書棚に使用するやう構造されて居ります
●夫故日常必要の帳簿又は書物を最も手近に配置し得て便利此上もありません
●デスク使用後は机板を閉ぢて其大さを短縮する事が出來ます
●材料は兩デスク共檜です塗は木地色のデスク仕上げです

發賣元 東京市京橋區銀座大通新橋際 **新橋堂** 電話新橋千九百九十一番 振替貯金口座二百番

●家庭改良の最良指針!!!

村井弦齋先生著

増補註釈 食道樂

春夏秋冬 合本 定價金貳圓 郵稅拾八錢

◎本書には米料理百種、パン料理五拾種、病人料理百五拾種、日用食品分析表、食器食品價格表、料理心得の訓百種等の附錄あり

増補註釈 食道樂 續篇

春夏秋冬 分本 價各壹冊八拾錢 郵稅各冊拾貳錢

◎春の巻には野菜料理百種、夏の巻には果物料理百種、秋の巻には魚料理百種、冬の巻には肉料理百種の附錄あり

増補訂正 台所重宝記

全壹冊 和裝 定價金壹圓 郵稅拾貳錢

著者の自序に曰く此書の記事は盡く我家庭の實驗する所にして余は飽く迄も世人に適切ならん事を期すと

▲發行所 東京市麴町區有樂町（振替東京七三八番） 報知社出版部
▲發賣所 東京市銀座大通新橋際（振替東京二〇〇番） 新橋堂書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人之友

七月號

◉昔の女か今の女か（巻頭の大文字）……羽仁もと子

◉婦人と選擧……文學博士 三宅雪嶺

◉夏を涼しく暮す工夫……山脇房子

◉西洋の美人と日本の美人……鶴見左吉雄

◉中學時代の子供に就ての注意……増子喜一郎

◉下婢問題の研究……生江孝之

◉臺所のかたづけ方……加藤常子

◉夏の化粧と服裝……やす子

▲名畫に現はれし子供……倉橋惣三

▲文藝その月々……河井醉茗

▲ポンペイの最後の日……松本雲舟

▲蘆の湖畔の避暑生活……三宅やす子

▲樺山伯家の菜園を見る……柳子

▲夏座敷の飾り方……萬子

▲ダーリヤ栽培の樂み……鈴木英子

▲西洋風の庭園……北村金吾

▲子供の誕生日の祝ひ方……

▲驚くべき酒代……菊水

▲女中講話會聽聞記……葉末子

一冊金十八錢郵税一錢五厘 半年分郵税共一圓八錢

婦人之友社 東京市小石川雜司ヶ谷町 振替東京一一六〇〇番

女(わの二)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

名著キユオレの全譯

世界的名著と最近無比の美本

東京高等師範學校教授 岡倉由三郎先生序

德富蘆花先生は少年時代の懺悔を誌して本書の卷頭に序せられたり

師範學校教授 三浦修吾先生譯

情育小說

愛の學校

四六版總布綴
五百六十餘頁
三色版最美口繪臺紙貼付金模樣箱入美本
定價壹圓卅錢
小包料十二錢

杉浦非水畫伯裝幀及三色版口繪筆・萬代恒志畫伯畫

純にして汚れなき小學兒童の日記に擬したる教育的小說にして、可憐なる學童の眼に映じたる朋友、父母兄弟、家庭、學校、社會、祖國等繪の如く鮮かに描かれ而して到る處、愛溢れ情滿ち、獻身、犧牲、愛國の至情全篇を一貫す。何等の純情、何等の可憐、篇中一人の罪人なく一片の罪惡なく、而も一讀潸々として甘き涙・美しき涙、尊き涙、思ひやりの涙を絞り盡さずんば已まず。蘆花先生は曰く『宇宙は愛の學校である我等は小兒も大人も此處に學ばねばならぬ』と

最近無類の良書

以太利文部大臣は本書の二百版發行に際し『御著に由りて我國の美しさと人生の詩趣とを初めて味ふ事を覺えたる我國の年若き人々に代りて玆に御名譽と御勤勞とに對し熱誠なる祝辭を呈す』との祝電を原著者に贈られたり

女(ゐの三)

東京市京橋區中橋廣小路六　(振替貯金東京四一〇九番)　文榮閣書店

發兌

東京市麴町區飯田町六丁目十三　(振替貯金東京二〇七八九番)　春秋社書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

肉體色白新劑

本劑は近時佛國パリス貴紳淑女間に最新流行の發明劑にして生來色黑き男女にても平素之を用ゆれば本劑の主成分たる皮膚漂白性作用により漸次肉體**白色**となり肌を滑にし皺を伸しあれ及吹出物を治し**艶美**の容貌となる効果を有・世上種々雑多の色白藥を用ゐて奏効なき人は速に本劑特製分貳劑を試よ偉大なる奇効完全に顯る價並製壹劑壹圓廿錢特別製壹劑貳圓貳拾錢

色白飲藥

英國及墺國輸入二種の全身清血劑にて飲んで體內の惡血毒血惡液を體外に排泄し血液を清淨にし完全に肉色を**白色艶美**ならしむる奇効顯著藥なり價英國製壹劑貳圓九拾錢墺國製壹劑壹圓九拾錢双方併用せば偉大の奏効容易に顯る前金即刻送藥

腋臭必治劑（わきがひつじざい）

本劑は腋臭症に對し最近の學理と實驗とにより研究發見せられたる**斯病唯一**の理想的卓効新藥なれば他藥にて全癒せざる患者は早く試み病原を去り**苦惱を脫**せよ難重症は特別製を用ゆれば必ず全効を奏す藥價輕症用九拾錢重症用貳圓拾錢頑固慢性症用特別製分五圓卅錢小包密送

（奇効顯著）

…………

（最新發明藥）

あざ

及入墨 ほくろ そばかす。なまづ。いぼを美麗に除去すること**著効**ある新藥あり患部の大小輕重を問はず容易に治癒し假令顏面たりとも**痕跡**を殘さず除去し得らる但し其製劑を二種に區別し一はあざ。入墨。ほくろを除去し又一はそばかす。なまづ。いぼを除去するものとす故に注文者は各自除去せんと望む所の病名及患部の寸方を明記し申込あれば其症に適應する藥を撰定送付す價は各試用劑壹圓拾錢小劑參圓[illegible]錢中劑五圓拾錢大劑拾圓拾錢づゝにて郵券代用貳割增

月やく下し 通經劑

本劑は胃腸を害せず子宮を痛めず月經とまりたるに容易に**通經**す長き滯り及び血塊には特製分を用ゐよ極な全に快通**流經**す且つ月經不順より起る子宮病血の道を治癒し惡血古血を一掃す患者は早く試み偉大なる**特効**を知られよ近時無効類似偽藥多し御注意を乞ふ價は壹劑七拾錢貳劑壹圓廿錢參劑壹圓七拾錢特別製分貳圓卅錢郵券代用貳割增し

謝狀 拜啓愈ゝ御盛榮の段奉賀候さて御發賣の妙藥通經劑數年前愚妻に服用致させ候處御蔭を以て今日まで滯りなく身體も壯健に相成候段之れ實に貴館の御賜と存じ深く奉感謝候との謝狀を四十五年六月五日附にて寄送せしは岩手縣遠野町字一日市町佐々木萬吉氏也其の他如斯謝狀如山來り見よ示す

（奇効顯著藥）

毛生新藥（けはへしんやく）

本劑（藥名ヘアーグロース）は多年研究實驗の結果發見したる**毛髮發生藥**なり即ち男女共禿頭病の人各種の病氣にて脫毛する人頭髮及はえぎわの薄き人まゆげ口ひげの薄き人其他總て毛のあるべき所に毛なき人用ゆれば毛はえ早々と**發生する特効**あり本劑は世にありふれたる種々雑多の毛はへ藥とは其効大に異なるに付幸に玉瓦混同視することなく速に試み偉大なる奇効を知られよ價小瓶壹圓廿錢中瓶二圓卅錢特別製分五圓卅錢前金即刻送藥す郵券代用必ず二割增しの事

やせる藥

壹劑參圓廿錢貳劑六圓二十錢特製九圓拾錢

本劑（藥名ヨードチリン錠）は學理實驗に徵したる唯一の**瘦身劑**にて血ぶとり、酒ぶとり、あぶらぶとり。顏赤くほてり。のぼせ症、卒中症等總て肥滿實多血質脂肪過多質の人用ゐれば無害にして著しく體量を減じ脂肪を適度に脫し**美容健康**を保ち程よくやせる特効藥なり故に彼の見苦しくふとりたる諸君は速に本劑を用ゐ其偉大なる特效を知られよ

以上七藥專賣

東京市神田區五軒町十九番地

日新館藥房

電話下谷五百四拾六番

振替東京壹九貳四六番

女（ぬの圖）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

善と美とを併せ具へたる最も賑やかなる婦人雜誌

女子文壇

第八年第七號 七月一日發行 **特別號** 定價卅錢 送料二錢

◎誤られたる個人主義……早稻田大學教授 金子筑水

▲無名婦人傳（文士の妻。武士道の模範的貞婦。繼母の美談。七十九媼。不幸なる下女）

◎傳説の興味……文學士 高木敏雄

◎わが手に幻像……巴里にて 與謝野寛

◎山上の湖畔より……水野葉舟

◎晴雨二日間……近松秋江

◎なやましい風……兒玉花外

◎浴室の青葉……太田喜志子

◎見立祝ひ……前島優梨子

◎暴風の前……長曾我部菊子

◎祭禮……村井たへ子

▲北歐旅行 カドリン湖上に浮ぶ……花山院貴美子

▲文藝協會劇「マグダ」の印象……のり枝

▲十六歳の少女が丑の時參をした實話……▲虚榮の爲に二百圓の金持出した令孃の懺悔……▲女行商人……▲都下女學校花くらべ……▲ニコライ會堂の禮拜……▲ぬれ衣……▲廢兵院を訪ふ……▲歩きながら……▲お伊勢參り……▲比叡登山……▲奈良井河の畔

◎女性の發情期……大阪高等醫學教諭 田中祐吉

◎婦人は何んな心を持てゐるか（上）……澤田順次郎

◎英米二國人の眼に映じたる京都の女……加藤朝鳥

◎東京往來（上、山の手と下町）……外島浪之助

◎小町問答……澤田撫松

◎婦人に旅行を勸む……岡落葉

◎肉食と菜食の優劣……農學博士 澤村眞

東京市京橋大鋸町十二 女子文壇社出版（振替口座東京第一七二九番）取次販賣全國書店

女（めの五）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毛ぬき 新劑

従來脱毛劑の類頗多きも之が製劑の原料は洋の東西を通じて皮膚に有害にして惡臭を有する不利あり先年所主數種の脱毛劑を研究して皮膚に無害なる一新脱毛劑ヘールピンを發明せるに多數の實驗成功者を生じたり本劑は皮膚に害なく脱毛せしむる唯一の良劑なり毛深き人毛多くして苦む人達は速に本劑を試用せられよ

原名ヘールピン
定價 壹圓
特製 參圓
内地送料十五錢
海外 三十五錢

飲んで色白くなる藥

藥名ビオール錠
壹劑 壹圓
參劑半 參圓
内地送費十五錢

近來美白劑としては外用的化粧水の類頗る多きも其確效あるものなく色黒き人の種々なる藥劑に迷ふの時代は過去り日進の醫藥學は一日も休止する事なく美白劑の製法も已に一變し内服劑應用の時代となれり當所製藥の惡液排泄劑ビオール錠は極て强度の淸血劑にして一般惡血惡液性の人本劑を服用するときは血液を淸淨となし惡液を排泄して皮膚を艶麗美白ならしむる美白劑となりあらゆる賣藥に外用的化粧水を用ゆるも目的を達せざる人速に本劑を愛用して天賦の美白を保存せられよ

東京市牛込區
北山伏町壹番地

百合園製藥所

產科婦人科専門大醫 大和田宗順先生方劑
帝國大學藥學專攻藥劑士 玉應勝海謹製

月やく下し

二劑にてすぐ下る牛年以上のとまり又は**血塊**には特製へ服用せば快く下る子宮病血之道を治し血液を增加す

快月丸は子宮を痛めずいか程長き月經とまりも容易に**流下**す二三ヶ月滯りは一劑又は二劑合なり又

定價一劑六拾五錢 二劑壹圓貳拾錢 特製貳圓 送料各八錢

東京市小石川大塚辻町十七番地
天信堂藥局

はたけ……いんきん

不龜膏（ふきんかう）

田虫、鼻中のできもの

あたまのできもの、きりきず、やけど、しらくも、すりきず、ひつ、ひぜん其他の皮膚病一切に不思議の妙藥

藥 廿錢 五拾錢
價 一圓 送四錢

わきがの人に告

弊店主毎年夏期は腋臭に罹り種々な藥を持用するも曾て根治したる事なし故に斷念し更に藥化學を應用して新藥を發見し不龜藥と名命す他藥にて根治せざる人は一度不龜藥を試られよ………

送料共一劑金壹圓六十錢…………
別製貳劑金參圓五拾錢

東京麻布笄町五拾四
口座東京七八五〇番

宮崎藥店

女(ぬの六)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

貴婦人達はナゼ美しいでせう!!
▲其れはこの　にしてみがき立てるからであります

美顔と化粧法

定價送料共金三十七錢
切手代用は金四十錢

目次の大略▲色白くなる方法▲赤き顔を櫻色にする方法▲シワのよらぬ方法▲キメを細かにツヤを出す方法▲日にやけるを防ぐ方法▲齒を白くする方法▲手の色を白くする方法▲髮の毛を黒くする方法▲毛のぬけるを止める法▲毛をのばしつやを出す方法▲ふけを去る方法▲ちゞれ毛くせ毛赤毛を直す方法▲あるべき所に毛なきを生ずる方法▲やせる法ふとる法▲鼻を高くする方法▲聲をよくする方法▲入浴の方法▲化粧品の選び方▲おしろいのつけ方▲衣服の模樣と縞柄▲衣服の縫ひ方▲衣服の着方

此外いろ／＼の事が書いてありますが皆どなたにもすぐ出來る事ばかりで其效果も面白い程あらはれます。私方へ二錢切手十五枚又は一錢五厘切手廿枚御申越し下されば一千部限り特別に御分ち申上げませう

本書著者　東京神田錦町三ノ二　高柳孝子

●色白くなる

色黑き方、青き方、赤すぎる顔の御方は郵便切手二錢封入御手紙下さい、必ず色白く美しくなるよい藥を御知らせ致します、わけて日に燒けて黑くなつたなどはすぐ白くなります。皆樣に御實驗を願ひました所、澤山の御禮狀をいたゞいて居ります。

東京神田錦町三ノ二　高柳こう子

毛はえ藥の大王　ドンリ

本劑は毛髮專門家醫學博士リンド先生の苦心發明せし新藥にして未だ我國に廣く行はれずと雖毛生藥中効能最確實なるものにして他藥を用ひて無効失望せる者にもよく偉効を奏す。乞ふ安心して御用ひあれ。

本劑を患部に塗布する時は偉大なる効能を表はし皮下に至りて毛根を刺戟し以て毛髮の發育を旺盛にす婦人のはえぎわの惡しきを直し毛髮眉毛の薄きを濃くし、ぬけ毛を止め新毛を發するには並瓶を用ゐ、ハゲ無毛等には特瓶を使用せよ、完全なる毛髮を發生し其苦惱を去り幸福の身となるべし。此の如く藥効偉大なるも劇毒藥を含まず、皮膚を損せず、毛の發生すべき所なれば本藥にて發毛すべし御安心の上一日も早く此新藥を用ゐ蘇生の喜びを得よ●藥價送料共並瓶一圓十錢●特瓶二圓十錢●注意藥價の高きは世にありふれたる無効の藥品と相違し原料高價なればなり。

わきが

わきがの臭ひは他人には甚だしく同室に堪へず、故に甚だしく人に嫌はれ、交際上の親密を欠き立身出世の妨げともなる、故に一日も早く之を全治せしめざるべからず。本店發賣のワキガの妙藥は最近の學理と幾多の實驗とにより研究發見せられたる理想的新藥にして効能最も顯著なれば他藥にて無効の方も失望落膽する事なく速に本劑を用ゐて其苦惱を脱せよ●藥價送料共一圓十錢慢性用二圓十錢切手代用一割增

●やせ藥●

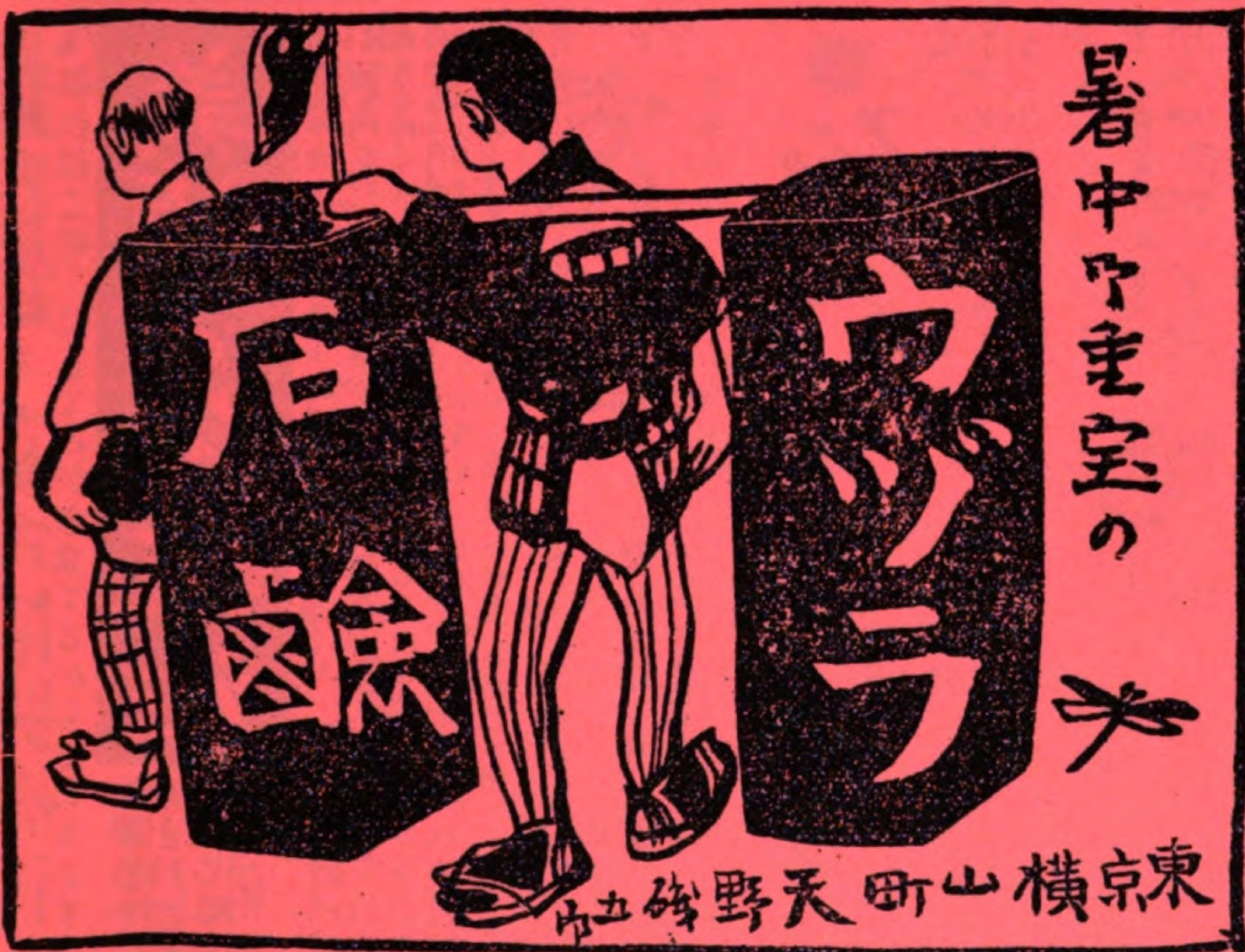


男にても女にてもでぶ／＼とふとりたる者は肥胖病といひ甚危險なる病症にて時に生命を失ふ事ありまして婦人の肥滿せるは殊に見苦しきもの故速に全治せしめざる可らず、郵券二錢封入申込の方には醫學博士筒井先生の學說肥滿病自宅療法及其良藥を詳報すこれによりて療養せば少しの害もなく程よくやせて速に美容強壯の身となららるべし。

東京神田錦町三丁目
電話本局四五六七番
振替東京八六四二番

東雲堂藥房

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



●わきが及皮膚病

女(ぬの八)

最も完全なる治療法

夫れわきがなるものは腋下の分泌液より一種不快なる惡臭を發する病症なり凡そ人として此病有時は全身常に惡臭を帶び殊に暖季より暑季に向ては惡臭一層甚だしく人をして近接に堪ざらしむる實に人間として恥づべき惡病なり又婦人の如きは外面如何に美なりと雖も此病有る時は人皆之をさけ應對談話するも快とせず故に良縁を妨ぐる等實に悲み憐むべき惡病なり然れども未だ是れらに確實なる良藥を認めず爲に當主其の患者に治癒の目的を達せしめんと西川醫學士と共に多年研究苦心の後ら茲に一大良劑を發見し數多患者をして實見するに偉大なる効力を有し愈々確實なる一新藥となれり依て同病者に弘く傳へん爲内務省に向て出願したるに常省に於ては本劑を試驗の上(第一六八一一九號)を以て官許せるものなり藥名清腋散と名く同病者は輕重に拘らず本劑にて完全なる治療をせらるべし又本劑はたむし、水むし、いんきん等の皮膚病は如何なる痼疾と雖も速に治癒す

藥價 五十錢、一圓、二圓、送料八錢
本舗へ代金を添御注文なれば直に送藥す

製劑本舗 東京神田錦町三丁目三 中村寶珠堂藥局

特約店 東京兩國公園前 吉田萬珠堂藥局

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



經驗と常識判斷

理學博士　丘淺次郎

△不思議な常識家

常識と云ふ言葉は今日非常に廣く用ゐられて居るがそれが大分間違つた意味に使はれて居る場合が多いやうである。いろんな事を澤山知つて居るとか、或は社會的の智識があるとかいふ程の事に解してゐるなどは其の例である。或る女學校では、又學生に常識の試驗をするとか云つて、東京府の知事は何と云ふ人だとか市長の名は何と云ふかなど〻云ふ問を發して、それに答の出來た者は常識ありとし、明らなかつた者をば常識がないと見做したとかといふ事を聞いてゐるが、これでは試驗をする人々の方に常識があるか何うかを試驗をしてやりたい位で、常識とは決してそんなものではない。其の眞の意味は經驗に基いて物事を判斷する力をいふのである。

△先輩と世人の經驗

この意味から云ふとこれは男にも女にも生活上最も大切な力である。殊に婦人には一層必要である。婦人は往々人の話を輕々しくその儘信ずると云ふ傾がある。衞生上生理上の事に關しても、自分の子が病氣である折などに、人が何處そこの子供も病氣であつたが何處の灸を据ゑたら直ぐ全快つたなど〻云へば、早速それを信じて、自分の子にもその灸を据ゑやうと考へる。何處の賣藥は大層よく利くと云へば、又それを飮ませやうとするなどの事があるが、かういふ場合には

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

よく常識で判斷しなければならぬ。勿論人の話にも夫れ〳〵據り所もあり、効能もあつたであらうが、人の身體は一人々々に同じではないし、又大人と小人とでは身體の質も異ふから或る人には利いても萬人に利くとは云はれないし、のみならず人々によつて智の程度も違ふから、或る人は利きもしないのに利いたと信じて話したかも知れぬから、人から珍らしい事を聞いたら、靜かに判斷して見て、信ずるに足るものは宜しいが、さもないものは取り上げないが宜しい。それを判斷するには常識が必要で、その經驗は自分自身のみではなく、先輩その他世間一般の人々の經驗をも斟酌すべきである。



△靜座法と常識判斷

ひろく世間を見渡して、例になる事を澤山集めれば、自然判斷の力が出來るわけだから人の話を聞いたら、それに似た話が外にも世間にあるか何うかを考へて、先づ知人朋友の間に例を求めるがいゝ例へば近頃のやうに靜座と云ふ事が方々に流行すると云ふならば、それは果してどんな人にでも適する健康法であるか、自分の知つて居る人の中を考へて、身體の強壯な人々は皆な靜座を行つたのであるか、靜座を行はなくとも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

健康な人もあるか等、種々の點から考へて、靜座を行つた方が宜しいとか、必ずしも行ふ必要はないとかきめるのである。又何と云ふ藥が利くと云ふ事を聞いても、他の藥で快つた人もあるし、又藥を飮ますに快くなつた者もあると云ふ風に例を集めると、人から變つた事を聞いても、直ぐそれをしやうと云ふ事はなくなるものである。即座に信じなくても、靜かに考へ、廣く例を集めてからでも遲くはないから、よく常識で判斷をして、その後に決行するがよい。常にはさほどでもないが、自分が病氣であるとか、又は家の人が病氣であつたりする時には、早くなほしたいと思ふ心から耳寄りな話を聞かせられるとつひ乘り易いものである。それが人間殊に婦人の弱點で、治らなくても元々だ、治ればそれに越した事はない、と云ふ半信半疑で行つて見るのであらうが、その爲めに取返しのつかぬことになることがある。

△新說と新發見の價値

生理上、衞生上の智識が、男子のみならず、婦人に殊に必要なのは云ふ迄もないが、これらも常識を土臺にして、新らしい說を聞いても輕々しく信じてはならぬ。醫學上の新說でも、生理學上の新發見でも、何年か經たなければその結果は明らぬもので、恐ろしく評判になつた事も、一年か二年の後に誤りであつた事が知れると云ふ事實もあるから、新聞などに出た新らしい說も、直ぐさま信ずる事は出來ぬ。それ等が皆々信ずるに足るものならば、社會の文明はまだ〳〵ずつと進んで居るべき筈で、腦味噌の詰めかへも出來れば、腸の洗濯も出來て、馬鹿だの、腑抜けだの、病人だのと云ふ言葉は既にこの世から跡を絕つて居るべきである。然るに多くの新發見や新說が日每に報道されるにも拘らず、それが社會に行はれないのを見ても、如何に信ずるに足らぬものが多いかゞ判る。故にかういふ事情に就ては少なくも半年一年は形勢を見る必要がある。其の中に消えるものは消えて仕舞ふて、反對に信ずるに足るものは一日々々其の聲價が高くなつて來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るものである。それを何でも、人がかう云つた、何にかう書いてあつたと云つてうつかり乘ると、非常な損をする事がある。この場合に常識のある婦人は必ずその判斷を待つてから事を行ふので、後悔せずに濟むのである。以上はたゞその一例を擧げたのに過ぎないがこれからの婦人は事に當つて迷はない、人の言葉をうかと信じないと云ふ判斷の力、即ち常識を養成したいものである。

中等肉の價値

英國は昔から牛肉を誇とした國で、アングロサクソンの強健と勇氣は全く牛肉に養はれたものと云はれてゐましたが、其の英國も人口の增殖と土地繁榮の結果として、今では外國から牛肉の供給を仰ぐ樣な事になつて來ました。英國の燒肉と云へば滋養に富んだ食物の代名詞になつてゐる位ですが、日本のすき燒もそれに劣らぬ滋養物の攝取法であります。けれども此處に注意したいのは、肉は鞍下や背のロースの上肉ばかりに滋養が多い譯ではなく、値の安い中等以下の肉にも十分滋養分のある事であります。唯料理法を知らぬと安い肉を美味く食る事が出來ないので、止むなく高價の上肉ばかりを用ふる事になります。米國では主婦が好んで上肉ばかりを調理して食卓に供へますので、上肉の値段は頗る高いに關はらず、他の肉は頗る安く得られます。佛國は料理の本場だけに、安い肉を美味く喰べる方法を知つてゐます。獨逸も肉の相場が高いので、安肉の料理法をよく心得てゐます。米國でも上流では獨逸邊から料理人を雇入れますから、その料理人は安い肉を美味く調理して主人に食させますが、料理人を雇ふ力のない人は料理法を知らない爲め却て高い肉を用ゐるので、上流の人は安い肉を食べ、下流の人は高い肉を食るといふ奇なる現象が起つて居ります。

牛肉は肉類の中で七面鳥に次いで消化の早いものであります。七面鳥は二時間三十分で消化し、牛肉の鹽煮は二時間四十分で消化致します。ビーフテーキに仕ますと三時間かゝります。消化の遲いのは豚の白赤肉で、これは五時間十五分かゝります。牛肉のすき燒は鹽煮よりも早く二時間三十分で消化致します。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



留學中のおとう樣へ　（寺澤幸太郎畫）

日常生活と趣味

東京美術學校長　正木直彥

人間が生後、飢ゑず凍えず、滯りなくその日〳〵を暮して命を終るだけならば、極く單純で殆んど蟲けらの境界と違はないから、生活を論ずる必要もないが、人間にはこれ以上の意味がなければなりません。人に依り光を遠く四方へ及ぼすやうな生活をするものもあり、死でから百年千年の後までも世に影響を及ぼすやうな立派な生活をするものもある。併しこんな特殊の生活は普通の人に當はめられぬので、一般にどうしたら人間の生活を充分にやつたものと云へるかと云ふことを考へて見たいと思ひます。

▲職業に對する趣味

人間の生活の中で主なるものは職業でありますが、士農工商上下の別なくそれ〴〵に自分の職業に趣味を持つて仕遂げるのが最も高尚な生活でせう。同じ職業でも趣味をもつてやれば、それが尊くなり、樂地はその中に得られて自然良い成績が上る次第です。例令ば畫家や音樂家が、天地の美と合體するの趣味を感じ、三昧の境に入りて藝術に從事すれば、必らず人を感動させ得るし、勞役を執る者もやはりこの心持でやれば決して平凡な生活でありません。朝に星を戴いて家を出で、夕に月に歩して歸る農夫も、自から穀物野菜の造主を以て任じ、自分の丹精で成熟した稻の葉末に、露結ぶ風情を、朝まだきに見廻る心地は、農夫獨特の快味であります。近頃往々都會の人が、紅塵の中に厘毛の利を爭ふ生活に飽て田園生活に憧れる傾があるのも、尤な次第です。勞役に從事する人が苦ばかりを數へ上れば、片時も堪えられまいが、一の趣味をもつてやれば、自分の業を助ける天惠を自覺するに違ひありません。商人は、社會の有無を通ずる貴き天職と云ふことを自覺して、人のために利益を料る工夫に趣味をもてば、樂しき生活を遂げられませう。何でも自分の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

職業を樂しと貴しと感ずることが出來さへすれば、それが高尚な生活です。この心持がなければ、何を選んでやつて見ても、直に倦が來て、あゝ詰らない、何々をやつた方がましだと、他の仕事を羨らやみ苦痛に一生を終ります。

▲道近きにあり

一家庭に於ても親子夫婦が、それぞれ己が身の上に應じた趣味をもつて、天職を貴いものと考へれば、忍耐も容易く出來るし、樂も湧いて來ます。かやうな家族の集りを平和な家庭と唱へ、かやうな人々の集つた社會を平和な社會



といふのです。道は近きにあり。大袈裟なことを論ずるに及びません。各々の頭の上に振りかゝる事柄に趣味さへもてば、必らず樂地を得られるのです。世にこの趣味を感せぬ人ほど不幸にして危險なものはありません。

▲五十年が百年に當る

讀書、旅行、庭造り、建築などの興味を感ずるについても、其間に大きな差があつて、讀書と云つても、卑猥、劣情の方面を好むものもあり道を尋ねて見ぬ世の人を友とする者や、到らぬ先の風

土文物を知らんとする者もある。遊戯にしても無邪氣で壯快なことを好むものもあれば、博奕の分子を家庭にいれて、子弟の前も憚からず樂しむ者もある。旅行も地理歴史の探究を目的にするものと、ぶら〳〵無意味に遊び廻る者とあります。又或事だけに趣味をもつて他の事は丸で解らぬ人と、どんなことにでも趣味を感ずる人とがありますが、高尚な方面に汎く趣味をもつ人は、その樂しみも莫大で、五十年の生涯も百年に當る幸ひな生活を遂げ得るのです。生活の長短は、生て居る年の數にあらずして、短かい生涯でも、立派な生活ならば、千載の後まで萬人を感化し得られます。先づかうまでゝなくつても、吾人は成るだけ意味ある生活を遂げたいものです。

▲趣味敎育

趣味を感ずるのは、天稟でもありませうが、大部分は修養にあります。眼があれば黒白が判り、耳があれば音の高低は判りますが、敎育された目と耳は、見やう聞やうが進つて、頭腦に入るものが高尚な趣味となるのです。この敎育は學校の机の上ばかりでは難しく自然の訓練に依らなければなりません。吾々が生立つ頃、我家の先祖傳來の書畫や器物を父母や祖父母が、折々取出して飾る時に、その由來を聞き乍ら實物を見ることや、交際する先輩からこの種の談を聞くと云ふやうな場合が重なつて、自然に感化を受ける。これが不言不語の敎育であります。高尚な趣味のある人の生立をよく探つて見れば、その家庭に言はず語らずの敎育法があつたことを發見するものです。日本の敎育はかう云ふ方面に不完全なところがあるのは、惜しいことゝ思ひます。

▲西洋諸國の趣味敎育

西洋では、學生がこれから高等敎育の生活に入らうと云ふ前、即ち普通敎育を終る時に、學校で、普通の歴史の他に、美術の歴史を授けますが、他日文學、美術の方面に進む學生には授けないで、男生ならば法律

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家や商人にならうと云ふやうな者、女子ならばそれぎり學校生活を廢して主婦となる目的の者を選んで、これを敎へるのです。かいつまんで云へば、美術は時代時代の文明の結晶であるが、我國にはこんな結構な物がある。作者はこんな人である、何故にこの製作品が左樣に結構であるか、と云ふ風なことを、一々實物を示して敎へます。但し實物を盡く學校へ具へるのは容易でないから、繪畫ならば寫眞版、彫刻ならば石膏にとつた模製を用ゐて說明するのです。それで學生達は我國にこれ〳〵の美術品、美術家ありと覺えて居るので、他日實物に接した際に、決して他人に遇つた心地はしない。敎師から聽いた物はこれかと一としほの興味をもつて見るのです。中等以上の女子は、嫁入り前の年頃になると、父母に連れられてお寺參りかた〳〵名所舊蹟を旅行する風習がありますが、羅馬の本山などに詣でゝ有名の繪畫彫刻を見る折に、學校で覺えた由緒を思ひ出して、高尚な趣味を感ずるのです。それで法律家、土木師、商人などになつた男子も娯樂の時には、文學、美術を主なる話題として高尚な交際を結ぶ便宜があるし、主婦となつた女子もこの方面の趣味を食卓の談話に用ゐて、人の陰口をきかぬと云ふ美風を作られるが、これは皆學校敎育の賜物であります。

▲日々の生活と修養

日本でも將來はどうにか方法を工夫して、一般の男女に高尚な趣味敎育を施したいものと思ひます。今のところ私共は卑猥、不潔、不整頓の空氣の中に生活して、高尚な趣味に接する機會が少い不幸な境涯にあるが、將來は、圖書館、博物館、公園、市街の景色、劇場の如き吾々に趣味を敎ゆる機關について、重立し人達が追々注意を拂はれたらば次第に理想的に近くことと思ひます。南葵文庫の開設されたことなどはこの先驅として祝賀すべきことであります。先以て差當り吾吾は銘々日々の生活の上で工夫して、男も女も天職と娯樂に高尚な趣味をもつことを心掛けたいものであります。

（南葵文庫講演）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

拾られし女より　小夜子

逝く春の日は麗かに、緑したゝらんばかりの若葉のほとり、一本匂ふ八重櫻の、艷容こそ捨てがたき風情、實にもゆかしく候を、御許樣には其後如何に御暮し遊ばし候や。御伺ひ申上候。すつろにあらで、捨てられし身に、今更の御音づれ異なる事よと思し召さんも、之には深き仔細の候ものを、過ぐる一日、無聊なるまゝ本箱など、整理致し候處、ふと目にふれし一束の文がらこそは過し日の深き思ひ出、御許樣の情の數々と、お懷しきまゝくり返し／＼、拜見致し候。捨し御身には用なきものとて、妾如き最早御心にもかけられず候はんも、捨られし身には仲々に、わすれもやらで明暮懷しき御身の上のみ心にかゝり、ねてもさめても夢現、如何に遊せしやらと、深く／＼打ち案じ居り候へば、かく目のあたりありし昔の情あふるゝ御文など、見參らせては只々御懷しさのあまり、ひしと計り胸にいだきて、しばしは泪にかきくれ申候。かくも睦しき御友垣むすび參らせしは、文の家にありし昔より、そも幾年花にうかるゝ春の日も、哀れにむせぶ秋の月も、互に手を取りかはしつゝ、嬉しき事も悲しき事も共に嬉び共に悲しみ、親はらからにさへ秘むべき大事も、互に語りなぐさめつゝ、幾千代變らぬ友垣よと姉妹のちぎりさへ、結びしものを如何なる惡魔の見入りしか、御許樣の御盛儀ありし其頃より、妾はふとせし風がもとにて胸の病になやむ樣に相成り候より、轉地致すべき由聞え上候ひき。思へば其時下されし御返文が終りにて、其より後は幾度御文參らせても梨のつぶての音沙汰なく、定めし情なき病氣を厭はせられての御仕打ちとこそ、御さつし申て時折の御便りもわざとさしひかへ申居り候ひしが、今かく目のあたり懷しき御文見參らせて、戀しき當時を追懷致し候ては、片時もわすれ參らせぬ、御許樣の一入に懷しく亦の御返文も如何かと、案じわずらひながらかくは御文參らせ候。つれなき君よと恨みもせで、ひたすら戀ひ參らする心のいぢらしと思し給はゞ、何卒前にもまして厚き御交りの程ねがひ上參らせ候。

もとより病になやむ身の、したしく行來いたさうなどゝは夢思ひはべらず、只文にての御交りのみもとの如くにと願ひ上參らするにて候。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「運命の人」に現はれたる怪しき女

生田蝶介

K子様。

月日は思はぬうちに過ぎてゆくものです。あの文藝協會の人々によつて有樂座に於て上場されたズウデルマンの『故郷』に現はれた悲しき運命のために廣き美しき世界より狹く冷たき世界に投げ込まれたる、美しき現代女性マグダを觀た感激の餘り、貴女に手紙を書き送つてから最早一と月になります。

その後、文藝協會の人々は何を爲ましたでせう。殊に『マグダ』に於て大成功ををさめた最も新しき女優の松井すま子さんは何をしたのでせう。これは最も貴女の聽かんとする問題の一つでせう。

K子様。

文藝協會の人々は六月六日より八日まで三日間、牛込余丁町の坪内博士のお邸にある文藝協會研究所の舞臺で英國の劇作家バアナアド、ショオの『運命の人』と題する脚本を上場したのです。

『運命の人』は長い一幕物です。そして登場の人物は佛軍の司令官ナポレオンと、その部下の少尉と、宿屋の亭主と、そして不思議な旅の貴婦人との四人です。ひどく氣のきいたものです。あのズウデルマンの『マグダ』のやうに人物の出し入れがゴチャ／＼しては居ません。

時は千九百七十六年の五月十二日、北伊太利のタヴッツアノ、ロデイからミランへ通ずる街道の出來事であります。そしてこの出來事はまだナポレオンが二十七歳の佛國の一司令官であつた時のことです。

K子様。

この『運命の人』の主人公たる其當時のナポレオンに就て今少し知りたいでせうから、私はこの作者たる皮肉なバアナアド、ショオの解説を一寸書いて見ませう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

午後の太陽はその沈んだ光をロムバルジーの野に投げかけ、且つアルプスの峰にも十分敬意を表してゐるといふのは必ずしも近所の村の牛や豚共が日向ぼつこに來てうるさいからといふ譯ではなく、そこに居る佛蘭西軍とか、墺太利軍とかいふいたづらな蟲けら共の二つの群がいやで堪らぬからである。二日前のことである、ロデイに於て墺軍は、そこの狹い橋梁に據つて佛軍の渡河を妨げやうと試みた。所が佛軍は、ナポレオン、ボナパルトといふ二十七歳の若者を大將にし、大將自身手傳つて、猛烈に砲火を浴せかけ、あびせかけ、火炎漲る橋梁の上を突進した。砲擊はこのナポレオンといふ男の専門で、舊政府の頃砲兵科の教育を受けて來た。從つて會計方を胡麻かして旅費を捲上げたり、戰争の繪に描いてあるやうに大砲の音や煙で脅かして、戰の景氣を付けたりなんぞして横著を極める類の戰術には十分熟達してゐる。それ所ぢやない。彼は地文學に精通し、時間と距離の計算に頗る發達した技能を持つてゐる。彼は宗教、勤王、愛國、すべてさういつた世間並の理想のやうなものを持たない。と云つて彼にこのやうな理想を抱く能力がないのぢやない。反對にこんな者は皆なとつくの昔、子供の時代に鵜呑みにして了つて、今日では生來鋭い戲曲的の天才を持つてゐるのを幸ひ、こんなものを種に使つて役者となり舞臺監督となつて上手な芝居を打つてゐるのである。而も



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一敢、彼は決して坊ちやんでは育たなかつた貧窮、薄命、錢もないのに苦しい遣繰をして見榮も張つた。怪しげな文士の眞似事もして度々失敗した。年期奉公に出てつまらぬ奴に侮辱もされた。職務を辱かしむる不正直な士官として譴責もされ罰則にも照らされた。

K子様。

これで少しは其當時のナポレオンがお判りになつたでせう。ショネは今少し皮肉を云つて居ます。

時はナポレオンはつい近頃大將になつたばかりである。それに一面女房を使つて督政官（當時政府の支配者）に取入り云々。と

兎に角「皇帝ナポレオン」以前のことなのです。タヴッツアノの小さな宿屋の一室。このナポレオンと、不思議なる旅の貴婦人との對話がこの劇中で一等の重大な所です。

K子様。

この不思議な女は作者自身が不思議な女と云つてゐる如く甚だ不思議な女です。その外觀だけでもお知らせするために、また作者の解說を云つて見ますと、

甚だ人好きのする。脊の高い、擧止の恐ろしく淑やかな、クリ〳〵と利發らしい、物の解りの早い、顔に品格のある、感じの鋭敏らしい、嫋やかな女らしくはあるが、決して弱々しくはない。すんなりした姿である。花模樣の服は腰を長く作つて後ろにワトウ風の襞がついてゐる。襟は低いがクリーム色の襟卷でつぎ足してゐる。金茶色の髮の毛に灰色の眼、美人である。

K子様。

その不思議な女の表情と、智識と大膽とは間諜として第一人者のみならず、女性の中でも最高の部に屬する人だつたのです。その女には男といふ男を欺すといふことはなんでもなかつたのです。殊に軍人といふ單純な男は倘更手玉に取りやすかつたのです。それでナポレオンの部下の少尉を安々と欺して軍用書類を取つたのです。そしてその女はナポレオンを欺すのもなんでもないと思つたのです。遂に肉薄して來たのです。恐ろしい運命はその不思議な婦人と共にナポレオンの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

身の周圍を取卷きました。この劇の問題はこの時から始まります。

この宿の一室で、この全智全能に近い女と、人力を超えた男とが、智慧のあるつたけを絞り、心をさぐり合ふのです。面白い對照ではありませんか。一等賢い階級に屬する女と、一等賢い階級に屬する男と、言を換へて言へば、男の代表者と女の代表者との智慧競べです。觀て居て胸が悸めきます。ハラハラします。

女は絶えず熱した態度が見えました。男は絶えず冷やかな態度が見えました。

女は表情で男の心をかき亂さうと思つてゐました。男は顏色一つ變へなかつたのです。

K子樣。

女が最も巧妙なる表情でナポレオンを欺さうとした時、ナポレオンは、

『はゝあ、あなたは私を御存じないと見える。さもなければ私のやうな人間に向つて泣眞似を爲るなんて餘計な面倒はお止めになつた方がいゝでせう。』と云ひました。かくて女の第一の企はいたましい失敗に終りました。

女は、他のすべての男をおどしつけた言葉を其儘、

『あなたは婦人を脅迫なさるのですか。』とナポレオンに食つてかゝつて見たのです。これまで他の男なれば一縮みになると思つてゐたのに、ナポレオンはブッキラボウに、

『左樣です。』と云つたまゝ、とう〳〵祕密書類をこのかしこい女から取りかへして了つた。

女は、始めのほどは何の高が男一人だと、これまで數限りない男を手玉に取つた腕で、ナポレオンと云つてもどれほどのことがあると高をくゝつてゐたので第一の企も、第二の企も、すつかりやぶれて、ナポレオンが世界の最もえらい人の部類に屬することが次第に知れてくるに隨ひ、ナポレオンの智慧と強さとに魅せられて來たのです。しかし賢い女は、今迄男といふ男に勝つてゐたのに、こゝでナポレオンに負けては取返しのつかない女の恥辱だと思つたから負けまい。負け

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

まいと悶えたり、あせつたりしました。

K子様。

これから不思議な女の態度がしどろもどろになつて來たのです。

女は次第にナポレオンに魅せられて行きます。自分が非常な使命を帶びて居ることも忘れて、女が魅せらるゝ量が增すに連れて、ナポレオンを取卷いてゐたおそろしい運命の影が次第に薄らいで、すべてが有利になつて行きます。

女がナポレオンに全くかなはないと悟つた時、ナポレオンを崇拜する情がきざして來た。それと同時に機嫌を取るやうな態度が女の表情に見えた。女の口をついて出るのは、

『男だつて女だつて、あなたにはほんの道具なんでせう。』といふ哀れな言葉であつたのです。

戶外には暗がせまりました。そして星が輝きそめたのです。

K子様。

遂に、不思議な女と、ナポレオンとは蠟燭の火を中に、平和な心に歸つた眼と眼を見合せて坐つてゐます。二人は最早敵ではありませんでせう。こゝに殘酷なる俘虜になるべき女は、優しき心の俘虜になつたでせう。

男と女との爭ひは永久につゞくものではありません。純なる情において妥協するものです。皮肉なショオは恐ろしき事實をあげてこれを證明してくれました。

K子様。

この不思議な旅の貴婦人を松井すま子さんが扮したのです。よく出來ました。

ナポレオンは土肥庸元さんでした。こんどはナポレオンが一等の出來でしたやうに思ひます。

何しても面白い芝居でした。

まだ書きたいけれど、あまりながくなるから止します。左様なら。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

繪物語　わかくさ草紙（上）

太田三郎

若い人と老人との爭鬪、それは丁度あの奔放な波と頑な岩とが、遠い昔から今になほ盡くる期も無く、衝ち合つて居るやうに、何時の世にでも免れ難い現象でありましやう。

中昔のことであります。按察の大納言と云ふ貴族の家庭に、少將と云ふ男の子と朝日と云ふ女の子と何れも劣らず美くしいのがありました。なほ他に一人、其子等には從弟に當つて、若草と云ふ之れ亦極めて艶かな女の子が其家に寄寓して居りました。これは大納言夫人の兄、前關白の子でありましたが、不幸にも早く其二親に分れて、便りの無い身を寄せて居たのであります。

で、三人は丁度同じやうな年頃の、毎時その小さい柔かい手を取り合つては、面無い千鳥に雛遊びに、小鳥のやう快活な愉快な幼ない日を送つて居りました。が、さうした樂しい春秋も幾度か重なつては、何れももう振分けの黒髮に艶を含ませて、何時と無く性の相違から感じ合ふ羞恥の念に、男は男、女は女と隔てを作るやうになりました。果てには廣い邸宅に住む昔



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



の貴族の慣しとして、其顔を見合す事さへ無くなつて了ひました。

する中、男の子の少將はもう十六の眉匂やかな春を迎へました。ずん〳〵と生殖を遂げて行く草木の、芳烈な色や匂ひに壓迫せられた少年の心は、不圖其前途に何か未だ經驗せぬ世界が有やうに感ぜられるやうになりました。と、どうしたのか幼い時の彼の若草の豐かな頰が頻りに思ひ出されてなりません。して其人の屋形のあたりが譯もなく懷しく床しく思はれるのでした。時にはぢつと其憧れのあたりに想を遣つて、知らず〳〵に若々しい瞳を濕す事などもあるのでした。

恁うした心の狀態は、春から夏に夏から秋に、段々と其度を強めて打續きました。而して日一日と其肉が整つて行くにつれ、絕えず氣が苛々として、もう一刻もぢつとしては居られないやうになるのでした。

ある日、それは初冬の雨のうら寂しい夕暮のこと、渠は突然妹の屋形を驚かしました。

「日每の雨で魂が腐つて了ふやうです。何か面白い草

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



子でも有つたならば。」
と恁うでしたけれど、勿論それはたゞほんの口實です。火のやうな瞳の輝きは、妹の朝日が種々と持ち出して見せる草子の上を滑つて、絶えず彼方の几帳の際に向ふのでありました。其處に彼の若草が今はもうすつかり女になつた艶めかしい體をやゝ斜めにして、柔かい頬に嬌羞の色をぽつと匂はせながら手習ひの筆を運ばして居たのであります。

敏捷な妹は直ぐ兄の心を推しました。で、その次の日、彼女は何氣なく興の深い草子を五六册選り出してそれを兄に齎すやう強て若草に勸めました。——内氣な處女は幾度か幾度か拒みましたけれど、毎時になく頑な朝日の言葉に負けて、小さい胸を絲薄のやう搖がせながら、ぶる〳〵と慄へる足を漸くにして恥しい人の屋形に向けました。

が、………終に其夜若草は朝日の許に歸つて來ませんでした。華やかな灯影に映る朝日の女らしい顏には、爲し得たやうな又擽つたいやうな笑ひが上りました。

其翌年、花橘の高い薫りがする頃には、もう二人の仲は包み切る譯にゆかなくなつて居りました。一重になつた夏衣に、女の體は形を異へて透けたのであります。

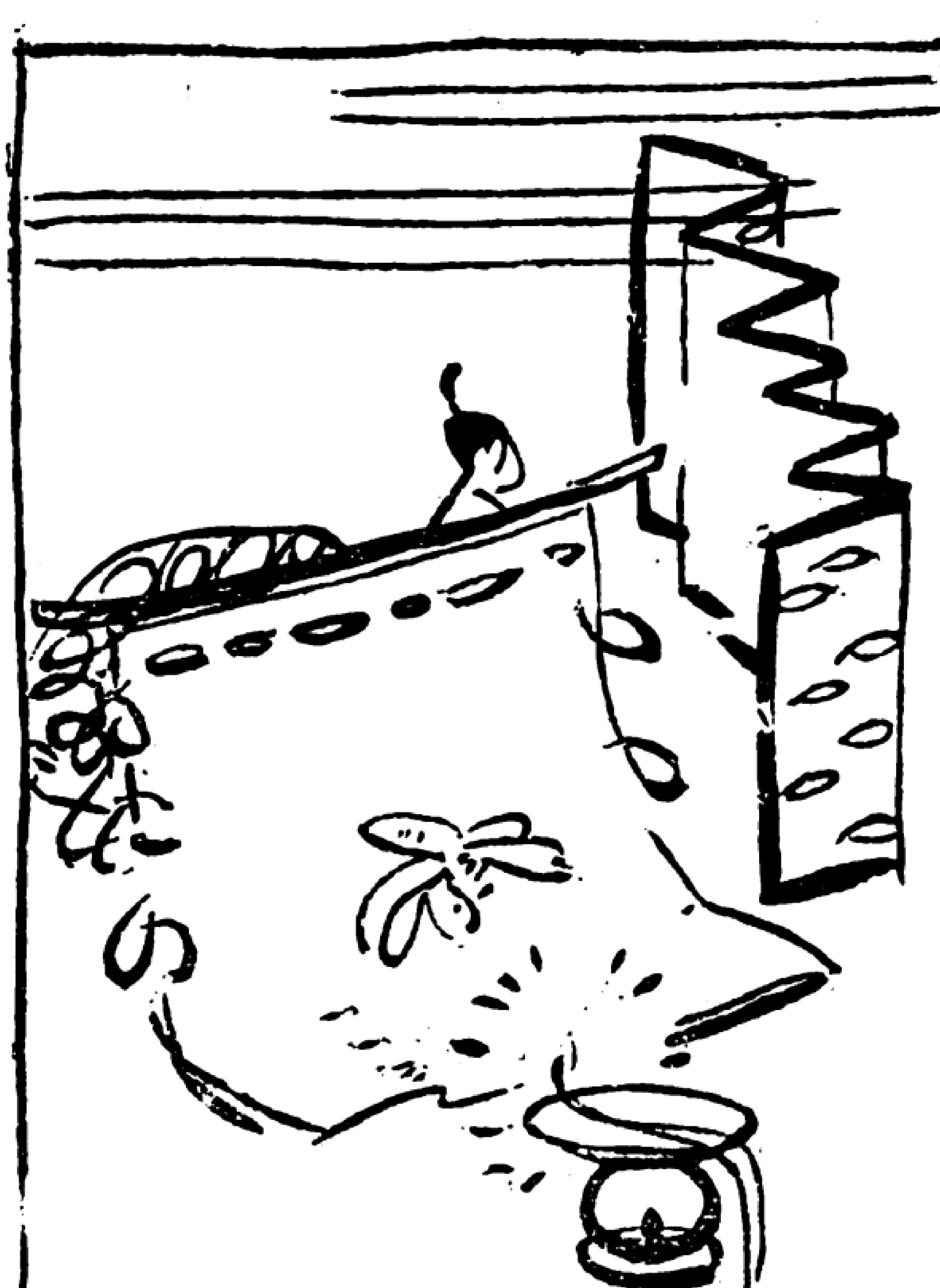
こはそも、と云つたやうな感じは乳母夫人その他近侍の人々の間に漂ひました。けれど若草とても元は關白の姫君、殊に夫人には血をひいた姪のこと、軈て驚

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

きを歡びにして、新に繕へた或る屋形に戀の男女を移しました。月滿ちて生れたのは照り榮える女の子。殿中は忽ち歡喜の聲に充ちました。

ところが玆に一人其喜びに同せぬ人がありました。他でも無い父の大納言です。一體渠は世の中によくある老人のやうな、社會的の地位に執着する念が非常に強い人で、其令孃をも、ならば女御にもと心掛けて居る程でしたからたつた一人の男の子が、人も有らうに便りの無い日蔭の者と契つたのが心外で堪らないのです玉のやうな初孫の顔を見るにつけても、若しこれが時めく人の婿となつての上だつたならば、と云つたやうな遺憾がまづ先に立つのでありました。

と、其頃三條西の洞院に左近の宰相と云ふ高貴な人がありました。妙齡の令孃を持つて頻りに適當な婿を求めて居るのでありましたが、不圖氣附いたのは按察大納言の息少將の上、勿論高い長い築地に圍まれた邸中の若草との祕密などは知らう筈もなく、或時禁中で丁度落ち會つた父の大納言に其事を議りました。すると父はもう二つ返事です。たゞこれ權勢に憧れる老人の心には、此場合若い人々の純潔な可憐な情緒を顧る餘裕など到底ありませんでした。



此無情な婚約は大納言の家庭を波立てずには置きません。夫人の柳眉は先づ動きました。たつた一人の男の子の唯何事も心任せにあらせたいのに、分けて結婚の事などは先づ其人の意志を尊重したいのに、然もこの度の擧は何事であらう。殊には彼の生木を剖くの悲

惨や、孤兒となる初孫の憫しさや、それを夫は以何に見る心持であらう。何事も宰相の子にならずとも、世に過ぎ侘ぶる境遇では無いものを。恁う思ひ迫つては、つい女の慎みも忘れられて、夜毎の凝議に我知らず高くなる怨嗟の聲は、時折簾を洩れるのでありました。けれど頑な老人が一旦斯うと決した心は、容易に飜るべくもありませんでした。する中にも先方からは、今日は明日はと目出度い其日を矢の催促です。終に父は一日少將を膝下に呼んで其事を話しました。『これも皆お前の爲』とか『行末の幸福』とか云ふ恁した場合の慣用語は、老功な父の口に依つて諄々と繰返されました。

さあ、少將の滿身の血は宛らの狂瀾怒濤です。咄、これも皆お前の爲?、僞にも亦甚だしい。愛人を奪ひ愛兒を奪ひ、而して思はぬ人と强て終生の苦樂を俱にせしめて、それで何が『これも皆お前の爲』であらう。一體父は誠に私を愛するのでは無くて、私の中に父自身の心を扶殖して、其扶殖した自身の心を愛するのだから私と云ふ人間とは永久に無關係だ。管々と說く幸福と云ふのも實は父自らの幸福なのだ。然も其利己の醜い慾情に美くしく假面させ、私の淸い心臟を犧牲にしてまでも其非望を遂行せやうとする。暴戾斯の如きが世に有らうか。



『父よ。貴方はさうして姻戚を權門に得て其處に自己の淺墓な虛榮心を滿足せやうとせられる。それも或は可なりでありましやう。併しそれは單に貴方の世

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

界ですよ。私には又私で自ら私の世界が有る事も忘れて頂きますまい。』

世間を知らぬ血の多い青年は、係うかつと一途に逆上して了ひました。果ては堪りかねた父の拳と飽くまで云ひ募る子の反抗と、あゝ花柔かに風靜かなるべき大宮人の家庭の、これは又何とした淺間しい圖でありましやう。



不憫なのは若草です。戀人の憤怒叔母の苦悶また叔父の不興、それも皆自分のいたづらが招いた事と小さい胸一つに罪を責めては、氣の弱い女のもう立つても居ても居られないのでした。加之、情に卽くか義理に卽くか。末の松山末かけた戀しい〳〵其人を奪はれては、更に生くべき甲斐が無いけれど、併し早うして親に別れた不幸の身に、此年月受けた叔父の恩もどうして忽せにせられましやう。當惑の胸はもうずた〳〵に切り苛まれる痛苦の、其上にも若し我親わが家が元の儘光榮を續けて世に在つたならば、係うした侘しい思ひはせずに濟んだものをと、現在の身を儚む味氣無さまでが交つて、薄倖の人は宛で涙に其身も漂ふばかりでありました。

が、義理の首枷は終に彼女をして痛ましい悲しい決心に向はせました。敢て大事の〳〵戀を棄てやうと云ふのです。男は容易に夫れを頷きません。渠は飽くまで自己の放恣な情焔を燃ゆるがまゝに燃えしめやうとするのでした。けれど愛人が身を碎き心を削るやうな苦しみから出した『あきらめ』の憫しい情を徒にする

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のも、これ亦渠にとつて大きな苦痛です。とう〳〵詮ん方無しに、では兎に角一先づ父の意を容れやうと云ふ事になりました。

かくて目出度い悲しい其日は軈て來ました。豫て期した事ながら別離の哀愁は今更に新らしい涙を二人の頬に添へて、幼ない人の無心の微笑みにも胸は愈々さし迫るばかり、ぢつと見合す寂しい瞳には、仕舞にいつそ涙さへ浮びませんでした。

父の屋形からはもう度々の使です。果ては『我身迎ひに行かうか』との鋭い言葉に、是非なく少將は悄然として立ち上りました。と、若草は其繪のやうな後姿を見るにつけても又戀しさの種です。折から襲ひ寄る夕暮の痛ましい蒼白色は、延上り〳〵見送る人の沈默の影にすゝり泣いて、つれなく姿を呑む牛車の其轍の軋りさへ、やがて段々と遠ざかつて行くのでありました。

引變へて宰相の家では夜を晝にした騷ぎです。花のやうな燈火は日の光よりも明るく部屋々々に輝き渡つて、出で入る人は宛で織る機の筬のやう。歡喜と榮光とは廣い〳〵邸宅の隅々までも充ち溢れるのでありましたけれど、少將の心は素より毫も浮き立ちません。新らしい父の優しい言葉、善美を盡した數々の引出物それ等もたゞ默然と面伏せたまゝ空しく聞き流し見流すのみでありました。――かくて其夜も漸く更け渡りました。對手の人も姿は立優つて麗はしい人、若し他に思ふ事の無い身であつたならば、どんなにか珍らしい嬉しい夜であつたでしやう。けれど心こゝに無い花婿は、たゞ憐れな若草の何時に慣はぬ獨寢の床に思ひを遣るのみで、添寢の人にはもの言ふ事もしませんでした。――する中、引き廻した屛風の裾に白う、曉の光はさし入りました。

――つゞく――

銑一反竿吹く風や百日紅　芙峰
小噴水小山水の金魚哉　溪郎
江村の水居御家の蚊遣哉　禾水

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

白百合



杉浦非水畫

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

賢き妻のかゞみ

佐々木侯爵母堂の事ども

侯爵佐々木行忠氏の母君勲三等貞子刀自は、故侯爵と共に内親王殿下御養育主任として高輪御殿に仕へ来り、常宮、周宮両殿下の御養育に勲功のありましたことは今更云ふまでもありませんが、去月二十日に七十五歳を一期として眠る如くに長逝なさいました。



四人目にお嫁入り

故高行侯は土佐の藩士で、家は、士格でありました。けれども非常に貧しかつたもので、それに父君は侯が胎内にあつた頃に亡くなられたやうな次第で、それに異腹の兄弟が多かつたものですから、少さい時には少なからず難儀をされたさうです。侯が家督を継がれたのは十六歳の時で、其時同時に妻を迎へられましたが、何分にも家が貧乏であつたものですから、居堪らないで、離縁を求められるやうなことで、それから来る妻も〳〵長くて半年、短いのは三ヶ月といふやうに三人まで出て了つたのでありましたけれども、侯は夙に大志を抱いて居られたこととてそんなことは何とも感じません却て妻子のあるのはうるさい位に思つて居られたさうですが、其中に又勧める人がありましたので、四人目に刀自を迎へることになつたのです。

刀自は土佐の安波郷の海岸で森の水主保岡久菜の女で佐々木家へ嫁入りされたのが十七歳の折ですが、其時には亡高美氏、今の加賀美夫人、藤井夫人などの継子がありました上に、前申しました如き貧窮で、食ふものも着るものもないやうな有様でありましたので、實家の親類一同は協議の上、刀自に早く離縁を求めて歸れと迫つたさうでしたが、刀自は何か信ずるところがあつたものと見えまして、それには應じませんでした。

佐々木の三文味噌

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其時分からして次第に國事が多端になり、侯は今日は長崎明日は京都、或は江戸と東西に奔走して、殆んど家に居る間などは無かつたのでしたが、刀自は侯に少しも後顧の憂ひなく、國事に奔走することが出來るやうに留守を治めて居られたのは誠に婦人の鑑とも申すべき次第で元より貧しい家のことゝて薪さへも買ふことが出來ませんから、刀自は毎日山に登つては落葉を搔き集めるなど一方ならぬ辛苦を味はゝれたのださうです。されば侯は晩年に此時のことを追懷されて、

薪こり水くみあげし　柄杓田の
　昔こひしき　ときもありけり

と詠まれて、若い方々の華美を好み贅澤に流れるのを誡しめられたことがあります。刀自は其外下駄の鼻緒などをくけましたり、又は捺繪を拵らへたりしては、それを町へ持出して商ひなどされたさうです。然るに當時の刀自の身なりが見すぼらしかつたので、町の小供等が寄つてたかつてワイ〳〵罵り騒ぎますから、侯はいつも後から大刀を横へて護して歩かれたといふことです。



又或時は味噌を買ふことも出來ず、僅か三文を持つて其糟を買つて來て間に合はせたことさへあつります、是は佐々木の三文味噌とて鄕黨の間に噂に殘つて居ります。斯程までに貧苦を忍んでも、夫を天下の名士にしやうと務めて居ります傍ら、自身にも馬に乘ること、槍術、薙刀等を學び、拳銃を擊つことなどは藩中の名人に數へられた程で、天晴れ武士の妻としての十分の素養がありました。

楠公にならびたまへ

慶應三年の秋、藩中で大政奉還の下相談があつた時侯は藩主容堂公の命を帶びて、由比猪助と一緒に、後藤象次郎と坂本龍馬が上京した跡を追かけて京都へ赴き薩長の間の停調に努めた時などは、留守を預つて居ります刀自は全く決死の覺悟でであつたさうで、其時刀自から侯へ贈りました手紙に、

『留守中の事などは少しも心配したまふな、如何やうの事ありとも命に代へて守るべし。志士一旦鄕關を出る以上、一家一身の事など思ふは愚かの極み、忠義は一に楠公にならびたまへかし』云々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と記し其の奥に

吾が背子が大和心をつくす世に
などてわが身のたゞにやむべき

と一首の和歌を添へてあつたといふのを見ましても、刀自の平生の覺悟の程が察せられます。

坂本龍馬の率ゆる海援隊の一人が、長崎で英國人を傷けた際に公使のパークスが大阪に乗り込んで談判を始めました。時の所司代板倉周防守は驚いて土州藩から代表者を呼び出しました時に侯は其折衝の任に當つたのでしたが、其留守中に藩中の浪士が侯の邸を圍んで暴行に及びましたのを刀自が國綱片手に玄關先に待受け、三人の子供にも皆短刀を與へて戸棚へ隠し、若し母が聲を立てたら其時に一同自害せよと言ひ含めたと申しますが、これなどは如何にも刀自の女丈夫たる面目が窺がはれます。

普阿彌の狂歌

ある人加賀の千代女が、海の中にも碁を打にけりといへるに付けたる句なりとて

しろまけて黒に目をもつ鰈かな

同じく「かまのしたにもふれつなぐなり、といへるに

すゝきたくそのおきなかにほの見えて

また、普阿彌といへる者のくちずさみとて、小さきものと題し「けし粒の中くりあけて堂立て一とまかこふて手習をせん。

髪すぢを千筋に分て面をとり其影にずる君ぞ戀しき

大きなものと題して「天は面、眼は日月、鼻は島、海山ともにわが身なりけり。

おし丸め虚空をぐつと呑ければ須彌も天地もさはらざりけり

長きものと題して「奥州の信夫の里にひる寢して足をえぞへと延しつるかな。

高きものと題し「大海を袴くりあげ渡るとき普阿彌があたま雲につかえん。

また何人の狂歌なるか、下手淨瑠璃をきゝて、五色によそえてよめる。

まだ青い素人淨瑠璃黒ろめんと赤き顔して黄なる聲出す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

我が家の整理法

山脇高等女學校長　山脇房子

私の家では何分互にせはしい身體でありますからあまり不都合のないやうに致したいとおもひ、初めはほんの私の心得ぐらゐに仕事の順序を定めたのですが、何時の間にか、それが山脇家の規律のやうになり、今では召使までも、能くそれを守つてをります。

△一週間の仕事の割り方

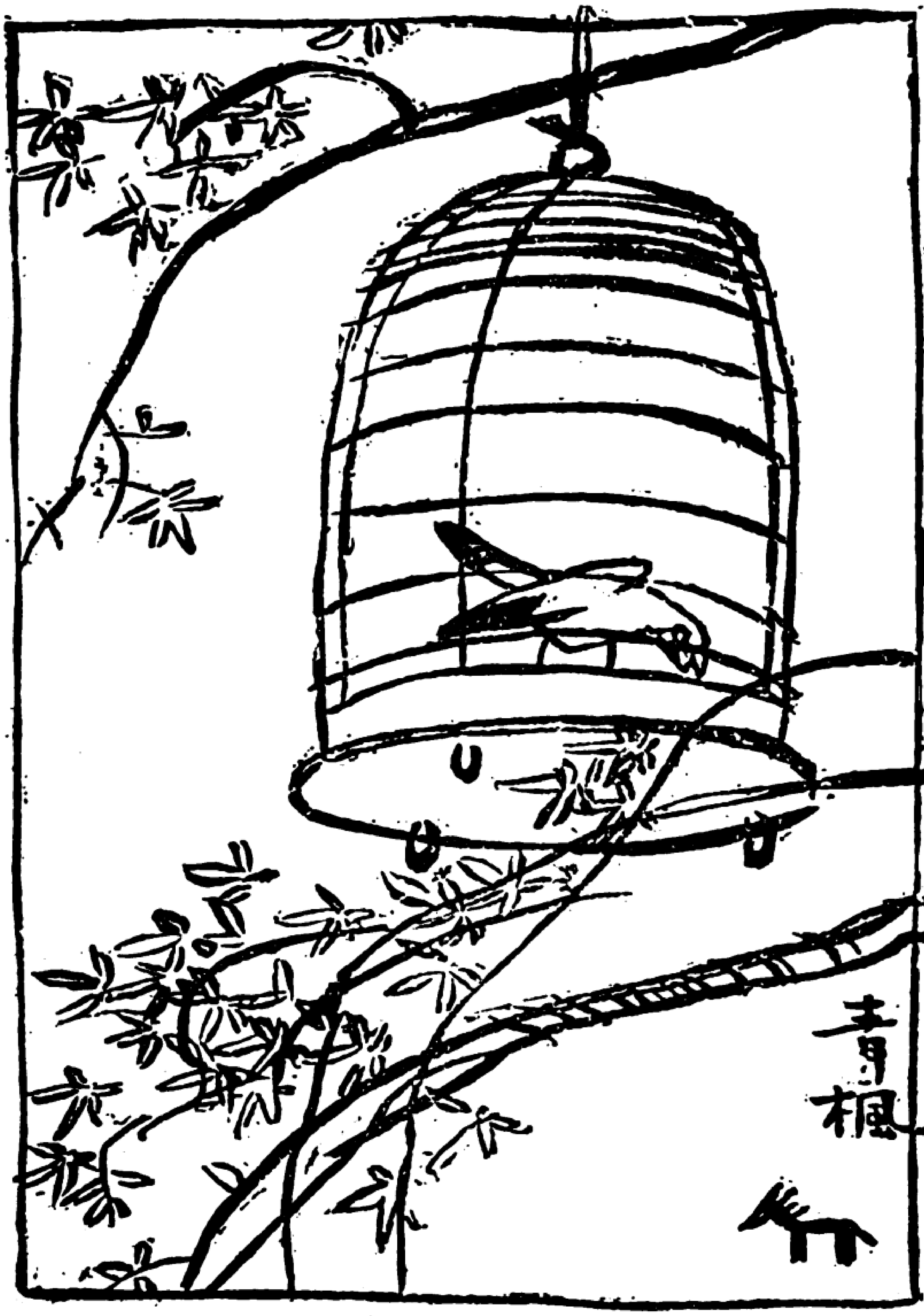
毎日五時半に床をはなれ、七時半までに朝の用事をかたづけます。その中ベッドや主人と私共の着物は自分で調へます。七時までに來狀をしらべ、返事のいるものは早速したゝめそれから新聞を見ます。午前九時に學校へまゐり、十二時まで授業をいたします。晝食を了へて、午後は月曜ならば、校内を見まはつたり、訪問に出たりしますし、火曜日ならば、婦人敎育會や、私共の世話をして居る小倉家を見まはりますし、水曜は、毎月第二と第四を愛國婦人會にまゐり、第一と第三とは自宅にをつて訪問客をうけたり、雜務をいたします。木曜は、卒業生の訪問を學校でうけ、午後三時から職員會にのぞみます。金曜は、愛國婦人會にまゐつたり、訪問したりいたし、また宅の各室の軸と置物とを取りかへます。土曜は、第一のは研究會、第二が「聖アンデー」會、東洋婦人會(夜は若菜會)第三が婦人敎育會、第四がウエストン氏の手藝會にまゐり、また毎土曜には活花を取りかへます。日曜は午前は敎會にまゐり、午後は天氣がよければ散歩に出たり、家に居ればなるべく賑はしくして暮します。それから毎日午後五時に湯に入り、午後六時に夜食をすませ、調べもの、記帳及び一日の會計をしらべたり、朝の殘りの書狀をしたゝめ、土曜の日は來週の献立書を見ることにして居ます。また一週間目に肌着をかへ、十五日三十日の二回髮をあらひ、二日、三日、五日は學校と東洋婦人會と婦人敎育會の會計をいたし、二十五日は、學

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

校の俸給を渡したり、諸拂をいたす日ですから、二十三日の夜、その準備をして俸給を袋に入れたりします。それから三十日に一家の諸拂をすまし、月末の決算をいたします。

△一年中の行事、の規律

次に年中行事を一寸申しますれば、孫が大勢でございますから月に一回は誰れかの誕生日にあたりますので、その日には祝物を送つたり、互に往復をいたし、私共夫婦の誕生日には、



それ〲親族やごく親しい方などまねき申して、心おきなく樂しく暮らします。それから公の大祭祝日、地久節、皇太子殿下誕生日、陸海軍の記念日、學校のいろ〲の儀式等には、それ〲心持をいたしますし年末年始はそれ〲用事が多く、暑中休暇中は、避暑などにまゐらないで書籍、書類、衣類諸器具の整理、家屋學校の修繕や手入をしたり、暑中見舞狀を出したり、學校を見まはつたり致すことにしてをります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其の外私の家では、男の子は男の子で、居間の掃除衣服の始末、靴の手當、其の他自分のことは自分でさせることにし、女の子はなほさら家庭の雜事まで手傳はせることにしてをります。私の學校でも、この事はやかましく申してをります。多くの家庭では、娘に對してこの習慣がないとみえて、學校で衣服や頭の始末するのさへできかねる様子ですから、自分のことは自分でなさい。髪を結つたり、袴をはいたり、辨當を入れたりすることは必ず自分でなさいと申してゐるので、一ケ月もたつと、自然とそれが改まります。

△召使と仕事の分擔

召使は四人用ゐて居ります。この四人は、いづれも家族の一員として、朝は五時に起きさせ、夜は十時に寢させ、仕事は細かく割あてゝ、おの〳〵責任をもたせて居ります。その一人は私の本當の補助者で、皆樣は私の秘書官だと申されて居りますが、手紙も書けば裁縫もする、私のすることは何でも致させまして、私の不在中は他の女中を取りしまり、すつかり家庭を整頓して不都合のないやうにして居ります。他の三人は仲働、小間使、御飯炊の三の役に割りあてゝおの〳〵職分を守らせてあります。一人の忙しいときには、他の者に補助させることはないでもありませんが、成るべく互に權利と義務とを重んじて、相犯させぬやうにして居ります。そしてだらしなく仕事を言付けたりしませんで、初めにちやんと細かに仕事を書いて渡して置いて、晝の間で大抵濟ませるやうにして居りますから、夜は自分の仕事が自由に出來るし晝の間も分擔の仕事さへすめば、他に何をしやうと干渉しないやうにして居ります。それゆゑ朝は女中より早く起き、夜は女中の寢たあとを見まはつたりしなくとも、よく責任を重んじて、樂んで仕事をいたすやうでございます。尙夜十時が過ぎてから、主人などが歸宅しなかつたら用事があれば下女の內一人を交代に起して置くことにして居ります。此のやうに女中にも相當の責任を持たせて使ひ方も相當に制限しておけば、仕事はかへつて

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

陟取り、また忠實につとめるやうでございます。

△我國の昔と西洋の家庭

西洋の家庭は、朝起きてから夜寢るまで、また一週間の内、一ケ月の間一ケ年の間をよく秩序は立て居ります。我が國でも維新前は、よく規律が立ち秩序があつて、家庭に多く餘裕があり温味があつたものでございます。今日の日本の家庭よりは、むかしの日本の家庭の方に、用事が尠かつたかと云へば、決してさうではありません。むかしは婦人は、毎朝良人をはじめ、一家の者の髮を結ふこともせねばならず、家中の洗濯も裁縫も引きうけ、味噌も造れば醬油も造る絲を紡ぎ機をおるなどの用事もあつて、なかなか骨の折れたものでございます。西洋の家庭にしても家屋の構造が違ふから、日本のやうに掃除や戸締りに骨が折れず、衣服も日本のやうに一一盥んで押をかけるなどの煩もなく床の揚卸もいたつて造作がなく、其の他裁縫や洗濯などは分業になつて居るから、家庭の仕事は閑なやうなものですが西洋婦人はたいてい何かの社會的事業に從事するか又は一定の職務を擔任して、少くとも一日の内



(越路の女)

の三時間以上を、此等のことに使つてゐるのです。それゆゑ日本の家庭を知れる西洋婦人は、日本婦人は比較的閑散であるのに何故忙しいのであらうと云つて居ります。また老つた日本婦人も、今日の家庭の閑散を羨んで居るのです。けれど今日の日本の家庭で、主婦は遊んで居るかと云ふにさうではない。朝から晩まで家庭の雜事に追はれて讀書も修養もそつち除けでございます。これは、今日の日本の家庭には、規律も秩序も整つて居ないからであります。

△整理と協同一致

一家の整理は、細かなことは家々に依つて定めねばなりませんが、一家族が下召使に至るまでそれ／＼仕事を分擔し、而も時間を正しうするのが一番大切でございます。そして仕事は早目／＼にして、臨時の用事を待つて居ると云ふ位でなければなりません。仕事を後にのばしたり、だらしなく我が儘をするやうでは、二六時中仕事があつて、何時も安心ができません。また一家の中で一人や二人が、善く時間をまもり、水車のやうに働いても、他の多くの人が怠けて居つては、やはり整理はむづかしうございませう。主婦だけは朝五時に起きても、子供は七時に起き、良人は八時九時に起きるといふ風では、七時にすむべき朝の用事も、九時十時になつてもまだ片付かず、さうかうする中に午餐の用意をせねばならぬと云ふやうになり、何時も暇がありません。また他家を訪問するのに、時を選ばずに出かけ、時候の挨拶やら、家族の安否やら、世間ばなし、身の上ばなし、さては衣服の良否などに一時間二時間を費し、もはや疲れたころに、本當の用事を話しだすやうでは、本人の悠長は論外ながら、主人側の迷惑が案ぜられます。それゆゑ一人丈氣を急いても、一般の婦人が心懸けねば、ほんとうの家庭の整理はできません。

薫風や鮎狩の記の書き起し　月波
薫風や銀沙に遊ぶ尾長鷄　禾水

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

白拍子の畫の所望

谷文晁が許に、年齢四十ばかりの比丘尼一人、黒羽二重の小袖の下に白無垢を着し、儀を述て來り、文晁に繪をかき給はれと請ひける。文晁外に出行かんとせし折といひ、ことにいづかたの人とも名乘らず、終に見知らざる人の申入たる事なれば、悴文一に頼まれよとて辭しけるに。尼申けるは、先生の高名なるを承りてこそ、態々參りしなり、何とてかく情なくはおはすぞとて頻りに望みけるゆゑ、さらばいか樣の繪を望まるゝ哉、と申ければ、白拍子の舞をと申す。しからば名高き靜御前が鎌倉八幡廻廊にて舞へる處をかと問返せば尼の云、いやとよ左樣の事には候はず、わらは事、むかしより此舞を殊の外好みて、舞し來の候得ば、わらはが舞へる處を描き給はれと申ける。扨は狂女ならめとて、家内の者迄、けうがることに思ひわらひ合て、ものゝ透間より我も〳〵とうかゞひみるに尼は自若として、いさゝかはづるけはひなきまゝに、見るものいよ〳〵狂女となし、をかしさに耐かねて、鼠の音は外にもれ聞る程なりける。文晁申けるは、そこの舞を好まるゝよしは聞ゆれども、其舞給ひし有樣を知られねば、筆するによしなし、一曲舞給はんやと、笑ながら云ければ、尼云、しからば舞候はんが、されど年久しく舞ざれば、いかで見給ふ程のことはあるまじけれど、舞はねば望み叶はず。されど坊主あたまの丸きもをかしければ、手拭にて包み候べし。あふぎ一本かし給れとてかしらをつゝみ、あふぎをこひて、床の間の正面に居直りて、扇をば右のわきにおきたり。新きあふぎを出しけるが、ひらき見もせず、衣紋かいつくらひ、身のかためなどするを見て、あたりは笑をのみて袖を口におしあてゝ、見やりたりし處に、頓て一曲の唄を謡ひけるが、其妙音中々申もおろかなるにぞ。人々はじめて狂女にてはなかりけるよと、耳をそばだて、目もはなさで守り居たる處、程なく扇を取てすつくと立、颯と扇を開きたるが、扇は十分にひらけ。ことに颯と音立たる扇のおと、よのつれの人いかによく開きたりとも、かゝる有樣にはあらざる迄、是ばかりもよき見物也と、大に感じ合ひけり。扨立あがりて、唄ひながらに舞かなでしさま、扇の手といひ、聲といひ、節といひ、舞といひ、いづれか耳目を駭かさゞるはなし。しばらくして舞終りけるが、かの天つかぜ、雲のかよひ路吹とぢよ、と謡るごとく、今ひとさしを望ぬは無かりける。文晁眞に感心して、頓に筆とりて畫きあたへしかば、謝儀として、しろかねをおくり住居名をば堅く申さで、厚く禮を述べてかへりしと也。思ふに四國九州には、白拍子の猶ほのこりと聞ければ、彼地を領し給へる、諸侯の妾などの年老たる者にや、いづれにもあれ、しら拍子の舞の樣子、はじめて見たりとて、人々喜びしとなり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

野花に現はれたる情調

白柳秀湖

庭下駄の下の酸漿草

大分暑くなつた。人の家を訪ねると、主人よりも先づ團扇が顏を出す。それを手に執つて、表のコッテリとした彩色畫を見る。それからヒヨイと持ちかへて、裏を見る。其處には型のやうに瀟洒とした墨繪が畫いてある。

墨繪といふた處で、それも極りきつた筆で極り切つた題材が取り扱つてある。蛇籠の傍に咲いた河原なでしこであるとか、露に伏した萩の花であるとか、隅から隅へわたる葛の葉であるとか、藝人の團扇などであつて見ると、酸漿草に小さい蝶の飛んで居る處、澤瀉に蜻蛉などがよく畫いてある。

小學校の毛筆畫のお手本に毛の生えたやうなものである。落款こそいかめしいが、何處の誰の內職やら、思ふに得意の境涯にある畫家のすさみではあるまい。と、恁う輕蔑の眼を以て見て行くと、何處までも詰らない。

けれども氣を變へてそれを見る。面白い。なでしこの花は飽くまでもなでしこの花である。萩の枝の伏した風情などは何處までもその花の趣を寫して居る。酸漿草、如何にもよく出來て居る。路傍に咲いて何人にも見かへられたことのない可憐な草花、お孃さんや、坊ちやんはお庭の酸漿草が咲いて居ても恐らくは知るまい。ドシドシ庭下駄で踏んでしまふ花、その花の風情を誰が寫生したものやら、地を這ふて居る工合といひ花の色といひ、葉の趣といひ、如何にも精細に觀察してある。

精細なる觀察が、極めて粗つぽい筆でサッと畫き流してある。當節の人の口吻を眞似ていへば印象的である。それが如何にも面白い。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

國民特有の趣味性

更に深く考へて見る。

若しこゝに一人の西洋人があつて、團扇の裏繪に大そう感心したとする。例へばなでしこの花、野生のまゝの風情その節々が如何にも生きてゐる。この粗ぽい筆でよくこれだけの情調が出たものである。私も一つ墨繪といふものをやつて見たいと思つても却々それが出來ない。其異人さんが、たとへば油繪の大家であつたとしても、一生懸命で研究した結果が却々日本の團扇の裏繪かきにも及ないのである。玆に於てか私達は、國民の趣味性といふことに考へ及ばざるを得ない。



日本人が草花の情調を尙ぶといふことは、實によく發達したものである日本人の情調を重んずるの餘り、色彩といふことには、從來盲目であつた。其かはり草花の情調といふことには、西洋人などが、到底思ひも及ばぬ程複雜に發達して居るのである。

國民特殊の趣味性である。長い間、日本民族が蓄積して來た趣味、それが繪畫の上に現はれたものである。日本の繪畫史を作る人が、墨繪を以て單に支那傳來の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

美術としてのみ説明するならば、それは甚だしい手落ちである。日本人が自然の情調を尙ぶ趣味といふものは實に驚くべき發達を遂げたものである。團扇の裏繪は取るに足らぬ詰らないものであらう。けれども、其處に容易に他の摸倣を許さゞる日本の國民性が現はれて居ると思ふと、流石に捨て難い心地がする。

あるか無きかの花の風情

日本人は秋の七草、春の七草といふて、繪にもかき歌にも詠む。然らば日本人が數ある草花の中で如何なるものを選んだかといふに、それは悉く情調を標準としたものである。

若し秋の七草、春の七草を、色彩といふもの丶上から見るならば、皆ゼロである。色彩としてはあるかなきかの花である。

春の七草といふのは芹、薺、五行、蘩蔞、佛座、菘蘿蔔である。

芹、薺はよく似たものである。薺は子供がペンペン草といふ。花は白くして小さく、あるかなきかの風情であるが、日本人は其姿をうれしがるのである。全體の情調を尙ぶのである。私は或る西洋料理屋の二階から、隣の屋根に生えたペンペン草を見て、沁々おもしろいと思つたことがある。花がさいて行くと、下の方から三味線のバチのやうな實が出來て、行く春と共にそれが段々小さくかすかになつて、夏のはじめに枯れて仕舞ふ。『夏なし草』なづなといふ名が其處に起た。

五行は所謂はゝこ草で、ハコベはそれよりもなほはかない花である。

菘は唐菜、即ち油菜のことで、菜種の花といふた方がよく判る。これも大した花ではない。『菜園十里』などゝいふて、菜種の花が地平線と接觸して居る『菜の花や月は東に日は西に』といふたやうな雄大なけしきよりも、日本人は寧ろ菜種の花を菜種の花として喜び得るのである。

洗ひ場の水に捨てられた菜種の根に春が來て、かりそめの花が咲く、それを何處からともなく蝶が慕つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

來るといふやうな趣味を喜ぶのである。すゝしろは大根の花である。これも澤山咲くから美しいといふて喜ぶのではない。日本人としては寧ろ一本咲の風情をとるのである。春の暮れなんとして菜の花もさまり、靑麥の穗に葉櫻の毛蟲を燒く煙の這ふ夕、畑の隅にとりのこされた二三本の大根の花、茫々蒼々の中に白く見える。そんな處を喜ぶのである。

情調ばかりの秋の七草

秋の七草はいろ〳〵に數へる。普通は萩、尾花、葛撫子、女郎花、藤袴、桔梗をいふ。此内あるものを除いてかる萓、我亦紅などを加へる人もある。

　情調を尙ぶ日本人の趣味は、秋の七草に於て盡きて居る。秋の七草はそれが野にあつて、露に伏し、野分にみだれて、まとひつ、もつれつして咲き出だ風情をそのまゝにして選擇したものである。萩、尾花、葛……といふやうに七草の名をあげて行く、其聲が即ち詩である。繪畫である。斯うして其聲に隨つて私達の眼の前に秋の野の景色が展開する。

　萩も花としては實に詰らないものである。處が日本人はあの枝と、あの葉と合せて花を喜ぶのである。その露にみだれて大地に伏し、更にチョッと頭をもたげた風情を味ふのである。『萩の花妻』といひ、『ふす猪の床』といひ、『萩の花ちる草筵』などゝいふのは萩の花の伏しまとふ風情から出た文句である。日本人の趣味は恁ういふ處に發達した。

　更に尾花などは枯淡極まるものであるが、何か秋の草花をかく時には是非之を添へる。所謂芒がなくては繪の調和が取れぬといふ程に、日本人の頭腦を支配したものである。深く味ふべき所であらうと思ふ。

　更に一本の枯尾花の背後に低く富士を見るといふやうな趣味は、日本人獨特の自然の見方である。葛も花は淡紅色の、取るに足らぬものであるが、叢の上に這ひ廻つて居る情調を愛するのである。桔梗となでしことは稍〻色彩に於て鮮やかな所もあるが、之を西洋の草花に比べては見る影もない憐れなものである。ヤ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ハリ他の秋草に交つて咲いた風情を取つたものである。決して其花を襟に挿して宴會の席に出ようといふのではない。殊になでしこなどは全體の優しい情調を生命としたものである。

千利休は自然主義者

女郎花も、藤袴も花はさみしい。女郎花の方はチヨツと鮮やかに見られもするが、藤袴と來ては初めから病人のやうな花である。病人といへば女郎花である。日本人は其花ざかりよりも少しすがれかゝつた病美人の風情を賞する。

かる萱は、東京の人達は絲すゝきと間違へたり、甚だしきは我亦紅と間違へて居る。我亦紅は紫黒色の坊主のやうな花である。

之を要するに、日本人の自然の見方は自然主義である。ありのまゝの情調を見るのである。其ありのまゝの自然を味ふ精神は茶の湯にも、活花にもある。それが俗人に誤解せられて、形式的に流れて來た時には、千利休のやうな自然主義者が現れて其形式を破壞する。

淑女たちは茶の湯、活花といふやうな事を其資格の一として親達から習はせられたに相違ない。茶の湯といふものはもと足利時代の坊主がはじめた事であつて本來は一種の簡易生活とでもいふやうな極めて質實な自然なことであつた。小さな天地から大なる宇宙をのぞくといふやうな高尚な精神もあつた。處が、中頃にしてそれが墮落した。簡易にして質實であるべき筈のものが、複雜にして贅澤な遊びとなつた。自然を樂しんだものが、不自然を喜び、形式を尙ぶやうになつてしまつた。而も明治に入つてはそれが更に甚だしく墮落した。茶の湯といふものは、紳士が自分の私有財產即ち骨董や書畫を人に見せびらかす催しと化した。茶室といふものは貴夫人が井戸端會議をする所となつてしまつた。今日上流の奥さん達が茶室に集まつて何んな話をして居るかといふに、多くは餘所の奥さんの惡口である。女中の小言である。

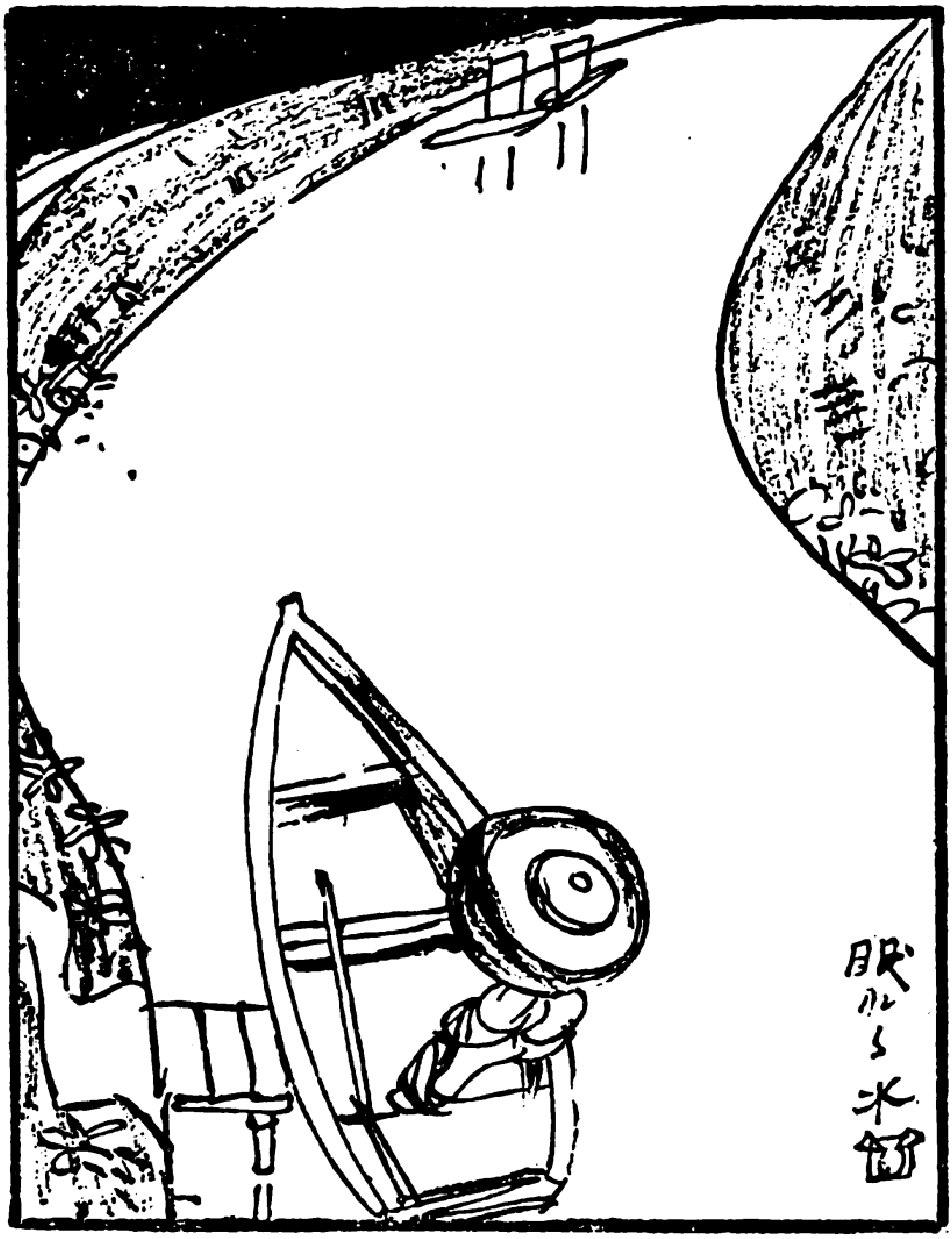
そこで千利休といふやうな大家は室町時代の形式を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

打破して、自然の趣味を茶室に入れた。彼は一種の自然主義者である。庭の造り方でも、花の活け方でも、利休といふ人は自然の情調を倘んだ。利休は一本の柿の紅葉を粗末な花瓶に投げ込んで、さみしい秋の枯野の空氣を室内に漂はせた。

色彩に溺れた西洋人

然らば西洋人は全然情調といふ事を解しないかと云に、日本人の方が其點は餘程複雜に發達して居る。西洋の歌などによく出て來る野の花を擧げて見ると、先ブリューベル(鈴蘭)、菫、クローバー、雛菊、櫻草、勿忘草、きんぽうげなどであるが、何うも日本人ほどに複雜な處を見て居ない。



一體野の花といふものは、極めて色彩に乏しいものである。色彩に乏しい野の花を美しいダリヤや、ポッピーや牡丹の花と同じ美しさに見ることが出來る。そこに詩人の眼、詩人の心があるのである。燃えるやうな色彩の美は野蠻人にも子供にも判る。牧場にかよふ小徑に咲いたクローバーの花は踏んでかへり見ない黒ん坊でも、虞美人草の燃

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

えるやうな色にはキッと手を伸すに違ひない。心なき男の足の下にふみ躙られる野の花に、宇宙の心を見、自然のさゝやぎを聽くものは詩人である。

忘れな草には種々な傳說があるけれども、要するに花が極めて小さい。忘られ勝ちな花である。けれどもそれを手に取つて見ると、空色の沁々美しい花である。そこで此小さい花が「我を忘るな」と叫びつゝ小川のほとりに咲いて居ると見たのが此花の名の起りであらう。

處が、日本に於ては如何にみすぼらしい、小さい花でも、「我を忘れな」と叫ぶ必要はないのである。日本人は忘れな草よりも見すぼらしい、小さい芹や薺の花にまでも其風情を見る國民である。瓦の破片の下から生ひ出てたはゝこ草、踏石の間に咲いた酸漿草を日本の美術家が如何に注意して見て來たかといふことは、名もなき畫家によつて描かれた團扇の裏繪によつても之を知ることが出來るのである。

色彩の豐かな草花を庭に植ゑて、物の象をかたどつたり、文字をかいたりして喜んで居る西洋人は、色彩といふものに溺れて、情調といふものを忘れたのである。秋草の野を自然のまゝに庭に移さうとする日本人の趣味は、それよりも確かに複雜である。

ダリヤ品評會の人々

唯、日本人はあまりに色彩といふものに無趣味である。無智識である。或る人は、日本人が色彩に趣味のないのは菜食をする結果であるといふた。成る程、西洋人が、飽くまでも肉感を追ふて、色彩の美のみを求めるのは、或は肉食民族としての自然の要求かも知れない。

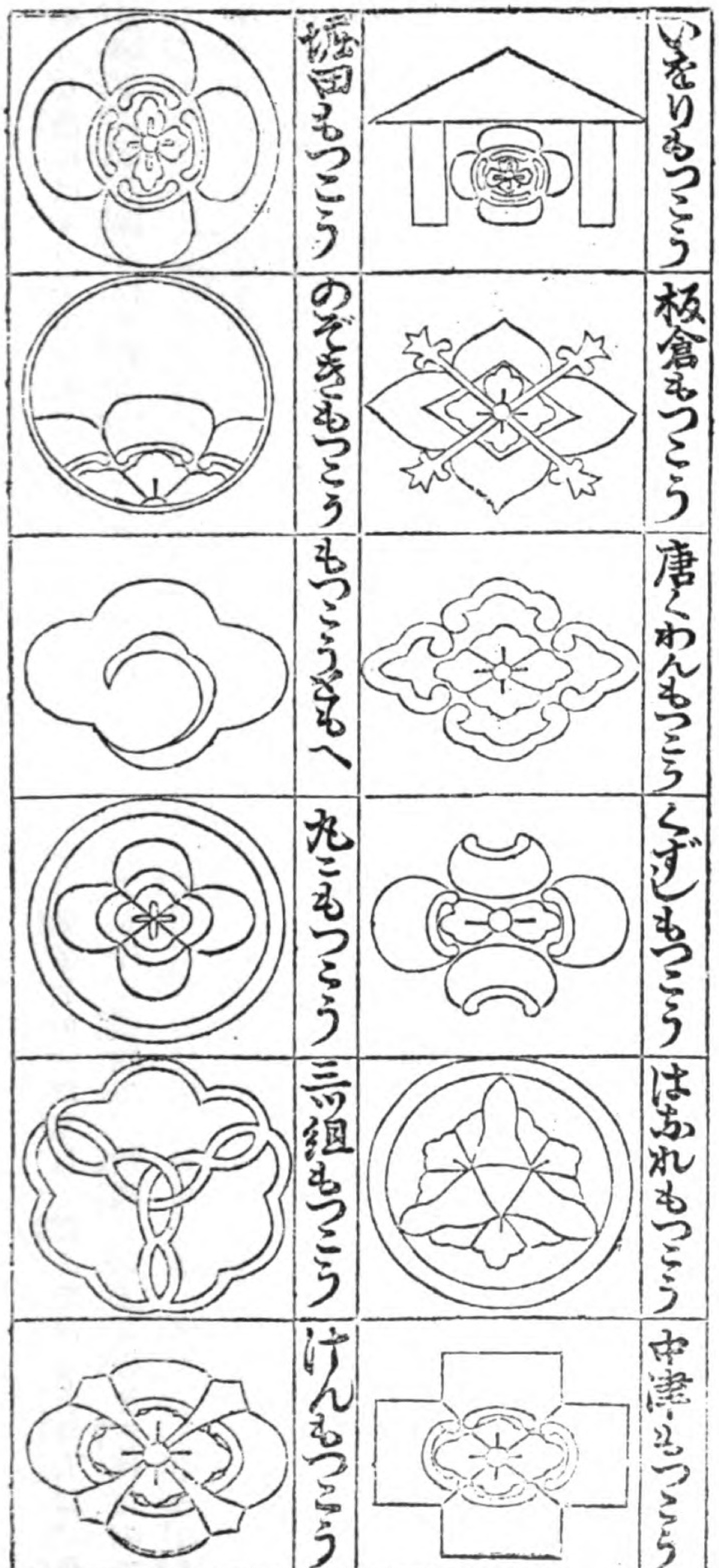
情調を尙ぶといふことは確かに日本國民特有の趣味性で、大に誇るべき事と信ずるが、色彩に盲目であるといふことはまた大に愧づべき缺點である。これからの日本人は、少しく色彩といふものにも眼を開く必要がある。否、時勢は着々として日本人に色彩の敎育を施しつゝある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

近頃、ダリヤの品評會などが盛んになつて來たのは、日本人の趣味に更に或る新しいものが加へられんとしつゝある傾向の一端と見るべきであらう。唯、私は疑ふ、今日ダリヤの培養などに熱中して居られる貴夫人や令孃方は果して眞に國民特有の趣味性を自覺した人であらうか。私達は色彩の趣味に活きた眼を開くと同時に何うか情調を味ふといふ舊來の趣味を捨てたくないものである。草花で庭に丸を描いたり、文字を現はしたりして喜ぶ西洋人の偏よつた趣味に墮落したくないものである。

草花のことは唯其一例である。此問題は頗る廣く、さうして大きい。よく味ふて貰ひ度い。

もつこうの意匠



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

湘南の三日

萍　志津子

八月三日午後三時、縫ひかけの浴衣辛く仕立あげて衽先の出來榮などを獨りながめて居る所に、表の格子が鳴つて……オヤ。

「今日は隨分お早う御座いましたのね」

と靴納しながらお顔を見れば、隆さまいつもの眞面目なお返事もなくいきなり、

「オイ志津、すぐに支度をせんか、出掛けるから一緒に」

そうれ初まり藪から棒

「ホヽヽヽ何處へで御座います？　そんなに今いふて今すぐになんて妾困りますわ」

と鼻聲に甘へて見るのを

「好いから髪を結へ一寸、其間に僕が全然用意をして遣るから、一體女は餘り物を大袈裟に掛るから面倒になるんだ……。」

だつて男と女とは事が違ひますものを。

とり敢へず鏡臺を下したもの丶、譯の判らぬ支度は氣の落付かぬこと夥しい。癖直しのお湯も熱くなし、ブリアンチンを無暗に塗りつけて如何やらかうやら捻り上ぐ。

と見れば隆さまついぞない旅行用の化粧箱などひねくつて被居る。して見ると少し遠方なのかもしれぬと思ふ。

「オイまだか。毎時もの左官屋も大體にして置け」

熊みたいな毛だらけの素面で人に挨拶して呉れるなと仰しやるお口でよくもまあ、本當に勝手なお方つちやない。かつやは只呆氣に取られて私の手許ばかり高張みたいにながめて居たら

「コラ何をボンヤリして居るんだ。奥樣の衣裳でも揃へて置け」

と叱られた。可哀想に、妾だつてまごついて居るのにかつやは無理はないはねえと心で詫て置いてやる。

數もないけれど、行先が明らないので何を着て宜い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のやら、然し紋付でない限りは濃納戸の明石にお召の帶を小さく結ぶ。

　四時に來る豆腐屋のラッパが耳に入り初めた。留守番にとて來て下さる實家の母樣のおそいこと。

＊　＊　＊　＊

　新橋を五時十分の國府津行に乘つて藤澤へ下車たのはもう七時、夏の日の長いとは言ひながら右手に仰ぐ夕の富士は紅の扇を裾野の紫にかざして居た。

「平凡だけれど今夜は江の島泊りだ」

と笑つて居らつしやる。宿は例に由て岩本樓案内者を先登に島へと渡る。長橋に掛つた頃はもう落日の影も淋しい夜の幕が下りて居た。片瀬川畔に白帆をさまつて汀の葦がひとり夕風にさわぐのを叱るが如き相模灘の濤聲、今宵は波が荒いのか沖に釣する漁火も欸乃もない。

　出掛けに電話で命じておいたので突當りの簾の間にはもう浴衣まで揃へてあつた。早速一風呂汗を流して亂れた後れ毛かき撫でた時の心持ち！　隆さまはもうお箸を縱橫に閃めかして居らしつた。

　浪靜かならば能くぞ聞えむ他所の部屋に爪彈きの五所車、意氣な音締も所がら胸そゝらるゝ風情。

　　引しほの遠音にふくる島の夜
　　　ふと誦して見る古史の歌かな

　身はつかれたれど旅のやどり心いたづらに澄みてまどろみも出來ず、罪なく鼾立つる人の息が怨めしかつた。

　翌けて朝湯の香まだ戀しきに、今日は濱傳ひ鎌倉へ行つて見やうと仰しやる。

　意地のわるいこと、糠のやうな雨が軒を斜に降て來た、でも三日と定めて思ひ立つた散策の旅一つ所に燻つて居るのも妙ぢやないねと仰るので、晝近い頃送られて宿を出る。

　幸まだ沙もしめるほどでもないので、君はキットの靴輕う、妾は空氣草履の踵重うポク／＼と鎌倉指して行く。二人が知らなかつたきのふを思へば唯夢の樣、病んで由比ヶ濱邊に唯一人さすらふた二九の秋の鎌倉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と、年經て二人が今日訪ふて行く鎌倉と、妾に取つては眞に思出の多い土地。

片瀬驛から三十分、電車は煙波漂渺の活畫圖を映つてやがて松風の吹く詩境に我々を吐出した。

牡丹に名ある小町園までは僅かに半丁、其ながめよき一室に二日目の信玄袋の紐を解く。

　鎌倉は降るともなく沙の上
　　見わたす峯に霧こむれども

小雨はまだ止まなかつた。



二時近くに漸々お晝食のお膳がひけた。と思へば今から横須賀の友達の處迄一寸往つて來るとの仰せ、いやとも言へず、そんなら早く歸つて頂戴なの文句を其まゝ胸にくり返しながら。

僅に二三時間の留守なのだけれど、心細さはさるもの、旅の留守番はほんに辛いと思ふた。

加之に淋しさに紛るゝ由もがなとすきな詩集を取り出せばこれはまた隣室の客が盃盤狼藉、床も拔けるやうな騷ぎを初めたので、句も歌もあつたものではない。餘り情けないので傘一本借りて庭に飛び

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出す。

停車場の方で上りか下りか汽笛が鳴つた。もうそろそろお歸りの時分とは思へど。

　君が影もしやとそゞろ立ちつ居つ
　　松のこぼれ葉あまた手にしぬ

處へ女中が

「奥樣、旦那樣が今おつきになりました」

と告げに來た。アラ如何しやうお迎へにも行かなかつたのだもの。

部屋へ來て見ると、物もいはず雫のかゝつた上衣を一生懸命に拭いておらしつた。

「お歸りあそばせ。南さんお在になりまして?」

と何氣なくお尋ねしたら

「居たから今迄行つてたのだ」

オゝこはい。案の條御不興の體なり。

「私拭きませう」

と傍へよれば「イ、ヤ」と一矢報いられ、

「衣桁にかけて置きませう」

と取らんとすれば

「僕がする」

と刎つけられ、志津子殆ど當惑してしまつた。滅多にお怒にならぬ隆さまが此御不興とは餘程癪にお障りになつたのだ。でも好いわ、まつのこぼれ葉手にまさぐつて思は片時も貴郎から離しては居なかつたのですもの、淋しかつたの? 一言位は云つて下すたつて好かりさうなもの、それを何でしよう餘りな。

雨はだん〳〵本降になつて來た。

やがて夕飯は運ばれた。何だか氣まづい雲が漂ふて居るので、差向になるのもをかしく、手まはりの道具を片付て居た妻に、隆さま半分ほど召上つてから

「其んなことは後にして早く座らんか」

と仰しやる。ハイと柔順に立てば宜かつたのだけれど、ついその

「貴郎召上つてからで宜しう御座いますわ」

といつたのですー大變「何ッもう一度言て見ろ」と霹靂一聲!

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

突然御自分のお箸迄投り出して、女中に膳を下げさせるやら、俄かに服をお召しになるやらの末、妾が何と詫ても許されぬ、馬鹿云への一點張り、とり付く島も果はなくなつて仕舞つた。

　哀れなるものよ弱きものよ汝の名は女なり。等しく萬能の主なる神の御力に司らるゝ二物ながら、一は限りなく強き權威と征服の劍を與へられ、一は絕えず寂しみの縄、涙の絲を績がしめらる、などかくも、まゝならぬ、口惜しき運命ぞ。

　袖を顔に押しあてたまゝ俯伏しになつた。我儘者とお笑ひ下さいますな。横着者とお蔑み遊ばすな。志津はもう是迄よと狹い女氣のすでに料簡を定めました。昨日迄の歡樂も、といはずつい先刻までの御笑顔も、かくなる運命の神が一時やすめの手すさびであつたのか、平生からまたとあるまじう柔しう勞はつて玉はりしも今となつては却々に情の仇。

　隆さま急に何思つたかお手をお鳴しなされて、程なく出て來た女中に

「雜炊の甘味のを作つて與れんか」

とお命じになつた。

　パッと電燈が點く。

　同時に今まで死なん許りに悶えた胸も少し晴れかかつて來たすると、隆さまもう、先前の癇癪筋は何處へやら。

「いつ迄不景氣な樣子をして居ずと、倶樂部へでも行つて見ようよ」

ですつて、妾は何だかつまゝれたやう。まだ睫毛に殘る露の玉が電燈に映えて燦めくのが恥かしくなりました。人生婦人の身となる勿れ一顰一笑も誰が氣息にや左右せられてと思つた刹那、安心と諦らめの念が一時に悲しかつた心の城を覆しました。餘り現金なれど笑窪一つ君に參らせ、縁側に出て、ホッとつく息を天に吹けば、雨はいつか晴れて無限の蒼穹星斗燦爛！

　あすは葉山に殘りの一日！

　もうお芝居は二度としませんわ。

海嘯遭難記

濱　乙女

七月廿五日　麗樣にお泊り遊せとお勸めしても、何うしても歸京ると被仰るので、夕飯早めに御一緒に頂いて、ステーションまでお見送りする。

歸途、風は裳裾を拂つて袖も吹ちぎられさう。飛ぶわ、飛ぶわ、黑團々の雲、みなみの天涯から起つて瞬間に頭上をよこぎり、見る〳〵北の山へと隱れてしまふ其の速さ。

時々川上まで波がうねつて來て、假泊してゐる大小の船の錨綱を、縱橫に張つたり弛めたりしてゐる。

夜、庭前の床几に倚つて、顯晦極まりなき大空の展望をほしいまゝにする。少時の間隔を措いては風の神が袋の口からドツと打ちまけるやうに、その落下し來る風の勢、威勢の好いのなんのといつて。

紺碧の空に羽搏つて翔ける大鵬とも見る黑雲が、一かたまりつゝと飛んで行くと、後には玉爛々の星の煌き。一層冴えて美しい。段々雲が間斷なく漲つて來て星影が天の一隅へ追ひやられたとおもふ間もなく、ざつとばかりに覆盆の大雨が、大地へたゝきつけるやうに降りだした。慌てゝ床几をひきずりながら、緣へ駈けこんだ時は、もう袖もしとゞに濡れて仕舞つてた。

騷がしい、騷がしい。戸をうつは雨か。家を搖るは風か。天地轟々、時計が九時を報ずる音も、遠い世界から響いて來るやう。此樣な晩は早く寢た方がいゝと燈火を消して就寢。さしものどよめきも何時かぼんやりと耳から遠ざかつた。

ふと眼が覺める。時計は午前一時をうつた。地震かと思つたのは矢張り風！風も、風も、一方ならぬ風。雨さへ宵には數倍してゐる。廊下傳ひの向ふの座敷にゐらつしやるy樣、奥樣と坊ちゃんとお女中の三人限り、定めて凄く心細く思つて居らつしやるだらうと、寢衣着替へて御見舞に行つて上げる。『もう先程から怖くて鳥渡もねむらずに居るのでございますよ。如何で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せう。水の出ますやうな事はございませんでせうか。』
『まあ床下を通す位のところは、何とも申されませんけれど、左程御心配の事は決してございませんでせう。兎に角お起き遊ばしてお話でもして居らした方がお紛れになつて宜しう御座います。寝て居て聞きますと猶ひどく思へますから』と云ひ終るほどもなく、私は愕然とした。

ごぼ、ごぼん、と音がして、何やら羽目板に強く敲きつけた物音。正しく出水、然も普通の出水ではなく、浪が打上げて來たのである。奥さんも、お女中も、顔色はない。十年ほど以前一度大海嘯があつたけれど、そんなのは六十年來だと、土地の人さへ驚いて居た。けれども其時だつてこの床の上には上らなかつた。



『でございますもの、今夜だつて眞逆にそれ以上の事はないと存じますよ。けれどお夜具だけ疊げて、お召替でも遊ばして被居いましな。』と云ひのこして廊下をもどつて來ると、又波が……。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

父樣お起こし申あげる。そんなに騷がないでもと云つたやうなおかほつき。眠さうにしぶ〳〵御平常召にお着かへなさる。暴風怒號のあひだを、どこからともなく叫喚の聲が耳底を衝いて、異樣に胸にまで徹つて來るので、風間を見て些か雨戸をあけて見る。遠く往來の方、提灯がうわうざわうに亂れ飛んで、走り廻つてる人の樣まで心眼にうつる心地がする。是はもつと烈しくなるのに相違ない。急いでヲ樣の方へ行つて、お荷物のしまつをお手傳して、二階へやうやくお移しする。歸つて來るともう廊下の上は浪……いよ〳〵もう床上。

我知らず絶望の聲が洩れる。

あら、もう疊が、洋燈のせたまゝぷく〳〵と浮いて來る。踏むとジーッと沈む。何とも云へない心持。行李やら箪笥の下抽出し等ぬき出して、高い處へ上る。又、どうと音がして波が來ると、疊の上、踵を沒した。棚から物のおつる音、陶器物の崩れる音、もう洋燈はあぶなくてつけて置かれない。懷中電燈と、弓張提灯を。噫幽かな心細い頼りの灯！父樣に二階へお逃げくださいと幾程申上げても動いて下さらない。

「馬鹿な、何んなに逃げあるいたつて、怪我する時はする。死ぬときは死ぬ。人間は何れ程の力がある。」又例の御氣性、でも時と場合を御考へ下さつて、少しは爰より優しな二階へ、何故行らして下さらない……。

「お前、御出でなさい。」切りに被仰るけれど、私を置いて參られますか。何卒々々とお袖を引ても、頑として、いつかな。波はもう膝までも及ぶ。せめて大切の品だけ二階にうつして、私は玆に居る事にしやう。

お位牌、系圖、他に大切な書類だけ、一つの文庫にまとめて、風呂敷にシカと包んだ。

「父樣、では私これを二階へ置いてまゐりますよ。」

「あゝ、氣をつけて御行でなさい。歸つて來ない方がいゝよ。彼方にお居で。」

平然と御自分のお机の上に座布團しいて、端座して居らつしやる。其お膝の上にさへ時々波が上がる。懷中電燈殘して、私は提灯の光りにやうやく二階へ。「ま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あ〳〵お案じ申上げて居りました。」

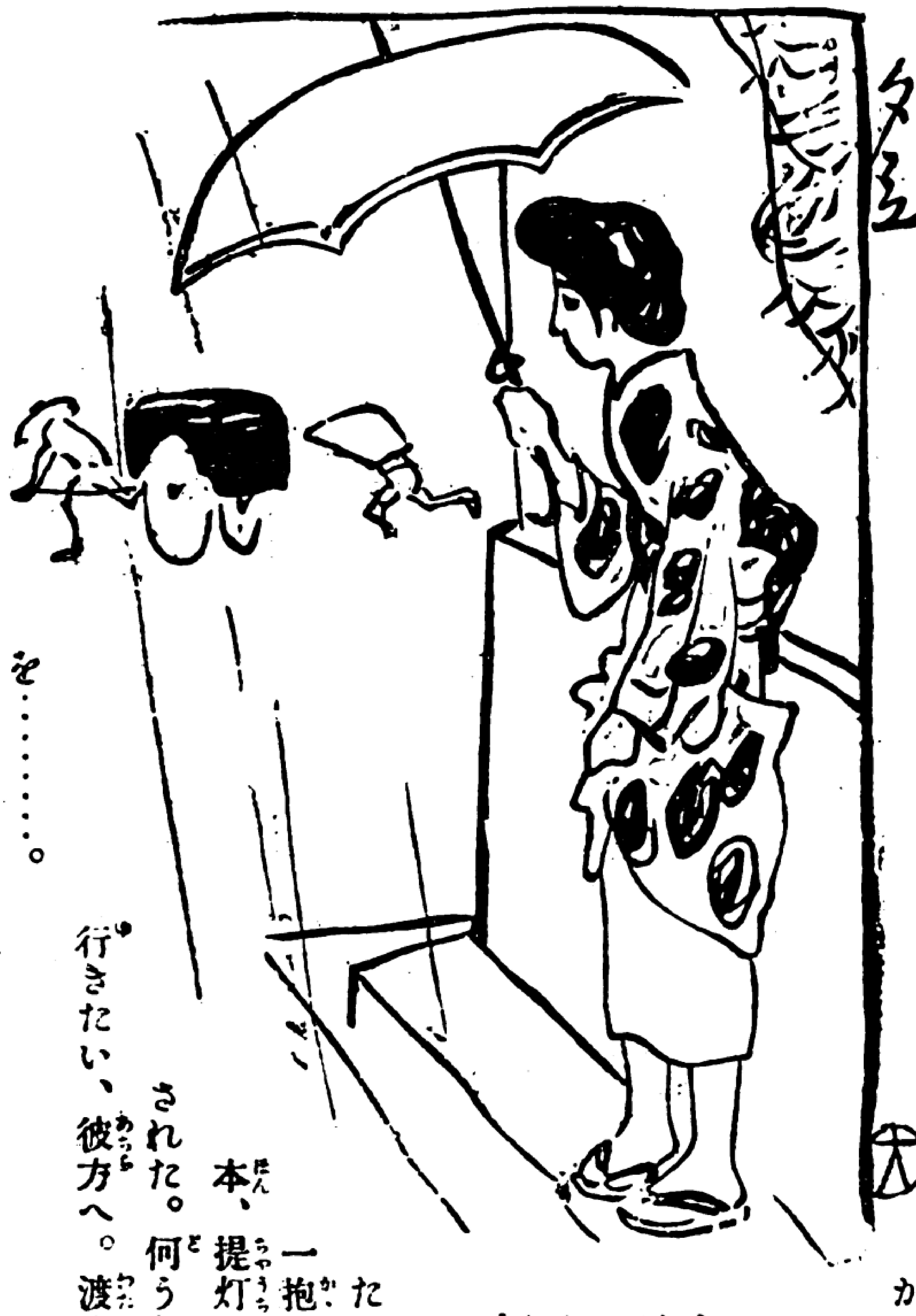
「お父様は？」

「は、何うしても動きません。私も彼方へ歸りますから、これだけどうぞお預り下さいまし。」

「まあ何うして來らつしやらないので御座いませうね而して下は何うなりました？」

有のまゝ申上げたら、猶ほ恐怖なさるだらう。

「少しは疊の上にも上つたやうです。急ぎますから、何卒。」



と文庫おしやつて、階段を下りにかゝると、戸を外したかして、波がずうと階下まで押よせて、壁へ衝突かつてばつと砕ける。

引き去つた處を、強て心強く母屋の方へ行くと、もう廊下は中絶して仕舞つてる。衝き破つたのは是だらう。一抱の大丸太が三四本、提灯のひかりに照らされた。何うしやう。行たい、行きたい、彼方へ。渡らうかこの丸太を……。

又波が來る。低く持つてた提灯をさらはれた。暗夜となつた。私は立つて居るところ、又何か衝突したか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

、、、こめり〳〵と音がする。茲に立つてたら、父樣のお傍よりも猶危い。けれど、何うにかならう。お父樣も私を待つては居らしやるまい。

遂に私は二階に半夜をすごした。その半夜の永さ！神の御名は胸に浮ばず、眼をつむつて、絶えずうかみきたる父樣のお名を强て追ひはらつて、一心に深呼吸した。

七月廿六日　黎明、庭はまだ腰まで波が來るところ犇々寄せた流木を搔きわけて父樣のお傍に行つた時、感極まつたとは是を措いて又何をか云はう。

「お怪我もなく」

「おゝ、怪我も無く。」

かはされた言葉は唯是丈けであつた。

暴逆をたくましうした風雨も收まつて、波が僅か名殘をよせてくる日出ごろ、ひと度眼をはなてば、何といふ慘憺たる事だらう。光景眞に意想の外に出て居る。上帝なんの怒り、半夜にしてよくもこんなに破壞したものかな。巨大な帆柱、船の破片、誰家のぞ太い梁が半分組立てられた儘、傷ましく捻ぢ折れたのなど、累々庭前に山をなして居る。大方倒れ果てた庭樹、破られた家、唯啞然として眼を睜るばかりである。入つて座敷を見廻れば、疊はぶく〳〵として、炭俵やら、藻屑やら、泥土やらにうづまり、縁に入れてあつた、今朝咲く分の朝顏の鉢は床の間に打上げられ、ふきとばされた掛字は、紙が剝れて滅茶苦茶に芥を包んでゐる。立かけた琴は半分以上も袋がぬれてゝ、中は嘸とおもひやられる。火鉢はなみを湛へて灰汁を滿たし、障子はこはれて硝子の細片が四散して手もつけられない。時計は午前一時半で止まつて、此時から最も家屋の震動が烈しくなつた事を示して居る。

入替り見舞人がくる。炊出しが來る。お菓子が來る。お養〻が來る。サイダーのはこが來る。是等の應接でかたづけの指圖がなか〳〵仕きれない。父樣が玉子をと被仰つたので、お庖廚へ出て見ると跡形もない。矢張流されて仕舞つたのだと覺えず苦笑する。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



婦人の温い感情

高島平三郎

▲權力の結合と情の結合

人間が集つて互に生活するのに、權力の結合と、情の結合との二つの關係があります。例へば國家は權力の結合で、家庭は情の結合であります。が國家でも權力ばかりの結合では治まらぬ。やはり愛國心や尊長心などの美しい情が籠らなければ立派な國は成立ちません。況して家庭に情の結合がなかつたら、子は親に背き、妻は良人を怨み、利害問題が蔓つて、良人が金を儲けて着物を買つてくれる内は結合して居るが、落ぶれて來ると見切をつけて他に嫁ぐといふやうな女も出來ます。何の結合でも利害より情の働きが主でなければならぬが、特に家庭の礎は情であります。この情は祖母が孫に溺れるやうな盲目的なところがあつて、唯こればかりに走つては間違が起るから、道理の制裁が勿論要るけれども、而かもこれは美しい人情の湧き出る源となるのであります。その中一番尊いのは同情であります。例へば、一番家庭が愉快な時を分析して見ると、老人と若い者、良人と妻が互に同情を交換してゐる場合です。こんなに苦勞して居るのに、主人が獨りで勝手ばかりして居ると云ふことが、家族の心に浮べば、もうその家庭は暗い雲に覆はれて了ふので、同情の交換は凡ての人間の結合する基となるのであります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲生理的の同情

同情にも種類があるが、一番早く現れるのは生理的の同情です。幼い子供は、何も譯が判らないでも、母や親しいものが泣くと、直にもらい泣をするし、莞爾すれば、ゲラ〳〵と笑ふ。これは眼や耳に觸れたことが腦を刺戟する作用で、即ち生理的同情であります。これはたわいもない事のやうですが、唯これだけでも却々効があるので、子供が大人に可愛がられるのは、この同情の働きが出る頃です。大人でも人に遇つて何の意味なしににつこりすれば、先でもにつこりするのは、この働きの現れです。そして馬の笑つたのを見たことはないから、この愛嬌は人間の特權でありませう。人の心の働きは實に微妙なもので、今日はお寒うございますと言はれゝば、却々お寒うございますと答へるのは、通一遍の挨拶ではありますが、若し寒いのは當然ですと答へられたら癪に觸るに違ひない。いつぞやの新聞に、或人が饂飩屋を呼留て、オイ饂飩があるかと聞いたら、その饂飩屋が、ハイ饂飩屋だから饂飩のあるのは當然ですと云つたので、立廻りの大喧嘩が始まつたと云ふ記事がありましたが、生



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

理的同情のないのは不具の人間でありませう。

▲心理的の同情

生理的同情は、自然に湧き出る同情ですが、心理的同情は主に經驗から出るものです。我身つねつて人の痛さを知るで、奉公の辛さを味はつたものでなければ召使に思ひやりが出ず、衣食に窮したことのない者は貧者の心持が眞實に判らない。それで金持でも息子の書生時代に、雨風や飢渇の苦を味ふ旅行をさせて見たり、堅い靴で雪中を歩く演習などをさせて、人を使ふ思ひやりを學ばせる。學習院などでも遠足の折には、貴族の若殿方に、雨中箱根山を驅上がる兵隊の眞似までさせて見るのです。東北の飢饉騷ぎの時に、或る富豪の息子は、人の話を聞いて、彼等は御飯が食べられない〳〵と騷いで居るが、おはちからよそつて食れば宜いじやアないかと云つたさうですが、芋の煮えたも御存じない者はこれに類した例もあるでせう。餘り健康な男は妻の病氣に同情がないやうなものですから、人間は患ふことも一の修養であらうと思ひます。併し心理的同情は悉く經驗がなければ湧き出ぬと云ふ次第ではありません。そこは人間に想像の働きと云ふ有りがたいものがあるから、ペストやチブスに罹つたことがなくても、その病者の苦痛を思ひやることが出來る泥棒して牢に入つて見ないでも、監獄の辛さは判る。一通りの經驗さへあれば萬事の推察がつくもので、ここが他の動物と違ふところです。煩悶して親友に打明話しをした時に、其親友がどうもしてくれないでも、眞實に御心配でせう。お氣の毒だと云つて共に泣いてくれゝば、大に慰藉を得ると云ふやうな心理的同情もなか〳〵尊いものです。

▲今一歩進んだ同情

心理的同情だけでも尊いが、今一歩進んだ道德的の同情がなければ、眞實の價値がない。何時も口でばかり殺して居ないで、出來るだけの力を貸して他人の苦を取つてやると云ふ同情に進まなければならぬ。併し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人の苦に同情することは或點まで出來易いが、樂しむ者に同情するのはなか〳〵難かしい。尤も親子夫婦の間には出來るもので、親が出世すれば子が悅び、子が立身すれば親が悅ぶ、夫婦も互に幸福の境遇を悅びあふ。これは天賦の美しい人情であります。但し西洋では生活の事情のために親子の間にも追々この天賦の美が缺けて來る傾があつて、老人の働く領分を若い者に蠶食されると食へなくなると云つて、息子と競爭する親があると聞きましたが、日本では今のところこれのないのは幸福です。然り乍ら他人の得意には敵意を持ち易く、ブー〳〵と自働車で風を切るハイカラを見ても、一つひつくり返ればいゝ氣味だな位で忌々しい心が起る。私が以前砲兵工廠の前を通ると、向河岸の富士見樓で酒客が藝妓を上げて騷いで居るのを、汗水たらして歸りがけの車夫達が立見して居て、旨くやつてやアがるなアと罵り、石を投げる奴のあるのをよく見受ました。この感情は誰にでも起り易く、他人の樂を悅ぶやうになるのは却々難かしいとですが、目的は高いところに置て修養を積まなければなりますまい。

▲同情の偉力

同情に偉大の力のあることは、左の一例でも判ります。數年前、千葉、埼玉を暴した針金强盜と云ふ奴は何處で捕まつても三日の內に乾度逃げた。東京で捕まつた時にも、今に逃てやるぞと云つて監守にからかい惡まれて居ました。ところが三日目に藤澤典獄が巡視された折、寒中、火の氣もない薄暗い監房の板の間に端座して居る彼を、典獄はつく〴〵と打守つて居られたが、戶の節穴から漏れた日光が、板の間へチヨボリと黃色の影を印して居るのに心付かれて、例の監守に「寒からう。日の當るところへ置てやれ」と云はれた。この一言を聽いた彼はハッと頭を下げてハラ〳〵と落淚した。典獄が去つてから針金强盜は監守に向つて、私はもう決して逃げません。あらゆる惡事を仕盡した私も、これまでには、本心に立歸らうと思つて故鄕に歸つて見たこともありましたが、親は私を毛蟲の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

やうに嫌つて鹽花をふりました。私はもう世の中の人を悉く敵と思つて破れかぶれになつた位で今日まで一度も只今のやうな優して情に觸れたことはありません。あんな情深い旦那の處で死ねば本望ですと云つて惡事を逐一白狀し、潔く絞罪に伏しましたが、彼は全く生れ變つて、絞罪に處するのは惜い位の人間になつたと云ふ事です。極惡無道の兇賊を復活させた典獄の同情の力は何んと偉大なものではありませんか。嫁が我儘だとか姑が邪慳だかと云つたところで、針金强盜と比較にはなりますまい。

▲婦人方に注文がある

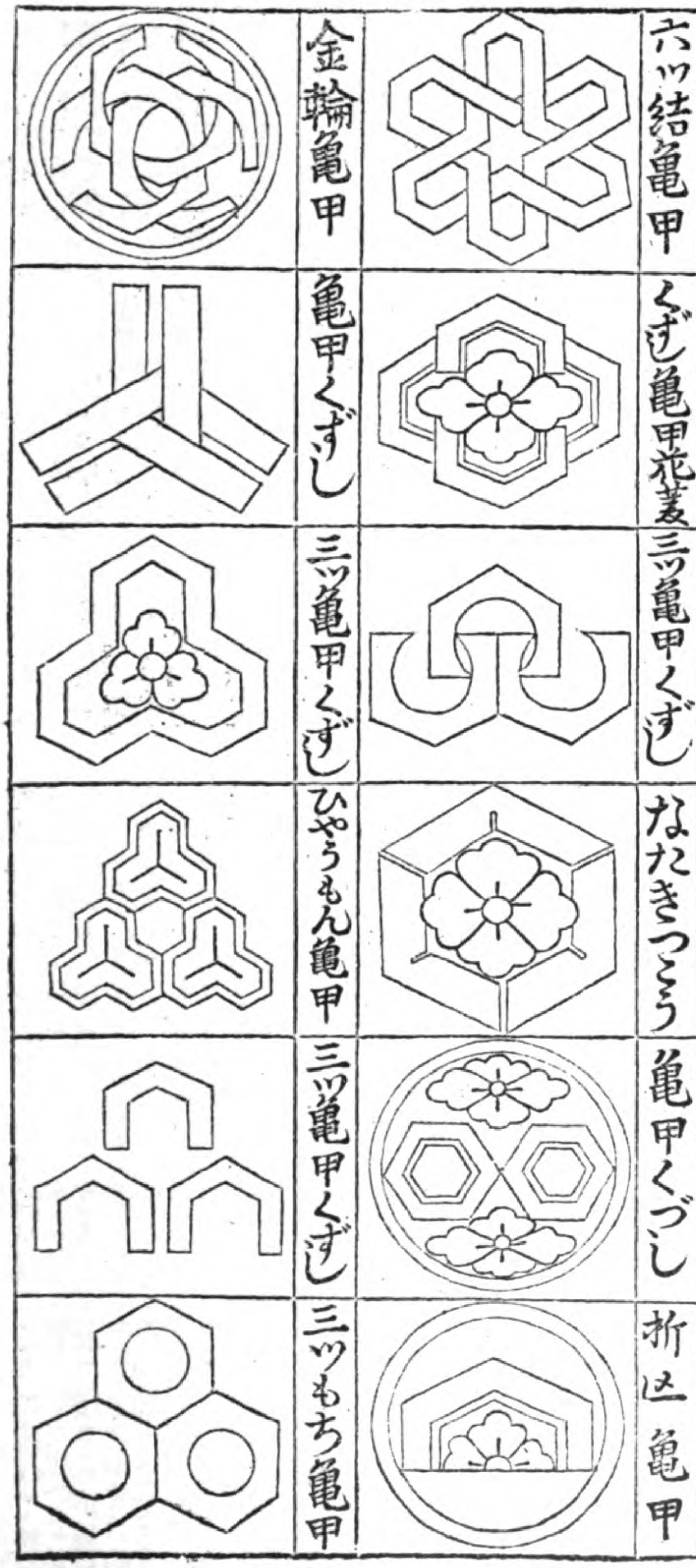
夫婦も若い間は、顏や樣子など感覺上の愛だけで和樂を得られるでせうが、同情の交換が缺けた夫婦仲はとても永續し難い。私は世間の良人方に妻に對する同情を要求したいが、先差當り婦人方にこの注文があるのです。私は甞て沖繩へ夏季講習に出掛けた際は、每日室外百三十度の炎天に何百人と云ふ聽衆を相手にして講演をやつたのですが、或日綿のやうに疲れて旅宿の寺へ歸り、風呂に入つて居ると、雇ひ婆さんが風呂の火を燃し乍ら、旦那方は嘸お金が澤山溜りませうネーと云つたので、私は實にうんざりして了ひました。思想の程度が懸隔して良人の心を思ひやれぬ妻は先づこんなもので、良人が熱心に研究して居る哲學を鍛冶屋の學問と思つたり、內の人はよく敎育々々と云ふがけふいゝくと云つて翌日歸ると云つたことはないと云つた實話に近い細君も却々少くはなさゝうです。生存競爭に疲れて家庭の樂天地に歸つた良人の要求は、唯亦心から出た妻の同情にあるのですから、妻は一から十まで出來るだけの赤心を良人に注ぐ心懸が欲しいものです。

婦人の中から學者が出ても良し、政治家が出ても構はぬが、唯一般に同情心を養いたいものです。女がさかしら立て、良人にアーせいかうせいと指圖することは滅多に必要はないから、學んだ智識で良人の心を會得し、苦勞を慰める、美しい同情の學問をさせたいの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

です。今の女學校には澤山な科目を設けてあるが、同情心を養ふ機關が具はつて居ないやうに思はれる。血の冷えたオールドミスが生徒に向つて愛嬌をお出しなさい。一二三と號令をかけたところでどうも難しい。良人と共に議會へ往く途中、馬車の扉に手をはさんで酷い怪我を爲ながら、良人に心配をかけて演說の妨たげになることを氣遣ひ、痛みの様子を良人に見せなかつたヂスレリ夫人の健氣な行爲は有名な美談でありますが、西洋婦人にもかゝる美德があるのですから、優しい日本の女子は導き方一つで立派になると信じます。

龜甲の意匠



料理と風味

△肉の切り方　肉類はすべて纖維の方向に直角か斜に切られねばなりません。纖維の方向と平行して切ると、歯切れも味も惡くなります。

△肉の煮加減　鍋に入れた肉を漸次煮ると、最初は肉の表面から蛋白質や其他のものが出て、液が濁つて來ます。それが段々温度が高まつて攝氏の五十五六度になると、此の溶けた蛋白質が凝つて、液は澄んで來ます。更に攝氏の七十度近くになると、溶け出して居る血液の血色素も凝ります。尚ほ温度を高めると、肉の内部の血色素まで凝り、結締組織が膠質に變じ、肉は甚だ裂け易くなります。之を肉が煮えたと云ふのであります。

△生の肉と煮た肉　しかし斯うなると、内部の蛋白質も凝つて、消化が充分でなくなります。實驗の結果によると、普通の生肉は胃液で八十九、二パーセントまで消化することが出來るが、煮た肉は僅かに三十八、七パーセントしか消化しません。それ故に消化と云ふことばかりからいふと、肉を煮ることは良くありません。けれども肉は煮ると味が大變よくなり、特別な風味が出て來ます。

△肉の風味　風味の素は、食品の種類によつて違ふが、肉類では蛋白質以外の窒素化合物であります。此物は肉の中には割合に澤山あります。魚肉などは、其全窒素化合物の四分の一から三分の一もあるものがあります。

△肉と煮汁　風味を與へる窒素化合物は、蛋白質と違つて、水にはよく溶け、熱の爲めに凝ることはありません。それ故に、肉類を煮て此の物丈けを煮出すことが出來ます。之れが即ち煮汁で、洋食に用ゐるスープも此の一種なのです。又味の素は小麥中の窒素化合物から人工的に製したものであります。

風味となるものは良く溶け出して良い煮汁となりますが、蛋白質は前に云つた樣に肉の中で大部凝つて液中には溶けて出ません。それ故に煮汁を取つた煮汁滓の中には澤山に蛋白質がある譯です。鰹節なども實は煮汁滓の方が遙かに滋養になります。

△甘いスープ　しかし甘いスープを得る爲めには、なか〳〵滓などのことを考へて居られません。それ故種々肉を以つてこしらへますが、茲に注意すべきは、スープは貴重な肉を以て作らなくとも、骨から取つて充分な事であります。否骨から取る方が却つて上等なものが得られます。それには骨を碎いて湯煎にするので、十二時間から二十四時間位煮ればよろしいやうです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏のスケッチ

濡浴衣

朝

小笹を掻き分け木に取縋つて、そつと一輪、二輪、此蕾ともで合せて三輪の山百合の花、袖の露を拂つて双手に捧げ仰いで是を見る。白楚々とした花の顏は、遂に人に形容の辭を許さぬ程の神々しさ。

朝の山氣は冷やかで有る。幽香嗅ぎ乍ら再度浪切不動の邊まで下りて來れば、裳裾も袖もとく〳〵たる朝露にそぼつばかり。濡れぬ先こそ露をも厭へで、玉點の草を藉いて、無雜作に腰を下して了ふ。

百合は傍に、眼を遠く、遥に沖邊へかけて海の眺望を縦にする、相對した葉山森戸の一帶は、既に朝暾鮮かに彩つて、劃然とした印象の明かな山や樹や、常よりも大變近くに見える。

それだのに此處には朝靄深く立ちこめて、曉の夢まだ覺め兼ねた風情。彼岸との對照が妙で有る。然しそれも暫時が程、見る〳〵内に靄は散じて旭日は既に足下丈餘の岩の上まで照して來た。其處に寄せ來る波までに威勢がついて來たかの様。



海の色が些し薄くなつて、山は益々緑濃やかに匂ふ、水は山の影を映し、山は水の心に任す、其朝凪靜かな瑠璃盤上、一點の白帆を浮べては、他に山も靑く空も蒼く、眺むる人の心さへ、色にしたらば矢張爽かな、緑の色。

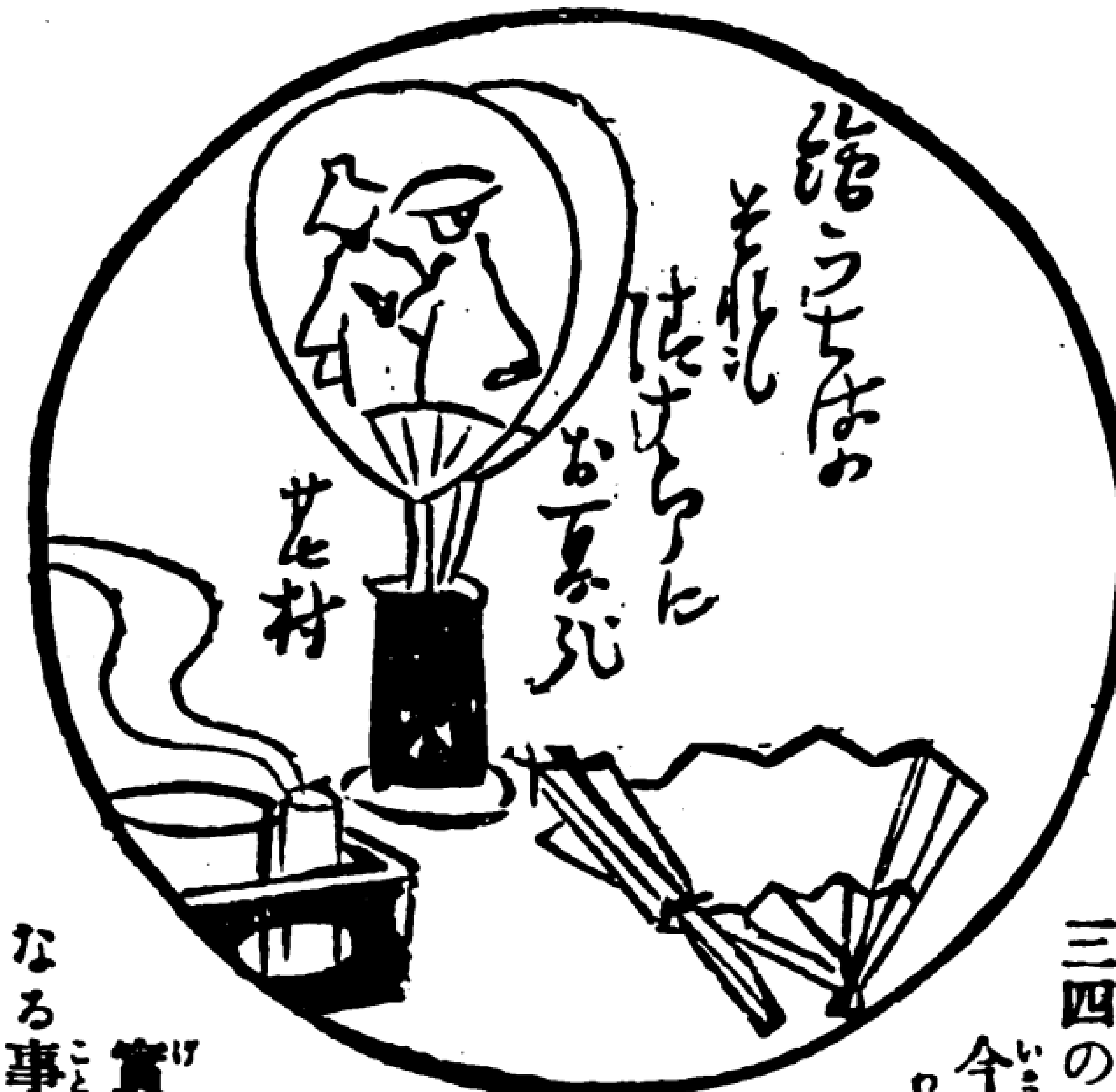
朝を修する勤行か、不動堂から振鈴が響いて來て、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其間々にはは小瀧の香がさら〳〵さらと、風が輕く起つて紛と百合の香！

噫此心地、拙な句や歌やに約めるのは勿體ない。只もう虚心にうつとりと。

芳草の上、何の怖ぢ恐れも無く斯う淸々として、此朝景色に融化され得る私の心はほんとに幸福の限りでは有るまいか。



三四の漁船が濱から今出かけた處、私はもう歸りませう。此百合をおみやげにして。

あれ彼の舟か、欸乃一聲、實にも山水の綠なる事よ。

晝

白爛々たる日光は洋傘で避けても、道路からの反照で眩しくて堪らない程。

初夏の午後を果物屋の店に入る。涼しい芳香が紛として、頭がすうとなる。店番が居ないから聲をかけて見る。誰も出て來ない。黄や紅や靑や、熟果累々眼も爽かに並べて有る中へ腰を掛けて、今に誰か出て來るだらうと待つ。

不圖考へた。天井の高い、四邊は塵を止めない玻璃窓で、窓掛けは皆捲き上げて仕舞ふ。而して其廣々した室の眞中へ、大きなクリスマスツリーの樣な者を立てゝ、それに一面是等の果物を綺麗に釣るす。初夏の明るい光線と、新綠の梢を吹いて來た風と、淸新な果物の香とが、程よく調和されて漂ふ一室の裡、臥榻の上に寬いで橫はる、嘸、夢のよい事だらうと。

まだお内儀さん出て來ない。不用心千萬な、も一度聲をかける。何だか奥の方で返事した樣だ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



又考へて見た。若し私が果物になるのなら此處に有る中で何にならうかしらと。店頭第一に幅を利かせて居る夏蜜柑は何う。清々しい香、デープクロム色も見る眼には心地よいけれど、食べて酸味の强いのが氣障だ。林檎は何う。色も味も良好けれども、淡泊過ぎて自分がなるには何となく物足りない。芭蕉果、頗甘味い。然し人間にしたら餘り性が無さ過ぎる嫌が有る。それに押出しがのつぺり過ぎて面白味が無い、鳳梨、匂ひも風味も結構だけれど、見た眼に頑固なのと、筋ぽい樣なのは有難くない。向ふの棚に轉つて居るぼんたん、名詮自稱あんぽんたんに通ふ丈け有つて何となく間の拔けた味、無論是も厭や。天津桃は强烈な色彩がてんから好かない。苺、あゝ眞個に可愛らしい。牛乳に包まつて玻璃のお皿に盛られて、お供に銀の匙を連れて出た處、全く大好き、然し只さへ所業が子供じみてるとよく笑はれるものを、苺になつたらもつと〱、子供の樣になつて了ふかも知れない。

それでも……。

まあどうもお待たせ申上げまして、今日は好いお天氣樣で。

はつと氣が付いた樣に、慌てゝ風呂敷を擴げた。

夜

林巒夕麗を分つて、風さや〱と浴後の袂の吹かれ心地、ほんに好い心持ち！

夏を忘れた此夕べ、誘はれて水のまに〱小舟を浮けて、川から海へと漕ぎ出す。

山は暮れて野も暮れた。海獨り取殘されて洲渚は明

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に、波又些の紅を殘して瀲灔なつかしき程に光つて居る。葉山の寺か、夕入相の鐘の音が此景色に打つて付けた樣、餘韻が斷續して波上を渡る時、景色が一段と生きる。

閑雲野鶴杳渺く、風に嘯く身はひとり、月を湖上に碎きては、行衛浪間の舟一葉ゆふべ暮鐘に誘はれて……。

朗吟の聲も相應しい四邊の樣。

空が一樣に紺青に黒ずんで來た。芙蓉峯の頂、三段許りの處に、金星が目覺めた樣に煌き出す。一點、二點、三點、五點と漸々に見えて來る江の島の灯影は、金龜樓のか惠比壽屋か。

船に私語く浪の音にも涼風が起つて、浴衣の肌のそぞろ寒き程、襟かき合せて楫をおしつと向ふへ廻す、ゆらり波紋を畫いて、沖に背向くや、舳は岸邊を指した。

どうしたの。

もう歸りませう、寒いから。

舳は分くる光りの波、きらく/\と夜光蟲に燐の火揺れて、海岸へと近づけば、むくりと一とつ横波を食つて舟が一と揺れ、又、一と揺れ、而して川へと入る。兩岸の家並みからは、灯影を水に流して、納涼の人の出盛る時、東の山際をほんのりと染めたのは、居待ちの月の出る頃でも有らうよ。

病氣見舞に行きて長座するは、心なき業なり、或る奥樣友のいたづきをたづねて、四時間話されしが、初の中こそ氣がまぎれもすなれ、後には疲れ果てゝ、氣分惡く熱出でたることのありしと。



Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

妻の勝利

樂境の人

私はまだ妻を娶る心算でもなかつたが、昨年の秋國へ歸へると、伯父がやつて來て非常に勸めました。「結婚は如何しても厭だ」といへば何時迄も說きつゞけて居てうるさいし、又其氣でもないのに「貰ひませう」とは無論答へられぬので、數時間にも亙る長談議の末に、やつと「兎に角今一應考へることにしませう」と其場を切り上げた。

伯父が歸つてから母は、「伯父の言ふ通りに爲たが宜からう、伯父の意見を聽いて置けばお前の留守中も何かの面倒を賴むに都合が宜い。」と申しました。實際母と妹とを殘して東京に暮す身は、雨につけ風につけ安からぬ思ひに打たれる。何かの面倒を賴むに都合が好いとは、深く考へた言葉ではあるまいけれど、手許少ない母の心も讀まれて、私には非常な刺戟でありました。父亡き後は伯父も自然遠ざかる樣な風だし、母の兄弟縁者は二十里も遠方だし、心を打明けて相談相手と賴む人もない母の爲めに、少なりとも力になつて吳れる人があれば、私は全世界を得たよりも喜ばしい。母のいふ通り、伯父は今私の遣方一ッで、一層母の力になつて吳れるのだ。のみならず伯父の言葉に從へば、まだ多くの助を得らるる筈。即ち妻の兩親兄弟、是等は皆母の助となるのだ。さうなれば、此の寂しい田舍町にも、母がちよい／＼出歩いて、心匿なく半日の氣を慰むる場所も出來る譯だと、今迄の私の主張も忘れて考込みました。

それから、云はゞ母本位で妻を娶ることに決心し、翌日其由を伯父に答へた所が、伯父は飛び上る程悅び、私の家は俄に色めき立ちました。

妻にする娘に就いては、母も私も妹も全く知らなかつたが、物固い伯父が見立てゝ百人に一人と賞める女だからと、母も私も安心して居りました。伯父は「顏は惡いと云うても十人並だし、溫順ではあるし、氣も良く付けば讀み書きも年相應に出來るから、東京へ連れて行つても決して耻しいことはない」など申しました。

其後間もなく私は妻帶者の仲間入をして、今迄の私から見れば實に不思議な身になりました。併し其急に變つた身の上が唯だ奇異に感ぜられる丈で、別に嬉しい事も樂しい事もなかつた。妻の樣子の田舍染みて居ることが、永年都の婦人を見慣れた身には、著しく目に立つて厭だつたけれども、都會に慣れゝばかうでもあるまいと、之れも大した紙には思はなかつた。從來結婚といふことに就てやかましい理窟をこねて居た私は、斯くの如く無意味に妻を娶りました。百年の苦樂を共にする配偶者を得る結婚は、最も愉快であるべき筈なるに、私の結婚は食事時に食事をする樣に極めて平凡でありました。從つて嫁が好きでもなければ厭でもなく、今直ぐ離縁してもよければ、しなくともよい、つまり女と私とは、何等の關係もないやうに無頓着でした。

間もなく私共は東京の人となつたが、其中に妻に對して追々不滿も

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

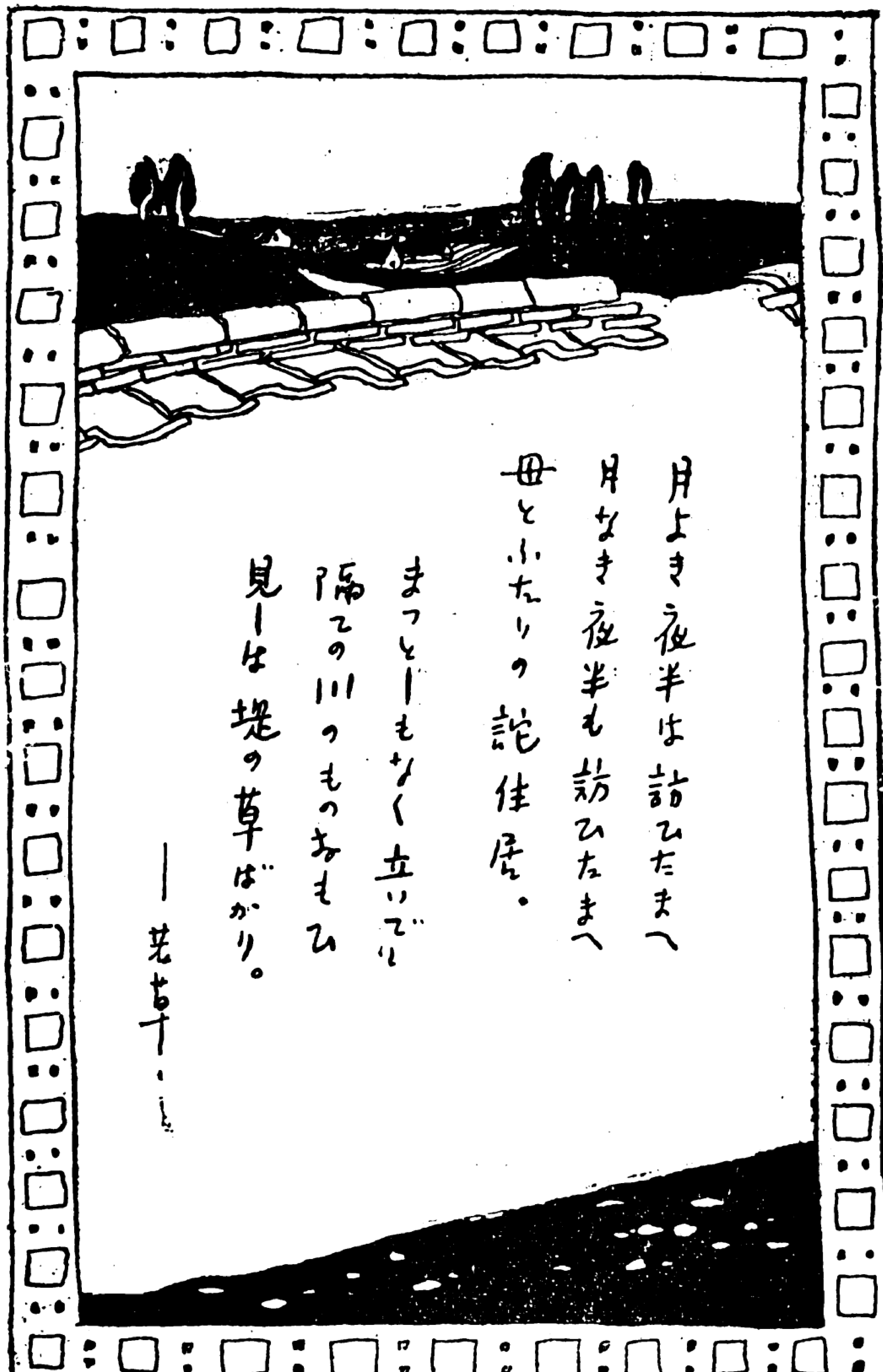
出て來た。妻は尋常小學しか卒業して居ない上に、一度習つた文字さへも今では殆ど皆な忘れて居るから、談話にした處が世間話以上のものを妻の口から聞くことは出來ず、音樂の心得までもと願はぬにしても新聞の一二面を讀んで分る程でないと、家の中に趣味もなく、交際上にも肩身が狹いやうな氣がした。「讀み書きも出來るし……」とは何の事だと、今更伯父を恨みもした。寢られぬ夜遲く迄こんなことを思ふた末に、朋友知人の上を考へて見ると、其の細君は皆な主人の歸宅を待つ間の來客の應對も出來る、議會の噂から文學の批評もする主人代理の用事も可なり辨ずる、そこになると私の妻は何と云ふ見すぼらしいものだらう、伯父の云つた通り氣質は良からうが、氣質ばかりで妻がよいとは言はれない、此の樣な女を娶る程ならば、友人が勸めた時になぜ女教師を貰はなかつたかと、こんなことを止めどもなく思ひ續けました。併し妻に對しては無論そんな素振は見せない。妻は朝早く起き出でゝ御飯の仕度をなし乍ら、友人の細君から教はつた内職に一生懸命である。清潔好きで掃除も行き屆く。私が外出するときには、衣服の着付から帶の締樣、下駄の世話迄チヤンとして送り出す。品物を買ふにしても餘程入用なものでないと、決して買ひ入れない。私自身の用品だと別に異議は挾まぬけれど、自分の物は滅多に買入れた事がないこんな風で、妻は只私の滿足を以て自分の幸福として居た。



斯くて同棲の日を重ねるに從つて、私の心の内の問題は、妻の智識を如何にして向上さすべきか、妻を人中に出しても普通の談話も出來、書物を讀んでも人並に解かるやうにするには何うすればよいかといふことになりました。其後二三の婦人雜誌を毎號求めて解らぬ節は說き聞かせ、教科書類を買ひ込んでは毎夜二時間位づゝ教へるといふ風にしたので、此頃では段々智識も增し、文字も可なりに覺えて來て、國元へ差出す手紙にも大分漢字が現はれ、文の行方もズツト氣が利いて來ました。そして、妻に一事を悟らしめ、漢字かなを教へる爲に割く夜の二時間は、私に取つて一方ならず樂みになりました。菊作りの骨折りも同じで、段々と莖が延び蕾になり花になると思へば、それを育て上げる心遣ひや煩勞は全く忘れるのでありませう。

今に至つて、智識にばかり富んだ、虛榮心の強い、傲奢な現代的婦人を妻としなかつた事を以て、一生の幸福と考へて居ります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



藻汐草

蜑乙女

縁日の夜店、足の止まるは植木屋、金魚屋、又是よりは蟲賣りの荷にこそ優しけれ。市松に張りたる障子に、灯はほの暗く、蟲籠あまた釣して聲さま〴〵に振り出でたる。

露ゆたかなる野邊を遠ざかり來ては、都の街の夜を鳴き佗ぶるやと哀深し。通りさしたる男連れの、些か耳貸して、行き過ぎがてらに梅干も候ぞと呟き去りたる、すゞろに百花園の夜も偲ばれぬ。

をかしきは田舍の縁日の夜店なり。植木は有らずして、種子物屋の店是に替りたり。札をよめば胡瓜の種、牛蒡の種、大根、三河島菜などゝ記されたる、又、金物屋の店ありて、鋤、鍬、鎌なんどの幅利かせ居たる、處がらなりけり。

○

物に參りて歸り來る途中、夕立に逢ひけり。惶てゝ知れる店に驅け入りつゝ、暫時の間の雨宿り、既に彼方に蒼空も見ゆなれば、傘借る迄も無しとて息ふ折柄、同じく雨に逃げこみ來りし男、肴入れし籠下げながら、少し休ませて下さいと云ひて傍に腰を掛けぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



店の主人の知れる人なるべし。お内儀さんの病氣は近頃何うかね。と聲高に問ふ。男、よく聞きとれぬ顏色して、是か、是は今夕河岸で買つて來たのさ、と答ふるに、主人は笑ひつゝも其儘默しぬ。

雨、又一陣、突然がりがり〳〵と音して、俄の雷鳴はげしく耳朶を劈く。男は平然たり。

主人、此度は耳に口寄せて、大きい雷だねわかるかい、と呼ばゝれば、男莞爾として籠の中を覗き込み、むゝ、三杯酢でなあ、と答へけり。

傍聞き、餘りに可笑しければ、そと其の籠の中窺へば、銀色潑々たる大鰯二十尾ばかりぞ入れられたりける。

主人のいひし、大きいとのみが聞えて、鰯の事と思ひけるならん。雷樣の三杯酢、三千年の過去にも未だ聞かざりけり。

○

此頃は何に限らず、物の師とさへ申せば皆『先生』の語、用ゐらるゝ。漢學の先生は昔より動かぬ處、お習字の先生お花の先生お琴の先生、是等は先づよし。仕立屋の職人もお弟子より先生と呼ばれ、其他・新俳先生、釋師先生、按摩の先生、まだ幾らも有るべし。

我はお師匠さんなる語が、何となく優しくてよしと思ひぬ。お師匠さんといへば。何處となく和らか味有りて、艶いて聞こゆ。其處を先生と呼びては、如何にも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



無骨に、野暮つたからすや。

三味線のお師匠さんには、八丈に黒襟かけた、緋鹿の子の帯の町娘の出入る格子先が聯想され、手習の師匠には、羊羹色の五ッ紋さすがに古りても、猶お人柄な浪人者を思ひ起さしめぬ。

○

さる御人の、時々首曲ぐる癖おはしけり。ふと物の折に、此事をば父に聞えけるに、然云ふそなたこそ、よく曲ぐるものをとて笑はせ給ふ。

自らは知らねども、さる折も有るにやと、それより兩三日心して見れば、成程成程よく曲がる首なりけり。

机に倚りてペンを走らする時はいつも左に傾ぎ、人に物問ふ時はいつも右に傾ぐ。柱によりて只假そめに謠曲などうたふ時、些か後に曲り、居眠りする時は必ず前に屈む。かく萬遍なく曲がる首の主が人の事笑ひけん。實に人の眼の塵をとる前に、先づ我が眼より梁をとれとは、かゝる事をや云ひけらしと、妙な處にて感ずりぬ。

○

都會の女の何處と無く美くしく、田舍の人の如何に飾りても、其の誇らし氣の顏付きには、あやなく田印ぞ印されけりや。

五尺が程の頭より爪先きまで、何處の差別にかくは分かたるゝならん。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



着物は唐棧でも、帯は博多のすつきりと、素足に下駄の意氣を見せたるは都の女。

顏の白粉美くしけれど、襟は斑濃に、絲織の着物 鰾の様なるをいみじうして、白足袋はけども下駄の面の潔からぬ。田舍の女なり。

こは人の缺點探したるには有らず、我自らを嘲けりしものと思せかし。

田舍娘嘯いて曰く、私が奥様に連れられて東京へ行つた時、きよとんとした顏付で、往來の彼方此方恍惚れるのがをかしき。田舍者よとて笑ひ給ひけれど、見給へ、東京の人とても此地に來れば、皆ぼかんとした顏して、海岸の其處此處佇みて眺め入り給へる、誰とても知らぬ處へ行けば皆左樣した者、と。

お道理乍ら、其のきよとんと、此のぼかんとは、其處の間に大きなる差別のなからじやは。

北雷子爵の婦人觀

或る雜誌記者が、田尻博士を訪問して、どうか貴下の婦人觀を承たまはり度いもので、とノートを出して待受ける。

奇拔な警句を吐いて、巧みに世間を諷刺される博士はおもむろに、

ムー雌の事かね、雌は先づ飯さへ炊て居れば無難なものさ。

我輩の婦人觀はこれだけだよ。

記者はあつけに取られて、早々お暇乞をして歸つて行つたといふ。

同家では、食事の時に一切女中の給仕をさせぬので、主人公初め家族各々小さい飯櫃を所有して、各自に盛つて召上る、女中はたゞつい立の陰にかしこまつて御用命を伺ふのみだといふ。試みに博士邸の臺所をのぞいて見ると下宿屋の樣に小さい飯櫃が磨き立てて並んで居るさうな、一寸風變つた御家風で御座いませんか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

假名はどうして上手になるか

星野天知

概して今の習字法は間違つて居ると思ふ。古來吾邦では餘程習字法は研究したもので、百日手習ひの法といふて大抵な人でも百日習へば出來るとしてある。今の學校では何百回も習字をして居るが其結果は中學卒業生で手紙も滿足に書けぬといふ有樣だから、言はずと習字法の間違つて居る事は知れる。

一體習字には筆法と結體の二種があつて、これを練習するには摸書と臨書の二法がある。先づ筆法で筆使ひや線の書き方を統一的に敎へる。それから結體で字の形を敎へる。これを敎へるにも運筆を慣らしながら字の形を目に覺えさせる爲めに寫して習はせる（これを摸書といふ）それから手本を見て習はせるやうにする（これを臨書といふ）かういふやうに順序があるのに今の習字は唯此臨書ばかりを用ゐて居る。從つて習字の心得が唯字の形許りを眞似る事を能として一意手本の字形に違はぬやうにと許り勤めるから手は延びずに萎縮する許りに成る。おまけに敎へる人が素人が多くて間違つた干渉をするから益々上達の見込みが無く成る。かういふ目下の有樣であるから皆さんが假名を習ふにも唯お手本を手に入れた許りでは習へません。先づざつと言つて見れば左の事が重もなる心得です。

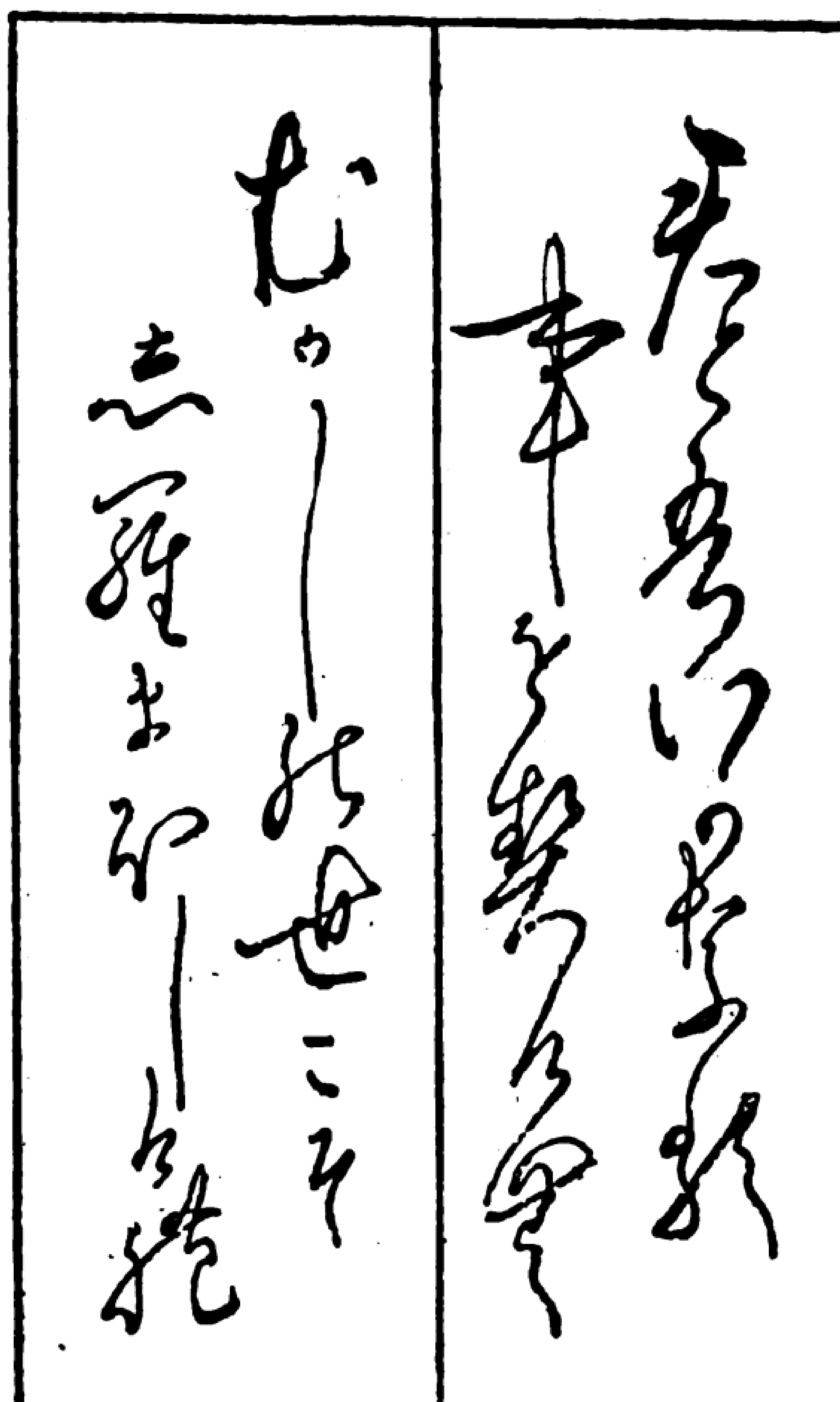
第一に　筆法　　第二に　字形
第三に　連綿法　　第四に　運筆の調子
第五に　墨繼ぎ

此五ケ條を目的として順々習へば意外に早く上達するもので、說明のない手本で獨習しても出來ません。出來たと思つても必ず間違つたものが出來ます。假令ば畫や音樂を習ふに畫手本や樂譜帳さへあれば獨習で出來ると思ふ人がありましようが、千人に一人の天才はいざ知らず、熱心に獨習するとしても必ず間違たものが出來るであらう。先づ常識では出來ないものと思

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふが當然だのに習字許りが獨習で出來ると思ふのが不思議ではないか。これは「如何にして書くべきか」といふ解說即ち草書の筆法なるものが隱されて仕舞つたので、現今の書家の遠覗眼（吾邦に在るを知らずに支那許りに溺れて穿鑿して居る眼）に見えぬ所から其敎授が獨習と大差ないので終に獨習思想が餘儀なくされたのであらう。

偖かなを習ふ要件として前に五ヶ條を擧げたが此五ヶ條をもう少し詳しく話して見よう。



第一の筆法

この筆法といふのは使筆法とか執筆法とか言ふ事で筆の執り方又は筆の使ひ方である。筆の執り方といふのは筆の持ち方と書く時の筆の方向をいふので、永字八法といふ楷書の筆法のやうに唯線や點の形許りを目的とするのではない。此線を現はすには筆を横に持つてゆくとか、此點を現はすには筆を斯樣に扱ふのであるといふやうに筆の方向と其操作方を敎へるのである。楷書は稍ゝ直立させた筆即ち直筆一法でも濟むが行書から草書、（假名も）に成ると大抵は四十五度の傾斜にして書くので、殊に線の向きに從つて筆の向け方に變化がなければ成らぬ。併し假名には四種の變化だけ習へば充分である。弘法大師の十二點筆法といふ有名な點畫法には筆の方向が五種あるが其一法だけは假名には不用である。此四種の筆構へを側筆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

法と言つて晉唐時代の支那で發達したもので吾邦へ傳はつたのであらうが書法には今日まで隱れずに行はれて居る。書家が大抵風致ある文字を書くのも一には誤解されたる直筆一法の書家の言に縛せられぬからである。筆を斜めにすればこそ柔かい面白い線も書けるし又其線に裏と表が現はれて一線中に堅い所と柔かい所も出來、墨の濃い所と淡い所も出來て變化が活動の集毛に據つて現はれるのである。楷書の筆付きで假名を書いては到底習へるものではない。

此筆搆への四種を覺えて點の種類と線の種類と凡そ廿種を現はす事が出來、結び方撥ね方の五種も覺えれば假名には充分であるから多くの暇はかゝらぬ。

第二の字形

これは人々に依りて好みが違ふから是非敎ゆる人の字形に從へといふべきものではない。字には必ず中心があり上下の釣合ひ左右の釣合ひがあつて外形を整へ内部には必ず線の集合する所があつて一定した疎密の度があるからそれさへ敎へれば、あとは目で好む形を選ぶも不可はない。併し衆目で好い形とするものには則るが早手廻しである。

第三の連綿法

これは續け方だが、一字づゝで獨立させた假名を續けるのに唯線をつなげれば良いといふものではない。續き點と言つて筆法がある位だから、其心得も習はねばならぬ。此雜誌の卷頭に唯此獨立體と連綿體とを並べて示して置く。又折があつたら詳しく説明するが、其續ける字の終りの線尾と續けられる字の始めの線と續き線の中頃に筆を稍々抜く所に注意すれば明かる。

第四の運筆調子

これは大切な習ひ方で今日は無意味に成つて居るが筆の運びには一定の緩急があるので字の死活問題は實に此練習の如何にあるのである。先づ筆の起し始めや廻す所止める所などは遲くし、引く線は早くするやうに習ふが宜しい、古人は小鳥が枝から枝へ飛移る風情に譬へたのは誠に當を得たものである。

第五の墨繼ぎ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

古來和歌の家では各々墨繼ぎ法を工夫して秘傳として居た位に重んじたものであるが、今日は色紙短册書きの他は全然忘られて居る。今日の習字は唯眞黒に習はせるのでペンキで書いた字のやうで字形以外に何等趣味がなくなつた。尤も筆が心を除いて刷毛書きのものに成つたから無理もないが、此水筆式（心がなくて水で洗つて用ゐる筆をいふ）に成つたのも書法湮滅して直筆刷毛書きの一法と成りて延いて脆弱な唐紙書箋紙といふやうな粗造の製紙法と成り、石に入る事三分木に入る事三寸などゝいふやうな入木道の理想は全然風塵の現象を現はしたのである。之を書法の末法と叫ばずして居られやうか。

さて斯くの如く墨も無暗に着けたり一字毎につけたりせぬやうにして濃い字の隣には淡いのが列ぶやうにして細字なり一行半又は半行位までは一着けの墨で書くやうに習ふのである。詳しくは追て述べる事にする。

先づ此五種の習ひ方に從つてゆけば獨習の説明書に付いて習ふも上達は疑ひなく、予は之を三十六回で教へ擧げるのである。

日本の女は世界一

歐米の美容術を視察して歸朝した北原十三男氏の話を聞くと顏の色の白さは歐米人の方が優れてゐるが、きめの細い點は日本人は世界第一である。歐米の女はきめが粗く顏の皮の伸縮が甚しいから白粉を塗つても迚も持たない仕方がないので化粧下にクリームを使ふてゐる。日本の女はそれとは知らず西洋物を貴ぶ慣習から眞似をしてクリームを塗つて顏面を損ふて得意でゐるは可笑しい話だ、日本の女は矢張り古來から用ゐた樣で顏を洗つて日本製の白粉を塗るに限る。歐米の女が日本の女より血色のいゝのは彼等は赤色白粉を用ふるからで、赤色は其の塗り方で顏の形を變へて見させるものだ、日本の女は兎角赤色を好まない。髮の毛もまた日本の女のが世界第一である、其の長さが歐米の女は五呎を越えないが、日本の女は八呎位のは隨分澤山にある、毛髮の性質も强いので歐米の連中は迚も髢を出してチヤンとしてはゐない。元來彼方では流行によつて頭髮を赤、白、黑等に染めるので之れが髮の性を惡るくする一大原因である、然るに何も知らぬ日本の女は西洋品と云ふので赤毛染香水を買ひ求めて知らぬ間に毛髮を赤くしたものさへある、西洋物を買つて却つて天性の髮を損ふより、鷄卵とか溫飩粉とかで洗ふのが尤も安全な方法だ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏の田園生活

龍岡すみ江

人爵も權勢も願はない。最後の望みは百姓である。

萬頃の豐田、風そよ〳〵と渡つて、頭の重い稻穗からは、とよ年の餘慶に飽いた群雀がパッと飛び立つと、あとには鳴子がガラ〳〵。

朝夕に畦を通つて見廻る時の其心持！　到底ダイヤの指環や、金鎖などの及ぶものではあるまい。

　　村雀おどろき立ちて小山田の
　　　　鳴子に殘る秋の夕風

腰折一首ものして主人から笑はれた事がある。

春は櫻が爛漫と咲き亂れて、菜の花は黃に麥は青く、處々には大根の白い花も混つてゐる。

畠の畔には果樹が植ゑてある。梅、桃、杏、梨、柿、林檎、栗などは言ふも更、枇杷もあれば、葡萄もあれば、無花果も、いゝ、まるめろも。

日向を長閑に群鷄が午を告げて、牛小屋からは、モーと平和な鳴き聲が聞える。

築山泉水の瀟洒たる庭園はないが、四つ目垣で菜園と隣つた庭には大きな〳〵池が眞中にあつて、緋鯉眞鯉は人の足音を能く知つて居る。

五月雨の時分になると岸の卯の花と花菖蒲とが近郷の名物と謂はるゝ程澤山咲く。

此池の周圍は、ずつと花壇になつて居る。幾十百種の花の中で、牡丹と菊とは、殊に毎年見事に出來る。其れは皆老母の丹誠になるものである。

家の後の納戸に沿うた處は丁餘に亙る竹藪で、年々筍の食べ飽きをして、尚若竹の藪鶯の聲を恣にして居る。

竹藪に續いた雜木林に、美しい新綠が滴らんとして、時鳥の聲を聽く頃は、お茶摘で中々忙しい。すると間もなく田植で見廻りやら、お辨當やらで、是れも亦隨分目の廻る思ひ。

見渡す限りの青田を吹いた涼風が軒の風鈴を靜かに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

揺ると、行水後の心も體も清々しく、蚊遣りの煙にむせながら、老母を中に家内中、涼み臺に團欒して、掘井に冷した西瓜を頂く時の甘味さ。蒸暑いお座敷へ窮屈に坐つて、アイスクリームなんか召上る方には、とても解りますまい。

瓜提灯の皮は皺びて、南瓜の籠に鈴蟲の音が優しく聞えると、柿が黄色になりかける。然し此時分は稲の花が咲くのに、兎角良くない風が吹きたがるので、隨分心配する事が多い。

五風十雨が順にいつて、稲叢が彼方此方に出來る頃は、栗が毎朝いつぱい溢れて、早生の柿はもう食べられる。



納屋からは夜遲く迄籾磨りの音がして、自分や女中共は夜業に忙しい。

木の葉がヒラ／＼舞て、老母の丹誠した菊の蕾が脹らむと、男共は毎日山へ枝を下しに行く。それが納屋から物置小屋、軒下に迄充滿になると、雜木林に狸の腹鼓など聽く夜もある。

納戸の天井には、種物の袋がズラリと行列して、最早ピユーッと來る風に誘はれて、サラ／＼と雨戸に霰の音をきく樣になる。

それから煤掃き、餅搗きなど〻、迎年の支度に忙しいのも束の間で、豐阪登る朝日の光穩かに、門の國旗を照らして、私共は又新らしく、希望と愉快とに滿ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た、勇んで働くべき年を迎へるのである。

誰しもお正月は、喜ぶべく、壽ぐべく、祝ふべき時ではあるが、自分等は年中忙しく暮す事故、お正月は殊に樂しく迎へる。

老母を筆頭に、下男下女に到るまで上下の差別なく、奥の座敷へ列んで、延壽の香高い屠蘇を汲む。

老母は早や喜壽にも近いのであるが矍鑠なほ壯者を凌いで、裁ち縫ひと園藝……殊に牡丹と菊とを非常に愛して、殆んど黒人の域に達して居る……が大好き。此老母の壽の猶百千年も長かれと祈り、家内安全、健康平和を祈つて、手造の濁酒に、下男共は正體もなく喜んで居る。

骨休めの二三ヶ月は夢と過ぎて、脊戸の柳に芽がふくと、下男は臨時の雇人と一緒に田畑へ出る。

春蠶の時期ではあるが、老母が蠶は大嫌ひなので、一切養蠶はしない。

食料品や其他の雜品類は、週に一度、娘と二人で馬車に乘つて町迄買ひに出かける。是が又頗るハイカッたもので、アラビヤ産の駿馬が、馭者代りの下男の一鞭で驀進に走り出すと、護謨輪の車臺は凸凹の非常い田舎道すら音もなく、一瞬千里と町へ着く。歸途の車上は、逍がの馬も重からうと思ふ程、荷物を積けて居る。

土塀で圍んだ屋敷は隨分廣いが、家屋は少さく眞中へ建つて居る。母屋と、土藏が二棟、木藏が一棟。それに召使共の住んで居る長屋が一棟、都合五棟。

母屋とてもさして大きくはないが、自分の從兄に建築科の工學士があつて、それが意匠を凝らして設計して呉れたのであるから、頗る完全に近い、和洋折衷の建物である。應接室、書齋、寢室などは洋風で、座敷、控室、老母の部屋が三間、それに居間、娘の部屋、食堂、衣裝部屋、納戸などは純日本式、浴室と化粧室と庖厨と便所とは、特に自分が考案して、改良に改良し工夫に工夫を加へた理想的のものである。朝々の掃除は娘と婆やの娘とで受持て居るが、硝子などに塵を留めた事なく、縁側などは鏡の樣に光らしてある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

月澄む秋の夜半、長閑な春の午後などに、花模様のガーデンを通つて應接室の窓から流れ出るピアノの音は娘の手すさびである。

水道では無いが、庖廚にも風呂には掘拔井戸があるので、水に不自由などいふ事は更にない。

電燈だけは町から引いて居るが、惜しいのは瓦斯がない事である。

誠に人爵も權勢も望まない。十年、廿年の後には、浮世を十里隔てたる田舍に、焦心らず、怠らず、自然の大氣に接して悠々自適、此樣に暮したいものである。

螢の生活

世人が螢の名所と云へば先づ以て、江州石山を第一に屈指すれど、其實此有名な螢は、多く石山地方に棲息せずして草津附近の守山邊に最も能く繁殖するものゝ如し。而して之れが捕り方は、先づ手頃なる一本の竹と袋を左手に、露繁き叢を右の竹にて輕く押分け、螢と見れば右手にて捕へ、之を袋へ入れずして皆口中へ入るゝより數多くなると共に、其發光は頰へ透き映り口中に白熱燈でも含み居る如くに見ゆ。尤も或る程度に至れば袋の口を開き、ハツト吐出す事云ふ迄もなきが、斯くては螢來い〳〵と呼ぶ事も出來ず、何となく氣持惡しう思はるゝ捕り方なり。

朝鮮に産する螢を藤吉螢、太閤螢等と云ふ。秀吉が朝鮮征伐を爲せしより斯くは命名せしものならん。現下は對島邊り迄棲息範圍を廣めつゝあり。或時何千疋となく此螢を捕り、雌雄を識別せしものありしに、悉く雄にて雌は一疋も見當ず。不思議に思ひつゝありたるが、一夜の事、野原に火の玉が轉つて居るとの注進に、驚き且つ怖れ乍らも近付いて能く〳〵見れば火の玉にはあらず、全く幾千疋の螢が團々と固り居る發光なりしかば、胸撫で下すと共に、更に怪訝の念起り、其一團を捕り深く研究せし所、之れは螢の交尾なりき。

而して其團々なし居るは雄螢にて、雌螢は中心に唯一疋居たるのみ。而も羽は無く僅かに蠢動するのみなれど、發光の強き事は普通の者の幾倍なるを確め得たり。つまり雌は飛揚出來ざる爲め、其強き發光にて自己の所在を雄に知らしむるものならんと云ふ目下本邦に發生する螢は略十四五種にて、發光するもののみにあらずして、光りを發せざる螢もありと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏季の衛生的食物と清涼飲料

櫻井ちか子

△消化のよいスープ

一體に夏は何んな壯健な人でも胃の活きが鈍くなる時でありますから、成る可く消化の良い淡泊な食物をとる事が大切であります。脂こいものや、しつこいものは欲しくないのみか、さう云ふ物は却つて胃腸を害する事があります。それ故に淡泊して而も滋養に富んだ食物を料理するのが宜しいのです。次に示すスープは大體その條件に叶つた物でありますから御紹介を致します。

△牛乳と卵のスープ

材料

玉葱―一個。バタ―茶匙二杯。牛乳―二合。饂飩粉―茶匙二杯。

卵の黄味―二個。

作り方

最初玉葱を細かく刻み置き、次にバタを鍋に入れて火にかけそれが溶けて煮立ちましたらその中に葱を入れ文火で十五分間位焦げぬ樣に煮ます。(この時瀬戸びき鍋を用ふれば底が裂れますからフライパンの清潔なのが宜しいのです)葱が煮えましたらば、饂飩粉を入れてかきませます。それから別に牛乳をあたゝめ熱きうちに前記の葱の中に入れ、かきまぜ乍ら一寸煮立たせて再濾となし、鍋に入れて火にかけて置きます。

別に玉子の黄味一個をよくほごして、その中に生牛乳を茶匙二杯位加へて又よくかきまぜ、そこへ前の熱き牛乳を注ぎ込み固らぬやうに交ぜ、よくまざりたらば一寸煮立せて、鹽を少々加へ味をつけるのです。又好みによりましては白砂糖少々を加へても宜しいのです。

それからパンを薄く切り表裏より狐色になる迄燒いたのを五分四方位の賽の目に切りそれを別のコップ或は鉢に盛りてその上に前記の熱きスープをかけて食するのです。

玉子がなめらかに交つた時は、味もよく滋養も多いので、疲勞した人や、暑さあたりの時、又は胃腸を惡くした時などには最もよい衛生的の食物です。玉子の固まらないやうに煮る事は、到底細かく說明しきれませんから、一度お試しなさい。但し熱い牛乳の中へ玉子を入れれば直ぐに固まりますから玉子の中へそろ〳〵かきまぜ乍ら牛乳を注ぎ込むやうにするのです。これはすべて玉子をのべる時に注意する點で必ずかうしなければならないのです。

△清涼飲料

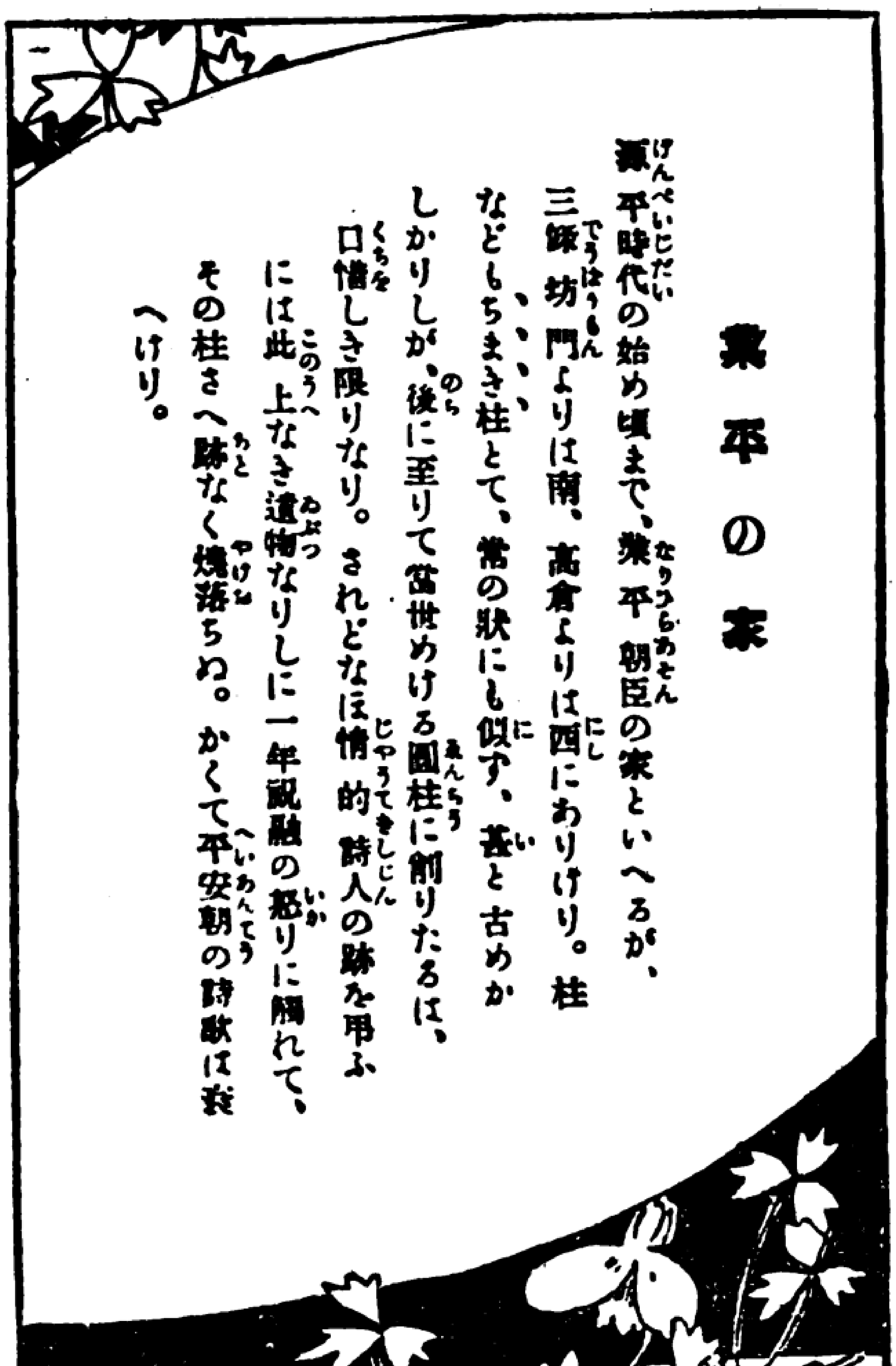
次に清涼飲料ですが、夏の暑い時はお客の顏さへ見れば氷屋へ馳せつけると云ふ有樣で、何處でも直ぐに氷を出します。これは一寸暑さ凌ぎが出來るやうなものゝ身體が熱い所へ急に極冷たい物を食べるの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ですから、衛生上宜しくありません。お客の方では折角わざ〳〵とつて與れたものを食べないでは、先方の親切を無にする事になると思つて、迷惑でも飲みます。ですから氷を出すなら一寸前に聞いてからにした方が宜しいと思ひます。暑い時は却つてお茶の方が宜しいのですが、併し矢張り冷たい方がよいと思つたら麥湯なり、サイダーなりを冷して出したらよいでせう。ちよい〳〵客のある家では豫じめこれ等の物を用意して置く必要があります。序に二つ三つ家庭に於て極簡單に出來るものゝ作り方をお話しませう。

△レモン水

日本ではレモンは高價ですから、其の代りに橙酢か或は夏蜜柑の汁を砂糖水の中に入れて冷して飲むと一番簡單です。又レモンが得られるならばそれを皮も實も一緒に二分程の厚さに切り砂糖を入れて乳棒か匙のやうな物でよくすりつぶしそれに水を入れ又氷の塊などを入れて置けばよい香がしておいしいものです。



△果實水

前のもやはり果實水ですが、これは桃や林檎を水を入れて煮、その煮汁を漉して砂糖を加へて後煮たゝせたものを冷して飲むのです。

△廢物利用の果實水

桃や林檎の皮を前記のやうにして煮出しその汁に砂糖を加へれば矢張り前のと同樣に飲めます。但しこれは果物の皮をむく時にあらかじめよく洗つて置く必要があります。

△水飴の製法

もち米の粉一斗を洗ひ、甑にかけて蒸しあげ、桶に移して麥芽三升をよく碎き細末にしたるを加へ、又温湯二斗を入れ攪きまぜて絹布にて漉し、再び釜に入れて煮ること凡そ六時間にして毛篩にて漉すなり、甑の作りは方三尺五寸、高さ二尺八寸位にて釜中に井筒のごときものを入れて其上に竹簀を敷き布を敷きたるものなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

料理食品文盲手引（七）

小泉迂外

△刺鯖

彩絲の笹に風吹く七夕の星祭も、はやきのふと過ぎますと、八日から十三日の盂蘭盆前の間に、生身魂の祝と申して、此世に長らくあそばす御兩親に物を供養して、其御壽命の幾久しく幸多かれと祈る風習がございます。

それで此の生身魂の供物といふのは、古來から必ず刺鯖ときまつて居ります。之れは生鯖を脊開きにして鹽につけ、一片の頭を一片の鰓につぎ入れ、二尾を重ねて一刺として蓮の葉に包んで上げますので、也有の『百魚譜』にも、

鯖は初秋に祝はれて、空也の蓮の葉に登るは、後生善處の契も頼もし。

などゝ記されてございます。又大祇の句に、

さし鯖や袖とおぼしき振合せ

とあるのは二尾重た形容を申したのでございませう。今日の家庭では多く此れを盂蘭盆の魂祭に併合して行はれるやうで、又刺鯖は手のかゝるといふところから其代りに金魚を二匹ガラス鉢に放ち、簡單な生身魂をつくる風も流行つてまゐりました。

△蓮飯

蓮飯には二た種ございまして、一つは生身魂の供物に用ゐるので、一つは新涼の食品として侑められるのでございます。



供物の方は前の刺鯖とおなじく祝義に使ふのでございますが、近頃では亡き魂を祭る盂蘭盆の供養にも用ゐられます。これは糯飯の蒸したのを二枚の蓮の葉をもつて包み、四角の形ちにつくるので、帶

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

成功の捷徑は

■現代の婦女界に偉大の信用を有する理想的通信講義■

女子手藝講義録

毎月一回 一日發行

貴婦人、令孃、技藝科教員の安心して信頼し得る家庭の顧問

會員募集

只今入會すあるり速にに

◎講義課目◎

▲裁縫科 和洋各種
▲裁縫小物科 各種
▲袋物科 各種
▲編物科 各種
▲組糸科 各種
▲刺繡科 各種
▲纏繡科 各種
▲造花科 花卉果實
▲細工物科 各種
▲割烹科 和洋支那
▲手藝圖畫科 各種

學科壹ケ年修了

▲入會規定内容見本進呈▼

■普通科……は初めより順序を立てゝ親切叮嚀に講義す
■高等科……は普通科より繁雜なる各科目を講義す
■講師……本會の講師は東都に於ける有名なる各學校優秀なる講師と都下有數の技藝家擔任す

●會費● 普通科……▲半ケ年分 金一圓七十錢 ▲一ケ年分 金三圓二十四錢
高等科……▲半ケ年分 金一圓九十九錢 ▲一ケ年分 金三圓七十八錢

賞品 ▲會員の製作品は審査批評の上賞品を授與す▼

■講義法斬新なれば複雜せるものと雖も容易に理解し得るは本會の特色なり

發行所 東京日本橋區角 大倉書店 振替貯金 東京二三八番

入會申込所 申込支部 各地書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女(ゐの二)

窪田通治氏著

評釋 伊勢物語

新刊

特色

一、伊勢物語の全文を掲げて精細に校訂し漢字を多くし、心持よく讀み易からしめた。
二、而して各段につき一々『懇篤なる註釋』を加へて、且つ著者が獨特の清新にして、優婉を極めた麗筆を以て『趣味深き批評』を加へて居る。
三、伊勢物語は源氏物語と併稱されて情緒纒綿、柔き感じを有して居る傑作の一つである。
四、而も『源氏』は大に過ぎて讀み終るに時間を要するが、『伊勢』は單篇で現代的である。
五、平安朝時代に於ける西鶴物とも言はるゝ伊勢物語は艶麗なる評によつて玆に復活した。

橋口五葉畫伯裝幀
四六判函入頗美本
定價金八十五錢
郵稅金八錢

發兌 東京神田表神保町 振替東京四一二三 中興館

京都帝國大學學生監 山本良吉君編纂

修書目答問

社會組織變化して思想動搖す此時に際し青年學生の理想を高め其信念を確くするの方法如何、これ京都帝國大學生監が内外の碩儒大家に發せられたる問題なり、之に對し世界各國第一流の學者よりして續々解答を寄せられたり其中七十餘篇を擇みて之を編し、同大學以文會より弊館に出版を命ぜらる、方今修養の聲のみ徒らに高けれども舊式の方法は現代を滿足するに足らず、現代青年の修養指針たるべきものたゞ此書か……………

菊判洋裝
正價三十五錢
郵稅六錢

東京本町 博文館 振替口座東京二四〇番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中元進物によく又御婦人の避暑に必要



◎新案登錄 **都はり箱**

都はり箱は體裁圖の如く中を仕切り其內に起伏伸縮自在なる金屬製の術臺を取付け箱底より踏板の出る裝置にして又五色の絲は自動的に廻轉し、はさみ、こて、へら、二つ尺度、つま形、そで形、針、針差し指貫に至る迄裁縫具が一切入れて有りますれば御婦人方の避暑旅行の御携帶に頗る便利で又御孃樣方の學校携帶家庭敎育用として重寶なるが故畏も高貴のお方の御買上を賜りたれば各位幸に一個を購ひ膝下に置れん事を希ふ

定價

漆塗金蒔繪特製	金貳圓五十錢
仝　上製	金貳圓
神代杉金文字入上	金壹圓五十錢
仝	金壹圓
クロース洋本形	金壹圓

郵税市內無料外拾貳錢臺清朝樺四十錢代金引替十錢增し郵券一割增し

製造發賣元　東京市淺草區西三筋町四十三番地　**安井都堂**　振替東京第二一五七六番

賣捌三越白木發明館博品館日本便達社其他文具店にあり



色黒人ソバカス ニキビ

にて困難の士女は佛國名優サラベルナード孃秘傳最新**白色劑ホーム**水を使用せられよ

其効驗確實忽ち白色艶美の幸福を得らるべし◎定價半月分八拾錢一月分一圓五拾錢郵券代用壹割增◎注文の有無に不拘郵券四錢封入申込あれば最新美容のしると云ふ白色術を親切に述べたる白色秘法書送呈

東京下谷中根岸四　**愛隣堂**

新輸入

無痛無害　奏効確證

アザ

ホクロ入墨　ソバカスイボ　除去保險附

從來醫療賣藥にて効無く困難ぜる方は種類と寸法及年齡患部の模樣を記し申込あれ適應の藥劑を送附す●●藥價送料共小一圓中二圓五十錢大四圓五十錢切手代用一割增着金直に發送す(詳細は說明書にあり)

●最新輸入　有効確證　**オフベス**

本液は**ニキビ**を去り如何に皮膚の黑き人にても色を白くして**キメ**を細かに艶を出し肌を軟らかに皺を伸すの特効ある事を保證す

小瓶壹圓　大瓶貳圓　送料共

神戸市布引通一丁目十一番地

石井銀水堂藥院

女(ろの三)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子大學家政講義

編輯所 東京小石川區高田目白臺 日本女子大學校通信教育會

家庭の和樂と幸福なる生涯は家政講義に得らるべし、開講以來空前の好評を博したるは本講義の優秀なる所以なり、講述が如何に懇切に平易に實際的なるか、科目の選擇と解說の方法の如何に注意せるか、先づ內容見本によりて本會の趣旨と講義錄內容の一班を知られよ。

◎會員募集

會則附き 內容見本 申込次第進呈

學科目及講師

○修養談 ○修身講話 ○敎育 ○實驗心理學 ○兒童研究 ○法制大意 ○經濟大意 ○社會衛生 ○家庭理科 ○家事

諸名士敎育大家 成瀬仁藏 麻生正藏 文學博士 松本亦太郎 高島平三郎 法學博士 奧田義人 文學士 中隈敬三 醫學博士 三宅秀 近藤耕藏 井上秀子

○作法 ○日本料理 ○西洋料理 ○裁縫手藝 ○挿花 ○家庭園藝 ○自然研究 ○文藝 ○美文評釋

小笠原淸務 笹木幸子 手塚かね子 櫻楓會研究部 兒島晚翠 農學士 佐々木祐太郎 大橋ひろ子 文學士 武島羽衣 文學士 下村莢

○科外講話 女子演劇歌劇結婚問題家庭衛生問題等

◉將來家政を執り良妻賢母たらんとする婦人は本講義を讀め

文(ろの五)

發行所 東京小石川 精美堂

振替口座東京二八三八

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

博文館編輯局編纂

明治四十五年

夏期休暇 小學生日誌

洋裝菊判 石版刷表紙 頗美本各冊 口繪寫眞版一枚、挿畫數十個挿入

（定價）

▼尋常科第三學年用 ▼同 第四學年用（紙數每冊四十二頁）正價各一冊五錢五厘 郵稅各一冊二錢宛

▼尋常科（第五學年用 第六學年用）▼高等科（第一學年用 第二學年用）（紙數每冊四十二頁）正價各一冊七錢 郵稅各一冊二錢宛

特別割引

尋常小學三、四學年用

五十冊以上	一冊送料共	金五錢八厘
百冊以上	一冊送料共	金五錢六厘
二百冊以上	一冊送料共	金五錢四厘
三百冊以上	一冊送料共	金五錢二厘
四百冊以上	一冊送料共	金五錢
五百冊以上	一冊送料共	金四錢八厘

尋常小學五、六學年用 高等小學一、二學年用

五十冊以上	一冊送料共	金七錢貳厘
百冊以上	一冊送料共	金七錢
二百冊以上	一冊送料共	金六錢八厘
三百冊以上	一冊送料共	金六錢六厘
四百冊以上	一冊送料共	金六錢四厘
五百冊以上	一冊送料共	金六錢二厘

注意

一、臺灣、樺太、朝鮮、清國、送分は……一冊に付三厘增しの事

二、內地代金引換小包送分は……一冊に付三厘增しの事

但し臺灣、樺太、朝鮮、清國行、代金引換小包送りは……注文者の負擔を輕からしめんため前記三厘增の外割增を爲さゞる事

昨年は中途にて賣切りた

本年は最も

速に注文

せざれば又賣切の恐あり

東京日本橋區本町三丁目 博文館 振替貯金口座東京二四〇番

女（ろの六）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

博文館編輯局纂

明治四十五年夏季休暇用

女學生日誌




各女學校
高等小學校
生徒夏季休暇中必需書

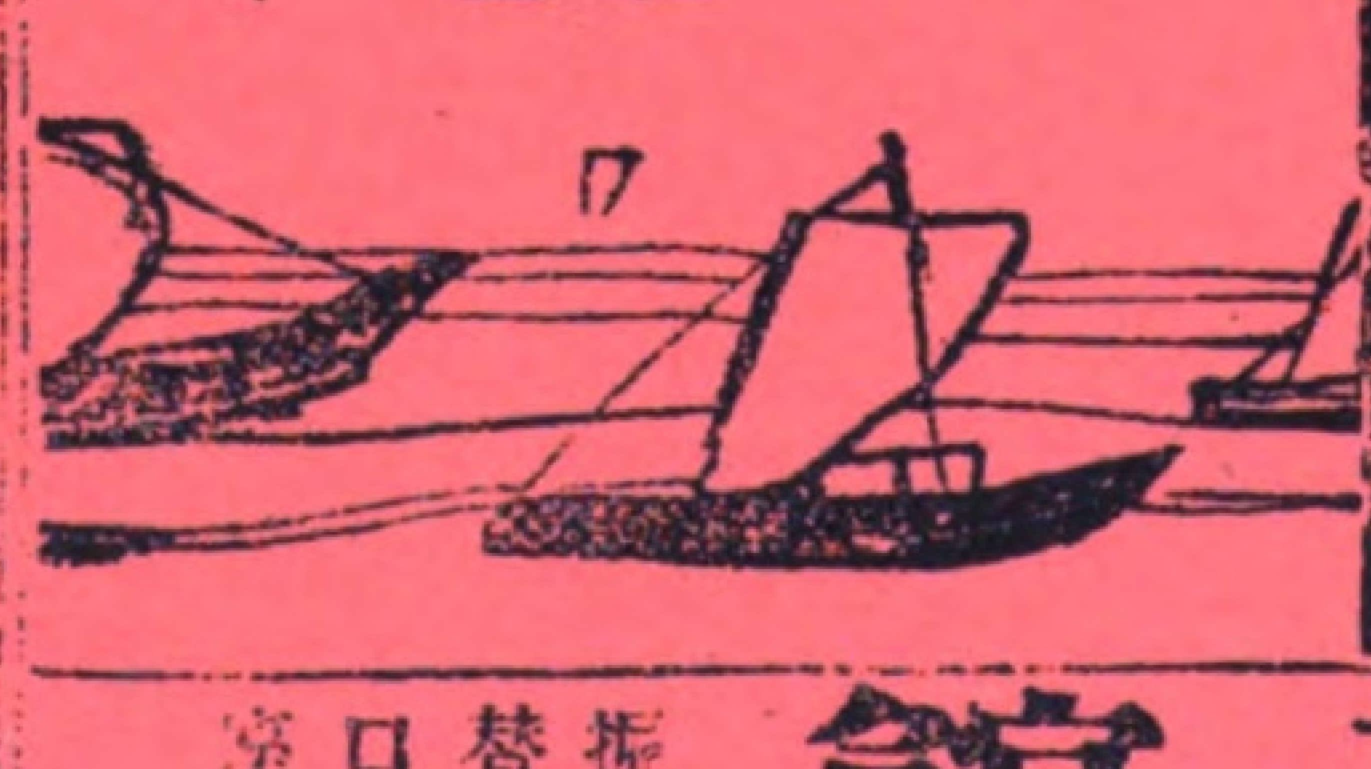
高等女學校高等小學校に於ける生徒の夏期休暇中の日記用として本書を發行し來りしこと數年幸に江湖の好評を博し殆んど全國の各女學校及小學校女子部より採用の榮を得たり本年もその内容に大改訂を施し近く發賣せんとす幸に倍舊の好評あれ

各册洋裝菊判石版表紙美裝
紙數五拾頁　石版口繪挿入
(甲)三、四、五年用
(乙)一、二年用各一册
正價各金拾貳錢郵税各金四錢

割引
▼五十册以上　一册送料共　金拾一錢五厘
▼百册以上　一册送料共　金拾錢五厘
▼二百册以上　一册送料共　金九錢五厘

注意
一、臺樺清鮮送分は：一册に付三厘増の事
二、内地代金引換小包送分は同三厘増の事
但臺樺清鮮行は代金引換小包送りは注文者の負擔を減する爲前記三厘増の外割増爲さ事となる

女(ろの七)




東京日本橋本町三丁目
博文館
振替口座東京二〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



レーベン

レーベンの特色と効能

レーベンは常持醫學士の發見に係るものにして米食人たる東洋人種に適合すべく和漢洋法を折衷して得たる植物性の藥物にして「リンサン」の多量に加味せる絶好の良劑なる事は醫學博士岡田、森戸山腦病院長、等の證明によりても明白なる事實なり。

醫治効用 は回性、興奮、鎭痙の三作用を兼備せる最新式の錠劑なれば腦、神經衰弱、頭痛、眩暈、逆上、便秘、不眠ヒステリー等を治癒し心神爽快元氣旺盛ならしめ殊に陰萎遺精、早漏夢精、生殖器神經衰弱等にて交接不能となり人生の快樂を奪はれて長へに悲歎憂愁の泪に暮るゝの人は皆何れも腦神經衰弱其婦人にありてはヒステリー患者なればなり故に以上記載の其一を患ふる人は最後の試藥として

レーベン百錠乃至二百錠を試みよ其効神速に顯はれて平靜和樂の健康體となり、得も云はれぬ愉快に其日を送る事を得べし、夫の大黄の下劑を主とせる粗藥にあらず、論より證據今直に試みよ、●本病患者には腦神經衰弱自ㇾ療法と精神療法とを發行所へ「ハガキ」にて申込次第進上す

定價		
三十錠 三十錢	五十五錠 五十錢	百錠 八十五錢
二百錠 一圓六十錢	四百錠 三圓	八百錠 五圓五十錢

各藥店にあり無ば發行所へ全國送費無料信用なき藥店にて他藥を賣付んとす注意

發行所
東京銀座弓町電話京橋三〇八番 振替東京七七七七番
大阪市安土町電東三二ㇾ六番 振替大阪三四四番
弘濟藥院
中南定太郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は觀音草で結ぶのが古式でございます。地方では何んと稱へますか明りませんが東京では蓮の飯とよんで居りまして、わざ〳〵自身手をかけずとも、十三日の朝には市中到る處の菓子屋で賣り出しますから自由に得られます。

もう一つの蓮飯は紫蘇飯などのやうに、溫かき飯に蓮の葉を細く刻んで味をつけたのを振りかけたものでもと普茶料理から出たものですが一般の家庭に用ゐても面白いものです。



現今でも上野池の端にある氷月といふ汁粉屋では、毎歲不忍池の蓮花が開く頃になると、此の飯をつくつて鬻ぐので、客はほの暗い朝まだきより、之れを求めに爭ひます。

白蓮の香に醉ひながら、心地よい曉方の風に寢亂れ髮を嬲せつゝ、白玉の露を踏んで此家の暖簾をくゞり、此の輕淡な名物に親しむのも又一興でございませう。

△茹蟹



ある酒席で、赤々とした大きな蟹を茹で、銘々盆で侑め、わざと箸は添えずに豆腐一丁を青磁の深鉢に盛つて別に紅木綿の布巾を添えて客の前に配りました。

此の仕うちには一座も一向解せないので、正客の一人が其譯をきゝましたところ、主人は平氣で、蟹は指で召上る物ですから、箸をつけず、後ちに其指をお洗ひになる爲に豆腐を差上げ、布巾はお拭きになる時赤き汁の汚れを消す爲め殊更赤きを擇んだ次第でございますと答へたさうです。

抱一の句に、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

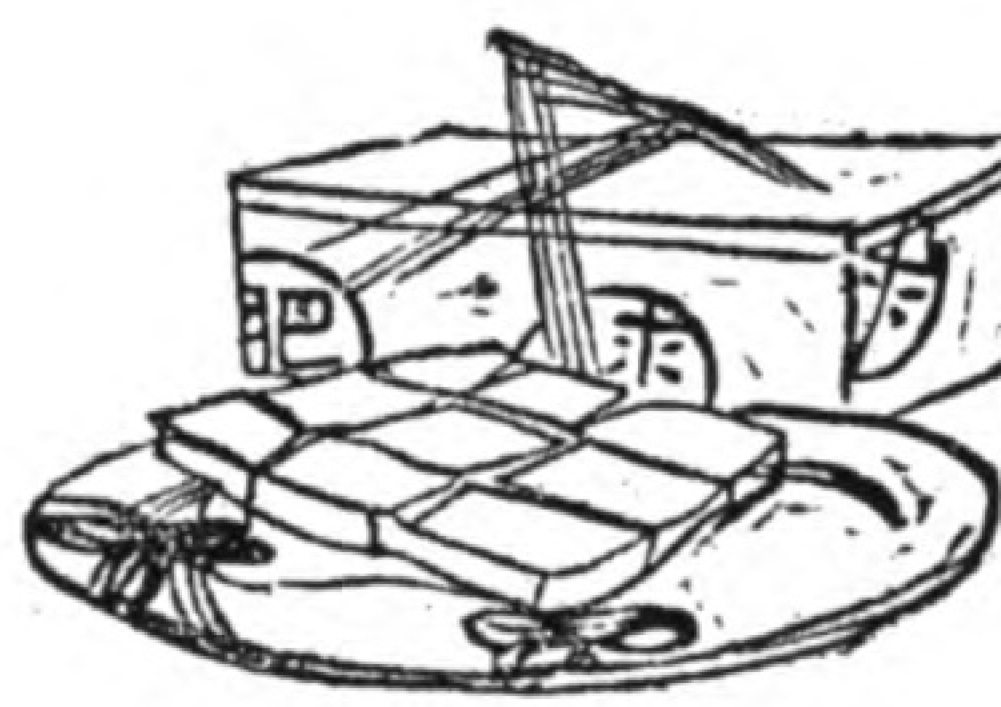
茹蟹も出るや　座敷も大江山

といふのがございますが、斯かる風情を詠んだのでございませう。男子方なら差支もありますまいが、御婦人には隨分迷惑千萬な御馳走でございませう。

△求肥

夏は餡の入つた餅菓子よりも、求肥のやうな輕い菓子が歡ばれます。殊に草求肥などは、よい茶席にも侑められて結構に茶を喫る事が能きます。

之の求肥は昔は求肥飴といつて却々由緒のある食品で、江戸で是をつくつたのは今から三百年も以前の事でした。それは其時代乃ち寛永の頃に、幕府の上使で松平出羽守が京都に上りました時、始めて之の菓子を召したところ、流石に大名中の茶人ですから、すつかり其の風味に感服して、いたく意に適つたと見えて、間もなく江戸に歸るが否や直に江戸中の菓子屋を尋ねて求肥をさがさせましたが、當時の江戸はさまで菓子が發達してゐないので一軒も之れを販つて居る店がありませんでした。



しかし如何にも其味が戀しいので、遂に大名の勢力を以て、京都から求肥に丹練な中島浄雲といふ職人を呼んで、之の菓子をつくらせ、それが爲に相當の扶持と家を拜領するといふ迄になりました。現時から申すと隨分馬鹿氣た道樂ですけれども、昔の大名などゝいふものは皆斯ういふ風でございました。



此浄雲の末裔は、維新前まであつた神田鍛冶町の丸屋播磨といふ菓子屋ださうで、只今でも輕燒屋が多く丸屋と名乘て居るのは此家から分れたからです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△沖なます

紅塵萬丈の都を離れて、避暑に、歸省に、悠々異つた趣味の食品をさぐるのも愉快な事でせう。

夏季の實習は山よりも海に材料を多く得られます。殊に青葉の島嶼が油繪のやうに浮いて見える駿相もしくは房總邊には自由自在に奇抜な調理が行はれませう。

奇抜と申せば沖膾などもたしかに其一つに數へられませう。之れは内氣な御婦人には能きますまいが、船を沖まで漕ぎ出し鯵、鯖、鰹等の類を漁り乍ら、其魚が胴の間でピチャ／＼跳ね躍るのをブツ／＼切つて、爼上でトン／＼糊のやうになるまで叩いて、用意の酢味噌を溶いて其儘食くので眞つ青な海風が絶えず浴衣を拂つており／＼波飛沫の颯つとかゝるところは、古人の



沖膾箸の雫や淡路島　言水

の趣味も想はれて、其甘味さには誰方も頰を頽されませう。

△洗ひと刺身

夏は一見涼しげなところから、刺身よりも鯉か鱸の洗ひの方が歡こばれます。尤も昔の方は、生き魚はただ其溌剌として瀧にうたるゝ姿をよろこぶので、いろいろに手返しをして保育されるので、却て味は落ちてしまふから、新らしい刺身の方が遙に甘味いなどゝ言はれますが、今日では反對に却て刺身に用ふ魚の方が氷やら冷藏庫やらで貯藏されますので、味の抜け方が早うございます。

洗ひは勿論でございますが、夏季に刺身をつくりますには、必ずガラスの簾を皿に敷く事が肝要で、之れを忘れますと魚の血が自然流れて美觀を殺ぐやうな場合もございます。筆者が嘗て下谷の老舗割烹店に客となりました折、料理人の不注意から簾無き刺身を出され

しかも其皿の一端には氷塊が二三片乗せてあつたのですからたまりません。酷暑の折とて見る〱うちに氷は解けて、メジの浮島、鯛の浮島が眼のあたり出來て遂に箸を下だす勇氣も失せてしまひました。

△刺身庖刀

太平の夢穏やかな江戸時代のうちでも、とりわけ文化、文政時代の人心には歡樂の空氣が漂ふて見えます。通人も多く輩出いたしました。從つて料理といはず、菓子といはず總ての食品が發達して、舌の趣味が贅澤に走りました。八百善、平清、駐春亭、百川等の名ある割烹店が前後して興つて、其精を競つたのも此時代でした。京傳、三馬、種彦等の戯作家が、其作物の中に必ず料理通を得意氣に喋々と振廻しましたのは今日の弦齋氏以上でした。

これも其時代の話です。ある日抱一上人が、八百善に駕をとゞめて初松魚の刺身を食され料理人を招いて斯ういふ會話が交はされました。

上人『今日の刺身は、とぎ立ての庖刀で作つたな。

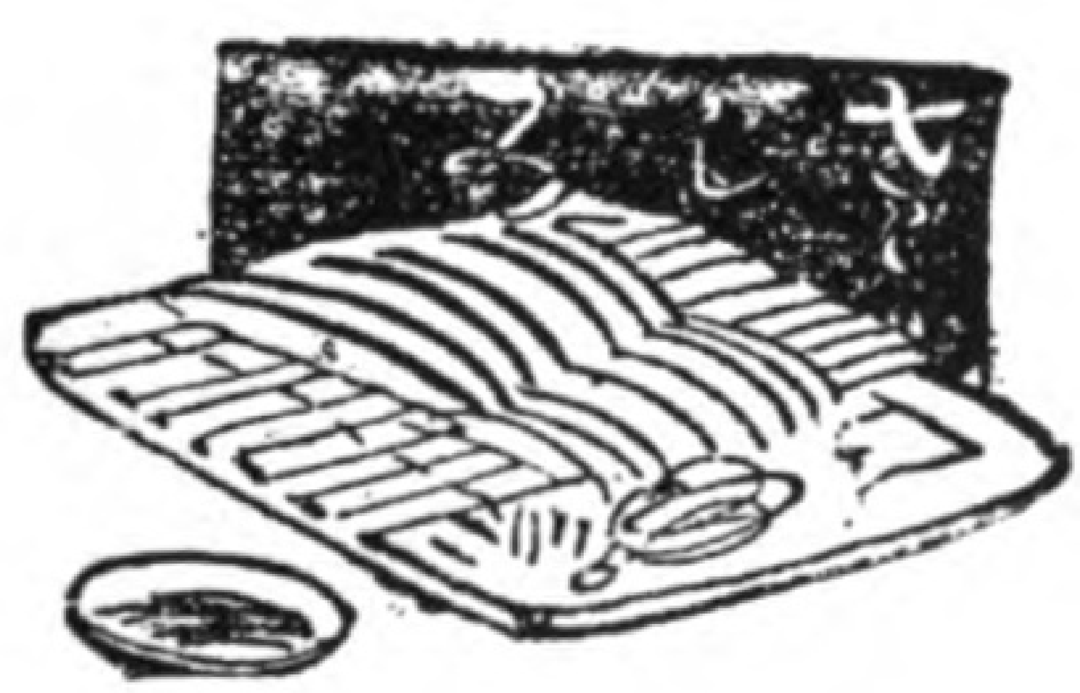
料理人はいぶかしみ作ら

料人『いかにも御意の通りでございます。

上人『だから困るね。

料人『困ると仰せらるゝ譯は、何故で。

上人『まあ御聽き、折角だが此刺身は砥の香が移つてるから食へない。そこで私の考へるには、どうだい刺身庖刀を磨いだら、一度井中に釣るして置いて、暫く經つて砥の香が失くなつてから用つたら良いと思ふが。



料理人は感嘆して膝を叩き

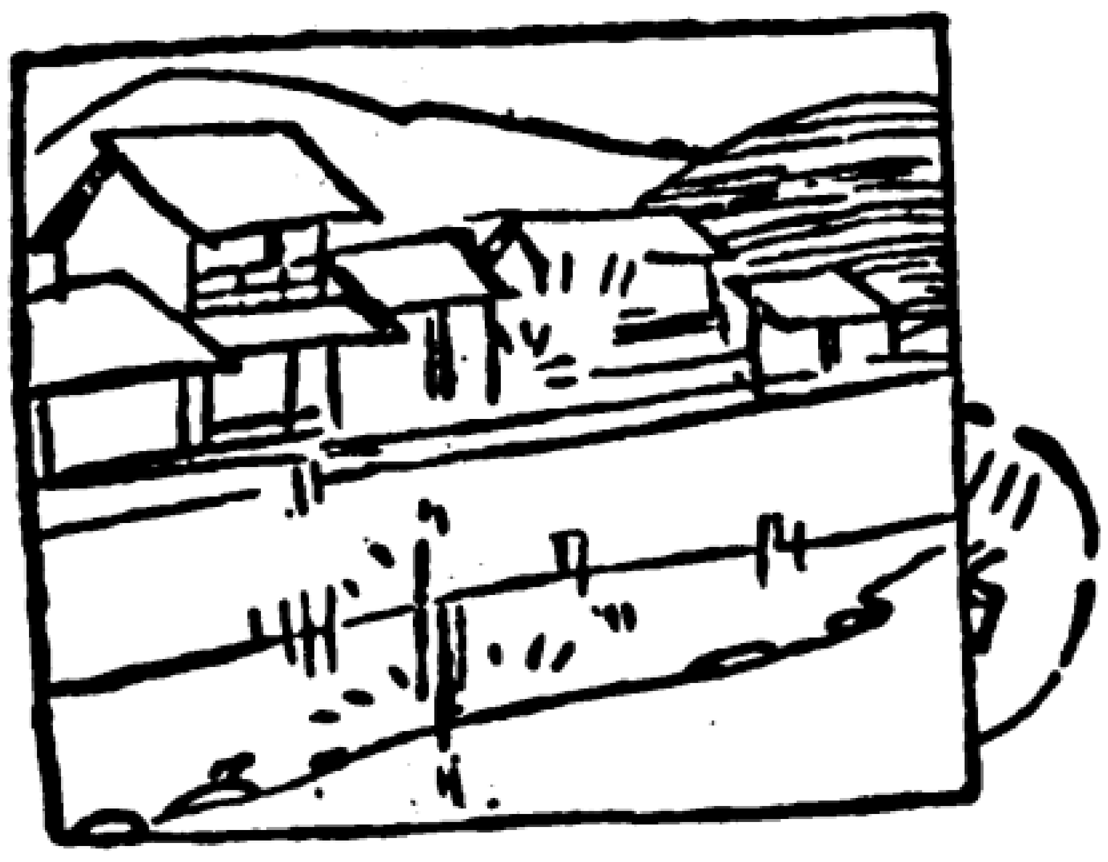
料人『イヤ恐入りました。良い事を伺ひました。以來注意致しませう。

鳥渡した事ですが、敬服すべき着眼だと思はれます。現時の割烹店は概して趣味に乏しく、刺身も蒲鉾も鳥も青物も一つ俎上でつくる料理場を、若し上人に覗か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せましたら何んと言はれるでせうか。

△鱧



東京ではあまり歡迎されませんが、關西地方では鱧といふと非常に喜んで食きます。此魚は一體泥海で捕れますので、從つて紀州の加田と申す泥海の産が本場として賞美致されるので、大阪へまゐる上等の鱧は皆此の地で捕れた鱧でございます。

それで鱧の良否を鑑別いたしますのは、魚の頸筋の所に爪形を入れますと直ぐ彈いて跡のつかないのは良いので、爪形が殘りますのは俗にシマルといつて惡い魚といたします。大阪人は一體に鱧自慢で、他所の土地へまゐつても決して鱧を賞めて食きません。生きた良い鱧は大阪に限るものと信じてゐるやうです。

それに就て爰に滑稽な話があります。寔に落語のやうですけれど故久保田米僊翁からの實話ですから嘘ではありません。

御承知の方もありませうが、京都の木屋町は維新の頃迄は表側が新屋が軒をつらねて、其家と家との間に狹い路次口を造り、奥深い所に玄關を設けて、川に面つた所へ座敷を作つて貸座敷といたしました。之れを借りる人は土地の者か近國の出養生の者でした。

此木屋町のある路次に貸座敷が二軒列んでいましたが、其一方は江州の人で極く質素に出養生に來ていました。又片々の一方を借りたのは大阪の華美な商人でした。毎日派手に遊んで暮らして居ります。隣りづからですから、近江の人は何時も大阪人の御馳走になつて居りましたが、或日の朝です。江州の人は例の如く爽の加茂川へ出て朝手水をつかつて居りましたが、不圖隣りと自分の座敷の間の杭に白い長いものが引つかゝつて居るのを見付けて、早速引上げて見ますと二匹の鱧でございました。加茂川に鱧とはをかしいと思ひました

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、平常隣の人の御馳走に許なつてゐるから、今日は此鱧をつかつて一番返禮をしませうと、急に鱧一式の料理をつくつて隣りの人を招きました。

隣りの大阪人は招かれて之れを戴き、之れは誠に結構な鱧でございますが、よく京都にもございましたな實は私も昨日大阪から京都の鱧は否けまいと二匹送つて呉れましたが、身がしまつて居たので裏の加茂川へ棄てましたが、どうも京都にこんな良いのがあるとは驚きましたと感心して、頻りに之の鱧の出所を尋ねました。

江州人は之れで初めて先きの鱧の本體を知つたので可笑いやら、不思議やらで、實は斯く／＼と拾つた譯を話しましたら、オヤ／＼其れでは彼の不味い鱧でしたかと大阪人は喫驚したさうです。

之れは一夜加茂川の水に浸つたので、不味い鱧の味がすつかり良くなつたのでございませう。

長壽者衛生法

出來得るかぎり屋外にいで、ことに日光に浴して多くの運動をなし、常に深くかつ規則たゞしく呼吸するやう注意すること。

食事は一日一回肉食をとり、他は鷄卵、穀物、野菜、くだもの、健康なる牝牛の新らしき乳（これは胃のゆるす限り多量をもちゆべし）等を用ゐ、かつよく食物を咀嚼すること。空氣の流通あしく、また蒸氣などにて熱き場所を避くること。

日々入浴し、かつ心臟にさはらぬかぎりは一週間乃至二週間に一回づつ蒸風呂に入ること。早寢早起すること。

氣孔多き下着（木綿類が最もよろし）、氣孔多き衣服を着し、其他身につくるものはすべてゆるやかなること。

暗く靜かなる室に窓を開けはなちてねむること。その睡眠時間は六時間乃至七時間より少なからず、七時間半より多からざるべしたゞし婦人は八時間半眠るべし。一週に一日だけは全く休んで讀み書きといへども爲さゞること。

つとめて精神の刺戟をさけ、かつ既にきまつた事柄、或は避くべからざる將來の出來事に對しては成るべく苦惱せざるやうにすること

また不愉快なる事をいはず、かつなるべく斯かることを聽かざるやうにすること。

結婚すべし。寡婦或は鰥夫は再婚すべし。酒類及び煙草は勿論、茶、珈琲など節制すること。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

丁字の意匠



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

食卓小話

むかし倫敦の片田舍で、牛肉屋の主人が一頭の犢を買出しに近所の市場へ出かけて行つて、犢を買つてそこの懇意な靴屋の店先に其の犢を繫いで置いて一寸用達しに行つた。するとこの靴屋の職工に剽きんな者があつて主人に向つていふには若し私に一杯の酒をごつて下されば、私はきつと彼の犢を途中で盜んで來ませうといつた主人は笑つて、それは一段おもしろからうといつた。そこでこの職工はかねて、牛肉屋が其の歸り道に八九丁先の森の中を通らねばならぬ事を知つて居たから、其者より一と足先に駈けて行つた。扨て牛肉屋はかゝる事とは夢にも知らないで、犢を牽きながら、彼の森の中を通つて行つた。ところが新らしい靴が一つ道端に落ちて居た。けれども片方の靴だけ拾つたところが何の役にも立たないと思つたから、其儘にして行過ぎたが、又十町ほど先に、今の靴の片足と見ゆる所の靴が落ちて居たそこで牛肉屋は考へた。成ほど、前のを拾ひ合せれば丁度一足になる。捨ては置けぬと牽いて居た、犢を傍の樹に繫いで置いて、自分だけ前の靴を拾ひに十丁ほど後戻りをした。其の間に例のいたづらの職工はそつとこの犢を牽いて別の路を通つて首尾よく店へ牽いて來たから主人は大いに感心した。

牛肉屋はかゝる事とは知らず靴を拾つて、元の處に歸つて來ると繫いて置いた犢が見えないので大騷ぎ、あちこちと尋ね廻つたけれどもとんと見つからないから、據なく、再び市場に歸つて來て、例の靴屋へ立寄り、とんだ事を仕出來して犢を竊まれちまつたから又是から一頭買つてかへらればならぬと、愚痴をこぼした。すると亭主はまじめ腐つて、市場に行くまでもない。幸ひ我家に犢が居る、これをお買ひになつてはどうだ。牽出して見ると、別

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の犢と寸分違ひない。そこで値段の押合となり、牛肉屋は前のよりも少し痩せて居るから一割にと安くして買つて買取り愚痴をこぼしながら歸つて行つた。

職工は又亭主に向つて、もう一度あの犢を竊んで來たら今度は何な褒美に與れるかといふから、今度首尾よく行けば、葡萄酒三本をごらうといつたので、大急ぎで別の路を取つて林の中へ驅けて行つた。牛肉屋はつぶやき／＼悔しさうに前の犢をぬすまれた處へ來たところ、二三丁先の方で遙かに犢の叫き聲がするから、偖ては前の犢が居るのだと、今牽いて來た犢を其邊の樹に繋いて置いて、逸早出して聲の方へ走つて行くと、其聲は次第／＼に遠くなるので、ます／＼あせつて追駈て行つた。犢の聲を眞似た彼の職工は別の路を廻つて來て、又繋いであつた犢を牽いて大急ぎで歸つて來ると、亭主も大いに喝采して其の惡戯の成功を賞賛して止まなかつた。其の中牛肉屋は失つた犢か林の中に紛れあぐんで元の處へ歸つて見ると、二度目の犢さへ、又も竊み去られたので、今日は如何なる惡日ぞとすご／＼歸宅せんとしたが、注文の品であるから、これなくては歸られずと、又元の惡意な酒屋に立寄る。牛肉屋は委細な話して大に落膽する。そこで亭主笑ひながらその犢ならばこゝに在りとて一頭曳き出し、始めて其顛末を打明け、話したから、大笑になつて、とう／＼葡萄酒三本奢らせられて大に喜んで歸宅した。

△鐵　面　皮▽

少し暖たかく成ると酒の腐敗したのを持つて來て困ります、或る日小言を云ふと、それでは新らしいのと御交換もつしませう、あれはさうつとして置いて頂きませう、又餘所樣へ判らん樣に混ぜて賣りますから、と云つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

溫泉場より

柏原峯子

△第一信

出立の折には御忙がしいのに、わざ〳〵御見送り下さつてほんとに有難う御禮を申上ます。母様も始終御機嫌で大變な御元氣、海上も誠におだやかで油を流した様に、まるで部屋の内に居るも同然、夜は月冴えて、漁船のこゝかしこにいさり火焚く有様、申し様のない絶景で御座いました。

神戸では稲荷の爲二時間餘も時間があつたので、母様と一緒に上つて楠公様へ御詣りをし、居留地の方をぶら〳〵して、名物の瓦煎餅買つて船へ歸りました。甲板の上から陸の方を眺めると、夕方の海岸通りも、山手の方も、靑き、赤き、無數の電燈が輝いて居る。港内碇泊の大小船舶にも點燈される。開港場の夜景は又格別なものと思ひました。お風邪を召してはと、母様にはコートをお着せ申てしばらく御運動になりましたが。瀬戸内海に入り、高松、多度津、今治を經て伊豫の高濱港へ着いたのは、午後の三時頃で御座いました。

今治へ船が着くと、いつか御兄様から御話しにうかがつた、名物鶏卵饅頭よろしか、の賣子が四五人も入つて來てうるさい程すゝめました。丁度雀の玉子程の一寸食べられるもので御座います。

病後の御容體いかゞと、御案じ申た母様は船中でも至つて御壯健で、一向平氣でいらつしやる。一等室に七人ばかりの客の內、女は私共一行と他に女學生らしい方と三人切りで御座いましたが、此人は今治へ上陸されました。

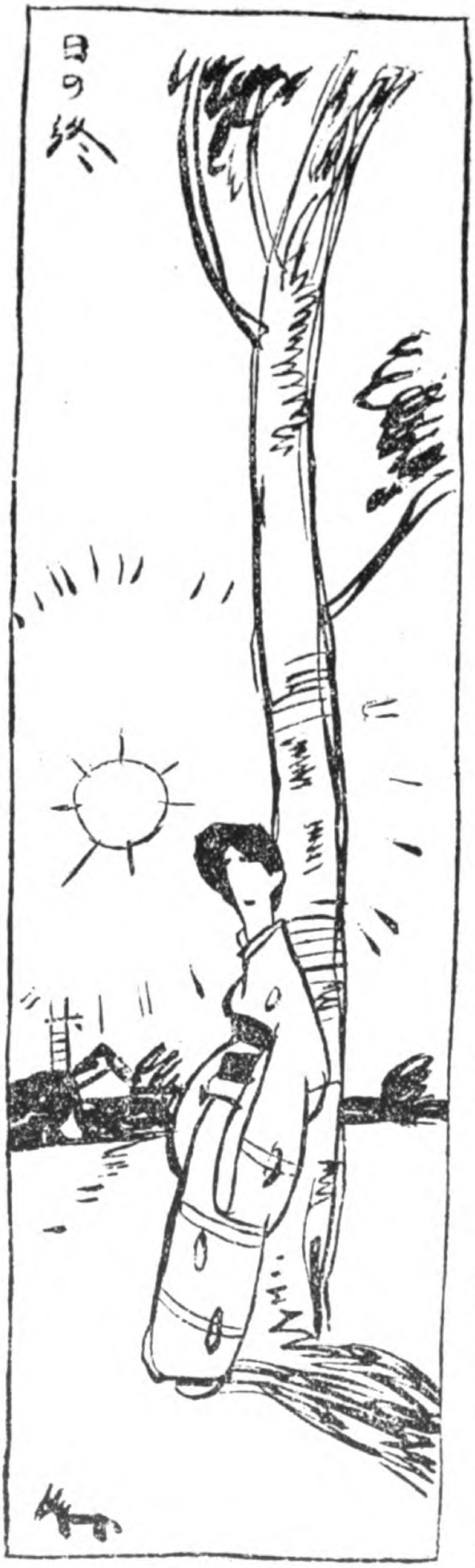
食堂は甲板の上で風光明媚の瀬戸內海、松の緑、色濃き大小無數の島々、沖のかもめの飛びかふ有様や、外國通ひの大汽船、帆をはらませて走る船をながめながら、食事をするのですものほんとにおいしう御座いました。

殊に御姉様に御目にかけたいと思つたのは、與居島

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

といふ島で、周圍七里ばかりあるさうですが、一名を伊豫の小富士と呼んで居る。美しい島山で春は桃や林檎の花が綺麗で、それが熟するころは小船に乘つて行つて好みに委せて慰み半分に、鋏で切る事も出來るのださうです。海岸の久保田といふ家で暫時休息をして電車位しかない輕便鐵道の汽車に乘つて、三津、古町の兩驛を過ぎて松山に着しました。

此驛は一昨年とか改築されたとかで、構内もかなり廣く新築だけに清潔で御座います。丁度こゝで檜垣先生に思はず御出合申ました。先生は只今松山の女學校へ御奉職になつて御在ださうです。御姉様にもよろしくと仰せになりましたが、ゆつくり御話しもうかゞひませんでしたけれども、また道後で御目にかゝるからと御別れ申ました。



尤も道後溫泉へは、古町驛から道後線に乘り替へた方が便利ださうですけれ共、市中を見物しながら行かうといふ事になりましたので、松山驛からいやにがらがらと音ばかりする人力車で、長町大街道などを通

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りましたが、此邊は松山目拔きの場所だと後できゝました。

一番町驛から又可愛らしい汽車で、十分餘りもして道後の旅館へ着し、旅衣脫ぎ捨てゝ早速一浴を試みました。溫泉は透明で多少硫氣があるのださうですが、ほんとに氣持がよろしう御座いました。

御約束通り繪葉書を求めましたから、早速御送り申上ます。御兄樣初め皆樣によろしく。別して若ちやんにはよろしう御傳へ下さい。今度の溫泉行きの御供の事を、土佐堀のお尙さんに御話し申たら、大層うら山しがつて御出でしたから彼の方にも面白い手紙差上て益々うらやませて上る積りで居ます。

母上樣からも皆によろしく、留守中何分よろしく、そして君子に風を引かせない樣にと、仰しやいました……先づはおさらば。

△第二信

母樣は只今湯に御出になりました。今日は溫泉に就て聞た事を御話し申ませう。昔し一羽の鷺が水溜りの樣なところに毎日下りて來て少時く休んでは、何處へか飛んで行くのを、其邊の畑を耕して居る農夫が面白がつて見て居ると、鷺は追々元氣付て來て勢よく飛んで行つた。百姓達が其處へ行て見れば水溜りのやうなところに湯が湧き出て居る。それがそも／＼溫泉場の起りださうです。それ故か周圍の鐵柵に白鷺が小首傾けて立つて居る。

浴室は大約十もあるのでせう。其內でも玉の湯と云ふ屋根なども檜皮ぶきで御殿風の一棟は、金枝玉葉の方々が御成りの折に、召す湯桶のあるところ、又新殿といふのが御休息の間で、畏くも故小松宮殿下閑院宮殿下が御成りになるさうです。

拜觀料五錢を出せば案内して呉れます。後藤大臣の來た時には留湯をしてすゐ分大騷ぎだつたと宿の主人が話して居ました。

其外は大同小異で、地獄の沙汰も金次第で金さへ餘計に出せば上等の御客樣で、二階から浴衣で下りて來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る。三助が流して呉れるといつた有様です。湯槽は花崗石で、掃除が行屆いて居るのでさつぱりと誠に氣持がよろしいのです。今一つ養生湯と云ふのは下が砂利になつて居るので、多く皮膚病の人が浴るさうですが、湯代も一番お安いのですから、客筋もよろしくないと申て居ました。女中の申すに夜の一時頃には湯を皆流し出して、湯槽の大掃除をするから其頃に行つて、湯桶枕で湯口の下に寢て居ると、瀧に打たれるやうで心持がよいのみならず、大層よくきくとのことですが、寢坊な私共にはそんな勇氣はありません。

それに只今は、廣島山口あたりの島方の人々が、夜具から世帶道具迄脊負ひ込んで來て安宿に一ぱい詰込んで居て、毎日茶番式の事を演じては人を笑はせて居ます。その上湯番の爺さんは有名な小言屋と來て居るので、それ濡れ足で上つていけない。手拭から雫がたれる、などと田舍の人と見ると、餘計な世話燒き、小言博士と綽名の付たのも無理は無い。

そして湯瀧に打たれるのにも順番があるのですが、それが又一奇觀で、今迄雀の樣にしやべつて居た婆さんが、湯口へ行くと、さも有難さうに南無大師遍照金剛と云ひつゞけて居るのはまるで以て水行よろしくの有樣。旅客は諸方からの寄合とてお國訛りの丸つ出し一寸其口吻をまねて見ましせう。

歯を染めて眉を落した中老の人は『廣島の人もうすみんさつたかの、まあゆるりとおかゝりやへゑ、お勝さんわれがの着物わの、三十番でがんすで』、と大聲に叫ぶ。

松山出身の細君脊に灸の跡の多いのを見て、『まあ澤山なやいとじやなもし、よつぽどお惡かつたので、御座んしよなあ』『ありやの、痛んでいけまへんけんの、灸もしたのでがんすけんど、いつちの、溫泉がようがんすで』『さよかいなもし、そして見ると地の者は仕合せで御ざんさない、あもし』

こんな有樣。

道後から七丁ばかり東に弘法大師開基の石手寺があ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りますが、四國八十八ヶ所の札所であるので、四國遍路が澤山に入り込んで來る。道後に來れば必ず一浴する。殊に時候がよいので此十日程は多いのだと申て居ました。

母樣は只今御歸りになりましたが、下へ百二歳の老嫗が梨を賣りに來て居るからと仰しやるので、あやかる爲に行つて見ました。白髪童顔とは此事でしよう。少々お高いやうですけれど可哀さうだからといつて五つばかり求めましたが、番頭はあれは百二歳でも何でもない。うそ吐きです。御客をあてこんでよい加減な施行に預ろとて婆の奴、毎日まゐりますので、と申ましたが何れが眞か存じませんが、行商人の多いのも一つの名物だと思ひますよ。これから入替りに一風呂致してまゐります。左樣なら

△第三信

御手紙有難う存じました。出立後のうちの樣子若ちやんのおしやまなど、目に見る樣で御座いました。母樣も大層およろこびになり、御手の方も追々とよろしくなつたから、皆さん御安心下さる樣にと仰しやいました。

道後町はね、商業地ではないので御座います。松山市が愛媛縣の首都で半里足らずの間を數回となく輕便汽車が往復してますから、運動かたがた買物は松山でする方が經濟だと申て居られる方もあります。ですから見渡したところほんの旅客向きの雜貨店、名物の燒物賣、藥店、菓子屋を取つて除けたら、後は旅館ばかりと申てもよろしい位です。

宿屋の食事は隨分まづい方です。人の噂では、道後の一等宿屋の食事は、松山の二等位のところだといふ事です。けれ共嬉しいのは、お魚が新鮮で、皆活き活きして居ます。母樣は御好みで毎日小鯛のお刺身を、召上つて御在になります。

それからお姉樣の大好物甘酒屋が御座います。けれども小包で送る譯にもなりませんから御話しだけで失敬致しませう・・・。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

昨夜は隣室の御婦人客に誘はれて、汽車で松山へ活動を見に行きました。いつこも同じ活動の大流行御定りの壮士劇月魂や、いろ〳〵の茶番、いつぞや角座へ御一緒に行つた時の貯蓄債劵一萬圓などが寫つたのは面白う御座いました。

松山の各呉服店でも、夏物の大賣出しに競つて店頭の装飾をする。東西屋が三味線太鼓で赤や白の幟をおし樹て〻、樂隊附のブーカブーカドン〳〵で市中を廣告して居ます。

女學生の頭は束髪が多い樣に見受けますが、身なりは割合に質素で、手織の縞物などが半分以上それに多くは素足に日和下駄で靴の方は餘り見受けません。リボンなどは學校で禁じて居ると宿の娘さ



んの話し。

今朝小包を二個發送致しましたが、一つは名物の籠細工で、菓物を盛るのによいと母樣の御見立て、一つはこれも名物の溫泉煎餅、これは名物でもおいしう御座います、君ちやんがこれを一枚持つたら、お顔が隱れてしまふでせう二罐ありますから御序に土佐堀の花子さんに上て下さる樣御賴み申ます。湯桁飴は御隱居所へ差上て下さい。御面倒ながら御願ひ申上ます。母樣の御傳言は、手の節々の痛みもすつかり取れたけれ共、又出て來る譯にも行かず、折角だから今一週間ばかり湯治したいと申されました左樣なら。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山名氏清の妻



△掌中の手紙

山名氏清の室は、明德の戰破れて氏清討死のころは堺にありしが、此地敵陣に近しとて郎等輿にのせて退く途中内室は輿の中にて自害せしかば人々大いに驚き介抱し藥などすゝめていたはりけるところへ、子息左馬介、同七郎落のびて此處に來り母の手疵をいたはらんとしけるに母怒りて目通りを許さず、局をもつていはせけるやう、人として勇なきは士ならず、孝なきは子ならず何とて父と共に死せざるぞとて以の外に怒り途に死しけるに手より放さず握りたるものあり、取りて見るに夫氏清陣中より送りし手紙にて奧に歌あり『とりえずはきえぬと思へあづさ弓ひきてかへらぬ道芝の露』とあり、そのそばに此歌をかきそへありしは、大丈夫の女なりけり。

辨の內侍



△龍門の庵室

辨の內侍は吉野の御所の官女なり。高師直の爲めに奪はれ武士ども取りかこみて立退くところを楠正行御所へ參る道にて行あひあやしみとがめて彼等を打散らし內侍を取返し御所へ奉りければ、帝叡感ありて內侍を正行にたまひければ、正行辭して『とても世にながらふべくもあらぬ身のかりのちぎりをいかで結ばん』とよみて內侍をかへし奉り、其後四條畷にて討死しければ、辨の內侍も世をのがれて尼となり、大和の龍門といふところに庵室をしつらひ、心靜かに先帝の御菩提をとぶらひ、正行のあとを追福して此歌をよみ一生を行ひすましけるとなん。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勝頼の室



△形見の黒髪

武田勝頼の室は北條氏康の女なり。天正十年三月勝頼天目山にこもりて討死の折柄、内室の方へ使者をやりて申しけるは、一門の運命今日かぎりなり、御身は女のことなれば小田原へ送り届けまゐらすべし。此後は如何にもして心安く世を過ごしたまへとありしに、内室之を聴き、一河の流れも他生の縁、さゝの一夜の情けだに命を惜まぬは妹背の中のならひなりとて、わろびれもせず。文こま〴〵と認ため、黒髪を斬つてまきそへ、奥に此歌を書きて使者をかへしけるに、間もなく敵勢押よせ矢玉雨の如くなれば附添の人立のかんとすゝめけれども、今果つる身に矢玉も何か恐ろべきとて靜かに自害して果てけるとぞ。

△隅田の藻屑

遊女白糸は新吉原山口屋の抱へなりしが容儀双ぶものなく、又敷島の道に達し風月をもてあそび、情のこゝろ淺からず、鳥井某と深くかたらひ、妹背の約を結びしが、田舍大盡のかよひて急に身うけせんことをはかるに白糸詮方なく鳥井がもとへありしよしを委しく認ためたる文と、かたみとして白無垢に此歌を書きしるして贈りしが、いかゞして忍び出でけん、隅田川に身を沈めて果てけるとなり。なみ〳〵の女にても、かかる志の堅固なるは稀れなるに、遊女としては珍らしきことなりとて、時の人々云ひあへけるとぞ。

遊女白糸



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

太田源吾の妻



△去年の今日

太田道灌が江戸の城に住みたりしころ、息源吾におくれてはや一週忌にもなりしかば、道灌過ぎこしかたのことども思ひつゞけて歎きのあまり『うらめしくまたなつかしき月日かなわかれしこぞのけふと思へば』と詠みけるを源吾が妻之をきゝ、此歌をよみて悲しみけるとかや、古歌に『としふればわすれ草もやおひにけんこぞのけふ日ぞ思はれもせず』とよみし歌はあれども、それに引かへ忘るゝひまもなきゆゑ、思ひ出すこともなきなりと、貞節の心ことばにあらはれて　あはれふかくぞ思はる。

たね女



△亡父に給仕す

たね女は遠州中泉より一里程南岡田村理右衛門の女なり。父理右衛門常に佛法に歸依して三十歲のころより毎日阿彌陀經を讀誦して怠らず、常に砂を以て念佛の數を取り、六十歲の秋、病ひなくして安座の儘果てけるはめでたき往生なりけり。女たねは孝心深く、父の死後にも朝夕膳をそなへて給仕すること在すが如く、又毎日墓所に詣づること風雨の日と雖も怠ることなし、誰教へねども和歌をよくし、父の七七日の追善に此歌をよみけるに、此事遠近にきこえて竹內三位惟常卿も殊に立給られ、深く賞美したまひけるとなん。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

島原の大橋



△寢覺の初雁

大橋は郡島原の遊女なり。よろづみやびを好み、文の道にも委しかりける。さばかりの女なれば、終のよるべもなく、身まゝになりたらば尼にならんと思ひ居りしかども、老いたる母を養ふために、栗原一業といふ人に身をまかせけるが、其家まづしかりければ手づから雜事をまかなひ、源氏物語を讀みながら飯をたきなどせしとなり。年經て島原のほとりを通りける時。「よそに見て」の此歌をよみけり。又書もよくかき風流たぐひなし。自畫の賛に『忘るなとちぎりし春は夢なれや寢ざめとひくるはつがりの聲』又海邊の雲を詠み『和田の原波もひとつに苫白き雲をのせたるあまの釣舟』

△乞食に衣を與ふ

慈門禪尼は江州彦根武井某の女にて容顔美しく志もやさしかりしが、父に早く別れ悲みのあまり剃髮して一枝和尚に仕へ、里根といへる山里に庵室をいとなみ、座禪のひまに歌をよみけり或時その山里に大雪降りたるあした此歌をよみたり。又ある時物詣での歸るさ道の側に乞食臥して寒きにたへず顫へて居たるを見て、着たる衣を皆脱ぎてあたへ、其身のさむきをもおぼえず『わび人のあはれは餘所に過ぎれどもおほふにせばき袖はうらめし』とよみて行過しとなり。

慈門禪尼



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

末葉



△去るを止むる歌の徳

末葉は深草のほとりのものなりしが、越路の人を聟となして久しく住みけるが、男いかなるゆゑにや、一先づ別れて本國に歸らんと其用意せしかば末葉いたく歎きとゞむれども、更に止まるけしきもなきに、末葉心によろこばず、男なだめて、やがて又歸り來んに、しばしの名殘りなれば腹立ちそむきたまふなといへば、末葉此歌をよむ男限りなくあはれみ、田舍へ下ることを思ひ止まりて再び睦しく住み榮えけるとなん。心定まらぬ女は浮たる舟の浪にたゞよふ如きものなるも、貞節ある女は、彩衰へても心の誠は人のあわれみを受け幸ひあるものなりとぞ。

左衛門の局



△形見の黒髪

左衛門の局は後醍醐天皇の中宮にみやづかへして、容色すぐれしのみか、よろづにかしこき女なりければ、黄門藤房卿なれそめて、深くかたらひしに元弘の亂れに是非なく帝の御供して笠置に赴きたまふ時藤房卿鬢の髮を切り、『黒かみのみだれん世までながらへばこれを今はのかたみとも見よ』と一首の歌をそへる、局これを見て歎きに沈みしに、折から東の兵、御所に打入り狼藉に及ばんとしければ、局はすかしのかれて、藤房卿の歌に此歌を書きそへ、形見の髮を持ちて大井川深き淵に身を投げて果てけるとぞ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大磯の虎



△形見の蘆毛

大磯の虎は遊君なれども十郎祐成に身を任せて他に心を寄せず、祐成狩場にて果し後三七日の忌日を迎へて箱根山に到り、別當行實坊に於て佛事を修し、唱導の施物に形見の蘆毛馬を引きて亡靈の菩提を弔ひ剃髮して姿をかへ、祐成の最後の場所に來り、露と消えにし人の名殘を尋ぬれば、尾花が末に秋風の吹くばかりなりとて此歌を詠じ、越方を思へば涙の先立つに『うき世ぞと思ひそめしに墨衣今又露の何とおくらん』と詠み、佛道に入りても欣求淨土の所願たぐひなかりしは珍らしき女性なりけり。

△立かへる白波

初君は越後の國寺泊のものなるが、伏見院の御宇大納言爲兼卿罪ありて佐渡の國へ配流の時、此寺泊の驛にてしばし風を見合せ逗留しける砌、此初君を側近く召使はれしが、程なく佐渡に渡るにのぞみ初君別れを惜み、此越後すらも鬼住む國といひならはせしに、かゝる高貴の御身として海を隔てし御すまひ、思ひやるだに御いたはしくて此歌などぞ詠み出でけるに、此歌玉葉集旅の部に入れられ、今も越後泊り宿町の中ほど南側に此歌を彫れる碑殘れり。

初君



巴里のホテル生活

歌川若栄

館外のやかましい車の音で眼がさめて、眠い〱眼を擦りながらピロの下に入れておいた少さい時計を探り出して見る。オヤもう九時二分過ぎ……、マア飛んだ寢坊をして仕舞つた。急いでベルを押す。早速ウエターが來た。珈琲を命令けて、又二つベルを押す。下女が來たから顏を洗ふお湯をいひつけて、それでもまだベットの中に……マア寢坊ッたらない、自分でも愛想がつきる。デモ仕樣がない、昨夜は大變おそかつたから……。ノックをするからカムイン、珈琲を持つて來た。今日は大變わるいお天氣で……と云ふから外を見ると、銀絲亂れて窓を打つ。ほんとにいやになつて仕舞ふ、毎日々々雨が降つてばかり。日本だと花時雨とか、春雨とか云つて、お庭の新芽が濡れ色を見せるのも、何やらシックリとして氣持の好いものだけれど、いくら世界の都、花の巴里だといつてもちつとも風情なんかない。雨が降れば用が便じ難いばかり、眞實にクサクサして仕舞ふ。手紙が三通、珈琲と一緒にお盆の上に乘つて居る。この一通は英國のモリソン先生から、明後日の日曜日に遊びに來ませんかと、先週巴里に來たことをお知らせして來た。ア丶東洋美術批評家として有名なアーサー、モリソン先生、眞實に御親切な方、いつも〱孫か子の樣に此の二ケ年の旅情を慰めて下さつた。若し日本にお父樣も、お母樣も、お友達もないのなら、私は一生親切な先生のお側に住み度いと思ふ。あとの二通は日本から。一通は妹らしい、相變らず長い〱のに違ひない。是等はあとで讀む事にして、大急ぎ飛び起きて身仕度をする。オヤまだお湯が來ない、如何したのかしら。又ベルを押す。早速お湯が來た。下女が何んだかパラ〱言つて居る。フレンチだから此方にわかりつこはない。英語で聞きかへしても、先方にわりつこはない。多分お湯の遲〱なつた言譯でもして居ることゝ思ふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

サルーンのストーブのそばで、妹からの手紙を讀む。オヤまあ細い〳〵字で八ページ金釘流なら未だしも蒟蒻の怪物式で、相變らず讀むのに苦心慘憺、やう〳〵忙しくつて手紙を書く暇のなかつて御無沙汰したおわびやら、此度お活花の先生から一蝶齋素園といふ素晴しい名を頂いたことやら、兩國の伊勢平で門人總代で花を活けて評判のよかつた事やら、奥田さんのかずちやんやすがちやんの大きくなつたことやら、近江屋のお常叔母さんが七人目の子供を生んだことやら、中川の四郎さんが天津で大變に出世をしたことやら家の峰兄様が伊勢のお祖母様の肖像を書いて大變よく出來たことやら、臺湾の敬兄様から音信のない事やら、お艶坊の養子を叔母様が急いでゐることやら、此あひだ送つた寫眞のお禮やら、家のお祖母さまが、七十三におなりなされたことやら、マアそれは〳〵ことやらだらけでお仕舞の方には、お極りの通り早く歸つて頂戴でやうやう結んである。お懐かしい姉上様と書いて下に、海の外の空を眺めて姉様を懐かしく思つてくらす珠子より、なんて、大分廻りくどい差出人だッた。これではジグム〳〵五光のスウリキレだつて跳しだ。おまけに二伸として、ゴールドウオッチを早く送つて頂戴はおどろいた。デモ可愛いこと、お節句に姉様が居なくて淋しかつたからつて桃の花を封じてよこして……。私にはたつた一人の可愛い〳〵、私のはねかへりとちがつてお



歌川若菜女史筆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

となしい、お裁縫の上手な、親孝行のまるポチヤな色白の妹珠ちやん、歸る時にはきつと澤山お土產を持つて歸りますよ……。オヤ峰兄樣のも同封、先日たのんで上げたお友達やら、親類の新らしいお住ひ書きを規帳面に書いて下さつた。ついでに自分の家を忘れちや、否けないよ、だつて、ふるつて居る。忘れるも忘れないもない私は、どんな家だか知らない。アノ春立つかすみの朝、六時に家を出て新橋を八時、橫濱を正午十二時に解纜した、明治四十三年の三月、あの時の家は根岸、美ごとなお行の松を後ろにした時雨が岡、今は千駄木とやら、どんな家かしら。なんでもうしろに大きな竹藪があつて、その後ろに牧場があつて、牛が氣永にないて眠むくなる事と、納戸から墓所が見えて、新佛のある度んびにお祖母樣が氣にして、妹がこはがつて、眠られぬ事などは先日の通信で知つて居るけれど、きつと先程お庭も廣くないと思ふ。根岸はまる八年も住んで、木一本でもお父樣がおこのみの通りになつて居たのに洪水なんて實に不文明きまはるものだ。もう一通は坪內士行樣から巴里の御友人の御住所をお問ひあはせのもの、妹のにはズルをきめて、モリソン先生と坪內樣にお返事書く。十二時前、仁田樣、來られる、今日ランチにおまねぎしておいたから。此方は早稻田出身、敬兄樣と同クラス、日本を出る時敬兄樣の御紹介で同じお船でした。

けれど例の日英大博後は、彼所中に御旅行だつたから、絕えて久しい一年半ぶりのお目もじ、これからは巴里にとゞまつて佛語御研究とやら。昔つてヴアイオリンの名手として、美しい振りの袂の包圍攻擊を受けた事のある方とかで中々風采の立派な方。十二時半食堂に降りておもしろいお談をうかがひながら食事をする、日本食の戀しい頃日、めづらしく、澤山頂けた。雨はいつかやんでしまつたけれど、その寒さつたらない。

午後から、ミセス、モウローとルーブル、サローンを見に行く。さすが巴里目拔きの場所だけあつて中々立派だ。兩側の商店の立派さかげん、百萬圓も持つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此の通りを歩いて見たらと思ふ。オヤまあフッショネブルの女が行く。マア大へんなスタイル！　今年はハットは少さいが好いとか、スカーツは相變らず歩けさうもない、細い〳〵の、でもコートは少し去年より長いやうに思ふ。一體巴里の女々つてさわがれるけれど、私は大きらひ雜種が多くつて……。それは可いけれど、お化粧の濃いつたらない。脣はまつ赤、バラの赤さよりも倘と〳〵、白壁の樣に顏一面にぬり立てた上、頰べたに紅、眼の下に靑、黑、眉は申すに及ばす髮に波をうたして、耳のかくれるまでに下髷に結んで。おまけに故伊藤公の御顏のやうに眼の下に黑子がまつくろに……。これは少さな膏藥のやうな物を貼るのだとか。たまに化粧しない女にあふと、まるで私のお琴の先生のやうな顏色……。お顏色の好い方は大抵みんな、獨國人とか、英國人とか、米國人……。その代はり夜見ると綺麗だこと。夜は實際巴里美人にかぎると思ふ。電燈燦たる下、輪廓のハッキリした、其の美しさ赤い蕾のやうな脣をもれて眞白の細い齒を出してニッコリ笑ふ、愛らしくも又艶に……。觸はらば融けもやせん眞實の乳房、惜しげもなく出した、そのマア、やわらかい胸に、耳をあてたら、どん



（日高川の女）

な優しい私語が聞えるだらう。ほんとに女ながら見とれてしまふ。ループルには、歌麿のコレクシヨンがある筈、一昨日もうしまつたとか。殘念々々、致し方もなし。折から陳列のスカプチヤを見る。肉色のマーブルに刻んであるキユピツトが大變氣に入つた。弓と矢をつがへて見つめてゐる。如何にも威厳のある、そしてスキートな眼光。あの矢にふるゝ乙女はマア如何んなに美しいのだらう……。ラブに燃えたその眼から涙も出やうものを……と、こんな事を思ひながら馬車に乘つてサローンに行く。フト何んだか過ぎた日を思ひ出して、切ない〳〵思ひにツイ涙が湧いて來る。胸は鐵の板ばさみにでもなつて居るやう、…どうかなさいまして。……とミセス、モウローが心配して下さる。ハッと思つて、イエなんだか急にホームシツク。……うつむくとたんに熱い涙が膝の上に……。ミセスモウローは慰め顔に、アレ大變雲が、うつくしいと云ふ。車の窓から眺めると、いつしかプラストロンコードも過ぎて、サンゼリガーにかゝつて居る。と見るアレキサンダー、プリツヂの黄金の女神、セーヌの水に映じて爍たる光り。實にや世界の巴里よ……かなたの中空高く雲に聳ゆるエツフエル塔、やがて、サローンにつく。其處には好ましいものが多く、いづれ劣らぬ見事な出來榮え。電話で呼んで直ぐ來られるなら、峰兄樣をお呼び申してお見せ申し度い物ばかり。歸朝る時に兄樣へと、いつものやうに寫眞入りのキヤトログを買ふ。一體展覽會を見るのは疲れるものだ。首のまはりから肩へかけて痛いこと、足が棒のやうになつてしまつた。おまけに此頃は、高い〳〵カラーを好んでするものだから……。こんな時にはバリシヤンぢやないけれど、カラーのないブローズが、可いと思ふ。サローンを出たのが五時近く、セーヌの河に添つてブラ〳〵歩く。ルードラツペに出る左側のチー、ハウスでお茶を飲む。それは〳〵大變な人ごみ。やうやう二階に一つのテーブルが見つかつた。ミセス、モウローは、チヨコレートを、私は、ロシヤンチーその む。今まで、言葉數すくなかつた二人は、さう〳〵大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勢のやかましい中で負けぬ氣になつて饒舌る。まづ見て來た繪の好不好から始まつて、お茶のおいしい事になつた。そして大勢のお客の中で英語を饒舌つて居るのが多いと云ふと、此處は英國のチー、ハウスださうな、どうりで夜の美人でなく、血色の良いお客樣が多いと思つた。歸りにウイーンドを見ると、英語が書いてある、倫敦のリゼント、ストリートにも店があるとのこと。とにかく巴里に來て、英語のわかる處で食事をすると、百倍もおいしいやうに思ふ。斯う云ふと英語なら何でもわかりさうで、大變偉さうだけれど、中中左樣は行かぬ。勿論ブロークンで押通す、骨の折れさ加減。

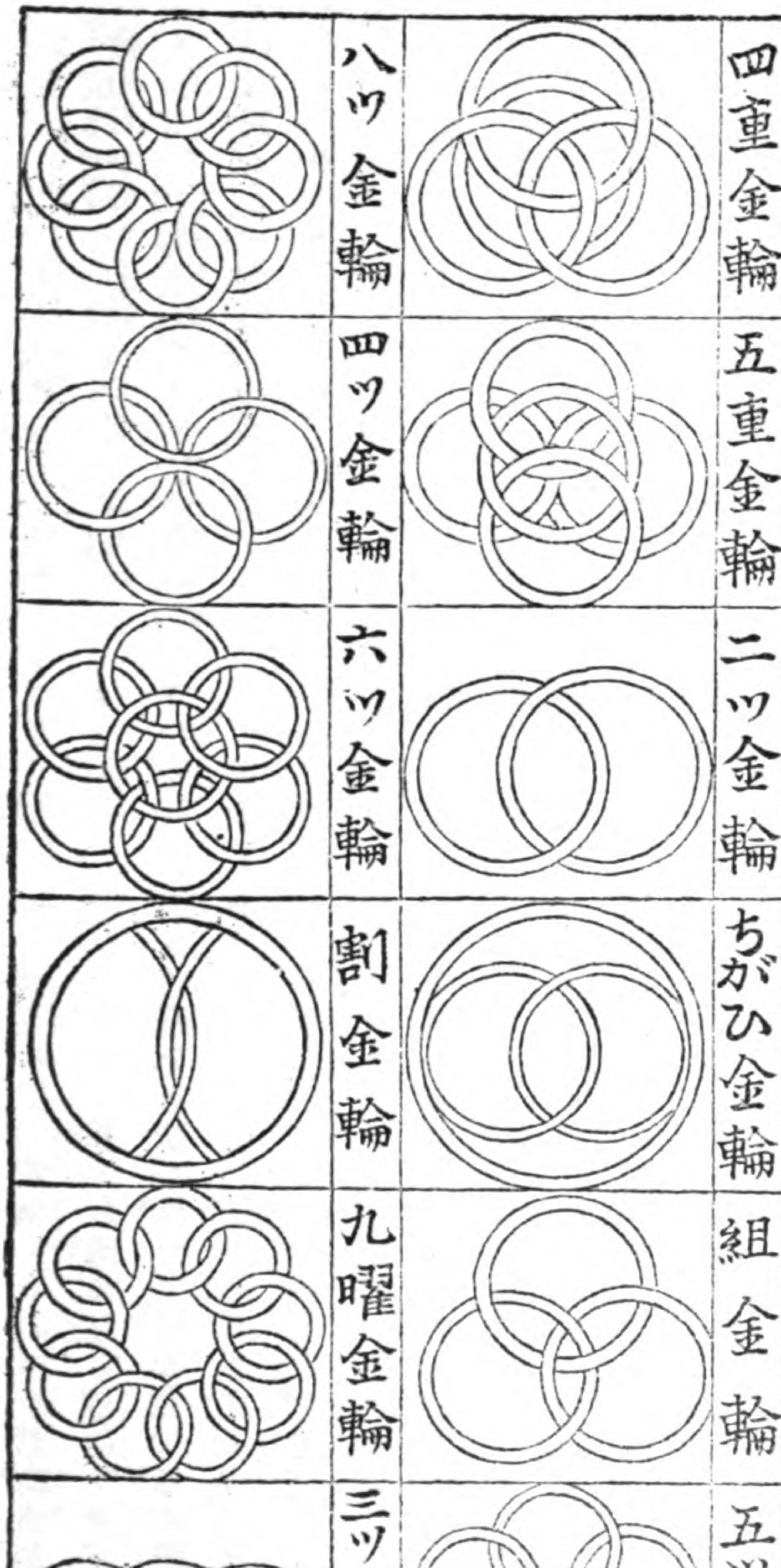
チフニーの側でミセスモウローに別かれて、ホテルに歸つた。不在中ミスター、アイザックが尋ねられたと見えて、カードに來週の月曜に又來らるゝ由がしたゝめてある。お湯を取つて、顏と手を洗ふ。下女が葉書を持つて來た。安達代理大使夫人と御面會のお返事である。日本服と着更へる。淸々して身體が樂になつた。七時過ぎ、ヂンナーのベルが鳴つたから食堂におりて行く。下から獨逸人らしいヤングメンが上つて來る。途をあけて待つて居ると、日本服を着てゐたので、驚いたのか、階子段から足ふみすべらした咄嗟まつさかさま、やう〳〵一二段で食ひ止めて、危ふく手摺でさゝへた風姿と云つたら氣の毒でもあるし、をかしくもあるし、此方の顏の方が眞赤になつてしまふ。やがて食堂へ行つて自分のテーブルに陣を取る。お隣りのテーブルのミスターデリックが、日本の衣服が大變美しいと褒める。こんなに疲れた時に御飯を頂いたらと思ひながら、相變らずナイフで肉を切る。食後部屋に歸る。洗濯物が出來て來て居る。ボタンの取れてゐるのを直した後、妹に返事書くつもりでサルンに行く。恰度姉妹の米國婦人が、ピアノを彈いてゐる。私を見るといろ〳〵日本のことなど聞かれたので、十時頃やつと部屋に歸る、妹の手紙は長くなりさうだから、後まはしとして、伊勢の竹叔父樣に葉書をかく。先達の御注文の倫敦名所の本をお送りしたのが、御返

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事が來ない。ヒヨツとして着かないのかしら。一體日本へ出すものは、リジスターでないと安心が出來ぬ。クリスマスカードでも、三分の一は屆かない。地方へ美しい繪葉書を出すと、十中の半は着いたことはない。田舍にゐるお友達から、繪葉書を送つて下さるなら、どうぞ封じて送つて頂戴、それでないと外國の、スタンプや切手がある上に、綺麗ですから、途中で紛失つてしまひますと言つて來た。

久しぶりで池田蕉園樣にお便り書く。それからヘンドニの先生へ書く。其れに就けても倫敦が戀しい、オヤモウ十二時、おもては車の音がやかましい。

釜敷の意匠



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

男に笑はれぬ言葉

内海月杖

徒然草の教訓

私は、現代の日本國民が少しもその趣味がなく、わが國語、國文が日に月にそのうるはしい光彩を失うて、そのおそろしい荒廢の途についていくのを見て、わが國家の前途に、いひ難き憂慮の念をいだいてをるのです。且つ現代の女子の方たちの文章が殊にそのひどい荒廢のさまにうち棄てられてゐるのをなげくのでございます。

一體、ある時代のことば、文章といふものは、いつも其の發達進歩を、その時代の女子の方たちの手に待つべきものなのです。どこの國のいつの時代を見ましても、その當時の女子の方がたのことばや文章がよかつた時は、きつと其の一般のことば、文章が、そのうるはしい發達を遂げてをります。わが國の平安朝時代などは、まさに、その適例です。御承知の通り、わが國で、あの平安朝の時ぐらゐ、國語國文のうるはしい發達を遂げた時はございません。それは、あの式部や納言のやうな才媛によつて、その道を開かれたものであることは、疑ふまでもない事實でございます。

徒然草に、かういふおもしろい話がのつてをります。――龜山天皇の御時、宮中に、人のわるい女官たちが集つて、『女の、ものいひかけたる返事、よきほどにする男は、あり難きものぞ（世に稀である、少いの意）』といふので、若い殿上人たちが出仕されるのをつかまへては、『時鳥や聞き給へる』というて問ひ試みたのださうです。すると、大抵、みんなまごつく、まごついては、いろ／＼なことをいふ。某とかいふ大納言は、『數ならぬ身は、え聞き候はず』と、ひどく、かうとりすまして、あらたまつて答へられたといふので、皆に笑はれた。たゞ堀川内大臣殿が、『岩倉にて聞いて候ひしやらむ』と答へられたので、これが、まづ無難だといふ評であつたさうです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

兼好法師は、その話のあとに、かういふことを書いてをります。——「すべて、男をば、女に笑はれぬやうにおほしたつべしとぞ」と、かう書き出しまして、そして、淨土寺關白殿は、子供の時から、安喜門院が注意して育てられたので、ひどく言葉づかひがよくおいでた。また、山階左大臣殿は、どんないやしい、はしためでも「いとはづかしく、心づかひせらるゝ」といはれたといふ話をつけ加へてをります。

まことにおもしろい話で、これが私の、國語、國文のそのうるはしい發達は、どうしても、これを、女子の方たちの手に待たなければならぬといふことを主張いたす理由なのでございます。



外交と言葉づかひ

ことばと文章とは、徹頭徹尾、趣味のものでございます。趣味——國民一般のその趣味を進めるといふ外に、ことばと文章とを進める途はございません。それには、國民のすべてが其の日常の言葉づかひにおいて、その用意をするより外にその途がないのです。また、それには、男女間の交際におきまして、男は女に笑はれぬやう、女は男に笑はれぬやうにとの、その用意が肝要でございます。現に西洋あたりでは、家庭からして、さういふ風な教育法が、ちやんと行はれてゐます。

私は、嘗てある會の席上で、一同うち解けての四方山話のついでに、誰かゞ「なぜ、日本の外交は、こん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なに振はないのだらう」といひ出したのに對して、今の駐英大使の加藤高明さんが、一體、今日の日本人位ことばに苦勞しない國民は、どこの國のいつの時代にも其例があるまい。實に愛想のつきるくらゐ、話のへたな、文章のへたな國民である。これでは、外交の振はないのも無理はないさ」といはれたのを聞きました實に名言だと思うたことがありました。そして、つくづく困つたことだと感じました。これは、わが國で、男女間の交際が、妙にはぐれて、「男をば女に笑はれぬやうにおほしたつべし」といふ用意が缺けてゐるのが、そのおもな原因であるといふことを思ひました。

優しさの匂ひ

私は、こないだ或る獨逸の著名な詩人が、女子の優しさといふことについて、自分の感想を述べてゐるのを讀んで、まことにおもしろく感じました。それを譯しますと、ざつと次のやうなのです。

自分は、ゆかしい婦人たちとの交際圏内において自分の最も樂しい、うれしい歳月を過し得たのである自分の上に、もし少しでも何かいゝものがあるとすれば、――悲運、落膽、怨恨、さま〴〵な人生のまどひに泣いて、迷うて、それでもなほ安慰や、戀や、忍耐の、自分の胸から亡び去らなかつたのは、――それは、たしかに、彼等婦人たちの、自分に與へてくれた賜である。かうして自分は、彼等のやさしい情を、さながらに感じ、その感想を、そのまゝに忖度し、その態度を直に了解する、――この力を身につけることができた。人生のこまかい、甘い樂についての、彼等のこまやかな知覺、躍動してゐる自然の頓智、鋭敏な秩序的の考察を學ぶべからず、いひあらはすべからざる、ゆかしげの相、――感情向上のその潮時にあつても、なほ、これらの特性は、そのゆゝしい光彩を、彼等の上に維持してゐる。慰むべく、親むべく、待つべく、忍ぶべく、堪ふべきやさしい、ゆかしい性質、要するに、全體にわたつての、彼等のその『やさしさ』なるものは、われ〳〵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の社會に活動せしめるにおいて、偉大の力をもつ。
——そのすべてを自分はよく知つてゐる、珍重してゐる、欽仰してゐる。

東西古今、人情の上にかはりはありません。どの點から見ましても、この「やさしさ」といふのが、女子の方たちの生命です。そのやさしさが、おのづからににほひ出て、皆さんのうるはしい、ゆかしいことばとなり、文章となるのです。更にそれによつて、われ〳〵男子のことばゝ、文章が、また其のうるはしい發達を遂げるのです。

(壺坂の女)



含蓄ある吐息

私は、また、あの佛蘭西の作家ミシユーの有名な「戀」といふ書を讀んで、その中に、かういふことが書いてあつたのを記憶してをります。

女の言葉ばかり、世にゆゆしきものはあらじ。そは、小鳥の歌の、そのやさしきにあらず、男のことばの、そのおごそかなるにあらず。げに不思議のものぞ、ゆゝしきものぞ。——そは、たゞためいきよ、えたへなげなる吐息よ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

おそろしの力かな。そのかげのほのめくや、やがて、われらの心は、またくゆるぎ出でむとす。ただ、そが胸のふるひ動かむを見む。沈みて、高まりて、さて再びふるひ動かむ。――かくの如きのみ。彼等は、遂に、何のあざやかなる言葉をももらし得ず。しかも、その目的は完かるべし。彼等がもらさむのその意は、かくて全く、われらが胸にあざやかならむ。

あゝ、何ものゝ雄辯か、――男のすなる――遂によく、女の此の言葉無きことばには勝ち得べき。

これは、女子の方たちの、この含蓄の多く、趣のすぐれてゐることばを評したものです。私は、ミシリユーのこの文章を讀んで、顧みて、わが現代の光彩もなく、にほひもない、無味落寞の國語、國文の上を思ひますと、實にいひがたい感慨の念に打たれざるを得ないのです。

口語體と擬古文體

かやうな次第で、ことばと文章とは、その發達をどうしても皆さんの手に待たなければならないのです。私は、切に、これを皆さんにお願ひしたいのでございます。

しかし、それには、まづ、皆さん自身の上に、その用意がいります。外ではありません。皆さん自身のことば、文章が、まづ其のうるはしいものでなければならない。――只今のやうな、ひどいことば文章ではこまるのでございます。私は、皆さんに向つて、まづ第一に皆さん自身のことば、文章を進めていたゞくことを願はなければなりません。

遠慮なく申しませば、皆さんのことば、文章は、隨分ひどい荒廢のありさまにあります。まづ第一、皆さんの定つた用文章がないといふ次第です。皆さんは、一方で、口語體、――あの言文一致の文章を書かれるしかし、その言文一致の文章といふのが未だ眞實に定つてをらず、發達してをりません。一方では、皆さんは、又あの平安朝風の擬古文を書かれる。學校などで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

皆さんの學ばれる文章は、すべて此の擬古文にきまつてをります。それからまた、あの何の式、何の會といふやうな所で、皆さんのお讀み上げになるのは、大抵この擬古文のやうです。

ところが、この擬古文といふのが、—— 甚だ失禮な申し分ですが實に何ともいひやうのない、珍妙不思議な、いやはや恐ろしい文章です。私は、隨分、氣をつけて皆さんのその擬古文、殊に婦人會などでの式文を拜見してをりますが、たゞの一度も、たゞの一遍も文章らしいものを見かけたことがございません。ことばといひ、句法といひ、調子といひ、あの平安朝の立派な文章には、似もつかぬ、珍妙不思議なものでございます。



趣きが第一

これは、もとより皆さんのわるいためでは、決してありません。世の中一般のわるいためです。只今のところ、國語國文の專門の學者たちまでが、少しも國語國文の其のうるはしい趣を知らないのです。やかましく申しますれば今日平安朝のあの趣の深いことば、文章のわかる人は、殆どないといふてよろしいでせう。

それは、ことばを學び、文章を學ぶのに、その上に最も大切な、ことばの趣、文章の趣を全く忘れて、少しも、その上に注意いたしませんので、自然かういふあさましいことになつてしまつたのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

前に申しました通り、ことばと文章とは、徹頭徹尾趣のものでございます。趣を外にして、どうしたつて我れ〳〵のことばと文章とを進める途はございません。ですから、皆さんが、ことばと文章とを進めやうとなさるには、良いことば、良い文章、——たとへば、あの平安朝のやうな良い時代の、いゝ作物について、その趣に味ひ入つて、さて、おのづと之を悟り入られるより外はないのです。

と申しただけでは、まだ何ういふ風に讀んだらいいかといふことは、お判りにはなりますまい。私は、この上に御注意申し上げたいのですが、あまり長くなりますから、いづれまた稿をあらためて申し上げます。

しかし、元來趣味の問題ですから、その方へとお進みになれば、さうやかましい理窟を申さないでも、その味は、おのづとわかつておいでになります。

滑稽の徳

むかし、太閤秀吉ふかく寵蔵ありし、庭前の松、ふと枯たりしかば、はなはだ憂ひ給ふ氣色なりしに、滑稽者、曾呂利新左衛門、これを祝したてまつりて。

御寵蔵の御庭の松は枯にけり千代のよはひを君にゆづりて

と一首詠み出でたりしかば、太閤大に感じ、喜び給ひしとぞ。又文化年中の頃、江戸竹橋なる松の、風もなきに大なる枝ふと折れたり。こは何事やらんと、人々けゞんの思ひをなし、色々と取沙汰せしに、ある人これを祝し來りし狂歌に。

千代の松折なば臼と杵にせんつくともつきじ君がよはひは

と詠みけるは、曾呂利にも劣るまじき詠なり。またある人年賀を祝しけるに、壽の字を書きし、餅數四十九ありければ四十九の餅の唱へを忌て、不興なりしを、ある人祝して。

七ツ宛七福神に祝らばやかつは四十九あらう賀のもち

と申たりとなん。いづれもよき祝し様なり。又或人八十の賀を祝ひける時、人々に賀章を請ひけるとて、「松契二千歳一」とかいへるをもて、人々に勸進せるが其の中に例の頓智者なりし蜀山人が詠みける歌に

八十の賀らくたおやぢ生き延てまたも節を松に契るか

とありけるに人々いづれも腹を抱へて興じたりと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

未だ見ぬ君達へ

玉露

御縁あればこそ同じ紙上に想像の姿をならべて頂いたのですもの、御懐かしくなくつてどうなりませう。皆様は若くお美しい、ほんとに繪にあるやうなお嬢様で居らつしやいませう。私はなか〱輝くマダムなんかではございません。此頃はお風呂から出るとつまあかぎれに即効紙を貼るのが一役。いつも妹が輝くマダムもあつたもんぢやないつて笑ひますのよ。

△野菊様――私よりはまだお姉様でお在遊ばすのですつてね、私れ紙上で御らんになつたとかで矢張りさわらび様とお友達になりましたの、それでよくお噂申上ますの、一番おしたはしい、ほんとに失禮ながらお姉様とも存じ上げて居りますわ。

△萩花様――一昨年の夏でした。私は追分へ子供の洋服を教へて頂きに通つて居りましたの、私が色々と身の上話申上ましたら、先生も色々お話して聞かせて下さいました。お別れの折は寫眞もうつしましたから。先生の處には今でも御座いませう。あなた様此頃お在遊ばす事はお隣の木内様に伺ひましたの、私も少し若くつてもつと筆が立てばお友達になつて頂きたいけれど、こんなではお話對手にもなりませんわれエ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



△鏡子樣――いつも〳〵私はあなたに負けてばかり………世話女房は筆もつひまがないので、何にもよくは書けませんの、お美しい女らしいほんとに得がたいお嬢樣………大學へ入らしつたつて或る人が云ひましたけれど如何でございますの。

△磯千鳥樣――多分私位のお年の方ね、學びの道の奥深くきはめて、しかも固苦しくないお筆のあと、恐れ入つて拜見致して居りますの、京都ではお遊びに御出願ふ事も出來ませんのね、京はよい處だといつも〳〵申して聞かされますのエ、大學をそちらで致しましたもんですから………

△紅梅樣――鏡花樣のやうな、ほんに美しいお筆、江戸趣味のお方でお在遊ばして、ゆたかな御家庭にお育ち遊ばしたのでせう。鏡子樣も江戸ッ子だと記者樣が被仰つたけれど、私も日本橋で生れましたの、お芝居や何かお始終いらつしやるでせう。私も遊藝は何でも好きで御座います。此春はどちらへお越し遊ばして？ 私帝劇へ參つたぎりでございますの、棄襖落しはほんとに面白うございました。ちとお遊びにお出下さいませ、お琴でも合せて頂きますわ、跡見の御出身でお在になりますの？。ほんとに一日皆樣でお寄合して、色々の御物語したらどんなに樂しみでせう。鏡花樣の小説はだれでも好きで御座いますものね、あの紅茶會を致したうございますことねエ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雨の趣味

關月

○

海上十八里は左に右灘である。朝方から港を出帆いた船が、三四里走ると、風はバッタリ凪いでしまつた。春も始めの三月と云ふのであるが、その日は陽氣の狂ひで、汗ばむ程蒸し〳〵した。『晩は雨だな』『午過ぎが危いものだ』なぞと、船中の噂は落日和に傾き出した。ぼーッと霞んだ沖合に無數の白帆が見える。それが皆な釘着けにでもされた樣にピッタリ海の上に浮んだまゝ動くとも見え無い。全然白い紙屑でも投げ散らかした樣に思はれた。キラ〳〵と眩しい日の光りが少し怪しくなつて來ると、果してお天氣模樣は手の裏かへすやうに變つて來た。船が地方へ漕ぎつけた時は、さらつと冷い風になつて空は低く、沖に見えた白帆が何日の間にやら何處へか皆な散つてゐた。廣い廣い沖の方から迫つて來る潮の香が、もうポツ〳〵浪のゆるいうねりの上に雨を呼び出した。まことに降り方の靜かな雨である。目には見えても音の無い降り方である。コトリ〳〵櫓の音ばかり妙にだるい頭の心を揉むやうに響く。

軈て船は或岬の陰へと着いた。其處には二三艘の漁船が繫つてあるばかり、浦屋らしい人家も見えない。ひよろ松が四五本岩端に危くくねつて、小さな石の祠がある。舳の苫をはねて見ると、細い雨はだん〳〵密になつて、次第に海の上は朦々と霧のために蔽はれてしまふ。かくて音も無く雨に暮れた海は、夜に入つても猶且音なく降り續けてゐる。風もないのに、ピチャピチャと艫を叩く浪のうねりのみが聞える。私は不圖、

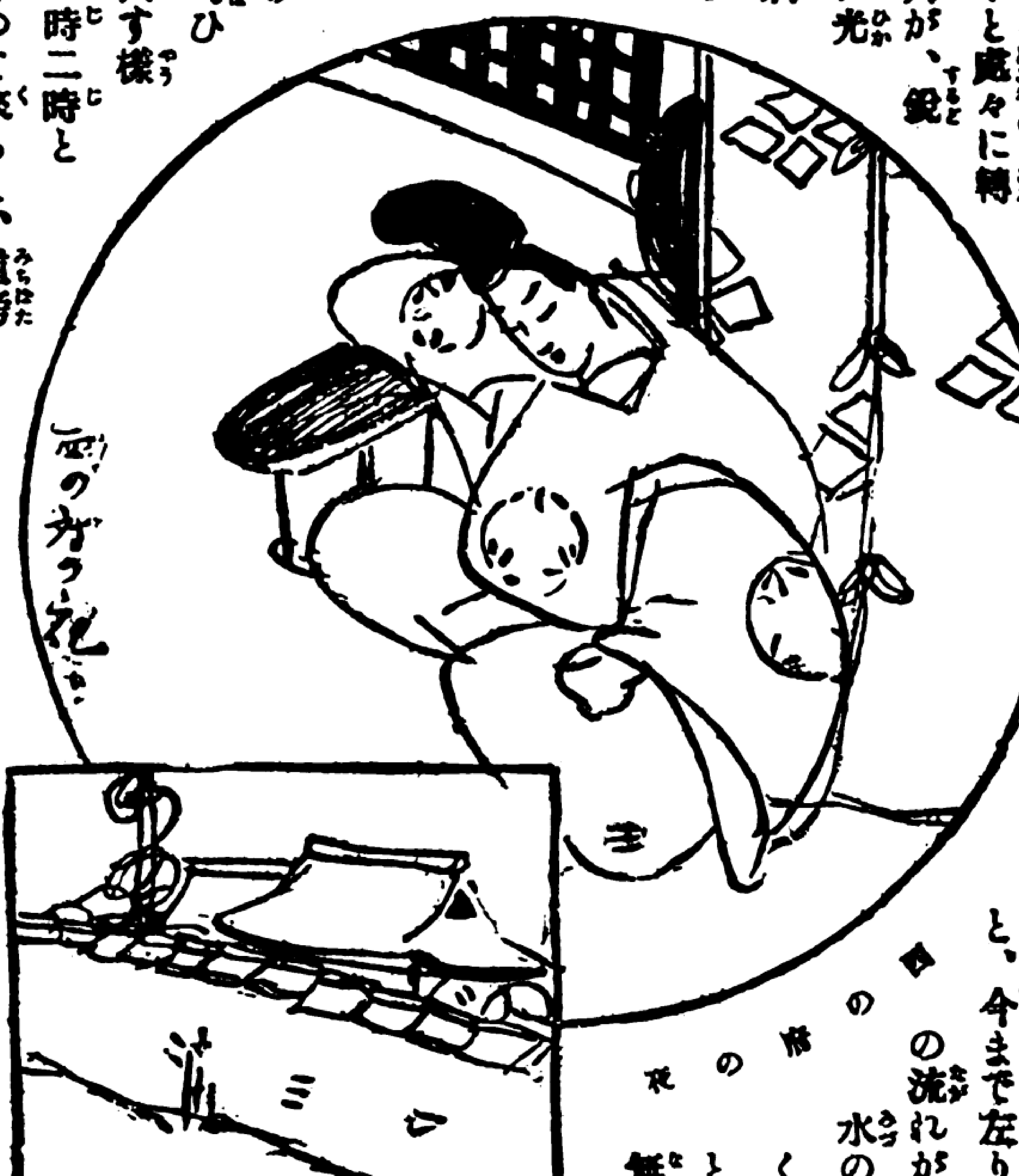
小夜ふけて葦の末こす浦風に
　あはれうちそふ波の音かな

の古歌を思ひ出して、云ふばかりなく寂しい心地がした。

○

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

H驛から五里の間川に沿ふて進む徑道は、眞夏の照つけには膝ゝ弱らせられた。ぼこ〳〵と灰の様な道を踏んで行くと處々に轉がつてゐる小石の圭角が、鋭い日の光りの爲め妙に光つて、眉間の邊りを刺されるやうだ。兩側の汚らしい人家の前には、戸板を列べて黒くなつた蒲團綿など乾してゐる處もある。チヤンカラ機がけたたましく響く處を拔けると、梅干の干上る匂ひが一層額の汗を呼び出す様に思はせる。午過ぎ一時二時と云ふ強い照りつけになつて來ると、道傍にある馬糞から立つ陽炎に、ひら〳〵と白い蝶のからまつて舞ふのさへ、眩暈を起させる。この可厭な街道を通り越していよ〳〵登り三里の山道に掛ると、今まで左り手にばかり見てゐた川の流れが、忽ち右手に變つて、水の音さへ耳に近つてひゞく。また一里ばかり進むと、それからはもう人家無しの険しい道、山々は兩方から迫つて路が盡きたかと思ふと、又曲つて稍開けた路へ出る。里村では酷い照りつけ方であつたのが、此處等へ來ると、處々雨の降つた跡を其儘道に殘してあつた。名も知らぬ鳥が不意に樹の枝から飛び出した。その羽音に搖れ



雨の府の夜

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

てハラ〳〵と木の葉の露が襟に掛るのも涼しい。かくて上り下り曲り曲つて山深く入ると、川瀬の音が次第に足許へ近くなつて一つの橋へ出る。

其處は絶壁と絶壁との寄つた處で、橋は大きな杉の木を唯四角に削つたばかりなのを、そのまゝ無造作に掛け渡したのである。元よりそんな絶壁であるから、釣ることも出來ず又橋杭を建てることも出來ずたゞ橋と云ふ名ばかりの橋板をその削つた大木の上へ並べて、手摺は藤蔓で出來てゐる。

この橋の上に立つて瞰下すと、岩を嚙んで流れる谷川が、恰度其橋の下で淵になつてゐる。深い〳〵淵は、今までの騷がしかつた徑路を忘れしめるやうに、とろりと沈默を守つてゐる。その澄んで蒼々とした水の中には、折々山魚の躍るのが見えた。この橋を渡り切つて、橋の袂から岨道傳ひに谷川へ降りると、淵の水が、又瀬になる處で、段々になつて流れが激しく岩の間を裂いて行く。その岩の頭を飛び飛び越えて行くと、始めて橋の下の絶壁の許へ立つ事が出來た。其處からは、又淵へ流れ込む急流が正面に展けて見える。鋒を立てたやうな險しい岩山が、折からの日和癖で、降つては照り、照つては又降る爲めか、朦々とその中段を霧で卷いてゐる。一時見て居ると、その中段の霧が段々上へ上へと去るやうであるが、俄に淵の水が黑くなつたかと思ふと、又上の方から段々霧が包んで來た。續いて目に見えぬ程の小雨が靜に淵へ降つて來る。そんな日には、山から山へ亘る風も無く、それは寂然したものである。

小雨は快よい程顏の苦熱を脫つてくれるので、私は我を忘れて濡れながら猶も立盡してゐると、不圖絶壁の許へ流し殘された古材木に目が止つた。いづれも去年邊り川出しをした時取殘された材木と見えて、悉皆青苔の附いたのが二三本ぽかんと浮いて居る。その四周に頻りと泡が湧いて、見て居る中にふつ〳〵幾つも湧き出すやうだ。而して材木の間を離れた泡が、一つクルリと廻ると、する〳〵瀨の方へ引張られて流れて行く。それを又追ふやうに、小雨が幾つも〳〵とろり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とした淀みに紋を描いた。私は限りなき感興を催して、手帖に書きつく——

絶壁高う、淵深く、
材木浮ぶ、二三本、
輪形に、水の泡舞うて
小雨に、今日も暮るゝ
谷川。

○

東海道の或驛を西に向いて歩いた時である。草鞋穿に脚絆と云ふ身軽な扮装で或茶店の縁端に休んでゐると、例の春雨と云ふのがしと〳〵降り出した。近所で遊んで居た子供が四五人、軒下に這入つて、ねんねこやを謡ひ出す。それを聞いて居ると如何にも旅の雨と云ふ感じがする。其處は恰度街道の松並木なので、東を見ると真直に行儀よく昔ながらの往還松が列んでゐる。白い沙地の上にぽつ〳〵と穴を明けて居る雨が、づゝと外れの松の梢をけぶらし、なんとも云はれぬ旅情をそへる。處へ馬が來た。馬方は何處でか飲だと見えて赤い顔してゐる荷はこの宿で卸して、歸りの二里を濡れながら身軽の馬を曳くと云ふので私はつい馬に乗る氣になつて、今買つたばかりの新しい番傘を馬上で開くと、パリ〳〵と新しい音、新しい油の匂ひ、雨は稍烈しくなつて、新らしい番傘をはぢいた。



○

寺の山は左まで高くはなかつたが、其處へ上るとS浦が一目に足許へ展けて見える。岩屋の岬と云ふのが右手にづゝと伸びて、左り手には花香の岬と云ふのが控へてゐる。S浦は毎日鰯燒の烟りに暮れて漁船の早出の櫓の音に明けてゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

この寺山の後から小松の繁つた山の頂へ出ると、其處からは又たこの土地の後の浦々が見えた。小さい鏡のやうな灣内は何時もとろりと凪いで、油でも流したやうに靜まり返つて居る。立つてゐる山の腰は見えないが、向ふの赤禿山は裾を長く伸して、その赤肌の山が淵のやうに灣内に美しく映つてゐる。折からの夕日が華やかに沖の方を照らしてゐるが、灣の上には催し雲が掛つて暗かつた。恰度その時、不意に石割の音がひびいた。靜かな灣内にそれが響きわたると、鏡のやうな海の上に、處々響きのために皺が出來たやうに思はれながら見てゐると、もう小雨がほつ／＼降り出したのであつた。

赤禿山の裾長う、
入江は深き靜凪や。
小雨しと／＼、空に虹たち、
石切る音の、たえ／＼響く。

○

醉のうたゝ寢は疊の冷えにやつと覺めた。併し目は未だはつきりと覺め切らぬ。冷めたい足を縮めて起き直り、稍重い頭を上げて見ると、永い日も山の中は暮れるに早い。しかも上日和のお天氣が唯一睡の間にがらりと變つて、川瀬の音とばかり夢に聞いたのは猶且雨である。疊の冷めたかつたのもこれが爲めだ。鋭い雨の足は醉も眠りも覺め切らぬ頭や目をくら／＼とさせて、不思又横になると、ぽツ／＼と鳩の聲、續いて慈悲心鳥の聲が遙かに聞える。雨の音と川瀬の音と寂しい／＼鳥の聲とは腸に沁みるやうだ。又首を上げると目も稍はつきりして、向ふの山の崖に咲いた山吹の花もはつきり見える。不意の降りに小石が一ツゆるんだと見えて、それがころころ崖を轉げて落ちると、ほろ／＼と山吹が雨の中に散つた。鳩の聲、慈悲心鳥の聲、谷の方は全く暮れ切つても、山吹丈けは雨の中に依然ほろ／＼と散つてゐた。

ぬる茶に、醉ひの醒め心地。
窓の障子を、そと開けりや。
山吹散るか、崖の山吹。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小雨そぼ降る春の夕暮。

○

低い雲の垂れた日本橋は揉むやうな人通りである。夕立前の蒸し〱と暑い空氣は、町ゆく人の顏に狂暴の血を浮めて、電車の響きが殊に腦を刺す。それを拔けて本町通りへ曲ると、いづれの商店も暮前の荷役に急しい。繩切れの埃、木切れの塵、殊に藥種屋の匂ひが蒸暑い狹い暮の町に漂ふて、箱を締める金槌の響と一緒に一層人々の神經をそそり立てる。ゆるりと歩かうと思つても踵の方が落着かぬ。この時沛然と大夕立になつて來た。路の土は洗ひ流され、小砂利が街燈に光つて露はれる。町ゆく人も絶えて、車さへ餘り通らぬ。雨はます〱猛烈に降り頻つて、町幅が急に廣くなつたやうに思はれた。店店の瓦斯や電燈の光りが雨に映つて暫らくは大都會と云ふ事も忘れて終つた。すると、烈しい雨の音に交つて、鋭い鈴の音が響く。忽ち郵便の箱馬車が北から南



（桂川の女）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へ通る。これから世中がどんな風になるのであらうかと恐しいやうな感じがした。

△恐れることは禁物

人は、心に何か危險をかんじて、アヽ恐しいとおもふと、收縮神經は急に血管を收縮せしめ、心臟の鼓動ははやくなり、顏の色も皮膚の色もあをくなり、つひに腦に貧血をおこして、小兒はそのために腦病をおこし大人もそのために神經衰弱をおこしたり、精神病になつたりすることがあります。かゝる例は非常に多いから、子供をもつ親達はことに注意せればなりません。子供がいふ事をきかないときに、おばけをだしたり、暗い所へおしこめたりしておどかすのは、非常に腦の發育をさまたげるからかゝる不都合な習慣はまづ第一にあらためればなりません。大人でも何か意外なことにあふと大概恐怖の念におそはれるが、これは腦を害するばかりでなく、心と體と離れ〳〵になつて、自然身にすきもできてかへつて危險ですから、かりに強盜におそはれたとしても、決して驚くことなく、キッと度胸をすゑ、姿勢をたゞしくし、心を丹田にをさめて、しづかに之に處する手段をとらればなりませぬ。ことに姿勢を整へることは、心を亂さぬのには最も善き方法で、劍道の奧義となつてゐるほどに大切なことであります。

△臺所の設備

今日は、臺所といへばたいてい板をはつてあるやうですが、これは決して理想的のものとは申されません。板はいろ〳〵の食器の脂や汁がしみこんで不潔になりやすいもので、掃除をしてもなか〳〵清潔にはなりません。十分念をいれてふいても、黒光りするばかりで、やはり清潔にはなりません。それで或人などは木板にかへて陶器板をもちゐたらよろしからうといつてゐますが、一寸よい思付かとおもひます、これにしても一坪三十圓ぐらゐで出來るさうで、さほど高價でもありません。これならば臺所をすつかり水であらふことができて、實に清潔なものになります。それから臺所の位置は南東或は南西の日あたりのよい位置をえらぶべきは申すまでもありません。そして窓を大きくあけ、空氣の流通をよくして室内のつねに乾燥するやうにし、室の中央に適宜のテーブルをそなへ、仕事をするには立つか或は椅子によつてするやうにしたら、清潔である上に、仕事もはかどり、主婦も自ら臺所にしたしむやうになります。さうすればまた隨つて料理に趣味をもち、食物について良人より小言をきくことも少なくなり、のみならずその婢達までが臺所の手傳をたのしむやうになります。この臺所の設備といふことは、一家の衛生に非常な關係があるから、充分研究すべきです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女性と自然

在巴里　與謝野寛

夏

夏こそは、我等の樂しき園に、遍く、
花神の贈物の咲き足らふ絶頂なれ。
夏こそは、太陽の光榮ある季節なれ。
また、鮮かなる黄金の光を持つ花の季節なれ。
また、薔薇の花ひらき、すべての冬木立の
いぶせき姿を改むる、天惠の季節なれ。
また、幸運なる農人が、彼等の苦しかりし耕作より、
諸の果物を收穫る季節なれ。

海のほとりにて

荒磯の上に
青き浪とゞろと鳴り、
海の沖遠く、
無窮の中に暴風は走る。

かなたの浪の間に、
滲青き「夜」は、
大いなる樅の林を想はしむ。
月の明りに。

小暗き大空の下に、
星を眺めて、
黄昏の微風の中に、
白き帆は滲れ行く。

怒りに唸りつつ、
海は沖かけて沸き立ち、
大洋は狂ほしき叫びに、
大渦を巻く。

こゝに、沙濱の上に立ちて、
我は大空に聽く。
嵐に激する
絶間なき飛沫を。

ここに、沙濱の上に立ちて、
我は哀しくも獨言つ。
「幸こそは夢なれ——
嵐に激する。」



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



雲

大空の中に、
しろき雲
すみやかに
輕々と過ぎゆく。

青き光の中に、
彼等の白き群は、
俯むきながら、
神の御許に昇る。

はろかに、はろかに、
沙山の如く、
また、夢の如く、
彼等は薄れ行く。

この時、黎明の少女は、
その繪筆を執り、
忽ち塗る。
彼等の白き垂衣を。

あらたまりぬ。
彼等は、忽ち、
聖なる天上の「火」の
いみじき歸依者と。

河原に立ちて

河原の窪みに、
野生の草を掻き探れば、
葉の下に、あまたの花は
美くしき光を持つ。

清らなる小流は
曲線を引きて紆り
この叢の中へいそいそと、
傾斜の上を滑りゆく。

一羽のメルル鳥は、かなたの岸の上に、
彼の小唄をさへづり、
頰白鳥のよき音に、
その調を合す。

ここに、かよわき若蘆は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



その幹の上に傾き、
白き菫の花は
水際を覗く。

さて、白き雲の上に、
天つ少女は、
美くしき瞳を
この楽しき田舎に投ぐ。

暮れゆく大空の奥に、
かの少女は微笑む如く、
また、我等の為に言ふ如し
「友よ、今晩は、今晩は」と

青空のもと

青空のもとに、
驚くべき廣大の中に、
明るく、且つ澄み透る空のほとりに、
死ぬべき物の如く一切は靜まる。

地平線の胸に、
すべて微笑み、且つ憩らふ。

我等の幻覺は
全く薔薇色なり。

ここに、我等は地上を忘れて、
天をのみ默想す。
かの高き處、おお、全く神秘に、
氣高く、しめやかにこそ見ゆれ。

さは云へ、暴風雨の風は
谷に呼吸し、
人は、地平線を哀ましむる
黑き雲を見る。

忽ち、大自然は
霧にかき塗り、
さて、萬物の上に
「死」の光線は投げらる。

斯くて人は絶間なく聽く。
あまたの夢の如く、
我等の心を攪亂して過ぐる
「快感」と「苦痛」とを。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭化學日用帳（二）

須田桐蔭

此度は牛乳の事に就て述べませう。乳の成分は、動物の種類によつて種々あるが、何れも皆な蛋白質、脂肪、乳糖、鹽分、水より出來て居るもので、其の異なる所は各成分の含量の如何にあるのです。

乳の種類

人間殊に嬰兒には、人間の乳が最も適して居るとは誰れも知る所ですが、その乳が不足の場合には、成るべく人間の乳に類似した他の動物の乳を以て代用しなければなりません。それで如何なる動物の乳が最も人乳に類似して居るかと云ふに、牛の乳、山羊の乳、羊の乳が一番人乳に似て居るのです。たゞ羊は乳量が少なくて價が高くなり、母羊も不廉なので、到底牛乳と競爭することが出來ず、また山羊乳は母獸が羊より廉價だけれども、是れも多少牛乳より高價に賣らなくては引き合はぬ爲めで今では何處でも人乳の代用品は牛乳と相場が定つて居ります。其他の動物の乳、例へば馬乳の如き、人乳に比すると、肝心の蛋白質は半分位しかなく脂肪も多いのでも三分の一、少いのは六分の一位しかないから、到底代用にはなりません。猫や犬の樣な小動物になると、滋養分の多くなるのが通例で、蛋白質は牛乳の殆ど倍もあるが、乳量が少く且つ搾るのが不便な所から、如何に金力に誇る外國の貴族や富豪も、之を搾らせて飲んだと云ふ話は聞きません。それから象の乳は何うかと云ふに、蛋白質、乳糖、鹽分は牛乳と大同小異ですが、脂肪は五六倍も多量で、脂肪の不足な人などには至極よい滋養品です。象が哺乳時代から盛んに肥えるのは、此の多量の脂肪のお陰であります。たゞし此の乳を得ることが不便であるから、實用には適しません。

又歐洲婦人の乳と日本婦人の乳とを比較すると日本婦人の乳は肝心の蛋白質が西洋婦人の乳の百に付き六十五の割で、半分少し餘にしか當つて居りません。こ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れは本邦婦人が歐洲婦人よりも營養不良の爲で、從つて嬰兒の發育も惡いやうであります。之を見ると、妻が夫ばかりに贅澤をさせて、自分は運動皆無で茶漬や香の物ですませて置くなどは、必ずしも良妻賢母の仕業とは申されません。

牛乳屋の奸策

衞生思想の發達と共に牛乳の需要は年一年に增加して行くが、我國では牧牛事業が未だ甚だ幼稚で、牛乳はなか〳〵高價ですから、種種の奸策が行はれて居ります其の中ことに多く行はれるのは左の三種の方法です。

一、單に水を加ふる事



二、コンデンスミルクを薄く溶かして加ふる事

三、豆乳を加ふること

右の内、第一の水を加ふる事は最も普通の方法で、信用のある大搾乳所は何うか知らぬが、各所の受賣所では、大抵之をやつて居ります。東京は警視廳に、其他は各府縣廳に衞生技術官が居り、其の下には衞生勤務の巡査が居つて、斷えず檢査をして防いでは居るが、中々手が廻り兼るやうです

次にコンデンスミルクを薄く溶かして入れる方法は、味は甘くなり、而かも水つぽくならないから、水を注すよりは進歩した仕方ですが、これは餘り廣くは行はれて居らない樣です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第三の方法は豆乳を交ぜるのですが、此の豆乳とは、大豆をゆで、それを挽いて絞つて、牛乳と同樣の濃さに水で薄めたもので、つまり豆腐の固らないものです。これは廉價の滋養食料として一時隨分流行したが、何分味が不味いので、今は餘り流行しません。此の方法も餘り廣くは行はれて居らない樣です。

牛乳の檢査法

精密なる化學的檢査は、到底家庭では出來ませんが、大體の檢査は容易く出來ます。內務省の規則によると牛乳は一、〇二八乃至一、〇三四の比重を有し、百分中三分以上の脂肪を含んで居らなければ賣ることは出來ないのです。此の中、脂肪の檢査は一寸六ケ敷いから、比重の檢査丈けを述べませう。此の檢査には乳調計と稱する比重計と、之れに附屬する硝子の圓壔とが要ります。是れは醫療機械屋に賣つて居ります。そこで先づ牛乳の溫度を約六十度に致しまするこれは春秋なら、大概其儘で宜敷く、夏ならば牛乳を瓶の儘井戶に浸けて冷やし、冬ならば一時間許り溫い室に置いたものでよろしいのです。それを前の圓壔に盛り、乳調計を浮かして、何度迄沈んだかの度を見るのです。其度が二十八度乃至三十四度の間にあれば牛乳は好いのです。もし比重が二十八度以下で、味が薄ければ、大概水を割たものです。又比重が重くて味が淡泊で而かも甘味が強ければ、コンデンスミルクを交ぜた疑があるものです。

上手に製へた豆乳を一割か二割交ぜた位では、精密な分析をするか、或は六百倍位の顯微鏡で見なければ判らぬが、三割以上も交せてあれば、幾分か生豆腐の臭がするから、注意すれば判かります。

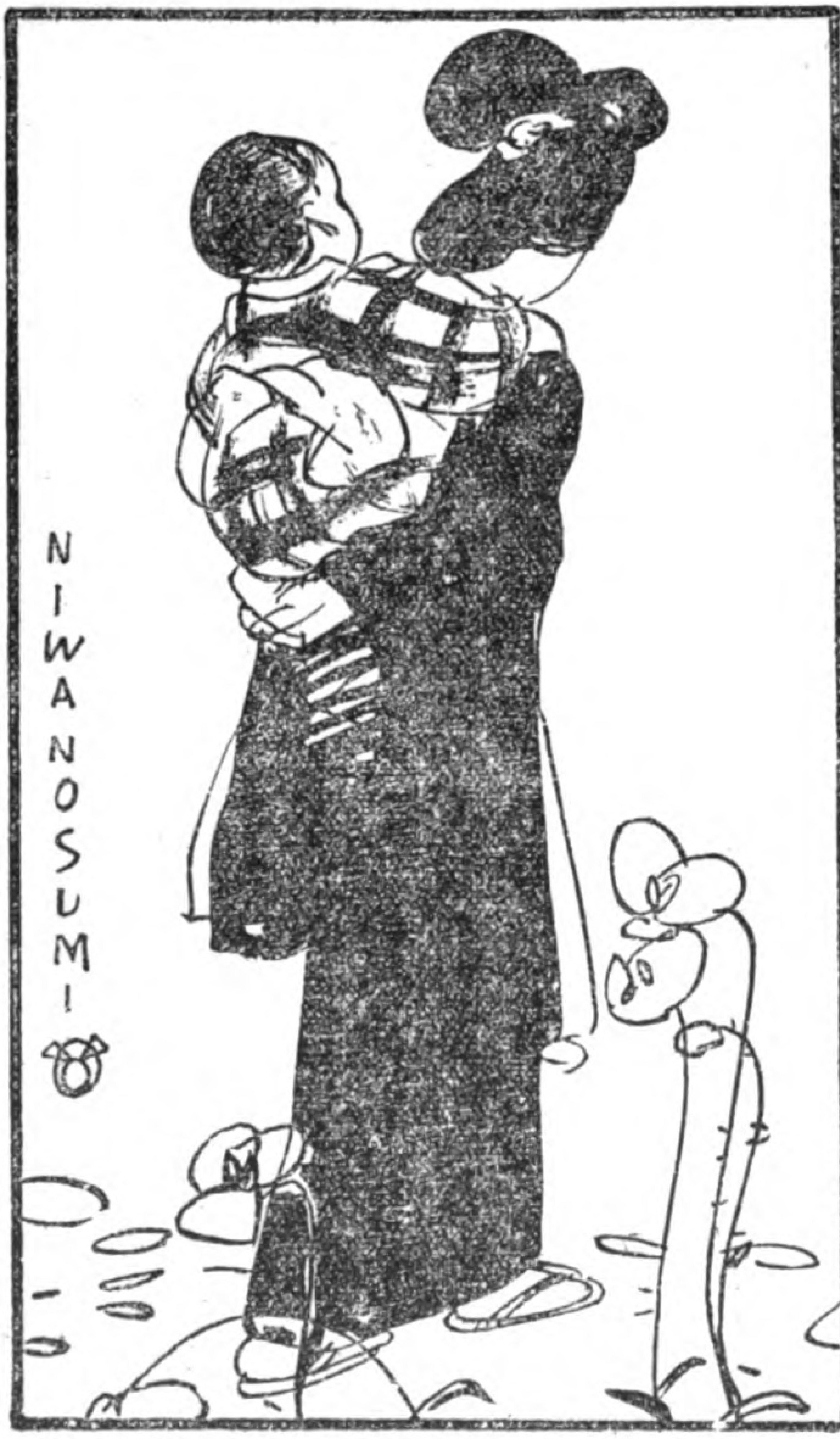
次に注意すべきは酸敗乳です。乳は古くなると、酸味を帶びて來ます。ことに夏季などは、味が判る程でなくとも、酸敗くなつた乳が多くあります。さういふ乳は、煮ると粥の樣に固まります。又之を試驗するには、青色試驗紙(藥店にあり)を常に貯へて置いて、乳を配達して來たら、先づ口を開いてそれを浸して見ま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。すると乳が新鮮なれば試驗紙は變色しないが、酸敗くなつて居れば、赤くなるから、直ぐ判ります。併しポーット少し赤みざす位のものは差支かへありません。

なほ乳は暫く置くと脂肪と蛋白質とが一緒になつて浮いてクリームが出來るから、乳を試驗するには、能く瓶を上下に振る事を忘れてはなりません。

以上の試驗では、勿論充分とは申されないが、是れ以上の檢査は家庭では六ケ敷う御座います。



牛乳の消毒と防腐

牛乳には往々肺結核に罹つて居るのがあつて、牛乳が肺病の媒を爲すと云ふ説があるので蒸氣消毒をした乳を販賣することが、流行して來たのは、誠に結構ですが、牛乳屋が果して責任を重んじて完全な消毒をして呉れるや否やは頗る疑はしいものです其れ故近頃は、乳は一度煮て飲むのが普通になつて居ります。併し家によると、グラ〳〵乳を煮立てて皮を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

張らせ其の皮が不味いと云つて除て仕舞つたりするが、あの皮が滋養分なのだから、之を棄てゝはいけません。又皮を張らせて其れを掻き交せると、乳は極めて不味いものになるから、成るべく皮を張らせない方がよいのです。病原菌は至つて熱には弱いもので、攝氏の七十度位で二十分間も溫めて居れば充分消毒は出來るから、一寸舌の付けられない位の熱度で澤山で、皮を張らせる程煮る必要はありません。

都會では餘り必要もないが、邊鄙な處で夜間小兒や病人の飲用の爲には、牛乳を貯ふる必要があります。其れには五勺入り位の小瓶に牛乳を詰めて、綿を堅く丸めて一寸マッチで火を附けるとポット燃えるそれでギュート堅く其の瓶に栓をして、鐵瓶の沸湯の中へ瓶の肩迄浸して四五十分間熱して引き上ぐれば、暑中でも一兩日間位は決して腐敗することはありません。此の小瓶を五本も十本も一時に殺菌するには、深い鍋か釜で熱するが宜敷い。此の際は湯は沸騰させて置かないと、充分に殺菌は出來ません。ことに十本も一時に浸せば、湯が冷えるから、一時間位は熱しなければ安全とは云ひません。又綿栓は牛乳に接すると漏れるから、漏れない樣にするのが肝要です。且これは必ず綿の栓が必要で、コルクや紙の栓では、其の隙間から黴菌が侵入する恐れがあります。

迷惑な土産

淺はかな婦人、殊に見榮ばかり張りたがる婦人は、餘所の家を訪問するにも「お子さんに」とて高價な素晴らしい玩具をお土産に、持つて往く。そして先方では嘸感謝するだらうと、自分獨りで極め込んで頗る得意らしい。他人の贅澤を羨んでお尻の落着かぬ細君「お父さんが今少し働きのある人ならお前にも好い玩具を買つて上げられやうに……」などと子供にまで愚痴をこぼすやうな細君は、身分不相應の玩具を貰つて喜びもしやう。が、世間には然んな細君ばかりはない。無方針で其日々々の出來心や機嫌次第で　大切な子供を育てゝ居る家ばかりはない。玩具も自分の家の生活程度に應じ、子供の年齡性別等をも鑑みて、而も數を定めて與へて居る注意深い、解つた母親もある。然ういふ母親が近頃著しく殖えて來た。して見ると、ハイカラ奧樣のあてが違ふ。喜ばれやう、褒められやうと思つて持つて來た折角の玩具は、却つて子供の虚榮心を養成する代物となる譯で、せめて「お子さんに」と言はずに、母親に直接差出せば宜かつたに。（倉橋氏談）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

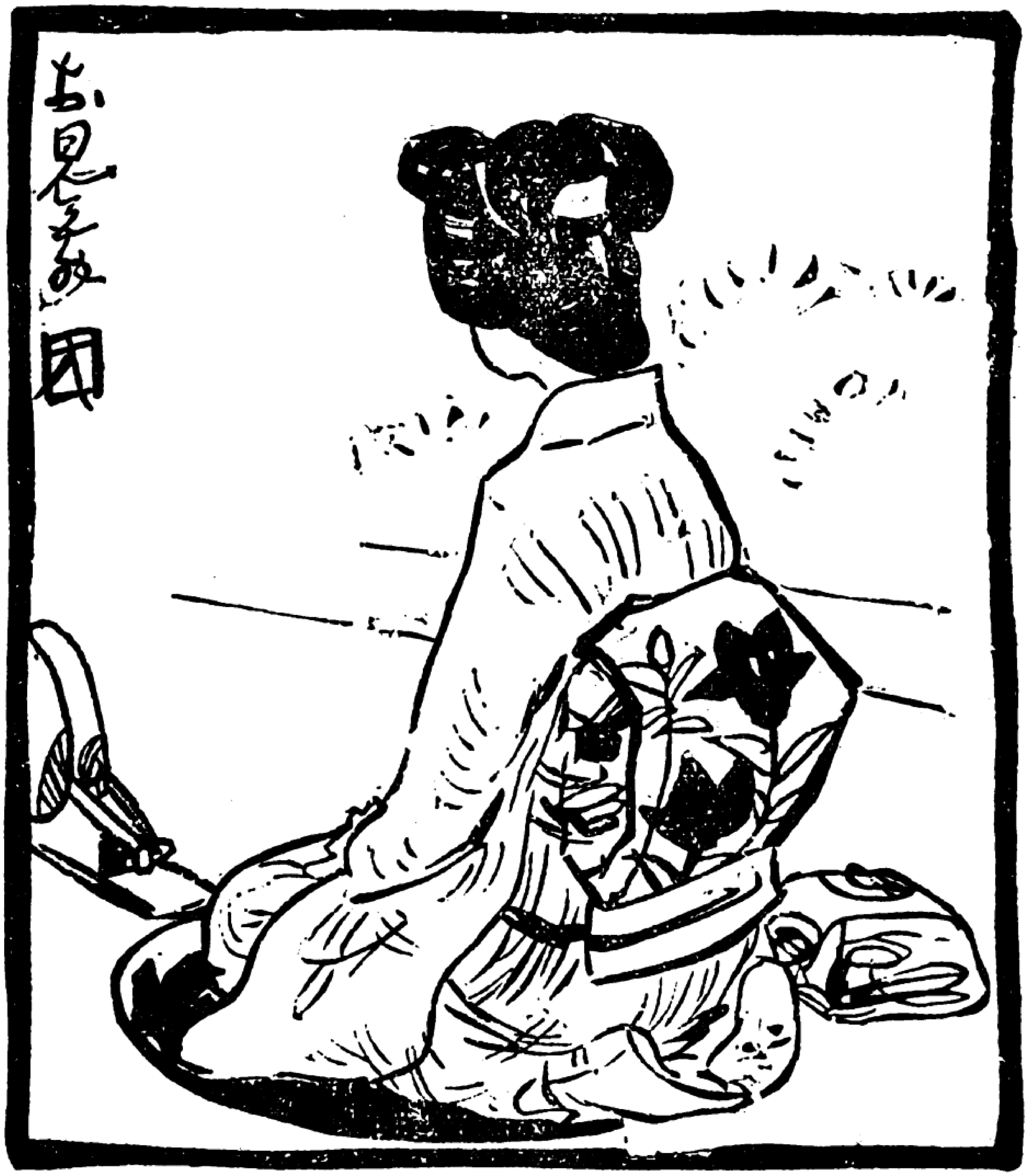
樋口一葉の手紙「三」

馬場孤蝶

一御いそがしくわらせられ候や。たえて御たよりも承らず、その地はわるき病ひの流行するよしなどかねがね承り居候まゝ、いとゞ心配にたえかね申候。時々文學界のかた〴〵などお出も候へども、人樣のおかほさへみれば馬場樣〳〵とおうはさ申出す事の少しは極りわるくも存じられ候まゝ、こゝろのまゝには御樣子承りおはす事もならでいよ〳〵御なつかしさの增るやうに御座候。おかはりなく御勉强わらせられ候や。萩も薄も下葉やつれて、やがての月に鹿なくころ、やゝ色づきゆく山の梢など御覽するにつけて、お旅寢のおこゝろいかにやとおし料り參られ候。いつぞやのお便りに石山寺義仲寺などよそながら承るだに心ゆく樣なる所々御遊覽の御樣子うら山しく、逢坂の關よりと遊ばしたるお葉書とゞきたる時は、そゞろにお前樣の御わらぢ姿、おもかげに覺えて、今も見てしがなと御なつかしさやるかたもなく候ひし、それより絕えておたよりなきは、これよりさし出さぬ失禮を怒り給ひてかともおもひたどられ候に、お詫を申すが厭やなれば、今日まで我まんを致し居候へども、もとより女子は弱きもの、まけてもさのみの恥ならず、御なつかしきは何處までもおなつかしきなれば、用なき瘦せ我まんにそなたの空のみながめんよりとて、文したゝめてさし出し候。おひまあらばたゞ一筆お便りつげさせ給へ。文學界のおかた〴〵など、おん有樣しりたしとならば、親御樣の御もとにもはしり給ふべし。私はお馴染もなければ、今俄にお留守を音なひ參らすることもならで、空しくうち〳〵におうはさ申暮すのみ。級とり給ひて折々のおたより、夫れのみ待渡られ參らせ候。さても此ほどのことにて候ひき。都も秋の空さびしく萬づにまぎるゝ物なく暮し侘候まゝ、一日妹ともなひて飛鳥山より瀧野川あたりそゞろあるきすること

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ありしに、ある野道にてふと逢ひたる人のとしは二十四五位にや、そのわたりの野に折りし草花少し手に持ちて、無造作にさつ〳〵と歩むうしろ姿似たりとても、いかな事お前様をそのまゝなるに、追かけてお名をも呼び度やうに候ひし。されどももとよりお前様にてある筈なければ、唯そのかたしろのかげ消ゆるまで立盡して見おくり申候。かゝるおもはぬ野道などにて、おもはずお目にかゝるやうの事あらばと、はかなき事申あひて歸り候ひしが、その時直ぐに文さし出さんの心成しかど、猶その折はまける事のくやしく、けふまで打置き候ひぬ。彦根の風に染まり給ひて都をうはの空におぼさば、かつ彌様とは申まじ。馬場様はそのやうの情なき不實のおん方にてある筈なければ、此頃打たえおたよりのなきもおいそがしさのまぎれに傘とり給ふおんいとまのなきなるべく、さらばお



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しては願ふまじ。唯おのづからのお序にとのみを。猶猶申上度こと游山、それは十二月おんめもじのふしならでは盡すまじう。たゞ明くれ指をりてそのほどいつと待わたられ候。おんなつかしく候かな　かしこ

なつ

馬場様御もとに

これは二十八年十月九日の手紙だ。一葉君の『日記』には十月九日『此夜文二通したゝめき。一つは如來ぬし、一つは馬場君、前のはきのふの返事、附錄の事など云ひて、つぎなるは久しう音づれのなきにいかゞ暮らすとおぼつかなくてなり』とある。此手紙に對しては、『若い者を感動させるやうな手紙をよこすことなかれ。私だつても何な思ひ違ひをせぬにも限るまい』といふやうな返事を出すと、餘ぐ折り返へして一寸と面白い返事が來たと思ふのだが、その返事の分が今一寸と見付からない。誰か持つて行つて了つたのか、何處か箱の奥にでもあることだか、まる〱無くなつて了つたとするゝ、惜しい物だと思ふ。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

一、御無沙汰の罪さり所なく候。日ごと夜ごとこゝろの中にてお詫びは絶えず申上居候へども、顯はれねばそのかひもなし。たゞ御ゆるし給はるべく候。いつぞや、お寫眞おめぐみにあづかり候折お禮ながら申上度こと數々御座候ひしかど、今は時おくれて申そびれ候まゝ、たゞ御禮をのみ申上候。餘程お寒く相成候へどもその御地はいかゞにゐらせられ候や。相かはらず御盛んに名所舊跡おさぐりのことゝ御浦山しく存じ居候。此月末にはかならず御めもじのかなひ可申か。みな様がたお出にてはいつも其うはさ許、たとひいかやうにお心ひかるゝ物ありとも、此地にはおとし寄りもゐらせられ候。かならずお顏みせにおもどりのやう、これのみを願はしく候。いよ〱御出京ならば、いつごろ幾日ぐらゐに御めもじかなふべきか。そのほど待渡られ候。お詫びもおん禮もまたそのほかに申上度こともかさね、その折おうるさくお聞きにいるべく、うきもうれしきも申かはす人なき今日このごろ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たゞ御めもじをのみつまだてゝ待參らせ候。あら〱かしこ。

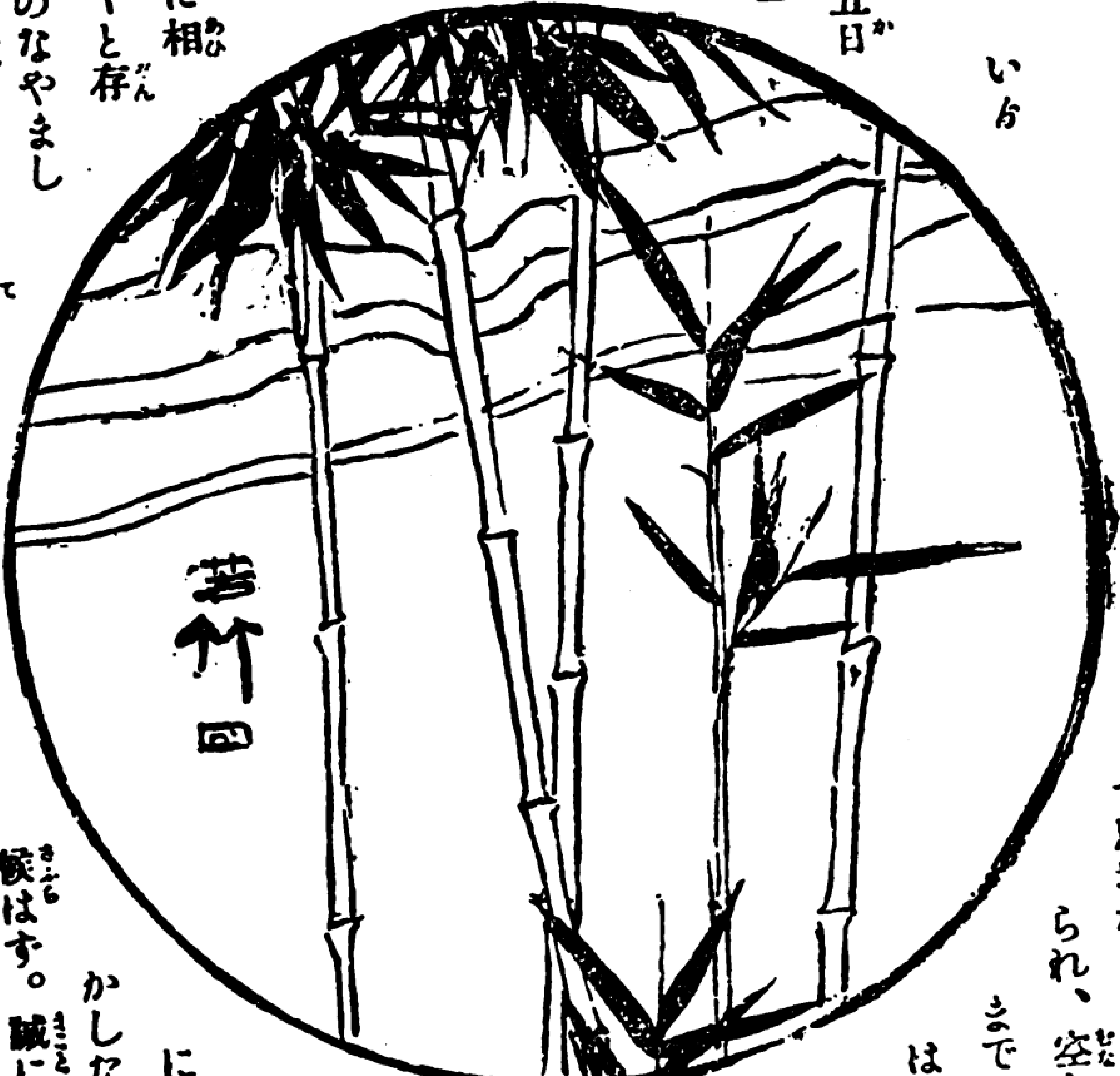
めいゟ

かつやをぢ樣御もとに

これは二十八年十二月五日の手紙だ。「かつやをぢ樣」とは、ずつと前に私の方から「樋口をば樣」といふ宛名で手紙を遣つたことがあるので、そのしつぺがへしなのだ。

＊　＊　＊　＊　＊

『餘り久しき御無沙汰に相成り申候。けふは〱と存じながら、日々つむりのなやましさに何するものうく、本もよまねば手ならひは更なること、人とものいふもいやにて暮し居



り、夫れ故の怠りに候。日々母と妹の右左よりせつきて馬場樣へのお返事かけよ〱とせきたてられ、空しう返事のみいひ〱今日までには相成しに候所、けさは雨降て物の淋しさに堪へがたく、今小石川の稽古に出づべきなれど、夫れも憂くつらければ、とりとまらぬことしたゝめ出で申候。私は此頃御めにかゝりし頃よりの病氣さらによく成り申さず、たゞ氣がふさぐやうにて困り入候。文學界のうらわか草二十七日に世に出で申候へど、これに何かしたゝむべき約束成しもつひ出來候はず。誠に筆など持つこといやに成りはて候。このほど人の訪ひ來て、御もとは近ごろのやう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に筆とる事をいや／＼といふほどにやがて全く物かゝれぬやうに成るべしといはれ申候。さなるべきにや候はん。おもしろしと思ふ事もなし。筆とりて物いはんといふやうな力を入るゝこともなし。よし又力を入るるやうな事はありとも、此方づれがつべこべ何の用をかなし候はんや。無用のことをしたり顔にして居るほどくだらぬものはあるまじく候。さりとて是れをすてて外に何のおもしろき事ありといふにもあらず、移らばやと思ふ業もなし。誰れやらが歌に、しかりとて背かれなくに事しあればまづ歎かれぬあなう世の中といふが御座候。斷つことのかなはねばこそほだしといふには候はめ、私は日々考へて居り候。何をとの給ふな。たゞ考へて居るのに候。大抵の人に思ふ事をうち明けたとて笑ひごとにされて仕舞ふべきに候まゝ、私は何もいはぬ方が洒落て居ると獨ぎめにして居り候。たかが女子に候もの、好い着物をきて芝居でも見たい位の望みがかなはねば彼のやうにぢれて居るのであらう。といふやうな推察をされて馬鹿にされて嘲弄されて、これで五十年をやつさもつさに送つてそして死んでしまふ事かと思ふに、其死ぬといふ事がをかしくてやつとほゝゑまれ申候。こんな事はどうでも宜いのに候へど、つひ御心安だてに下らぬ事を書き申候。

御前樣はいよ／＼おふるひ、二頭馬車の御威勢をば御しめし下され度待渡り參らせ候。こゝの平田ぬしは男爵末松といふ綽名のもとに揚々としておはしまし候戸川さまはとかく病ひがちのやうに承りしが、此頃すこしおん勢ひよきもやう、御同人として御文通しばしばおはします事なるべく、此度の試けん終り給はば御地へでも遊びにお出かけなされ度おぼし召らしく承り居り候。暑中のおん休みにはかならず御歸京のおん事かと待たれ候。いつ頃よりお休みには相成候や。筆はおもふ事のかゝれで口をしく候まゝ、御目もじの折のみ待たるゝに候。

此ほどはおこゝろいれの花すみれ嬉しきことは御禮の筆たるまじく、たゞ手なれの書物のうちに納めて長く餘香をかたじけながり居り候。久々にておん姉上樣

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

にお逢ひ遊ばされし御嬉しさのほど、陰ながらもおしはかり嘸かしと存じられ候。奥様とまがへられ給ひし由、さて御ゆかりのお文様お廣どのなど參られなばいかならん。定めて蜂の巣をつゝきたるやうのさわぎ成るべしとをかしくて、どうやら其やうの事あれかしと願はるゝ心地も致し候。

ありし畫の事いかさまに成り候ひけん。あの子は今も御身近くに參り候や。にほの海近くにも風流はおはしますものぞ、みるめなき浦との給ふこと心得ず。箱根は箱根、近江は近江、二かたに分けて同じやうに御あはれびつかはさるべく候。

この文したゝむるうちにをかしき事いろ／＼沸來て猶申上度心地に候へど、時たま文さし上ながら、又口わるをいひ出しよなどの御かげごと侘しく、これまでにとゞめ申候。そのうち／＼　かしこ

三十日　なつ

馬場様御もとに

これは二十九年五月三十日の手紙だ。『二頭馬車云』は、一葉君がよく自分の身の上を悲觀したやうな話をされるので、『ナニ僕などは落ちぶれるのは何うしてもイヤだ。馬車に乘る積りでやる』といふやうな冗談を云つたことがあるからだ。當時九州に居た、私の實の姉が東上の途中彦根へ寄つて呉れたことがある。私よりは年が十ほど上なのに、何う間違へたものか中學校の關係者の間に、私の許婚者が尋ねて來たといふ噂が廣がつて大笑をした。姉を齋食に案内した樂々園といふ料理屋の女中にその噂を話したら『あれが貴方の奥様では、貴方には惜過ぎましせう』と云つて笑はれた。

お文、お廣、一人は隣家の小間使、他は箱根の温泉宿の女中である。

畫といふのは、當時同じ中學校に敎師を爲てゐた鹿子木孟郎君の筆になつた彦根の舞妓の肖像、三十八年か九年に太平洋畫會へ出したことがある。如何にも笑顏の可愛らしい十四五の娘であつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學生と髷

▲女學生が學校を卒業すると眞先に變化を呈するのは髮の結び方で、昨今卒業生が母校の處へ禮に來るのを見ると、皆言合はしたやうに大きな島田髷である。

▲それがしつくりと似合でもすることか、何れも言合した如くに人の頭を借りて來たやうで、似合ふものは殆んど一人もない。甚しいのになると噴飯したくなるのがある。

▲それはその筈で、直ぐ髷が似合ふやうでは我々が多年骨を折て彼等を教育した甲斐のない譯である。といへば異なことをいふやうに聞こえるが、全體教育を受けた者と無教育の者若くば教育に遠ざかつた者とは其表情筋肉の働き方が丸で違ふ、言換ふれば教育のある者は其眼つきや口つきが他の者に比べると餘程引締て居るのだから、その表情筋肉の發達した顏に突然日本人風の髷を持つて行つても似合ふ筈はない。昨日まで學窓にあつた女學生が卒業の翌日から髷を載せて可笑しく見えるのは當然である。

▲理由はまだある、彼等が學校に居る間は袴を穿け又靴までも穿いて、始終體操の教師などから姿勢を喧しくいはれて居たのである。此習慣のある者が遽かに頭に髷を載せ、三枚重などを引摺つては何うして動きの取れるものではない。

▲これは平素洋服ばかりを着慣れて居る男子が遽かに羽織袴を着用に及んだのと同じ譯で着こなしも巧く出來なければ歩くのにも非常に工合が惡い。從がつて他から見た恰好が頗る惡い之を眞直に前に向つて足を運ぶのと十文字に足を操つるのとの相違があるからだ。

▲殊に髮の結方と來ては餘程上手な商賣人でも幾度も結び慣れるまでは容易に其人の顏に似合ふやうに出來ぬさうだ。然るに女學生が遽かに高島田などに結つても似合ふ筈がないのに、彼等が何ういふ考から思切つて髷に改める積りか知らぬが我々から見れば只滑稽と評すの外はない。といつて吾儕は一概に日本髷を惡くいふのではないが、これが抑るかの卒業證書さへ貰へば最早それでいゝといふ父兄の考に同化されて了ふ洗禮の第一歩かと思ふと何だか四年間の教育か徒勞に歸して了ふやうな心持がしてならぬのである。

▲聞けば花柳社會の者は最も世間の流行を趁ふ者の如く世間から思はれて居るけれども、彼等自身は決して人眞似などをしない。何うすれば各自その特色を發揮し得るかといふことに苦心してゐる。(伊賀夕日丘校長)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現代の家庭と川柳趣味

阪井久良岐

◎川柳家の立脚地から現代の家庭を見ると、様々の註文が起つて來る。尤も川柳に對する世間の解釋は、單に滑稽家とのみ思つてゐるやうであるが、實はもう少し複雑の意味を含んでゐる。即ち都市、人事、風俗等の美的方面を歌ふ樂天的詩歌なのである。

◎まづ第一の註文は、女學校出の細君はよく鼻下に薄黑い髯を生やして澄ましてゐる。不注意千萬の至りである。これは自分で剃刀の使用法を學び、鼻の下に薄黑く髯などを生さぬやうに注意して貰ひ度い。古川柳家は、之れを地女と云つて擯斥してゐた。

◎それから細君として第一の務めは、良人の身の周邊を綺麗にすることである。汚れた足袋、ヤシツのボタンの外れたのなどは細君の恥である。

◎次には亭主が少しは酒を嗜む場合になると、來客へ出す馳走、又は夫れに對する注意などは、當然家庭の主婦として必要な課程でありながら、學校出の細君は兎角ボンヤリとして、無神經過ぎる。亭主がツイ料理店へ行くのも已むを得ない。

◎かう云ふと、酷く贅澤を云ふやうであるが、飲酒家ほど食物に綺麗なものはない。氣轉さへ利けば、糠味噌の古漬でさへ、生薑をあしらつて立派に飲酒家を喜ばせるのである。下手な學校の料理法などは、何の益する所もない。

◎氣轉の利かぬと云ふことは、江戸ッ子の恥辱として受ける批評である。江戸ッ子の崇ぶ「通」と云ふ詞「通人」と云ふ名稱は、察しのよいと云ふことである。察しと云ふのは、大なる同情心から起るのである。江戸ッ子の根本よりして川柳の花が咲いたのであるから、この同情心のない細君なら、家庭には、川柳の花は咲かぬのである。

◎今の婦人には虚榮心が頗る富んでゐる。尤も婦人に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

虚榮心が惡いのではなく、これ有るために婦人の生命があるのであるけれど、唯それを人に向つて誇示したり、同情心を失つたり、不通人となつては、甚しい野暮と云はねばならぬ。孔子さへ、富んで驕ること無きは難しと、二千年も昔に言つてゐる

◎江戸趣味と云ひ、川柳趣味と云ふのも、根柢には「人も善かれ我も亦た善くあるべし」との唯一言で盡きてゐる。この精神に反した家庭はいかに金持でも、荒涼なる沙漠のやうなものである。



◎來客を喜ぶのは、是れ江戸ッ子の通有性である。いかに主人公が喜んでも、奥の方で細君の不滿足な聲など聞えると、來客も甚しい不愉快を感じて歸つて仕舞ふ。

◎よく云ふ句なれど、古川柳の『添乳して棚に鰯がござりやす』のやうな女房になられては、話にならない。材料は何うでも、膳立の小綺麗に、主人一日の勞を慰めるだけの勞力を惜まぬやうにあつて貰ひたい。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎平日は虚心平氣で暮してゆき、たとひ一大事があつても、沈着いて事に當らなければならぬ。ツイ先日の夜、隣家に放火した者があつたが、提灯とゴムの長い管を用意して置かねばならぬことを熟々思つた。但しゴムの管は水道の水を導く爲である。時に一句あり。

探偵は放火の跡を嗅廻り

◎嘗つて他の家を訪ふたことがある。その家の細君は大層容色も好ければお世辭も好い。併し口ぎたなく下婢や書生を罵つてゐたには甚しく不快を感じた。これにつけても外交の旨い夫人などは、決して家庭の爲めに喜ぶべき者ではないと感じたのである。

◎自分の長女が十五で大柄であるので、もう近所の不良青年が、交際しませんか抔と云つて來る。現代は厄介な時代である。自分の友人の子に十五六の中學生がある。不良少年などに感化れぬやうにと陰ながら心配してゐる。

◎良人と共に外出するのに、衣類の詮議や髪を結ふのに、無駄な時間を費すのは、随分不快なものである。萬事手取り早くして、良人の支度と同時に外出するやうに心掛けて貰ひたい。細君の支度にグズ〳〵時間を潰されては、實際閉口して了ふ。

◎近來の下婢ほど癪に觸るものはない。だから家には十三四の小女ばかり置いてゐる。小女だから氣の利かぬ事だらけだけれど、一人前の下婢の横着なのよりも優である。その行屆かぬ點は、主婦が自から進んで之を補ふ他はない。將來の女學生は、下婢を依賴せずに庖廚を處理する心得がなくてはならぬ。徒らに高等教育を受けて、外交官夫人のみ夢みるのは、猶ほ坊ちやんが陸軍大將を夢みるやうなものである。

◎家庭の仕事は、女子の一大任務である。ところが醒めた女は下女奉公はせぬなど、力味かへるのは抑も誤ちの甚しいものである。良人に權力があるのは、大切な稼ぎ人であるから已むを得ない。いかに醒めた女だと云つて勢力を振りはしても、女髪結などの生活は餘り羨ましい人生とも思はれない。

◎氣の毒なのは良人の身である。細君や子供の爲めに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

汲々として働いて、嫌な人間にも頭を下げたり、愛嬌を振り撒かなければならぬ。それは細君が良人に機嫌を取るよりも、モット辛いことである。何事も自分がその局に當れば迷夢初めて醒め、一杯でも餘計に亭主に甘い酒を飲ませ、サツパリとした浴衣でも着せるやうになるのであらう。

◎どうも女學校出の細君は氣が利ない。その例を云へば、去年の春或る友人に招かれた事があつた。江戸式に何か珍な所へ食べに行かうと云ふ前觸れなので、故意とお腹を減して行くと、恰度友人と一緒に出掛けやうといふ間際に、その細君が、誰さんから鷄皮を澤山頂きましたとの報告が有つたので、急に友人の氣が變つて、ソレでは一ツ宅で飲まうと云ふ段取になつた。然かるにこの友人火をおこすのさへ不器用だから、自分が骨を折つて火を拵らへた。元來自分は甚だ下戶の方で先方は上戶である。先方は酒飲ゆゑ悠々と構へてゐるが此方は下戶だから已に午後七時過にはお腹が減つて堪らない。その中にやつと酒を持つて來た。が、お肴は出ないで、細君がお酒の肴は何にしませうと今更らしく友人に聞く。友人は湯豆腐でも



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

拵らへやうから、二丁ばかり買へと命じた。自分は頗る驚いた。

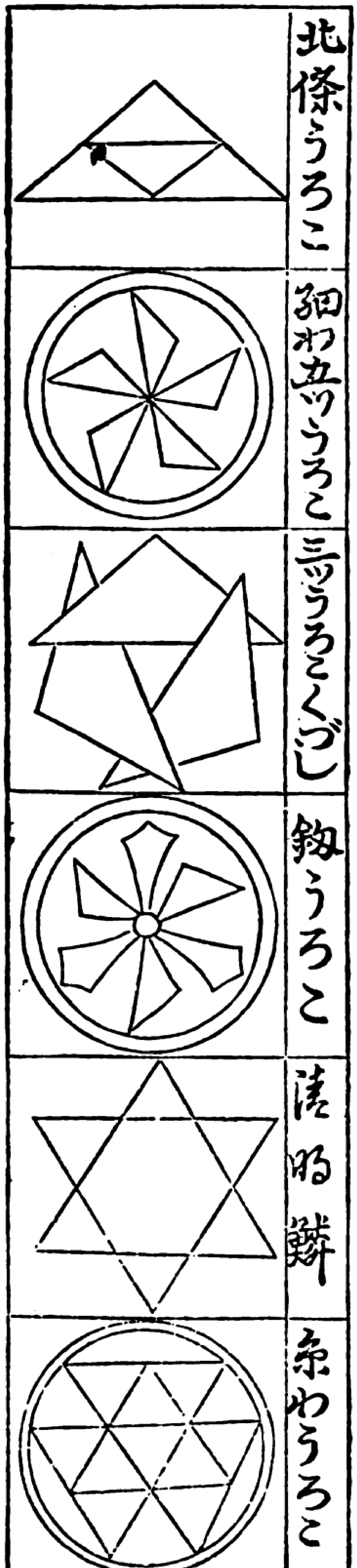
◎やつと豆腐がくる。京都式に昆布が鍋の中に敷いてあるのは注意が行屆いてゐるが、此湯豆腐番は自分が務めるやうになつた。所へ又一人の幇間的友人が來た。これへも酒を出す。自分が豆腐を盛つてやると云ふ始末。所で御吹聴の鶏肉はどうなつたかと云ふのに、友人の間に細君は平然として、下で子供達と皆な食べてしまひましたと云ふ。それで又お豆腐を買ひませうかと紳士に問ふのである。

◎成る程細君にしては、亭主在宅の方が嬉しいかは知らぬが、全然來客を居候扱にして、湯豆腐の二杯三杯で逐拂ふのは、縱し心安立とは云ひながら、自分は御馳走の程度より、この女學校出の若い細君、而も子供の二三人も持つた若いお母さんの甚だ氣の利かぬのを氣の毒に思つたのである。江戸の女ならば、こんな眞似はすまいと思つたのである。

天地のかくろへごとを我が胸に
さゝやく如き水の音かな　（信綱）

水を見て流るゝ水を見てありぬ
ひと日は斯くてありも得しかど　（夕暮）

うろこの意匠



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



學校

小山内薫

家が困ると言ふのでもなし、泥水稼業を慕ふと言ふ風な子でもないのに、どうしてお駒はお酌などになつたのでせう。お駒は踊が好きなのです。踊が好きな許りにお酌になつたのです。

六つの時、新富座で大復習があつた時に、うつぼの猿をやつたのが始まりで、それからその翌くる年の翌くる年、上野の梅川で一度、三井の集會所で一度、山姥の金太郎を踊つてからと云ふものは、もう寝ても覺めても頭の中は踊ばかりで、子供心にも人の前で踊つて見せると言ふ事の外にはもう何も望みがありませんでした。

お酌になれば始終踊が踊られる――お駒は唯一途に斯う考へたのです。丁度、そこへ持つて來て、學校の友達が三人一緒に學校を廢めてお酌になるといふやうな事があつたものですから、お駒は愈〻我慢が爲きれなくなつて、到頭お母さんに切り出して了つたのです。

さういふ土地にこそ住んでゐましたが、固より家は堅氣で、しか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もお父さんといふ人は近所でも名代の頑固でしたから、お駒の願は中々聞かれさうにもしませんでした。お駒は毎日毎日ねだつて止みませんでした。お酌というやうな者になる事が、家にとつてどの位不名譽になるか。自分にとつてどの位惡い結果になるか。そんな風な事はお駒には全で判からなかつたのです。お駒はお酌にさへなれば綺麗な着物を着て人の前で踊が踊れるから好いと唯それはかりを思ふのでした。お母さんやお父さんは又、花柳社會の内幕を八つや九つの娘に話して聞かした所で判かりもしないだらうと思ひましたし、又話して却て惡い智慧をつけてもならないと思ひましたものですから、譯は言はずに唯「いけない。」「ならない。」の一點張りで通したのです。

いけない理由の説明が出來ないだけ親の方には弱みがありました。可愛い娘が日毎に無邪氣な哀願は最後にとう／＼兩親の心を動かして了ひました。

お母さんは愈〻お駒の願を聞き入れる時、「お酌になつても決して學校は廢めない事」といふ條件を出しました。お駒は元より學校好きな子でしたから、それは固く承知をしました。それから別に「母の戒」といふ物を箇條書にして渡しました。

一、お客に對して失禮なきやうにする事。
一、朋輩と爭はぬ事。
一、惡しき事の勸めに乘らぬ事。
一、惡しき噂をされぬやう注意する事。

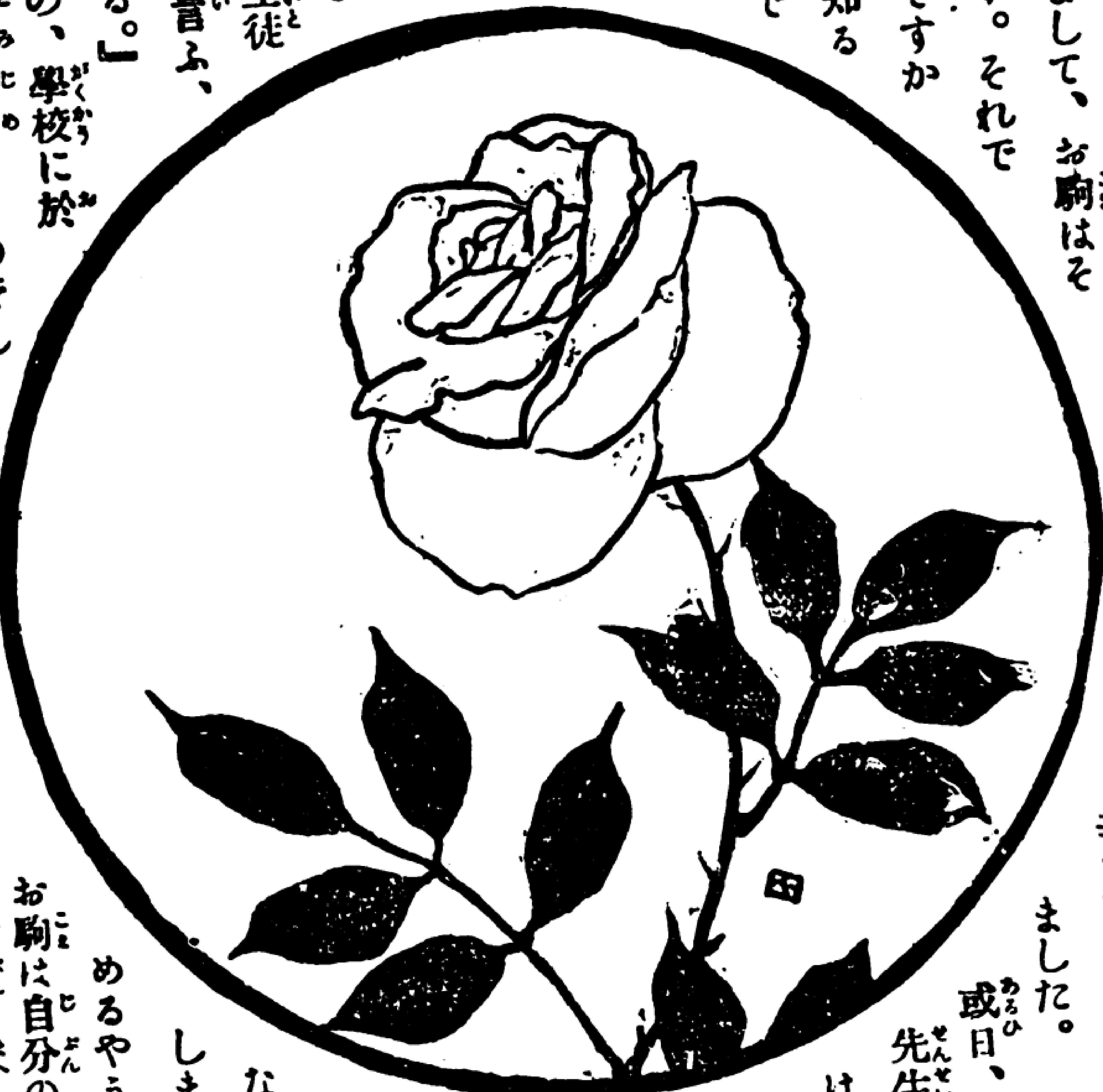
先づ大體こんな事でした。これにも勿論不服はありませんでした。

お駒がお酌の披露目をしたのは、十一の歳の十二月でした。お駒は唐人髷に結つた頭を毎朝きつと毀して友禪の振袖を黑木綿の改良服に着換へて、しな／＼になつたモスリンの袴を穿いて、休まず學校へ通ひ續けました。併し、好い鹽梅にその年の内には、學校の人でお駒がお酌に出た事を知つた人は誰もありませんでした。

お駒のお酌に出てゐる事が判かつたのは、その翌く

る年の二月でした。その頃市内の或新聞に「小藝妓投票」といふものがありまして、お駒はその一等に當選したのです。それで寫眞や何かゞ出たものですから、急に學校中の人が知るやうになつて了つたのです。新聞の記者がお駒を推薦した詞は斯うでした。「手踊は藤間、小さい時からの弟子、長唄は杵屋、一中節も遣る、義太夫も遣る。その上晝間は小學校の生徒で、學校へ通つてると言ふ、未來有望の半玉である。」

それからと言ふもの、學校に於けるお駒の境遇は誠に不見目なものでした。毎日毎日朋輩には虐められる、先生には蔑むやうな顔附をされる、お駒は忽ち好きな好きな學校を辛い辛い出場所か何かのやうに思ふやうになりました。



或日、書取の時間に、受持の女の先生が、「踊屋臺」といふ字の書ける人は手をお上げなさいと言ふのです。その時、お駒は確に手を上げたのださうですけれども、先生にはそれが見えなかつたか、「田川さんは何故手を上げないのです。あなたに書けない筈はありません。あなたに書けなければ、外の人には何書けやしません。」と、先生は鋭い聲で責めるやうに言ひました。

お駒は自分の右に座つてゐる或待合の娘と、それから自分の前に座つてゐる或藝者の妹と、斯

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

う三人黒板の前へ呼び出されて、今の「踊屋臺」といふ字を書かされました。

『やつぱり田川さんの字が一番お上手ですねえ。まるで踊つてるやうですわ。』

三人が席へ戻ると、女の先生は冷かすやうに、斯う言ひました。お駒は眞赤になつて、顔を袖の中へ埋めて了ひました。

それからまだ斯う言ふ事がありました。或雨の降つた日の事でしたが、運動場へ出る事が出來ないので、休み時間にみんなで敎場にゐますと、丁度學校の下を半玉の披露目が通つたのです。

『あら、猫が通るわ。綺麗だこと。』

大工の娘で、級でもいけない方の旗頭が、先づ斯う言つたものです。お駒は「猫」といふ事が何を意味するか、それさへ知らない位な初心な子でしたから、何の氣なしに窓の所へ行つて、みんなと一緒に下を見おろしながら、

『猫つて何なの。』

と、聞いたものです。さあ、さうなると今の宜しくないのが愈々默つてゐません。「知らばツくれるない」と言つた憎體な顔付をして、

『あら、あなた猫知らないの。あなたのお仲間ぢやありませんか。』

と、斯う言ひました。すると又その尻尾に乘つて帝國ホテルのボーイの娘だとかいふ、これも名うてのいけずが、

『まあ、小猫よ。誰かさんのお仲間だわねえ。』

と言ひながら、クツ／＼言つて笑ふのです。終には先生まで敎室へ這入つて來て、

『田川さん。お客のお相手はどういふ風にするもんです。よくあなた極りが惡くありませんねえ。』

などゝ言ふのです。お駒は涙を目に一ぱい溜めて、みんなの言ふ事を默つて聞いてゐましたが、先生のこの一言を聞くと、もう堪へ切れなくなつて、自分の机の上へ泣き伏して了ひました。

お駒はもう學校は辛くて／＼堪らなくなりましたけ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

れども、學校を休むといふ事は始めの約束でどうしても出來ませんでした。或時、炭鑛會社か何かの祝で、どうしても四時迄に或お茶屋へ行つて踊を踊らなければならない事がありました。いつものやうに髮を毀して學校へ行くと、學校から歸つてから髮を結つてる間がないので、已むを得ず、始めて桃割に頭を結つた儘で學校へ行きました。

ふだんから意地の惡い大工の娘は、どうしてこれを默つて見てゐませう。さんざ色んな惡口を利いた揚句に、鉛筆の粉をお駒の頭の上へ振りかけたものです。裁縫の時間になると、簡箋縒の先を廣げたのに針をつけて、それを結ひ立ての髮の上へ刺すのです――。

『お座敷へ行く時の髮はかういふ髷ですよ。』

紙には斯う書いてありました。お駒はちつともそれを知らずに、先生に少し聞く事があつたので、先生の机の所まで行きました所が、その途中でみんなにその紙の字を讀まれて了ひました。これが爲に今まで何も知らないでゐた人にまで、自分の商賣を知られて了ふやうな事になりました。



その日は、學校の歸り道にも、みんなにからかはれて、あんまり『お目出たう。』『お目出たう。』と脊中を打たれたもので、とう／＼折角結つた頭の根を拔いて了ひました。泣きながら家へ歸つて、髮を結ひ直して貰つて、やつと約束の座敷へ驅けつけましたが、もう時間が一時間も遲れてゐたので、お茶屋のお上さんには、『半玉の癖に時間が遲れるといふ事があるものか。』と散々に叱られますし、踊が間に合はないので、お客

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

からはお小言が出ますし、お駒はもうつくぐ厭だと思ひました。

それから二四日しての事です。或日、體操の時間が濟みますと、お駒の後に立つて一緒に亞鈴を振つてゐた或車屋の娘が、斯う言ふのです。

『今日は面白かつたわ。田川さんの後で田川さんの體操してるのを見てゐると、まるで踊を踊つてゐるやうだつたわ。』

と、斯う言つてる内はまだ好うございました。

『あたし、お父さんに聞いたら、藝者つて泥棒見たやうなもんですとさ。』



これを聞くと、お駒は堪らなくなつて、聲を上げて口惜し泣きに泣き出しました。あともう一時間あるのを逃げ出すやうに學校を駈けて出て、家の閾を跨ぐや否や、お母さんの前へわッと泣き伏しました。

「もう、もう、もうあたし學校へ行くの厭・・・學校へ行くの厭。」

お駒は譯も言はずに唯泣き菜る許りでした。お駒のお母さんは、お駒の氣の鎭まるのを待つて、靜かに譯を聞きました。そして嚴格な調子で斯う言ひました。

「それはお前の心柄だから爲方がない。だからわし達は初めから不承知だと言つたのに、お前がどうしてもそれを聞かないんぢやないか。學校が厭ならお廢し。その代り商賣も今日限り止めさせて了ふから。」

お駒はこれを聞くと、驚いて詫まりました。

「行きます。行きます。學校へ行きますから、商賣廢させないでね、ね、お母さん。」

お駒はどうしても商賣を廢めるのは厭だつたのです。丁度その時分方々で踊の催しはありましたし、自分と一緒に出た三人の子は直きに廢めて了つたので、今自分が廢めれば、やつぱり藝で賣り通す事が出來ないから廢めたのだと思はれるのも殘念だと思つたもんですから、どんなに辛くても學校は廢めないからと言ふので、又商賣を續ける事になりました。

それからと言ふものは、學校でどんな辛い事を言はれても、お駒は決して家へ歸つてもそんな話はせずに、一生懸命に學問を勉強して、とう〳〵高等四年も卒業しました。

娘の脚

ベルツ博士は日本婦人の三大缺點として、其頭の大きい事、骨盤の小さい事、足の短い事とを擧げた。從來の日本婦人は實際脚が短かゝつた。それで餘計頭も大きく見えた。所が、近頃の娘は脚が著しく長くなつた、十六七の娘でさへも、其母親と並んで歩くのを見ると、大抵は母親よりも丈が高い。丈の高いのは畢竟脚が長くなつたからである。昔の婦人は多く家の内に引籠つて居たので、自然脚の發育が充分でなかつた。今日の女子は體操もし、山にも登り飛んだり跳ねたりするから脚部の發達が良いのである。是等の娘が結婚して出來た第二の國民の體格は、現在よりも大きいに相違ない。併し體格は大きくても、内部の諸機關が弱くては何にもならぬから、此點は注意を要する。昔の婦人は身體は小さくても、内部の諸臓器は强かつた。尤も今日生存して居る人は一番强健な人だけが殘つたのではあるけれどそれでも幾多の疾病に抵抗し、困難と鬪つて來ただけに、却々丈夫な所がある。娘を持つ親は、其身の丈の高いばかりに安心せず、内臓の健全なるや否やを診て貰ふ必要があると思ふ。（額田醫學士談）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

七月の惣菜料理献立（一）

日	朝	晝	夕
一日（月）	みそ汁とうふ	あゆつけやき	いり玉子二杯酢
二日（火）	金平牛蒡	すゞきしほやき	くじらみそ汁
三日（水）	やきパン、玉子	たゝき牛蒡	鯛につけ
四日（木）	みそ汁小かぶ	いわし酢あぶり	豚肉、みそ汁
五日（金）	やき茄子	鮒、こぶ巻	まぐろ、山かけ
六日（土）	やきパンジャムつけ	いわし、フライ	鶏肉、つぶみそ煮
七日（日）	みそ汁、茄子	ふび、ぐそく煮	いわしつみ入れ清汁
八日（月）	つくだに	あぢ、うまに	さやいんげん土佐煮
九日（火）	みそ汁、いんげん	生りぶし、あんかけ	どぢやう、みそ汁
十日（水）	いりどうふ	あゆしほやき	油あげ、玉子煮
十一日（木）	鮒、すゞめやき	玉子、おろしあへ	鯛、うしほ汁
十二日（金）	やきのり	めうが、玉子とじ	豚肉、つけやき
十三日（土）	みそ汁、胡瓜	つけやき、玉子	まぐろ、さしみ
十四日（日）	生玉子	いわし田楽	いんげん、ごまあへ
十五日（月）	こんぶ、つくだに	大あぢ、しほやき	むし茄子くるみみそかけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

七月の惣菜料理献立（二）

日	朝	晝	夕
十六日（火）	鯛みそ	いわしのしほやき	豚肉みそづけ、やき
十七日（水）	味噌汁、冬瓜	茄子、あげだし	あゆ、煮びたし
十八日（木）	昆布、つくだ煮	ねぎま	豚、カツレツ
十九日（金）	生玉子	いか、つけやき	鯛あらに
二十日（土）	みそ汁、わかめ	あぢの煮つけ	まぐろ、さしみ
二十一日（日）	味噌汁 くづしどうふ	つけやき、玉子	すゞき、煮つけ
二十二日（月）	ゑび、つくだ煮	たこ、さくらに	牛肉、鍋やき
二十三日（火）	いり、卵のはな	いわし、つけやき	あんかけとうふ
二十四日（水）	みそ汁 さやいんげん	油あげ、につけ	鶏肉、つけやき
二十五日（木）	座禅まめ	あぢしほやき	どぢやう、かばやき
廿六日（金）	みそ汁 さやいんげん	つとどうふ ふくめに	茄子、しぎやき
廿七日（土）	福神づけ	あゆフライ	いんげん ふくめに
廿八日（日）	みそ汁 わかめ	牛肉 みそつけやき	胡瓜 かろ煮
廿九日（月）	やきパン 半熟玉子	いわし みそ煮	豚肉 山しようやき
卅日（火）	やきのり	たうなす 煮つけ	鯛あら うしほ汁
卅一日（水）	みそ汁、冬瓜	生ゆば うま煮	まぐろ、ぬた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

海水浴の心得



幾十日位海水浴を行つたら健康若くは疾病に益を與ふることになるだらうかと云ふに、之はその人々の體質やら健康狀態によることで一槪にきめるわけには行きませぬが、先づ三週間から四週間位が適當であらうかと思はれます。たゞし日夕讀書研究に頭腦をつかつてをる學生達なら、夏期休暇中二ヶ月間も海邊に滯在して海水浴をとることができると、心身の疲勞を恢復した上に更に一段の進境を開くにおいて莫大なる利益幸福を求め得らるゝことと信じます。

一日中で何時頃が最も能く海水浴に適するかと云ふに、之れを仔細に吟味することになると、土地風土の關係上一樣に行かぬが、暖い鹿兒島邊も、其と稍ゝ溫度の違つてゐる東京附近の鎌倉邊でも、午前にあつては九時から十一時頃の時間をえらび、午後にあつては三時頃から五時頃迄の時間をえらぶのが最も適切であらうかと考へられます。日中の極く暑い午後の一二時頃と、食事をしたすぐ後ち等は禁忌すべき時間であります。其れから身體虛弱なる人が、海水浴によつて其の健康を増さんとするには、なるべく波の靜平なる場所と溫和なる日と時とに於て之を行ふのがいいです。

海水浴を行ふ場所のごときも、體質强健の人ならば、西海岸若くは北海岸をえらぶがよろしい。金澤、新潟、山形、秋田の海岸には適當なる場所が澤山あります。しかし婦人、小兒、老人若くは生來體質の柔弱な人々、並に結核性や腺病性の者には、其れ〴〵各自の境遇に適切なる場所をえらばなければなりませぬが其にはやはり氣候が溫和で波が穩かなる東海道南海道、山陽道一帶の海岸が至極適してをります。

鈴蟲の飼育法

小宮順州翁の談に曰く、自分は鈴蟲の研究に着手して、まづ昔しの名殘りを留むる武藏野に鳴く鈴蟲を探つてその鳴く音を聽いて見たが思ふ程に鳴かなかつた。夫れから蟲の名所と聞えた秋田、岐阜等の蟲も取寄せて見たが、何れも平凡であつたから、今度はズツと手を伸して奧の宮城野から取寄せたが、さすがに昔からの名所だけあつて、鳴く節々は頗る細かくリシリンと七振り以上も振るが、音聲の稍ゝ低いのが缺點であつた。依て又念のため京の嵐山產の蟲を取寄せて見ると、これは柄も大きく、節ゝ細かく、殊に鳴く音の高いといふ特長を有して居たから、仍で宮城野產と嵐山產とを掛け合せて見やう、さうしたら頗る面白いものが出來るであらうと思ひつき、双方の蟲をば交尾させて其間に產れたものを見ると、果して豫想に違はず、節廻しは至て細く優婉で音聲頗る高く、且つ中には金鈴の音銀鈴の聲をば、七振りは愚かな事八振九振り十振り以上も振る珍品を生ずるに至つた。

一體鈴蟲は鳴くのではない。背部に二枚重ね

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の形狀になつて居る透明な羽毛と羽毛とが摩れあつて、一種微妙の清音を發するのであつて其摩り方は實に一秒時に二千餘回も摩り合ふのであるから、これから考へると七振りどころか十振り二十振りも實は容易な業であらうと思ふ。要するに今後尙ほ研究を遂げて蟲の身體が是れ以上の健康に出來たならば、果して殆ほ十振り以上の鈴の音を發するか何うかと確める心算である。

扨て鈴蟲は勿論秋のもので、八月から鳴き初め、十一月中旬までは鳴くのであるが、自分は更に初夏の頃即ち梅雨前に鳴せたい。夫れには秋の末になつて瓶の底に五六寸程の赤土を入れ此の中へ雌二十尾、雄五尾位の割合で蟲を入れ、寒冷紗の布を蓋にしておくと、雌雄の鈴蟲は仲よく交尾し、程なく雄が先づ斃死すると、雌は其後數日間雄の死骸を餌食とし、それを喰了ると、赤土の中へ一尾の雌で少くも千餘、多ければ二千餘の卵を產んで程なく之も斃死する。此瓶は其儘保存して年を越し、翌年一月中旬に温室に入れるか、又は温室同樣の温度(七十五度より八十度まで)を與へて置くと、三箇月目の三月末には始めて孵化するから、夫れからは靑菜の葉でも入れて遣ると、幼蟲は之れを餌食として瓶の中で發育を遂げ、孵化後三箇月目、即ち五月末には最うリン〱の清音を發するやうになる。但し暑中とは異つて氣候の變り易い梅雨前後の事であるから、温度を與ふる事は頗る注意が肝心である。

次に蟲籠と云へば昔しから細く削つた竹で屋根船の形又は家屋の形などに作つたものに限つて居たが、一體蟲類は明い籠を嫌ふのと、一つには氣候が不順で寒い場合に防寒の法が附かず又は蟻が入り込んで蟲を喰ひ斃すやうな事があつて、兎角に蟲の健康を害し勝ちであるから、現今金魚鉢として流行する圓形硝子の中に、少許の砂又は小砂利を入れ、其上に中は洞になつて居る樂燒の隱れ場所のあるものを置いて、之に神代杉の緣で寒冷紗を張つた蓋を覆ひ、紅又は紫の打紐で之を釣下げるやうにすると、蟲の健康にも好く、又恰好も頗る上品なものである。又更に枠形に組んで、之れを蠟色艶として硝子を張り、中には白砂を敷詰め、其上に樂燒で山水の風景を寫し、蓋は矢張寒冷紗を張つたのを用ゐ、之れを雅致ある蝶足の臺に載せたものもあるが、之も頗る上品で、何んな金殿玉樓の床の間に置くも恥かしくない。其他に輕便なものは、壺形の樂燒で、之れは二尾入りから一尾入りまで大小數十種あつて、値段は三十五錢から一圓五十錢までゝある。

又鈴蟲は非常に寒さを嫌ふかはりに、暑熱は百度以上となつても更に驚かないのであるから前記の樂燒壺に入れて床の間又は天井などに釣下げるのが善い。庭先きに出して雨にでも打たせたり、日光に直射させたりすると、直に斃死するのであるから、雨と寒さは特に注意を要する。餌は馬鈴薯、胡瓜、茄子、靑菜、又は酸味のない果物を輪切にして、毎朝一二切づゝを與へ、又時々鰹、鯛の頭の白燒にしたものを與ふれば、美音は益々さえるのである、

踊と體育の關係

踊と體育との關係と云ふ樣な實用方面の事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は餘り研究して居ないが、然し踊が體育上にも多少有益である事は、既に前にも唱へた人があり、自分でもさう思つて居る。其理由は、總じて藝術は主として人間の工夫になるものとは云へ、其土臺には是非とも自然と云ふものが存して居ればならぬ、即ち自然を基本とした技巧で無くてはならぬ。外國にも種々雜多の踊があつて、或は足を動かすを主とし、或は手を動かすを主とするが、日本の踊に至つては、殆んど身體のあらゆる部分を、唄の文句につれて且表情し、且運動させるのである。單にそれ許りを考へても體操の目的に叶ふ道理であるが、兎角不自然な四肢の動かし方は目に見ても快からず、道理から云ても妙で無い。故に古名匠が殘した振は、不思議にも自然の原理に叶つて居て、少も無理な運動はない。此無理のない運動と云ふ事が自ら體育の旨に叶ふかと思はれる。

二つには必ず唄に連れ音樂に連れ調子に乘つて踊るのであるから、少しく其技に熟して來れば、殆ど半無意識の間に活動するのである。見る者の目を樂しますと同時に、踊る者からも多少の快樂を覺える事がある道理。此中無意識の活動と云ふ事が又體育の旨に叶ふ。

第三には凡そ藝事は何藝でも丹田に力を込る事を第一とするが、就中舞とか踊とか唱歌とか演劇とか云ふ種類に至つては、一段と腹部に力を入る必要がある。近頃流行の言葉でいへば腹式呼吸若しくは腹壓の必要がある。就中踊は腰の据るを以て其堂に入るの第一とする。腰の落ちぬ踊は踊でない。又目ばたきの激しい踊は幼稚なのである。扨此腰の据ると云ふ事は腹に力の入るので定まり、目ばたきをせぬと云ふのも心の安靜に依つて定まる。而して此二ツは莊子の所謂整形一視に當る。かう云ふと御大層の樣だが、是も又養生の法に叶ふ證據である。（文學博士坪内雄藏氏）

昔の結婚風俗

結納といふのは昔は女から男へ送つたもので、其多くは琴であつたので、之を吾妻琴と稱した。三三九度の盃は、男は主、女は客分といふ意味から、男が盃を取つて女にすゝめたものである。奈良朝になつて一夫多妻の時代でも、正妻だけは新たに家をつくつて自分の宅にむかへたので、これが御新造樣といふ言葉の起りかも知れぬ。

平安朝時代は最も男女の間のみだれたときで男女はまづ互ひに思ふ人に詩歌を送つて情をのべ、互ひの心が合つたときには、吉日をえらんで、男は日暮方から女の家へ行く。それから翌朝早く歸つて女に思をこめた手紙をだすので、もしその返事が晝頃までもこなかつたら、男の方では不縁と斷念して悲しむ。かやうにして三晩かよつてから、三日目の朝に餅をついて御馳走をして、はじめて女の父母に面會するといふ風であつた。

室町時代には嫁が自分の家をでるとき其家の門外に盛に篝火をたいて門送りといふものをやつた。死人のやうに再びかへらぬといふ所からきたらしい。

又戰國時代に男が妻を離縁して一ヶ月以内に他の女を妻にむかへたときには、先妻は後妻に向つて決鬪を申込む。その方法は自分の身内

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の大力女をつれ、馬にのりこみ期日をさだめて後妻の宅の臺所からはいり、携へ持ちたる棒をもつて後妻をうつ。之を後妻打といつた。

子供の娯樂會

自分も子供が好き、家族一同も自分と同じに子供が好きであるから、お正月の七草を始めとして、二月の紀元節、三月のお雛祭、五月の端午、七月の七夕、九月の重陽、十一月の天長節等の大祭日節句はもちろんのこと、その他にも適當の日をえらんで自宅に子供の集會をもよほして一日の娯樂をほしいまゝにさせる。

自分一家の友人として集りきたる女の子供はいづれも十五歳以下であつて、大學の教授の娘もあり、商家の娘もあり、官吏の娘もあり、醫人の娘もあり、西洋人の娘もあるといふ次第で家庭の慣習やら趣味やらのちがつてると同時に、子供達の氣風も自然異てゐるが、たゞ一つ共通的の氣風とも見るべきは、遠慮がちで快活に乏しいことである。

これらの女の子供達は家庭において琴、三味線、手踊、義太夫、長唄などを稽古してるのも澤山あるから、餘興として自分達の知つてる藝をやつて見よといつても容易にやらず、また順々に落語やお伽噺やら[illegible]といつてもなかなか承知しない。

自分一人知つた風してでしやばるのは、就中女の子供にとつて嫌むべき悪性質であるが、あまりに遠慮に失して子供らしくないのも面白からぬ性質である。成長後社會にたつて衆と樂みをともにすべき温良快活の婦人たらしめんとするには、子供の時代から快活にして他人とともに樂しむの風を養はなければなるまいといふ見地から、いろ／＼と氣をもんだうへ、一日或る處から、五六名の男女の子供をつれてきて遊戲などをやらして見たところ、いづれも無邪氣快活であつて、自分の番にあたると、知つてることはどん／＼とやつて遊ぶさまは、すなほに見えていかにも心うれしく覺えた。この實況を目撃させてからは、自分の小友人共も追追と態度がよい方にかはつてきて、銘々知つた事をやりあつて、そして心から面白く一緒にあそぶやうになつた。

一體遊藝などは自分獨でたのしむべき性質のものでなく、衆とともに樂んでこそはじめて人生に利益あるのである。人影のない奥まつた座敷の隅で、琴や三味線をひいて一人で嬉しがつてるやうな婦人は、今の時勢に必要はない。何事にも知つた風する虚榮におこがるゝお轉婆娘は、大に排斥すべきであるが、さりとてあまり引つこみ思案で陰氣がちなのも決して好むべきではない。要は温順で、淸雅で、快活で、親んで狎れず、愛嬌の間に凛乎として一種犯しがたい高い氣品のそなはつてる婦人でなければならぬ。

世の娘を持つてる人々は、深くこの點に注意し、娯樂遊藝の間に於いても斯の婦人の品性を養ふことを忘れてはならない。

自分が、宅に子供の集會を催して、一日の娯樂をほしいまゝにさせてゐるのも、他に研究の材料にする目的もあるが、一つには、右のやうな考からでもある。（醫學士、樫田十次郎氏）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



勝氣の女

山茶花

新らしう郊外に建てられた私共の學校は寄宿舍が足り無くて、或古い旗本屋敷を借りて寄宿舍に當てられ舍監と共に三十四五人、私も其の中で、一緒に住む事と成つた。夫れは古くから化物屋敷と言はれて、閉めた儘借り人も無い家で有つた。誰が聞て來るとも無く皆は其の家に就いて色々の事を知つた。奥の八疊へ當つた人々は御佛壇を嫌つて、其の下へは毎晩代りで寢る事に爲て居た。お座敷の方へ當つた人々は夜中に起きる時は屹度お友達を起して、手燭を點けて用達しに行つた。其所には夜中に成れば時々怪しい物の音がするとかいひ出したが夫れは鼬で有らうといふ事で有つた。皆の行李を置く事にした暗い三疊は、人の自殺した間だと言つて、其所に近い四疊の間へは誰も行き人が無かつた。私は同國の三枝さんと相談して、二人其所へ行かして戴いた。近い客間には御夫婦の先生も居らつしやるし、淋しい事も無からう。大勢の人と離れて居て靜で善からうと思つたから。そして日を經ても何の怪しい事も見ずまことに愉快に勉強をした。皆も初めの中こそ何かと怖しい事を思つたが、一年許經つ中には平氣に成つてしまつた。十月に入つて秋の風が少し吹き初めると、寄宿生の心には何となううら悲しい思ひが一帶に行き渡つた。夕方に成れば隣の舊教のお寺で鐘が鳴つた。人影の絶えて見え無い、庭には草が蓬々として居た。高い石の建物、夫れを皆は舊教の

お寺と言つて居た。夕暮其所の鐘が鳴ると、何ともいへず私の心は遠い遠い國を思はせる樣に響いた。庭の方では、思へば遠し故鄕の空、などゝ歌ふ聲や、撞と笑ふ聲が聞えた。皆は知圓や西洋鬼さんなんかして庭の飛石に躓いたり、植木に行き當つたりして遊んで居る樣を思ひ乍ら、私は三枝さんと手を引いて裏の穴藏の陰へ行つた。其所には畑が有つた。畑の先にはおどろの竹藪が有つた其の藪の蔭に何所から行かれるのか、道も知れ無い穢い藁葺の小家が有つた。其の軒からは煙が上つて居た。



「私さう思ふの、筍でも延び樣〳〵とする時、上に大い石が壓しつけて居ると、横の方へ曲りなりにでも出て來る。丁度私は夫れだと思つてよ。早く上京たい早く上京たいと思つても思ふ樣に成ら無かつた中に到頭私の性質が這麼に曲つてしまつた。」と三枝さんは思ひ入つた樣に話した。私も、上京前の苦しかつた事など思ひ出して話して居た所へ、一人の友達が葉書を持つて來て吳れた。讀むで見て私は實に驚いた。故里の同窓の友小野千子樣の死去を報ずる葉書で有つた。三枝樣も驚いた。其の時私は世の中には不思議な事も有る物だと思つた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何故なれば、前夜千子樣の夢を見た事で有る。千子樣と私とは變な因緣を持つた古い友達で有る。二人の文通は其の頃打ち絕えて、千子樣の事はふつゝりと忘れて居たが、昔の儘の顏が夢には鮮に見えたので有る。千子樣が息を引取る時に或は私の事を思ひはしなかつたらうかと思つた。そして千子樣の顏を復思ひ出さうとしても、眉とか口とか部分々々には朧に思ひ出されても、再び其の時の夢の樣には鮮な表情を思ひ浮べる事が出來ない。

私は三枝樣に小さい時からの千子樣との間柄を話した。

私が千子樣に初めて逢つたのは八つ位の時で有つたらう。夫れは〳〵美しい賢い柔順い子だと母はいひいひ私を連れて三里許有る町の叔父樣の宅へ行つた。行つて見ると千子樣はおつ母樣と來て居た。二人は同じ年で有つたが、千子樣は私より大きかつた。互に恥しくて物も言はず勝手にお雛樣を作つた。私は田舍の子故すぐ築山を作つたり水車を作つたりして遊んだ。さうして居る中に二人は親しい間に成つた。叔父は二人を見て、二人は物言は無いから猫だといつて笑つた。軈て私は祖母と町へ出で千子樣と同じ小學校へ行つた千子樣は私よりも善く出來て大概一番で有つた。年取るに從つて何時か私に千子樣の身の上が判つた。元來叔父と言ふのは林家へ養子に行つて居た人で有つた。行つて間も無う唯一人有つた養母が死んだ。叔父は義俠心の有る人で有つたから、養家の遠緣に大阪へ出て非常に零落して居る人の有るのを知つて呼び寄せたのが千子樣母子で有つた。千子樣の御母樣は髮の薄い、優しい顏の人で、折々一絃琴を彈いて聞かせた。少し雷が鳴ると直ぐ蚊帳へ入る人で有つた。何時も手拭冠つて臺所で働いて居た。或時叔父はナイフを二つ買つて來て何方でも取れと先づ私に言つた。私は小形の方を取つたら、大きい方を千子樣に與へた。

二人は軈て女學校へ入つた。其の叔父に片目のお友達が有つた。其の人が或時私の宅へ來て、丁度來て居た母に密々と話して居た事が有つた。何でも千子さん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を叔父の細君にしては奈何かと言ふので有るらしかつた。其の時私は十四の千子樣と、昔から小父樣で有る叔父と思ふと何となく滑稽に感じた。叔父は學問こそ大して無けれ、可成大きい資産が有り、殊に人格の點に於ては誰にも恥しい事は無かつたが、奈何言ふ譯で有つたが、此の縁談は千子樣のおつ母樣が不承諾で止つた。其の後復奈何言ふ考で有つたか今度は御母樣の方から何卒貰つて欲しいと言つて出た。其の時叔父は一度斷られた物を貰ふのは厭だと斷然斷つたとの事で有つた。其の後も相變らず千子樣親子は叔父の宅に居た。

翌年の夏市中では非常に虎列剌が流行した。叔父は夫れに感染した母や大叔父は不絶看護に出た。宅の下女は日々叔父の家の門迄容態を聞きに行つた。夫れは暑い日の夕方で有つた。「おつ母樣から御願ひ申すのですが何卒暫時居らして下さい」と言つて、すた〳〵走つて千子樣が私の宅へ逃げて來た。其の夜警察からは消毒に來て、千子樣は當分學校を休ませなければならない事に成つた。夫れでも私許は學校へ行つても善いといふのが嬉しく、學校から歸つて來てはお友達が居るのでうれしく、二人で二階へ上つて梅が枝の手水鉢など讀むで遊んだ。叔父の病氣は左程強いのでは無いとの事で有つたが、私は一人學校から歸つて門迄來ると、宅の後の大公孫樹に烏が繁鳴いて居るのを見て宅へ入つたら、勝手口に下女が目を赤くして立つて居た座敷の方では「奈何爲ませう」といつて、千子樣が祖母と泣いて居た。叔父は今がた縡切れたとの事で有つた。其の頃は日々虎列剌で死んだ人を町から北の山へ舁いて行つた。田に稻を刈つて居た人は、今日は長辨當が幾つと、東の街道走るのを見ていつた事も有つた私共は若しや〳〵と雨の降る北口の手摺に出て東の方を見て居ると、丁度夫れと思はれる時分、蓑笠の男が柩を舁いで北の山へ走つた。私は軈て覺める夢の樣な氣がして、分明悲しい事も明ら無かつたが千子樣は涙が止まら無かつた。

叔父が死んだあとには間も無う相續の爭ひが持ち上

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて裁判沙汰に成つた。一方は千子樣の御母樣と、一方は大叔父で有つた。柔和な大叔父は、親類の義務として厭々乍ら遣つて居た。先方には大分腰押が有つた樣子。叔父の友達であつた片目の人も然で有つたらしいが、夫れよりも林家の遠縁の人が控へて居たらしい。未だ子供で有つた千子樣に、其の樣な慾深い心が有らうとは私は少しも思はず、人々の中に立てられて千子樣も嘸心を傷めて居るだらうとは思ひ乍ら、何と無く疎く成つて居た。或時千子樣を尋ねて林へ行つて見ると、門には叔父が愛して居た白い梅が咲いて居た。二人が玄關で話して居ると、見馴れぬ八字髭の若い男が湯上りの風で手拭を持つて歸つて來て、玄關からづか〳〵奥の方へ上つて行つた。「彼は誰」と聞いたら、「此處の家の親類の人」と千子さんは答へた。母などが折々言つて居た向方の人だらうと私は思つた。千子さんは誰に導かれるのか、原から色々な書物を能く讀むで居たが、其の口は種々文學の話が出て、當時の著名な作家の名なども言つて居た。日頃柔順い、謙遜な中に恐ろしい才氣を包むで居た千子樣が、其の日は樂しげに言つて、先々の希望を髣髴かした。年はお互に十八何時も私と並んで歩く時には、白百合と鬼薊と程違つたらう。土方などは見返つて、大きい方だね、などゝ冷評した。私は折々自分の身を悲しいと思ふ事が有つた。夫れ程人の目を引く千子樣が、今若い男と一つ家に暮して居るといふのを思ふと、何となく再び其の家へ行つて見樣とは思は無かつた。

一時新聞などにも書き立てられた訴訟事件は、第一審に見事大叔父の方が勝つたが、奈何爲たのか奈何言ふ譯か、第二審には千子方が勝に成つた。「實に案外だ」と大叔父は言つた。

學校は軈て卒業とて私は必死で勉強した甲斐が有つて、第一學期には漸う主席を占めたが、千子樣は何時に無く三番に成つて居た。追々卒業試驗の近づくに連れて、二三人の間には恐しい暗闘が有つた。自分も出來る丈は遣つた積りで有つたが、試驗後の報告には悲しくも二番に下つた。千子樣は一學期の不成績を償ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

爲どれ程の成績を擧げたのか、忽ち一番に上つた。晴れがましい式日には、見事卒業生の總代にも成り、來賓諸士の前では得意の文章も讀み上げ、名譽は此の人の一身に集まつた。

負けた。負けると言ふ事が淺墓な私には奈何に口惜しく感ぜられたらう。夫れより後は染々と物を悲しく思つて、奈何でも上京して今一層學問を勉強する他に道は無いと思つた。けれども兩親は却却許さ無かつた。

程經て林家の親族會議が有つた。そして人々は皆裁判所へ出た。其の時千子樣のおつ母樣は私に向つて、「私は詰らぬ人に腰を押されて濟まぬ事を爲ました。お目に



懸る顔も有りませぬ―と涙乍らに詫を言つたとの事で有つた。他から聞く所では他の人々が混雜の中で、叔父の遺産は大分遊蕩に費つてしまひ、裁判の落着の着いた時は、皆が分け取りにして、千子樣母子の手には何程の物も殘ら無かつたとの事で有つた。

私は空しく希望と憂愁を抱いて月日を送る中、兩親も根負けがしたと見え、漸上京を許された。私は飛び立つ樣な思がした。千子樣は其肋膜炎で病るく、或家の裏屋に住むで居るとの事を聞いたから、久々で見舞旁暇乞ひに行つた。漸尋ね當てた所は、門に灸下しの看板の出て居る家の奥で、四疊半か六疊位

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の一間で有つた。夫れを見ると小母様は喜んで迎へ入れた」千子様は二三日前に床を上げたとて窶れた姿で起きて居た。私が座敷へ上らうとするや否、怖しく忌はしい藥の香がつと鼻を打つた。それはクレヲソート、あゝ千子様の運命は極つたと私は心の中で思つた。小母様は千子様の病状を委しく話して居た。床の低い家で、夫れでも一寸した廻り縁が付いて居て、縁の下には深い池が有つた。狹い庭の隅には苔の生した築山が有つて、石なども面白く置かれて、薄やつわなどが茂つて居た。池には魚も居た。水は隣の井戸から溢れて塀の下から絶えず音立てゝ池へ落ちて居た。さて自分が今度上京するといふ事を話すと、二人は驚いた。

「千子も常々上京爲たがつて居ますけれども、恁麽風で思ふ樣には行きませず、誠に貴方がお羨しい」と小母様は言つた。千子様は其樣な事は言は無かつたが、言は無い心の中は私に判つた。縁側へ出て池へ小石を投げ乍ら同窓の友の噂など爲た。

前途際涯なき望を持つて都に出てよりの私は、最早千子様に對して露程の敵意も無く、一心に學問を勉強した。江戸川や隅田あたりの櫻を見ては其の人を思ひ武藏野の原にさし登る月を眺めては彼の侘しい池の上の家にもさし入つて居るで有らう。水は絶えず音立てて落ちて居るで有らうと思ふと、戀しく懷しく暗い悲しい心の中が思ひ遣られた。

單純な私は自他を代へて考へるといふ事はしなかつた。自分の目に稀しいと思つた都の話は折々に手紙に書き、學校の寫眞帖や自分の使つて居る教科書なども買つて遣つた。其の度毎に千子様からは丁寧な禮を言つて寄越したが、上京爲度いとか勉強し度いとかいふ事は一度も言つて來無かつた。其の後千子様は或田舍の小學校へ奉職したと言ふ葉書を寄越した。志有る人を草深い田舍に朽ちさせるのが惜しく、氣の毒で、私は絶えず手紙や書物など送つて慰めたが、何時と無く葉書の禮状も來無くなつた。病氣なれば病氣と言つて來さうな物だのに、此方の眞心が通じないのか、何と無う心の顏を背ける樣な素振だと私は飽き足ら無く思つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た。其の後出した手紙は幾枚か附箋が付いて歸つた。其の後の事は全然判ら無かつた。むゝさては死なれたのかと何ともいへぬ淋しい思がし、復最も自分に接近して居た人の上に早くも死の手の下つたのを見て漫人生の無常に驚き恐れた。其の化物屋敷の穴藏の後で受けた刺戟と、其の夕暮の光景は直と私の胸に映つて何時迄も消す事の出來無い物と成つた。

翌年の暑中休暇に歸省して、千子樣の事に就いて涼臺の上で母の話を聞いた。母が町へ行つて、ふと千子樣の御母樣に逢つたさうで有る。御母樣の話に、千子も昨年の秋死んでしまつて、私は唯一人何の生き甲斐も無い身だが、扨唯も居られず、此の頃はお恥しい裏屋で、賣り出しの提燈など貼つて居る。昨年の夏千子が最早駄目だと言はれた時分、お宅のお孃樣のお通りに成つて居らつしやるのを、私が他所乍らお見懸けして歸つて千子に其の事を言つたら、何とも言はず涙をはら〳〵と零した。絶えず御親切に爲て戴いたから御目に懸り度かつたであらう。其の後或朝私を呼ぶから行つて見ると、何卒私が死んだら其の事をお孃樣に知らせて下さい。母樣にも永々お世話樣懸けました。と言つて頭をがつくりさせたかと思つたら、其の儘で有つた。千子も何卒して上京したい〳〵と言つて、未だ病氣の癒り切ら無いのに學校へ出、學資を作ると言つては夜分なども無理な仕事を爲たのが惡かつた」と言つたとの事で有つた。私は思はず涙ぐまれた。病の痛手を持つて居て然も負けず嫌な人に、愚な私は美しい同情の積りで慘酷な鞭を當てたのである。

人に物を贈らむとするに是だけ贈れば此だけの返しを得べしと、初めより返禮をあてにする人あり。或る人松茸を買ひて、贈る時は大儀なれども、澤山贈れば正月に鮭が來る、少し贈れば鮹になると、あきれたる言葉なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



和歌

一等

○　東京　美耶古

大空はまだ明けやらず曉さえて莊嚴の瀧のとゞろとゞろく

評　莊嚴なる景色なり。調も亦これに適ふ。

二等

○　濱松　山下やよ子

思ひ出の絲もてあみし繭の中に寢れば嬉しも月のゆふぐれ

評　月白き夏のゆふぐれ、獨りゐて默想を恣まゝにするの趣味、詩人にして初めてこれを解す。超脱せる歌といふべし。

○　下關　山本芳子

月見草咲く沙山にたゝずめば島山遠く紫にして

評　四邊模糊たる夕べ、脚下には月見草の黄なるあり。遠くには薄紫の島山あり。實に美しき景致なるかな。

三等

○　大阪　野村德子

名月は碎けて散りて谷川の水しら玉となりてながるゝ

評　歌調奔々として亦た急湍の如き趣きあり。秀歌。

○　下關　奈良野倭文子

このまゝを此夕ぐれを亡き姉は窓に倚りて人を思ひぬ

評　思ひになやむ乙女し、今はなき人に入りぬとや。その妹のやがて姉の年ごろになりて、深くその折の姉を思ふ。感情溢るゝが如し。

○　美作　杉山信子

世のかぎり思ひ捨てにし人ながら病みぬときけばわびしかりけり

評　思ひ捨つれど憎きにはあらず、腹立たしけれども亦懐しき心地す諦めがたきが女の優しき心なり。

秀逸

○　豐後　加藤喜多子

栗の花さびしき人の集りて泣けるが如も夕雨に咲く

評　着想面白し。されど「夕雨に咲く」の一句やゝ無理なり。

○　小石川　近藤ふぢ子

君いますかなたの岡は桐咲きて甘き香にほふ雨の夕ぐれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れ。

評　暖き夏の雨と甘き桐の花と、いづれも人を懐しむに好し。

○　　　福島　赤羽よし子

乳ふくむ紅き唇のそれのごと露しげかりき朝の苺は

評　紅き苺を稚兒の唇に譬へたる、可愛らし。

○　　　兵庫　古谷知子

情なきも悲しきもみな習ひぞと口には言へど我れ女なり

評　末句佳なり。

○　　　巣鴨　杉本ひろ子

夕されば愁ふる人の心より脱けて來しかもかはほりの飛ぶ

評　和泉式部の螢の歌と着想同じなれど、稍〻わざとらしきを恨みとす。

○　　　岸和田　寺田ひで子

ダリヤなどさしたる玻璃の花皿に化粧の筆をそゝぐ夕ぐれ

評　艶麗、調も亦た穏かなり。

○　　　岐阜　三田貞子

十七の春を草多きしめり屋にマグダの道こふ一人となりぬ

評　あまりマグダの道などに戀ひなたまひそ。

○　　　丸亀　白露

枇杷の實はほのかに暮れてかはほりの心まどはせはたゝ飛ぶ哉

評　屋敷町などの夕暮の景色よく現はれたり。

○　　　熊野　郁子

さつき闇水鷄鳴くなり川添の湯屋の燈火影ほそくして

評　村端れの小川などにや。淋しき景色なり。

○　　　奈良　吉田たみ子

雨あがり五條の橋を湯がへりの京の女のうつくしきかな

評　艶麗なる京女の姿、目に見ゆるやうなり。

佳作

○ 山百合の花のしづくかさら〳〵と木の間を縫ふて清水流るゝ　　靜岡　山内蓮江

○ 燃ゆるてふ其おんこゝろ花げしのなよ〳〵しさに似るかうとまし　　上澁谷　國分常子

○ 水青く夕日は赤くかゞやきぬヨットこぐ人なにをか歌ふ　　横濱　高橋露美

○ ほとゝぎす明日は啼かずに過ぎてよや惱める胸は破ぶるゝものを　　伊勢　すみれ草

○ モーターの異様の響傳ふ夜の孤燈に白き月見草がな　　小倉　小田原栞子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○　下谷　星野しづ子

偲こもる母がみふみに柔かき心にかへるなつかしの夜や

○　大阪　みどり女

うす月夜濡れ貝光る磯づたひ舟唄聞きてそぞろ歩みを

○　靜岡　石野豐子

母見れば夏の沙漠の夕暮に森見し如く千倍よろこびぬ

○　仙臺　香里靜江

むらさきに山はけむりぬわが庭の花はちりけり初夏の雨

○　舞鶴　千草

蓮におく玉よ眞珠よ白[illegible]よ暫し留とめよ我の來るまで

○　水戸　中根穠子

百合の精ひなげしの精相よりて密語すごとき花壇の微風

○　千葉　渡邊ひろ子

捨つる可き人の戀しや初夏の白き光に芍薬の散る

○　駒込　山本時子

桔梗野の葉末ほのかに月出でぬ十根の白波うすがすみして

○　群馬　大瀧一枝

似たるかな君がやさしき面影にまだ初咲きの姫百合の花

○　京都　三宅白雪子

青葉かげ悲しみ多き身を投げて物思ふなり晝のひるまに

○　東平　渡邊梅子

松陰にやくやもしほの夕煙のぼる白帆にうすう流れぬ

○　牛込　本田登代

物思ふ心にも似て淋しけれ降りみ降らずみ五月雨の空

○　駒込　稲井のぶ子

一灣のうしほは暮れて磯寺の伽藍にさむく蜩の鳴く

○　淺草　福井すみ子

月見草咲きにけらしな我戀のはかなきふしと思ふ夜ごろに

○　埼玉　石田琴子

都へと君は去りける初夏の薔薇ちる朝の侘しかりしよ

○　千葉　高木暉子

さらぬだにかなしきものをいたづきの窓にうちきく夕暮のあめ

○　神戸　さい子

紫雲英草摘みてよろこぶ少女なりし昔なつかし初夏の宵

○　瀧の川　山田水月

漁火はまだ消えやらでよる波のほのかに白し暗の海

○　仙臺　堀千枝子

ホルト油の匂ふ廚の白壁に優曇華の花ひかる六月

○　茨城　今泉義子

銀の珠噴水盤をすべり散る觀音裏の夏の夜の月

○　福岡　沼口晶子

なつかしき夫ののります破れ馬車はかすみの中に消えにける哉

○　下谷　高橋ふみ子

野べ送る乙女の髮美しき花輪を去らず胡蝶まふかな

○　長崎　いれ子

疲れたる瞳に悲しけしの實の青きを包み壺の雨ふる

○　臺灣　川崎いさな

語りあひ手植ゑしばらの二つ三つ垣根に咲きぬ君よ來ましね

○　成田　櫻井米子

なつかしき故里とへばあはれなるたゞひともとの松ぞのこれる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○　備後　松野白露
ねぎごとを神に祈りて石段を下りくる面に夕ばえのさす

○　愛知　紅露
明かるみをよけて行くなる門づけの肘のほそりや新月淡し

○　下野　白すみれ
香吸ひ露うちふりてばら園に女神遊ばん夏の星の夜

○　麹町　淺井響子
薔薇の野にうすものしきて歌よみて死なんの願ひあはれをみなよ

○　大和　山田ちか子
山百合の花折り取ればはら〳〵と赤き花粉の白き衾に

○　札幌　西照子
背にはらにおひつ抱きつみどり子につげのおぐしを取るひまもなし

○　唐澤　磯草
乙女子が針のはこびに黄昏れぬあやめ花さくさみだれの宿

○　滋賀　村上治子
夕まぐれ思ひにたへずたゞ一人歩む湖邊に飛ぶ螢かな

○　彦根　璐月
絹布を縫ふ針先はつとそれて細き指さしなしき血しほを

○　出雲　長崎君子
青空の彼方に浮ぶ白雲の靜けきさまに似たる日もなき

○　巣鴨　野口濤滿子
折合はぬ姑つきの嫁のごとかはくまもなく五月雨のふる

○　群馬　三俣ふじ子
しと〳〵と五月雨降れる裏町を行く順禮のあはれなるかな

○　京都　白桔梗
水車ゆるうひゞきて風薫る丘の小家や夏菊の咲く

○　京都　たかし
帰へる日を月影かぞへ親待たむ緋燄咲ける湖添の家

○　新田　高橋千代子
彼の君も今宵若葉の月に泣きあはれと我を思すや否や

○　山形　佐多子
青蚊帳に紅布つけつふと思ふ嫁ぎける日の供のはち卷

○　名古屋　夕がほ
今しばしこぐ手やすめよ渡守川つらきよくすめる月見む

○　靜岡　のぶ子
夕月のかげもをぐらきはまづたひつゞくひがたに舟歩ほそし

○　三重　駒越くに子
少女てふきよきはかなきものゝ名に似つかはしくも咲ける[illegible]罌粟

○　芝　濱夕紅葉
白ばらのかをり漂ふ夕緑に聖書見る君が瞳明るき

○　京都　都路村子
夜や更くる花や萎みぬ殘り香の淡き忍して眠る顔

○　美作　楢原春子
赤き帶赤きたすきに愛らしや向うの畑に桑つむ女

○　大和　今西冬子
ほの暗き森の草道踏みわけて牛ひきゆけばほとゝぎす啼く

○　茨城　桃井雅子
舞扇揃り[illegible]みせし九つの春は八年の昔となりぬ

○　[illegible]の川　榎木ふく子
涼しくもわが髪なぶり朝顔の露ふり落す夏の朝風

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



俳句

天

夕顔や讀みさしつゞく俠女傳　下關　山本芳子

地

夕立や街路の柳古き京　京橋　山中末子

人

乾草に臥石も見えて旱哉　神田　今井よね子

秀逸

泥沼の暮游するや蚊喰鳥　四谷　佐藤操子

阿骨の花こぼれ水馬舞ふ　大阪　中川よし子

天斧石に祠や淸水茶屋のあり　豐橋　高木けい子

紫陽花や井水の濁り見る日頃　牛込　鈴山廣子

婚禮の夜を若葉てる灯哉　牛込　畑中小子

佳作

鮎落の瀬二橋あり螢淋びしき夜　肥前　服部藤代

鮎飛ぶやこの水源裡奇勝ある　橫濱　小野澤政子

夏近き疎ら雨や牛乳しぼる朝　肥前　服部芳子

馬市の篝火高し夏の月　淺草　澤子

松に名ある海靜なり夏の月　淺草　正子

蟲干や兼て習ひし古双紙　大阪　こま子

靑簾吹く欅や川風の筋　札幌　西照子

盆栽の翠うつろや金魚鉢　福山　松野露子

行水や縊の瓢花となり　福山　歐姫

闇の葉に光る桜や雲の峰　芝區　田中知子

夜學などこん秋事や飛ぶ螢　佐賀　吉岡津奈子

湖は霧に繊脚の白み明け易き　三河　美枝

箱根湯に入る往還や夏木立　澁谷　石川菊香

舞へば涼しかざしの玉のチリとなる　松江　玉木信子

帆波打つ珊瑚の島や靑嵐　小樽　進藤濱子

藥櫻や社務所に鬻ぐ家傳藥　芝　小倉淑子

團茂み洗髮に涼納るゝ人　神戸　山本愛子

つゝじ濃きを閼一杯に飽きて住む　相模　前田久米子

新緑の風薫る也保津下り　京都　三宅壽賀子

草に獲たる瓊玉の値や夏の月　神田　にしき

五月雨や田溢れ水を上る鮎　京都　船木夢子

栗の花に薄う霧寺景山も貧ふ　小樽　高橋富美子

旅中見しを又たも螢に偲ぶ景　肥前　服部信代

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

假初の病卯の花散る日哉　東京　永井久子
盆栽の置所なき暑さかな　京都　片山鶴浦
初夏や絹裁つ人の薄化粧　東京　田中羊の子
岩を打つ浪も音なき暑かな　神戸　石原加鶴子
夏菊や枕頭の景に昔あり　下関　松岡芳子
有馬路や駕唄聞て百合夕日　下関　山本芳子
宵の子に寝んねこ唄や夏の月　廣島　須藤明子
五月雨や近江路明けを瀬田の橋　日本橋　小林政子
蚊遣草焚く盛り驛場宿とりて　福岡　木村勝子
花芙や蜂飛んで霊山に消く　但馬　石原貞子
金魚賣聲ふたき京の臺所哉　京都　白芙蓉
騎せば兜ある木曾若葉涼雨哉　横濱　石川八重子
うら若き庵尼や栗の花に歎　東京　美耶古
地紙干す扇子細工や夏隣　千葉　大塚靜子
菜食を醫師のすゝめし四月かな　神戸　川島けい子
杜鵑なくや若葉に星の影あり　下関　山本芳子
薄羽織權か子人となりにけり　福岡　服部いさ子
ゆく水に切れ〴〵燈や飛ぶ螢　埼玉　清水たか子
涼み話も月出でゝより賑はしき　京都　長谷川まさ子
山王の昔し戀しきまつりかな　静岡　北川和子
衆平が旅愁を敲く水鷄かな　淺草　山本春子
五月雨や病蠶捨てる裏の川　愛知　紅露
蕎麥白き畠や夕日赤蜻蛉　徳島　堤なほゑ
夕栄えの空にとび行く燕かな　東京　近藤ふぢ子
金絲鳥孵るに蕊打つて籔の梅雨に暮る　愛知　樹の花

蚊帳釣りて明け方寒し竹の宿　下谷　大上菊子
一郷の掟に總出山燒きぬ　小樽　高橋米子
戯れ男に摘み捨てられぬ紅の花　名古屋　渡邊滿壽子
花桐や馬車の立場の日照り雨　佐賀　岩永豐子
こゝろ咲く女郎花月も清き水　本所　島田さだ
陽炎や辛夷若葉に蛇を見る　福岡　橋本みさな
犬蓼や髪はら〱に行く女　伊豫　河野きわ
出でゝ遥かを望めば湖の月涼し　京都　元生留子
老鶯やよに逢ふ阪の關の宿　奈良　向山喜代
やせ蚊飛ぶ古き祠や狐鳴く　千葉　小川登代子
墓銘今はとはん由なし苔の花　深川　佐久間小枝子
藍壺や一抹空なさまよへる　麹町　川野照子
簾巻いて月に涼しき女かな　瀧の川　橋本ふく子
涼しさや若竹ゆらぐ朝の雨　金富町　新倉利子
百物語のころ一つや灯取蟲　名古屋　廣瀬ふみ
夜の靄や新開町の廓の灯　備中　藤井ふさ子
人は亡しその植ゑし柿若葉しぬ　大阪　みどり女
轍洗ふ山谿流れ鳴く水鷄　尾張　木村不二枝
蟲一つ庭に來初めて草涼し　神奈川　木下秋子
心の慈響すべくもあらぬ五月雨　豐橋　平出靜子
花芙や名も知らぬ蟲の足長し　本郷　やよい女
花百合や天領近き草の庵　芝　月明女
蚊遣して竹暗き庵の團欒哉　大阪　田島文子
鬼百合や道嶮しくて雲も消く　岡田　田野好子
草かをるこゝら名高き清水哉　越後　三好春代

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



誌友倶樂部

▲故國に在す諸姉達よ。私も女學世界愛讀者の一人です。相變らず御交際を願ひます。三月號の本誌で中村君子樣が大へん寫眞結婚の惡い樣に、お書き遊ばしたが、それが多くの人ですから、時には失望落膽せらるるお方もございましやう。波止場で人樣の亭主と間違へて行かれるお方も有ると云ふ騒ぎですからね、オホヽヽヽそんな事が再々有つて堪るもんですか。偶々ですれ。併し私は寫眞の結婚が必ずして惡いとばかり思ひませんわ。現に私の友達で見ず知らずの寫眞結婚ですが、他所の見る目も羨しい程平和なホームを作られて居ます。日本で自由結婚せられたお方でさへも、理想の家庭ばかりは有りませんもの、どんな逆境に沈んでも、一旦偕老同穴の契を結んだ上は、飽くまでも夫だ妻だと云ふ決心で　夫と共に運命を開かうと思ふ覺悟の有るお方は、ドシ／＼御渡米遊ばせ。渺茫として沃野千里に亙る新開地に、國の爲め家の爲め何の慰藉もなく日夜奮闘してゐる幾多の郎達は、皆樣の樣に醒めて近來的のお方を頻りに内助者として希望して居られます。(北米シアトル市春田清子)

▲青葉の色濃き初夏の朝夕に、月日と共に興味深くなりまさる女學世界を幾度となく愛讀致します。新しい事にはなれ行く身には、何よりの歡樂でございます。此度の月宮殿中にましまする花の神、さこそ美しく、數々の筆のあや、目さむる許りの事と、今より樂しみに致して居ります。終りながら御館の千代爲代かけて榮えますらん事をお祝ひ申上ます。(闇世一)

▲「悲劇十番」に、紫心尼といふ方の事蹟が出て居りましたが、あの方は我家の中古の先祖で、私どもはその子孫です。大てい事蹟をしらべましたが、尙くはしい事を知りたいと思つて居た矢先です。而して祖心と書くのが本當です。宅には自筆の歌の松竹鶴龜といふ題で「鶴龜のよはひと共にながらへて幾千世も見舞松竹の門」といふのがございます。牛込濟松寺には祖先代代の墓があつて、近くは四十一年に祖父母を埋葬いたしました。(近江國長濱牧村内)

▲六月十五日、あゝなつかしい此の日、博文館にとつては創立紀念日、私にとつては嬉しい誕生日、此日は馳走はなくとも、朝早くから、柏もちに赤い御飯で、御社の創立紀念を祝し、ます／＼本誌の榮えん事を祈り、また併せて我が誕生日を祝ひました。(金龜城下にて穗月)

▲六月號に「女子大學寄宿舍生活の懷古」と題してお書き遊ばした友近里子樣とおつしやるのは、五年前、屋島上流川女學校に、親しく教鞭をお取り遊ばして居らした方ではございませんか讀みゆく内に、無邪氣に遊びたはむれつゝ、お先生のお教へを受けた昔の私を思ひ起して、なつかしさに胸が躍りました。皆樣といつも友近先生のお噂致して居ます。其後の御消息を活達なお筆にお寫し遊ばしたら、どんなにか私等一同は嬉しうございませう。もし人違でございましたら平にごめん遊ばせ。(昔日の敎へ子)

▲太田三郎先生の繪物語、まあ何とローマンチックな……可憐なお話しなのでせうね。あの孤といふのなんか、私もう只讀んで居るうちから、滿身の熱い血汐が湧き立つて……ホヽヽあゝ戀！戀！！戀とは皆なこんなに優しく憫らしいものなのでせうか。あはれ青春の男女が夢見る戀は――(下野にてふみ子)

▲尼になりたいと被仰る方に申上げます。尼におなり遊ばし度いのなら、それは手續も御教示いたしませうし又良い尼寺にお世話もしてお上げ申しませう、けれど貴孃！よつく落付いて靜かに／＼考へて御覽遊ばしての上の事に遊ばせよ。一時の感情にまかせて姿までかへておしまひなさいまして、後で悔ゆる樣な事があつては、それこそ大變ですからね……それよりも貴孃、姿は俗でも、心を清淨に高潔にもつて、趣味の世界に身を投じ、浮世をよそに暢氣に暮す方が宜しいではありませんか。お魚や肉も喰べられるし、散歩も出來るし、芝居も見られるし、いつ何時還俗する事も出來ますし、……頭が丸くてはさうはまゐりません。(青葉の森 有髮尼)

▲京橋千どり樣、魚の目には撒里矢爾酸、乳酸、各一、〇、古費胃洪八、〇を混和して、一日一回局所を溫浴した後塗布すれば、一週間内外で、治り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます。少し疼痛を覺えますが、我慢をなさい。もし右の通で全癒せれば、アドレスな紙上で御通知あれ。相當の治療法を御教示致します。(北米にてChiropodist)

▲女學世界の誌友倶樂部といへば、三四年以前は隨分名文が投書されたものです。其の頃から御愛讀遊ばす方々は御存知でもありませうが、其の頃私共は「女學世界はえらい讀者は名文家揃ひだ」など、激賞をして居りましたところが、近頃は名文どころか、何々に御同情するとか、又實かどうかは知りませんが、同じ境遇の者だとかお書きになる方々もありま、樣です、ことに笑止なのは毎號の誌友倶樂部に、同じ境遇の方々が十人も二十人も出て來る。その方がいつも同じ方のお書きになつたもの丶樣です。又一層甚しいのは、大切な誌友倶樂部を、交際機關とお心得になり、自分の住所姓名まで公然とお書きになり、御交際下さいなんかんとお書きになる方があります、私は斯ういふ方のお顏が見たうございます〳〵……これからはお互にちと眞面目になつて書かうではありませんか。文章は人格も現しますが、お里も現しますからネ……(てつ子)

▲六月號誌友倶樂部に、御親切に私の住所か尋ねて下さいました國世樣、境遇とは申せ隨分と世に拗たる獨志弱行の私、あなた樣さへおかまひなくばお知らせ申上げます。然し願へるならば直接に申上げたいですね、さすれば己を省みね申分なれど、拙き文にてお伺ひ申上ます。醉蓮樣の「妙子のこゝろ」に御同情遊ばした方々の多かつたには、私本當に嬉しうございました。(神戸白菊)

▲琵琶湖の西岸にて露の玉樣、私はこの春お互に三年の間共に學びしクラスメートと惜しき袂を分ちてより、唯々女學世界を何よりの樂しみに暮す十八の乙女でございます。六月號にて當地の對岸とお知らせ下さいましてお禮申上げます。「昔はわが花よ」だつて、私悲しいわ。西江州と云へば忘れられぬわ。去年の八月竹生島へお參りした歸りに今津へ寄つて、あのサンバシのすぐそばの○○旅館に泊りましたの。翌朝早く起きて其まゝ手水使ひにうらの波ぎはに出ますと、ホンノリと淡ぐもりして靄の樣に浮んだ竹生島は、純白のベールをかけた樣でした。西江州にお在す露の玉樣、あなたは若しや今津にお住ひ遊ばすのじやなくつて？(滋賀にて白い薔薇)

▲愛讀者諸孃よ、おなつかしうございます。私は本誌を一字も殘らず何時も趣味を以て愛讀し、社會の表裏を知る事も出來ますので、家庭の人となりましても、如何ばかり益しましたか知れません。私は今春多大の希望を抱いて、夫と共に渡米致しました一人でございます。御承知の通り、近頃は十二支腸の檢査が誠にやかましくなりまして、船がサンフランシスコへ着しますとすぐ小船にのりかへて、當エンゼル島へ送られました。そして檢査の結果、十二支腸のなき者は、兩三日の內にには上陸されます。病氣の者は當地の病院へ入れられまして、全快するまで待つのでございます。其の藥ののみにくい事は、拙い筆に書く事は出來ません。ほんとに泣き度くなります。私共はもう四週間も入院して居りますが、何時退院させて頂きます事やら、一週間目毎に檢査して、少しづゝ上陸させます。其時にはそれ〴〵良人がむかひにお出になります。殘されました時の情なさ悲しさ、涙は覺えず流れます。今週は退院出來樣と思つて來てくれましたのに、又シックと言はれて、一人波止場へ向つて歸つて行らつしやるのを、病室の窓からながめては、あゝ御氣の毒なとどなたでもお泣きになりますよ。船がついてからすぐと入院出來ればよろしうございますが、病室があかなければ、二週間でも三週間でも、島の移民局のベッドルームで淋しい日を暮さねばなりません。唯夫が面會に渡島して下さるのが樂しみなばかりです。支那人も澤山居りますよ、何卒これから御渡米なさるお方は、こんな所へ滯在なさられない樣に、內地に於て十二分の御養生を遊ばしてゐらしやる樣におすゝめ申します(米國エンゼル島にて良子)

▲記者樣、佛語の讀本はどんなのがよろしいでせうか。又佛和辭書はどこに賣つて居りませうか、代價はどれほどでせうか。紙上にてお知らせ下さいませ。(大阪すみれ女)

神田區美土代町三才社へ問合せてごらんなさいまし。佛語書專門の書店で、大抵のものは用が便じます。

▲諸姉樣方、私は前掲の會の者ですが、四月前の本誌での森本みき樣の紹介で、當會へお問合が多くありましたが、萬一御返事をわすれて居ましたら、御一報下さい、郵券は御返却致します。なほ諸姉妹方の內で、外國の少女や內地の方と、エハガキや文通等を望まれる方がございました

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ら、どうど三錢切手封入して申込んで下さい。さすれば早速入會證差上げます。布哇の大和增代様、實地で宿會へ入會したい人がありましたら、どうぞお勸め下さい。(神戸日本郵船會社内梅東交換倶樂部)

▲在米のホームリリー様、私は少々あなたに御相談申上げたい事があるのですが、御手數ながら次號で御住所をお知らせ下さいましな(東京にて決心女)

▲私は活花を好み、よき師につき熱心に勉強いたしたく存じますが、家庭の都合にてなるべくは往復の時間のかゝらぬところにてよき先生にお世話様になりたく存じますが、澁谷、麻布、芝(芝園橋邊)へんにて、心當りの方がございましたら、何卒お敎へ下さいませ。(下澁谷にて雪子)

▲あの二月號にわかば様の「友の行くゑ」の内、まあ私の此の風云々、自分の身なりつくろふ間もなく抱き取り乳を啣ませる云々の處拜見致し、私も一年前を偲ばれてなりませんでした。民子様とやら、御幸福でございますれ。それから尾崎恒子様がお出し遊ばした「様々の女の上」の處、清子様とやら、私にそつくりですわ。歲はちがひませうが、二月には母たる人と成り、その歲の十二月急病で死んでしまつた處、ほんとに私ほど不幸な者は外にございますまいと悲しん居りましたの、私は兩親も兄弟もありながら、悲しい世を送つて居りますが、女學世界は無二の友で、他に樂しみはなくとも心から私をなぐさめてくれます。皆様相變らず振ひ遊ばせ。

▲東京、大阪、名古屋等で、結婚の世話を致します所がありませんか。(名古屋の愛讀者)

▲特別寄書の規則お知らせ下され度く、そして原稿紙といふは貴社よりいたゞくのですか。何うぞくはしき事おしらせ下さいませ。(遊覽の里浮草)

▲一枚の紙に二十字詰二十行としてお書き下されば好都合です。原稿紙なければ、普通の半紙にてもかまひません。其他は自由です。

▲羽前と申せば、都を北へ百餘里も離れてゐます寒いお國、その上片田舍にお住ひの佐惠子様優しい自然に接しなされてと申せば華かでございませうけれど、何ですか私貴女の誌友倶樂部のお文見て淋しく哀しい氣分になりました。二十の春の乙女を失はれたお悲みは嘸かしとお察し申ます。私も同じ涙に泣いた者です。今も尙ほ袖は乾きませんの、佐惠子様この後時々此の誌友倶樂部にお顏出して下さいれ。(菊香)

▲枯れ小草様、貴女はなぜ尼になんぞおなりになりますの。うら若い御身で、お探し申します。おさしつかへなくば御住所をあかし下さい。貴女の御相談あひてなりとも致したう存じます。(浪速にて幸代)

▲悲しい想ひのコーラスに別れを惜んでから、はや風かをる青葉の頃となりました。同じ都のよしゑ様、このごろは如何ゐらつしやいますか。別府の月見草様、京都の楓野雪枝様、おなつかしう存じます。元より不束な者でございますが、以後御みすてなく。(京都野菊)

▲お情け深き皆様のお内に、東京府立第二高女の國語教科書(再訂讀本)全十冊、並びに同校教科書として用ゐる神皇正統記抄、徒然草抄、平家物語抄、の三讀本お持ちのお方は、二月許りお借し下さるわけには參りませぬか。もしお讓り下さらばまた御相談に預りますが、お貸し下さるお方は、御一報下されば、郵税とお禮代至急送ります。何卒皆々様お聞き屆け願ます。(山口縣秋町東濱崎、新屋れん子)

▲過ぐる月日にせきもりなしとか、私がこゝに來てより、早二ケ月になりました。都戀はぬ時はございませんが、又美はしい別府海岸の眺めはすてられませんのよ。しのゝめの空に紅雲のたなびくなり、白き眞砂ふみつゝ歩く心地よさ、松の緑、しづけき蒼海原、心は何んとなく高波がうちます。あゝ此の景色、この思ひをうつす筆があつたならば……(別府にて月見草)

▲枯れ小草様とやら、まあ、あなたは何を果敢んで尼になどならうとお思遊ばすんです。慈愛なる父母に逝かれての御發心か。いとし戀しい夫に死に別れてか、あわいもゆるやうな初戀にお破れなすつてか。それは私の想像に及びませんが、何とはなしにおいとしくて、人事のやうには思はれないのでございます。お差しつかへがございませんでしたら、下名までお手紙下さいませんか　祇王、祇女に靜御前に、昔に聞こえた嵯峨野とはほど遠からぬ私の住ひ、私の身に叶ひます事なら、人に聞き合はしてなりとも御相談相手とはおこがましふございますれど、お知らせ致しますほどに……(京都、桂、上野大入木こま)

▲私は當地の女學校をでまして、もはや五年の月日を暮し、只今は二十二のオールドミスでございますが、未だに結婚の話などは[illegible]ありませ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んかなしい身の上で、毎日〳〵泣きくらして居ります。何卒あはれと思召して此のかなしい心をまぎらす樣な事をお敎へ下さいまし。何か家庭にありて出來ます内職でも致したいと思ひます。(越のかなしむ娘)

▲名古屋の美佐子樣、お入らがひではございませんか。私は名古屋に居りました事はございませんが、年は貴方の申します通り十七歳の少女です。(北米シャトル市田中千代子)

▲六月の誌友倶樂部で、くせ毛女樣がおつしやつた通り、京都のつれ子樣が御紹介なされた美髪液の發賣元は、なんだかあやしいのね。私も四月はじめに金子を送りましたのに、いまだに美髪液なんかおくつてくれません。それからさいそくの手紙をだしましたけれども、梨のつぶてで、なんともいつてまゐりません。ほんとうにおどろきました(ひなげし)

▲五月號に揭げられました「臺所の衞生」と從來先生がお話しなされた「身躰を弱くする贅澤料理」は非常に大切なることゝ存じました。(千葉縣印旛郡安食町酒直二二九、後藤薫正十)

▲子供服の裁方をお敎へ下さいます女子共立裁縫學校の所を誌上でお敎へ下さいませんか、又今でも形紙やヒナ形をおねがひ申しましたら、お送り下さいませうか。(大阪愛讀者)――本郷區駒込追分町女子共立會です。委細は同會へお聞き下さい

▲皆樣妾事は、竹久夢二樣の繪畫を崇拜して居ます。近頃のものよりは以前三十八九年四十年頃の本誌及び中學世界に出たものを殊に好みます。姉樣方のうちお讓り下さるならば必ず相當のお禮い致します。(東京牛込區辨天町四、淨野ゑい方野田いち)

▲お姉上樣方のうちに、菊坂町の女子美術學校の裁縫高等師範科に御在學のお方がございますならば、同科一學年にて御使用の敎科書名と發行所及び裁縫細目とを次號にてお敎へ下さいませんか。私これから同科課程によつて獨習致し度いと存じますのですから(群馬きく香)

▲四月の增刊大變面白うございましたね。松本さんのが二つも出て居りましたので、ほんとう嬉しかつた。私し林風先生の御筆大好き。十五日の「逝く春」、五月號の「つゆの晴間」、氣に入つちやつたわ。「向陵の夜月」、久し振りに千代子樣の拜見してうその樣ですが七八度くり返して讀みました。お願ですから每號お出しなすつて頂戴ね(知火の里にて野の露)

▲三田の東京高女の方々、五月一日には橫濱へ遠足でしたのね。橫濱は何處?本牧の方でございませう。停車場から辨天橋を渡つて……私窓から見て居りましたの。私も昔は同じ園生に敎へを受けた者、なつかしい師の君方にも五六年振りのお目もじですもの、よそながらでも嬉しうございましたわ。昔なつかしく、ワンラインのお務!いろ〳〵の思ひ出に在りし昔を偲びつゝ、別れし友に玉章かきましたの。皆々樣御勉強遊ばせよ。(須美子)

▲記者樣、私は片田舍に育つた者ですが、東京市内で寄宿の樣な所にはいり込むで、ミツシリと敎へて下さる裁縫の先生、又は會の樣な物は有りますまいか。何處にございますか、又月に幾ら位入費がかゝりますか、但し餘り派手でない極く質實な處、御親切なお方にお願ひ致し度うございます。御面倒ながらお敎へ下さいませ、(田舍女)本郷區追分町女子共立會へ問合せてごらんなさい。

▲手の甲へイボが出來て、いくら藥をつけたり、醫者にやつてもらつたりしても、後から後からと出來て、仕方がありませんが、何かよき藥はないでせうか。(相州一少女)

▲姉樣方の内に、東京女學館の評判記の出て居た號をお持ちの方はございませんか。お送り下さつた方には、橋立名所の繪葉書及びしをりをお送りいたします。(京都府與謝郡府中村字江尻三七早石俊子)

▲此度まだ新春の芽さへの十九歳にて、近〳〵妻と呼ばるゝ身、學校出でゝすぐ人妻となりましたので、赤ん坊の着物の裁方もろく〳〵に知りません。もしや袖なしなど此種の裁方をくはしく書いてある本がありましたら、お知らせ下さいまし、三ツ身四ツ身の裁方も知らないのですよ。ほんとにお恥しくてたまりませんが、今は[illegible]ろ時ではありませんから、お願ひ致します(若き母)

▲京都の深梅樣、お察してよ、妾も貴女のやうな身の上なの、義妹は四人もございますが、骨肉の妹は一人としてございません、貴女には父母共にお揃ひですか、妾は父一人、母は繼母なの、ほんとに〳〵妾の身にくらべましたら、いくら貴女の方がお幸かわかりません。何卒お住所お知らせ下さい。誌上にて、以後お交りを(紀州の涙)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

募集（七月八日〆切）

●特別寄書

（主として人事、人情の委曲を寫し、又時の社會百般の事柄を捉へ、時勢の變化を知るに足るべきもの△紙數は原稿紙十枚以內の事）

〔報酬＝五圓以上拾圓迄、現金贈呈〕

▲短文（一人一種）

▲和歌（一人一首）

▲俳句（一人一句）

▲誌友倶樂部

△短文以下三種共用紙は端書の事　△字體は楷書にて正しく書く事、不分明の字又は亂れたる書體は沒書とす　△名宛は博文館內女學世界行とし　△特別寄書の原稿には住所氏名を明記する事

賞品

△短文
天賞壹圓、地賞七拾錢、人賞五拾錢

△和歌△俳句
天賞壹圓、地賞五拾錢、人賞參拾錢

毎月一回一日發行

定價表

一冊（紙數二百八頁）		金二十錢
四冊（三ヶ月分）	……	前金七十五錢
八冊（半ヶ年分）	……	前金一圓四十五錢
十六冊（一ヶ年分）	……	前金二圓八十錢
（定刊數	……	十二冊
內增刊四回、一、五、九、十一月價格同一）		

郵稅　一冊　二錢

廣告料

廿四字詰	一行	四半頁	半頁（册二…）	一頁（六十四行）
特等	……	……	……	五十五圓
一等	……	……	廿三圓	四十五圓
二等	……	十圓	十九圓	二十八圓
三等	五十錢	六圓五十錢	十四圓	二十八圓

▲等級の位置〆切日等御照會次第御報可致候

註文略規

●本館發行の圖書は都て前金の外送本せず
●御拂込の前金相切れ候節は送本を停止す
●郵券代用は一割增にて五厘一錢の切手に限る
●發目錄御入用の方は二錢券相添申込まれし

不許複製

明治四十五年六月廿三日印刷納本　第拾貳卷第拾號

編輯兼發行人　松原岩五郎

印刷人　市川七作

印刷所　博文館印刷所（東京市小石川區久堅町百八番地）

發行所　東京日本橋區本町三丁目　博文館

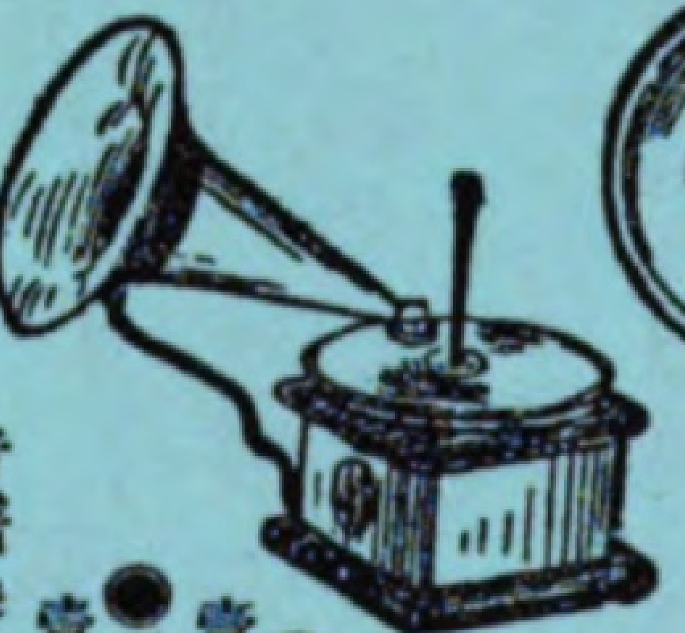
電話本局　三百三番　二千六百二十番　千十八番　三千二百二十九番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

博通社 ㊫ 特賣品

◉博通社の本領は誠實と迅速にあり!!!

◉中元の贈答品は博通社を御利用なさい!!!
安心して安く御求めが出來ます!!!





好評湧が如く忽ち壹万臺を賣盡せり

體裁頗る優美にして發聲に大改良を加へたり中元の贈答品として理想的逸品である

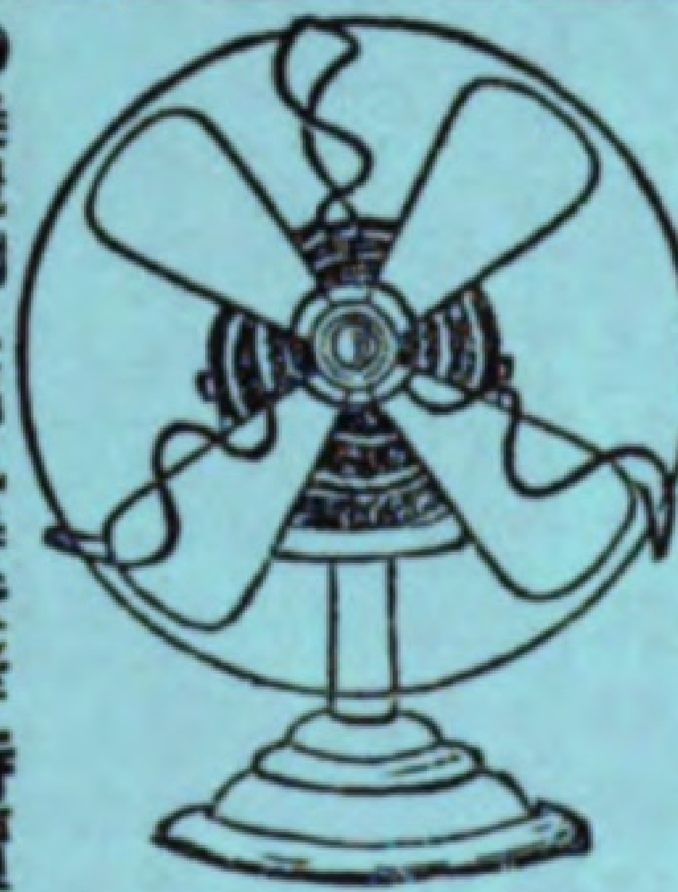
●ラッパ付蓄音器 壹臺 價七十五錢

●平圓盤音譜 壹枚 特價十七錢

音譜は梅ヶ枝外卅餘種あり

△荷造送料 內地廿錢 臺灣樺太清朝五拾錢

卓上扇風器



●美麗函入扇風器壹台 特價五十五錢

△荷造送料 內地拾五錢 臺灣、樺太、清、朝 四拾錢

少年諸君の自働的風力は如何にして生ぜしむるかの原理を知らしむるに尤も適切なる參考品なり

優美ぬいめなしかや

本場近江特産
本麻製、萠黄色

●三疊吊 特價四圓二十錢
●四疊半吊 特價五圓二十錢
●六疊吊 特價五圓八十錢
●八疊吊 特價七圓五十錢
●十疊吊 特價九圓七十錢



●荷造送料 市内無料 内地卅六錢 臺樺清朝六拾錢●

普通小幅かや

本場近江特産
本麻製 萠黄色

●三疊吊 特價三圓二十錢
●四疊半吊 特價三圓九十錢
●六疊吊 特價四圓八十錢
●八疊吊 特價五圓八十錢
●十疊吊 特價七圓九十錢

◉男女兼用 海水浴シヤツ◎



特製一號 特價一圓四十五錢
上製二號 特價八十五錢
仝 三號 特價五十五錢
△送料内地 臺樺清、朝凡て四錢

シヤツサル股を別々に着る必要なく同時に極めて容易く着る事の出來る優等品なり

うきぶくろ





小供は勿論大人でも容易に浮!!!

善く泳く人泳げさる人を問はず極めて輕快に泳げきす

●浮袋壹具 特價九十五錢

▲送料 内地八錢 臺樺清朝八錢

博文館代理部
OHASHI MAIL ORDER BUSINESS

東京日本橋區本町一丁目 **博通社** 電話本局六百四十番 振替口座東京五十番

(綴付の一)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

消夏之最好伴侶

文學士 今井政吉著（好評）

泰西名著婦人叢書第一編

婦人解放論

洋裝袖珍頗美本 全壹冊
定價金三十五錢
郵稅金四錢

川下喜一氏 稻坂秀松氏共譯（好評）

泰西名著婦人叢書第二編

西洋女大學

洋裝袖珍頗美本 全壹冊
定價金三十五錢
郵稅金四錢

文學博士 芳賀矢一 ◎松浦政泰共著

婦人美譚

上下二冊 特價各金壹圓貳拾錢 郵稅各金拾貳錢

上下三千載東西一萬里本邦は神代より現代及朝鮮に及び支那は勿論西洋各國の古今を通じて婦人と云ふ婦人の逸話美譚を一切網羅し而も極めて平易に又極めて趣味ある現代風の言文一致體に書碎きたるもの。佳人才媛の美、貞女烈婦の壯、良妻賢母の竟、俠女勇婦の奇、紙面は燦爛として花薰じ月輝く各家庭又は各學校に備へて子女の敎育に資せずや。

文學博士 坪内逍遙先生著（大好評）

所謂新シイ女

總クロース裝幀優美
全一冊紙類三百餘頁
定價金九十錢
郵稅金十二錢

實踐女學校長 下田歌子先生著

■三體 女子消息文 全

定價 特製金壹圓貳拾錢 上製金壹圓
郵稅各金拾貳錢

日本女子大學敎授 手塚かね子先生著

家庭の友 西洋料理法

中判全一册 定價金壹圓 郵稅金拾貳錢

本書は實地の經驗と一年功歐米の料理界を視察して新たに稿を起されし唯一の料理書にして料理の種類多きと日本の家庭に容易に行はるゝ樣材料を選びたるは著者の尤も意を用ゐたる處なり。

日本女子大學敎授 笹木孝子先生著

年中行事 家庭儀式料理

菊判全一册 定價金壹圓 郵稅金八錢

本書は著者の深き學識と實地敎授の經驗とを基礎として季節により現代行はるゝ樣儀式料理の献立及材料の選擇に至るまで一々摘出し直ちに應用し得らるゝ樣詳述しあれば是非家庭に備ふべき良書なり。

鳩山春子夫人著

■婦人の修養 全

定價金壹圓貳拾錢郵稅金拾貳錢

發行元 東京小石川 精美堂
振替口座東京二八三八番

發賣元 東京本町 博文館
振替口座東京二四〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

艶麗無比の第一巻第四號 七月一日發行

淑女畫報

四六倍判口繪光澤紙寫眞版四十頁石版三色版數頁本文百頁

定價廿五錢 郵税二錢

六冊壹圓卅五錢 十二冊二圓六拾錢外要税

◀畫報▶

■露の乾ぬ間……（表紙）……極彩色石版
⦿岩倉公爵二姫君⦿二條公爵姫君⦿島津公爵姫君⦿溝口伯爵令嗣夫人⦿曾根子爵令孃⦿柳澤伯爵令妹⦿大谷伯爵裏方⦿白耳義公使の家庭

■心の友……（彩色石版）……河崎蘭香女史畫

◎皐后陛下能樂堂行啓◎皇太子妃殿下女子大學行啓◎婦人衛生會の宮殿下◎田邊蓮舟翁の金婚式◎大日本華道會大會◎大橋家の婚儀◎白沙青松◎寢ざめ◎二十五週年記念祝賀會

■淑女かゞみ
□なでしこ□睡蓮□星月夜□白薔薇□夏木立□紫陽花□棕梠竹□つま琴□十三七つ□ひるがほ□連理草□合歡花□月影□彩雲□瀧津瀨……

■清風一過涼味動く……（原色版）山本昇雲畫

◀讀物▶

▽五人の子供に自由結婚を許した實例……子爵 加納久宣

▽小說 紅提灯……泉鏡花

▽結婚式の價……江見水蔭

■戀の煤に染まれる婦人美……三浦美 中村謙
■空想に困められし不幸な婦人

■七月のお惣菜……
■女天下の村……

▽暑中休暇の弊害利用法……下田歌子

▽現今思想界の流行問題……文學博士 福來友吉

■都會生活と引越し……宿の妻
■中華民國の女……小桃子

■富豪の小間使日記……みなつくし
■熱海の溫泉宿……橘 八重子

▽虛榮か生活難か……醫學博士 土田卯三郎

▽女の美と半襟の色……兒玉花外

發行所 東京市日本橋區本町三丁目 振替貯金口座東京二四〇番 博文館

女（後付の三）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

少女世界

第七巻第九號　七月一日發行

菊判紙數百廿八頁口繪澤山
正價十錢　郵税一錢

口繪
△夏の花（三色版）西洋名畫
△海邊（石版）天沼よね子
（寫眞版）△山陽地方愛讀者會△東京愛讀者大會

○少女お伽　落花の巖……巖谷小波
○愛讀者大會の盛況……記者
○少女小說　櫻貝……三宅花圃
○ほたる物語……長沼世喜子
○山陽地方　少女講話會の記……沼田笠峰
○夏の草花の歌……文學博士　佐々木信綱
○寮の姉……千鳥女
○草のなげき……滿口白羊
○少女小說　祭の日……多摩子
○青葉かげ……川島みゆき
○暗いをばさん……永代美知子
○虛榮の手紙……松美佐雄
○手帳の中より……沼田笠峯
○技術の編方……石井とみ子
○海濱の少女……當選繪畫

少女開館　學藝室、顧問室、娛樂室、談話室等、何れも本誌獨特の光彩あり



東京本町　博文館

女（後付の四）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新時代の要求に應じて出でたる
婦女教訓の活文字!!!

堀內新泉君著

常識讀本 現代女大學

・花嫁の巻……

紙數二百八十頁 正價五十五錢 郵税八錢

和装菊判
装幀優美

◎他人の家庭に入り新時代の花嫁として成功せんと欲する滿天下の處女は先づ本書を讀め！

◎新時代の良妻を娶り內顧の憂ひを一掃し揮身業務の人と爲り一大奮闘を試みんと欲する滿天下の青年は先づ本書を讀め！

◎我が最愛の娘をして他人の家庭に賞讃すべき花嫁として大成功せしめんと欲する滿天下の父母は先づ本書を讀め！

◎我が子に良妻を娶り一家子孫の大繁榮を期せんと欲する滿天下の舅姑は先づ本書を讀め！

◎既に他人の家庭に入りて人の妻となり未だ家風に通ぜず家事に馴れず日夜徒らに煩悶せる滿天下の花嫁は特に直ちに本書を讀め！

在來の女大學は直ちに以て今日の時代に適用すべからず著者之を憂ひて茲に新時代の女大學を作る先づ婦女の本分より筆を起して花嫁生活、常識の應用、花嫁と心情、花嫁の品位、速に夫の家族と同化せよ、速に夫の家風に馴れよ、急進主義の花嫁、家庭と老人、夫に事へる道、舅姑に對する事へ方、小舅小姑に對する心得、親類並に世間の交際、心の持方、花嫁日常十則等總て皆現代を表準として何れの家庭にも直ちに之を適用して其效果を收め得べき空前の活文字！若夫れ現代處女にして本書一冊を携へんか如何なる複雜なる家庭に入るも新時代的花嫁として成功せん事疑ひ無し苟くも現代社會に婦女として大成せんと欲する者は須らく時勢に疎き死書を抛つて千山萬岳日の將に發せんとする如き此の一大活書を讀め!!!

東京 博文館 本町

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

文章世界

第七巻第九號　七月一日發行

新著五篇

菊判紙數二百四十頁
口繪寫眞版數葉挿入
正價廿錢　郵稅二錢

東京本町　博文館

女(後付の六)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第十八卷第十號　七月一日發行

文藝倶樂部

巻頭に**廣津柳浪**子の長篇「**子供**」を掲ぐ。老熟せる子の筆致は必ずや文壇の珍たらむ。次に**青年**作家中の白眉たる**生田蝶介**子が新味溢るゝばかりの小說「**河岸の灯**」を載す。處女の次第に沈淪し行く光景を活寫す。第三に**金子紫草**子譯「**最後の願**」を收む。是れヅーデルマンの傑作、劇壇革新の一旗幟たらん。新講談には**秦々齋葉柳**子の「**猿子橋の仇討**」を口演せしむ變幻極りなきの妙は縷述する迄もなけむ倘夫れ**活社會**花柳界演藝界**長廣舌**の各欄に至りては本誌**獨得**の妙ありて存す……**切に愛讀を祈る!!!**



○菊判本文紙數三百廿頁○原色寫眞版一枚○寫眞版光澤紙刷八頁、普通四枚、二色刷光澤紙二頁○木版彩色數十度刷錦繪一枚
正價廿五錢　郵稅二錢半

東京日本橋本町
振替東京二四〇番
博文館發行

文(後付の七)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

看るべく讀むべき演藝雜誌

演藝倶樂部

第壹巻第四號 ((七月一日發行))

四六倍判二百八頁
正價卅錢郵税三錢

((脚本))

□史劇 滿潮……江見水蔭

□笑劇 女きらひ……佐藤紅綠

□新作所作事 鬼爭ひ……中村秋湖

・極彩色木版口繪・

七夕……鏑木清方筆

・コロタイプ版・

坪内くに子孃の藤娘

・原色版・

四代目芝翫『髭の意休』……

六代目菊五郎『織田信長』……

寫眞版

（歌舞伎、帝劇、市村、宮戸、文藝協會、演劇倶樂部外人劇、其他關西各劇場及演藝時事等）

□寶生九郎の俤……坂元雪鳥

□長唄研究……中内蝶二

□文藝協會を見る……青海波

□文樂座と近松座……岡田翠雨

□竹本朝重……青海波

□今昔繪物語……岡鬼太郎

□落語研究會評……森曉紅

□劇壇素人萬能……清水閑太郎

□赤城下の三座……田中煙亭

□近松と舞臺……岡本綺堂

□「戀の洞」の上場…山崎紫紅

□劇評家としての廿年……伊原青々園

□開港場の芝居……畑 芋作

□活動つれ〴〵草……吉山旭光

□俳神樂……田中煙亭

□演藝文學……

□講談 鹽澤丹三郎……錦城敦典山

東京日本橋本町三丁目 博文館 （振替口座東京二四〇）

女（後付の八）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



フロラー香水

廿錢、一圓廿錢、一圓八十錢

登録商標

美髪の御料には
柳清香
けい志香油
が最も愛用されます

美術小間物化粧品
東京日本橋通二丁目
柳屋本店
電話本局二〇

大阪小笠原病院長實驗皮膚病專門新劑

皮膚石鹼

久しく小笠原病院に於て患者に投與せられし者にして巧妙なる藥劑の配伍により眞に色を白くしキメを細かにし輕き皮膚病を治せしめ其他各種の病毒を豫防消毒するの力強大に而かも香氣馥郁且價格低廉なるが故に今や衛生と經濟上不可缺物として各家庭に常備せらるゝの光榮を有するに至れり由來藥石鹼は常用せらるべき者にして發病後慌てゝ用ゆるが如きは愚の極なりと謂らるべし

定價 一個五錢送費二錢 半打廿八錢送費四錢 壹打五十錢送費八錢

艶美羔

にきび並にざくろ鼻の特効劑なり由來此種の藥劑は汗牛充棟啻ならずと雖も眞にニキビを治せしむる効力ある者は本劑を措て他にあらざる事は愛用者諸氏の熟知せらるゝ所なるべし

定價 小八錢 中十五錢 大廿八錢 送費各二錢

皮膚軟羔

いんきんたむし、くさがさ、なまづ、ひぜん、かゆがり、ひげくさ、肛門の痒み、たい毒、しもやけ等凡て痒みある皮膚病の特効劑にして奏効神の如しとの讃評は過言に非ず加之しゆます痛内攻せず蓋し天下の皮膚病藥の上乘なる者也

定價 小五錢 中十錢 大二十錢 送費各二錢

美膚練

わきがの防臭に用ひて奏効顯著なり其他しらくも、はたけ等には一二回にして奏効確實ひゞ、あかぎれ、顔手足のあれ等に用ひて卓効を現はす事世上に有り觸れたるアレシラズの比に非ず敢て試用を祈る

高等香油 ヱンゼル香油 毛髪を黒く艶かにしてフケぬけ毛等を防ぐ偉効ある逸品なり

定價 十五錢送費六錢 廿五錢送費八錢 四十五錢送費八錢

本舗 大阪市東區北久太郎町四 回天堂 ●東京小石川武島町廿一 回天堂出張店

●各地藥店にあり品切の節は本舗又は出張店へ御注文あれ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

JOGAKU SEKAI.
PUBLISHED MONTHLY, BY THE HAKUBUNKWAN, TOKYO, JAPAN.
ENTERED AT LOS ANGELES P. O. AS SECOND CLASS MAIL MATTER.
女學世界 第拾貳卷第拾號 (毎月一回廿三日印刷納本)
明治四十五年六月廿三日印刷納本
明治卅三年二月廿五日第三種郵便物認可

一度の試用が一生の徳

腸胃の弱き人々は試しにヘルプを用ゐられよ
試して其効を知り置けば深夜の下痢突然の腹痛等
醫師の間に合はぬ時と雖もヘルプがあれば醫師の要なく即座に直つて大安心
故に一度試用し置けば

永久の幸福

▲ヘルプは醫界の泰斗たる醫學博士柏村貞一先生が多年研究の結果創製せられたる醫界理想の腸胃新藥なり

▲ヘルプは最新式錠劑なれば舊來の丸藥の如く胃腸を勞せず直ちに水分に溶解す隨て効顯神速なり

▲ヘルプは下痢症に偉効あるは勿論腸の機能を調へ消化を助け滋養の吸收力を旺盛ならしむ効あり



主効

●腸胃カタル●寢冷●腹痛●食傷●痢病●時候あたり●水傷●吐瀉●腸の瓦斯●澁り腹等……一切の下痢を止め腸胃を整ふ

ヘルプは、健胃、整腸、鎭痛、消化、收斂、殺菌、防腐の作用を具備すれば上記の諸症に卓効あるは勿論夏季常に小量を用ゆれば腸胃を健全ならしめ惡疫に感染するの恐なし

旅行に

ヘルプを携帶すれば▲船中下痢が起つても▲汽車中腹が痛んでも▲途中で醫者が無くても▲宿屋で食傷した時も安心して手當が出來ます

定價貳拾錢●郵税貳錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

監修
小山静子　KOYAMA Shizuko
京都大学大学院教授

女学世界(じょがくせかい) 明治期復刻版93
明治45年6月(第12巻第9号)、7月(第12巻第10号)

2011年7月10日　第1刷発行　　定価(本体20,000円+税)

監　修　小山静子
発行者　富澤凡子
発行所　柏書房株式会社
東京都文京区本駒込1-13-14(〒113-0021)
電話　03-3947-8251[営業] 03-3947-8254[編集]
協　力　株式会社博文館新社
印　刷　富士リプロ株式会社
製　本　有限会社青木製本

ISBN978-4-7601-4006-0　C3321

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

A 1,168,493

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN